

アサルトリリィ The beginning of the end

mi ~

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

甲州撤退戦で死んだと思われていた夢結のかつてのシユツツエンゲル川添美鈴、だがその人は一命を取り留めていた、、

目次

episode 1 終わりの始まり	1
episode 2 希望！	5
episode 3 修行！	12
episode 4 成長	21
エフタ・デゼスペロ編	
episode 5 宣戦布告	29
episode 6 遭遇	35
episode 7 反撃開始	42
episode 8 逆転	50
episode 9 レインフォースメント	57
episode 10 堕ちた王	63
episode 11 暴走	71
episode 12 帰還	79
episode 13 ヒュージ化	86
episode 14 二つの力	95
三代レギオン合同訓練編	
episode 15 3つの希望	104
episode 16 訓練開始！	114
episode 17 コミュニケーション！	123
episode 18 雨嘉VS神琳！	127
episode 19 デモンメーゼ	134
episode 20 恋歌VS一葉	145
episode 21 EDEN	156

	アサルトリリイ絆の章	165
	episode 22 高嶺ズ・オペレーション	221
	episode 23 梨璃VS千香瑠	229
	episode 24 払拭	238
	episode 25 完全支配	246
	episode 26 最強の完全解放	253
	episode 27 姫歌と紅巴	259
	episode 28 決着	267
	リ・グアスト強襲編	
	episode 29 beginning	276
	episode 30 狂龍姫	284
	episode 31 成長する最強	292
	episode 32 エンペラー・エンジエロ	300
	episode 33 千王	309
	episode 34 決戦前夜	317
	最終章 川添美鈴 決戦編	
	episode 35 開戦	326
	episode 36 決意の涙	333
	episode 37 フォース・オブ・ネーム(力の名)	343
	episode 38 再起	351
	episode 39 ウルトラスーパー全開モード	356
	episode 40 千王復活	361
	episode 41 完全覚醒	366
	episode 42 あなたと一緒に居れたから	371
	episode 43 NO.3	382

e p i s o d e 4 8	死	—	435
e p i s o d e 4 7	元悪者の戦い	—	423
e p i s o d e 4 6	10人目	—	417
e p i s o d e 4 5	壊れゆく夢	—	402
e p i s o d e 4 4	覚悟と度胸	—	392

episode1終わりの始まり

アサルトリリィThe beginning of the end

第1話終わりの始まり

美鈴「久しぶりだね夢結」

夢結「なぜ！なぜあなたが生きているのですか！あなたは甲州撤退戦の時に、、死んだはずじゃ、、」

梨璃「お姉様、、」

美鈴「そうだね確かにあの時私は夢結を庇って命を落としたそしてゲヘナに回収された」

鶴紗「ゲヘナに!?!」

美鈴「そして私は体にヒュージの遺伝子を移植されその生命力の再生により一命を取り留めた、それから実験を繰り返され、私はブーステッドリリィ・ムエルテへと昇華した」

鶴紗「ムエルテだつて!?!そんな！ありえない！」

夢結「鶴紗さん！何か知っているの?!」

鶴紗「ええ、ブーステッドリリィ・ムエルテ、ブーステッドリリィの中でも別格の力を持つと言われている最強のリリィです、別名希望のリリィ」

美鈴「ご名答、よく知っていたね」

鶴紗「そりゃあね、ゲヘナの外道野郎の話なんか嫌でも耳に入ってくる、でもありえない！ムエルテ計画はリリィに対する負担があまりにもかかり実験中にリリィが絶命する可能性があるから計画は凍結になったはず、あのゲス野郎どもも自分たちの手の中にいるリリィを死なせるのはあまりにも痛手だということだな」

美鈴「確かにそうだね、でもそれはリリィ単体の話だ」

鶴紗「ヒュージの移植、、それによってリリィの限界点を超えさせたと言うことか」

美鈴「その通りだよ流石だね、安藤鶴紗さん」

鶴紗「なんで知ってる」

美鈴「なぜ？ああそういえば言っていなかったねここで自己紹介をしておこう、対ヒューズ研究機関G E H E N A最高責任者川添美鈴、以後お見知りおきを、そしてこの場を借りてこの機関の目的と名前を改めるとしよう、対リリイ研究機関E D E N、目的は全てのG A R D E Nの壊滅そして全てのリリイの殲滅」

鶴紗「希望のリリイが絶望のリリイに堕ちたか!」

美鈴「そして梨璃、この計画には君が必要だ付いてきて貰うよ」

ドスツ

梨璃「そんなのっ、、、バタン

美鈴「付いてきて貰うよ梨璃」

夢結「梨璃!!!」

ギョんツ

その時1人のリリイが尋常ではないスピードで美鈴に攻撃を仕掛けた そう楓だ

楓「あなたが誰だかは知りませんわ、でもこれだけは言っておきますあなたは私の逆鱗に触れたということを」

美鈴「君がグランギニョル総帥の娘か、いい攻撃だね体の使い方なかなか達人だ、でも今は君に構っている暇はないんだ」

・・・

楓「誰が私だけなんて言いましたか？」

美鈴「何？」

美鈴の背後に銃型のc h a r mを構えていたのは二水だった、美鈴に向かって銃を乱射する

二水「雨嘉さん！神琳さん！援護お願いします!」

雨嘉「わかった！二水！天の計り目!」

神琳「テストメント!」

雨嘉「当たった!」

神琳「やりましたか?」

美鈴「悪いが君たちには本当に用はないんだ大人しくしておいてく

れ」

神琳・雨嘉「(後ろを取られた!?この一瞬で!?)」

雨嘉はすかさずcharmの変形に移る

美鈴「私のじやまをしないで欲しいな」

雨嘉「全部の攻撃を?!」

神琳「紙一重で交わしている?!」

ひゅんっ

そして美鈴の後ろに夢結が一瞬で回り込む

夢結「はああああああ!!!」

美鈴「怒りに身を任せるのは行けないよ、夢結君の悪い癖だ」ドスツ

夢結「グハッ!」

楓「夢結様!」

楓がすかさず夢結を助けに入る

楓「はああああああ!!!」

楓の攻撃が交わされる

楓「ちっ!鶴紗さん!」

鶴紗が上からの攻撃を仕掛けるがそれもなんなくいなされてしま
う、

鶴紗「何?!フツ」

鶴紗が笑みをこぼす

美鈴「?!」

鶴紗「梅様!!!」

梅「私のレアスキルが縮地でよかったゾ一瞬でも美鈴様の気を引け
た!あとは頼むゾ!ミリアム!」

ミリアム「フェイズトラン!セン!ダンス!悪いがここで仕留めさ
せてもらうぞ!はああああああ!!!」ドーン

砂煙が立ち込める

神琳「やりましたか?」

だが砂煙が開けると一同が見た光景は絶望だった

鶴紗「これがムエルテの力か」

楓「くっ！」

雨嘉「なんであれを、素手で止めれるの」

院

同時刻百合ヶ丘女学

眞悠理「理事長代理！」

高松「わかっている！全レギオンは早急に一柳隊の救援に向かうのだ！」

祀「こんなことになるなんて夢結、、、」

美鈴「そろそろだね」

美鈴は指をフリップさせケイブを開いた

二水「ケイブ?!」

鶴紗「こんなことも出来るのかよ！」

美鈴「それじゃあまた会おうね夢結」

夢結「梨璃!!返して、梨璃を返して!!!あああああああああ私からもう何も奪わないで!!」

夢結の髪が白に変色する、そうルナティックトランサーだ、だが立ち上がることは出来ない

夢結「はあああああああ」

美鈴「それじゃあね夢結」

夢結「川添！美鈴————!!!」

シュツ！

美鈴「何？」

美鈴の腕が切断される

夢結「?!」

???「遅くなりました！」
続く、、、

ブ

episode 2 希望!

アサルトリリイ2 The beginning of the
end

episode 2 希望

??? 「遅くなりました!」

夢結 「?!」

美鈴 「君たちは」

一葉 「エレンスゲ女学院ヘルヴォル隊長相澤一葉一柳隊の救出に参りました!」

梅 「なんで一葉が?!」

ミリアム 「やつくれたようじやの百由様!」

梅 「ミリアム!」

ミリアム 「救援を片っ端から呼んでおいてくれと百由様に頼んでおいたのじゃ!」

楓 「ナイスですわちびっ子2号!」

ミリアム 「誰がちびっ子じゃ!」

一葉 「私だけじゃありませんよ!」

美鈴 「何?」

恋花 「私たちもいるよー!」

空から美鈴に攻撃を仕掛けたのは、恋花、藍、瑤、千香瑠、だった

藍 「大丈夫? 鶴紗」

鶴紗 「ありがとな藍、、うっ!」

瑤 「無理しないで! 傷が深い!」

千香瑠 「今すぐ一柳隊の皆さんの避難を!」

一葉 「千香瑠様と恋花様、瑤様は一柳隊の皆さんの救助そして藍は私と一緒に川添美鈴の足止めします!」

美鈴 「そうか君たちがエレンスゲの」

一葉 「梨璃さんは返して貰います!」

一葉は梨璃を美鈴の手から奪い返した

夢結 「一葉さんあなた、、」

一葉「夢結様あとは私たちに任せてください！一柳隊の皆さんもあとは私たちにっ」

美鈴「あまり調子に乗っては行けないね」

美鈴が一葉の背後をとる

恋花「一葉!!!」

ブーーーーン

一葉の危機の前に現れたのは一機のヘリだった
そう百合ヶ丘のヘリだ

百由「夢結！大丈夫?!助けに来たわよ！」

夢結「百由！」

天葉「アールヴ Heim 到着しました!!!」

百由「みんな！乗って！さっさと逃げるわよ！」

梅「百由！恩に着るゾ！」

美鈴「させないよ」

美鈴が逃亡する夢結たちを追いかけようと

した瞬間上空から高出力のエネルギーが飛来する

美鈴「これは？ノインベルトか流星はアールヴ Heim やることが早いな」

天葉「ヘリ全速力でかつ飛ばして！」

美鈴が遠のいて行く

美鈴「まあいい今回は私も引こう、右手の再生もまだかかる様だからね、でも必ず迎えに行くよ梨璃」

梨璃「、、、はっ！ここは?!」

「気が着いたようね、ここは保険室よ」

梨璃「お姉様！よかった無事だったんですね！本当に、よかったです、」

梅「起きたか璃梨」

梨璃「梅様も無事で何よりです」

夢結「あなたはいつも自分の心配ばかりね少しは自分の心配もして

欲しいものだわ」

梨璃「えへへへ／＼／＼」

「りっりさー………ん!!!!」

梨璃「ふわあ………!!!!」

楓だ

楓「梨璃さん大丈夫ですか？何処か痛いところはありますか？骨とか折れてませんか？もし何かあるならグランギニョルが総力をあげて梨璃さんサポート致しますわ！早速お父様にお電話を〜」

ミリアム「ストップじゃ楓！梨璃が困っておるじゃろうが！」

二水「そうですね楓さん梨璃さんは病み上がりですよ！」

楓「これは失礼、私としたことが取り乱してしまいましたわ」

梨璃「ミリアムさん！、二水ちゃん！」

ミリアム「梨璃元気そうで何よりじゃ！」

神琳「皆さん大丈夫そうですね」

雨嘉「うん、よかった」

梨璃「神琳さん！雨嘉さん！」

鶴紗「本当にいつも騒がしい奴らだ、おはよう梨璃」

梨璃「鶴紗さんも無事で良かった！」

璃梨「……」

梨璃が黙り込むと同時に病室に静寂が立ち込める

梨璃「強かったですね、美鈴様」

夢結「ええ完敗よ、あの時助けがなかったらどうなっていたか……梨

璃」ギョッ

梨璃「お姉様……」

夢結「あなたは私が守るわ」

梨璃「守られているだけでいいんでしょうか？」

夢結「え？」

梨璃「お姉様！私強くなりたいです！」

梨璃「強くなってお姉様も守れるような強いリリイになりたいんです！だって私はお姉様のシルトだから！」

夢結「梨璃……強くなるにはそれ相応の覚悟がいるのよ」

梨璃「はい！わかってます！」

梅「夢結あの人に梨璃を預けてみたらどうだ？」

夢結「そうねそれもいいかもしれないわね」

梨璃「あの人？」

梅「梅と夢結の師匠だ！」

鶴紗「この2人の師匠ってかなり強いんじゃない？」

梅「強い、、、し厳しい梅もあんまり思い出したくないゾ？」

二水「あの梅様のテンションが著しく下がってます」

梨璃「そ、そんなに厳しいんですか？おねえ、、、さまああああ!!!」

楓「夢結様の魂が抜けてますわ！さつきめちやくちや年上の先輩っぽい感じ出してたのこれでは台無しですわ！」

神琳「本当に大丈夫なんですか？」

雨嘉「ちよつと心配」

ミリアム「先が思いやれるの〜」

梨璃「どんな修行にも耐えて見せます！強くなりたいから！」

百由「ほらほら2人とも先輩がその調子でどうするのよ！」

ミリアム「わっ！百由様いつの間におつたんじゃ！」

百由「えーつと梨璃ちゃんが、はっ！ここはつて言つてたあたりから？」

鶴紗「さいつしよからいるんじゃないか！」

百由「そんなことより！梨璃ちゃん！夢結！渡したい物があるの！」

璃梨・夢結「渡したい物？」

百由「これよ」

梨璃「これは!?私たちの新しいcharm！」

百由「直そうと思つたけどもう使い物にならなかつたから新調したの、でも今回は私だけの力じゃないのよ、ね！楓ちゃん！」

楓「はい、少しでもお2人の力になりたかつたのでグランギニョルも協力をさせていただきましたわ！」

百由「お陰で最高のcharmを作ることができたわ！」

二水「凄い！あのグランギニョルが百合ヶ丘のアーセナルと共同開

発をしたなんて！今月の月刊リリイ新聞の記事はこれで決まりです！

百由「そして完成したcharmがこのソレイユとフォルモントよ！」

梨璃「ソレイユと！」

夢結「フォルモント！」

楓「ソレイユは絶望を燃やし希望を照らす太陽のcharm」

百由「フォルモントは暗闇の中で輝く希望を表した月のcharmよ！」

梨璃「ありがとうございます！百由様！楓さん！」

百由「そしてこのcharmは通常のcharmと違ってオーバーストライクシステムの搭載に成功しているの！」

夢結「オーバーストライクシステム？」

百由「オーバーストライクシステムとはcharmで攻撃する際使用者のマジの出力をcharmの中で2倍以上にして放出すると言うシステムよ！」

梨璃「凄い！」

夢結「ええ、このcharmがあればお姉様にも勝てるかもしれない」

梨璃「そうですね！お姉様！」

百由「さあ2人とも！百聞は一見にしかずよ！試しに手合わせしてみなさい！」

梨璃「お姉様！やるからには本気でいきますよ！」

夢結「当然よ梨璃私も本気で行くわ！」

二水「この2人の試合って何気に初めてじゃないですか？」

楓「ええ、一度梨璃さんと夢結様は手合わせをしていますがあれは梨璃さんがまだリリイとして幼い頃だったので試合とは言い難いところでしたものね」

神琳「この試合で梨璃さんの実力も見極めるといふことですね」

雨嘉「梨璃頑張っ！」

梅「やり過ぎちゃダメだゾ夢結」

リリイ1 「夢結様と梨璃さんの試合ですって！」

リリイ2 「今からグラウンドで行われるらしいよ！」

リリイ3 「シュツツエンゲル同士の試合なんて滅多見れないよ！」

がや

がや

がや

がや

百由「それでは！只今より白井夢結、一柳梨璃の試合を始めます！
両者構え、、、」

はじめ!!!!!!

始まりの合図と同時に2人は尋常ならざるスピードで攻撃を仕掛ける

衝突する刃が両者の感覚を研ぎ澄ましこの場にいる全てのリリイに緊張感を与える

突風が巻き起こる

ミアム「凄まじい威力じゃの！」

楓「ええ、これがオーバーストライクシステムの力なのです」

神琳「それもあります、梨璃さんと夢結様の力が凄いのも確かです！」

天葉「でも驚くべき点はそこだけじゃない、そうよね百由」

百由「ええ、この短期間でリリイとしての戦闘力を大幅に上げ、あの夢結と互角に戦える実力を身につけた一柳梨璃の」

鶴紗「成長の速さ、、、」

夢結「強くなったわね梨璃、初めて手合わせした時が最近とは思えないわね」

梨璃「自分でも驚いています！まさか自分が夢結様と互角に渡り合える日が来るなんて夢にも思っていませんでした！夢結様！私もっと強くなります！そして美鈴様を倒します！」

夢結「私も同じ気持ちよ梨璃！」

雨嘉「2人とも楽しそう」

二水「きつとこの試合を楽しんでいるんですよ！でもさっきからcharmの出力が上がっているような気がするのは気のせいでしょうか？」

百由「いいえ気のせいではないわ！あのcharmは使用者の感情が高ぶれば高ぶるほどマジが2倍3倍それ以上へと上がっていく！」

梨璃「行きます！お姉様！」

百由「そう！その武器の名は！」

夢結「来なさい！梨璃!!」

梨璃・夢結「はああああああ」

百由「エスペランザcharm!!」

高松「そこまでだ！」

?!

高松「それ以上やってしまうとこの校舎諸共壊しかねん」

梨璃「あつ！」

百由「あつちやくちよつとやり過ぎちやったかしらく、でもこれであの人に渡すデータは十分ね」

???「なるほどねえ、これが一柳隊といまの夢結と梅のデータか、楽しみだな」

t o b e c o n t i n u e d

episode 3 修行!

アサルトリリイ3 The beginning of the
end

episode 3 修行!

ミアム「梅様もまだつかんのかー」

梅「もうすぐだゾ」

私「柳梨璃です!今一柳隊のみんなは夢結様と梅様の以前の師匠の訓練を受けるために桜樟院という所に向かっています!でも、」

梨璃「お、お姉様まだつかないんですか?流石に私疲れませんでしたよ、」

夢結「我慢なさい梨璃もうすぐだから」

梨璃「は〜い」

数時間後

夢結「みんな着いたわよ!」

ミアム「ふえーへトへトじゃーもう一步も歩けん」

楓「もう!ミアムさん!そんな調子でどうするんですか!百合ヶ丘のリリイたるものどれだけ辛くても表いけませんわ!」

鶴紗「そんな事言ってるけどお前も足ガックガクじゃねえか」

楓「鶴紗さん!余計なことは言わないでくださいまし!」

神琳「雨嘉さん大丈夫ですか?」

雨嘉「うん平気!」

二水「それにしても大きいお寺ですね〜」
バーン

勢いよく寺の門が開く

???「やっと来たか!一柳隊!」

梅「久しぶりだな師匠!」

夢結「お久しぶりです桜師匠」

桜「おう!久しぶり!夢結!梅!」

梨璃「初めまして!私夢結様シルト一柳梨璃です!」

桜「私は樟蔭 桜!話は百由からちよくちよく聞いてるよ!一柳隊

のリーダーにして珍しくカリスマ持ちの期待の新人だとか」

梨璃「えへへへ、期待の新人だなんて」

夢結「こら梨璃！顔が緩んでるわよ」

桜「ほかのみんなも聞いているよ！立ち話もなんだから寺の中に入る
といい！歓迎するよ」

楓「なんだかとてもラフな方なのですね」

二水「ええ思ってた人物像とはちよつと違いますね」

鶴紗「でもあの人が相当強いぞ、、よし！」

楓「鶴紗さん!？」

鶴紗「桜さん！」

桜「ん？どうした？」

鶴紗「私と一度手合わせして頂いてもよろしいでしょうか？」

夢結「やめておきなさい鶴紗さんあなたにはまだ、、」

梅「いいんじゃないか夢結」

夢結「梅！」

桜「よし！いいよやろう！」

夢結「師匠！、、あまりやりすぎないでくださいね」

桜「わかってるって！若い芽を摘んだりはしないよ」

訓練所にて

鶴紗「桜さん！私は本気でいきますよ！」

桜「いいよかかってきな！」

鶴紗「charmは使わないんですか？」

桜「あーそうだったね最近使っていないから忘れてたよ、でも今はな
いからこれでいいや」

二水「木の棒!?あんなものでcharm持ちのリリイに対抗できる
訳がありません！」

梅「いや、それをやるのが師匠だ」

鶴紗「流石に舐めすぎですよ」

桜「御託はいいよかかってきな」

鶴紗「死んでも、、知りませんよ!!!」

その瞬間鶴紗は力強く地面を蹴り、疾風迅雷のごとく攻撃を仕掛け

る

鶴紗「先手必勝、、、！」

桜「いい速さそして攻撃力、、、やるじゃん鶴紗ちゃん」

鶴紗「(この人！いつ後ろに!?)」

鶴紗はすかさず後ろを振り向き攻撃の体制に入る

鶴紗「はああ!!!」

目にも止まらぬ速さで連撃を繰り返す鶴紗だが桜はそれを全て紙一重で交わす

桜「おっ！元気だね〜」

鶴紗「舐めんな！」

そして思いつきりcharmを振りかざし桜に渾身の一撃を繰り出す、、、だが

鶴紗「とった！」

桜「よし！元気もいい！力も強い！足も早い！十分！十分！鍛え甲斐が有る！」

雨嘉「嘘でしょ!?!」

神琳「あれを、、、木の棒一本で！」

二水「完全に止めました、、、」

梅「二水、師匠がなんて呼ばれてたか教えてやろうか」

二水「え？なんて呼ばれていたんですか？」

梅「戦場の覇桜（はおう）」

二水「戦場の覇桜?!まさか桜さんって！あの伝説のリリイ！霸王樟蔭 桜!?!」

神琳「知ってるんですか？二水さん？」

二水「はい！10年前百合ヶ丘に一人でアルトラ級ヒュージを討伐したリリイがいると言う伝説があったんです！その人の名前が樟蔭桜なんです！」

楓「有り得ませんわ！アルトラ級ヒュージの討伐はノインベルト無しでは無理なはずです！ましてや一人なんて！」

桜「それができちゃうんだよな〜」

梨璃「桜さん！」

鶴紗「負けた、、しゅん」

雨嘉「残念、、だったね（可愛い！）」

ミリアム「桜さん本当にアルトラ級ヒュージを一人で倒したのか？」

桜「うん本当だよ」

二水「でもどうやって？」

桜「実際見てもらった方が早いな」

桜は持っている木の棒を前に出す

ミリアム「なんじゃ？」

桜「よっ！」バン！

鶴紗「木が！」

雨嘉「爆発した!?!」

鶴紗「嘘だろ!?!私の全力の攻撃を受けた棒だぞ！」

夢結「これが桜師匠の奥義」

梅「マギナだ！」

神琳「マギナ、、」

桜「まあ簡単に言うともギの力を防御に使ったり攻撃に使ったりする感じかな」

鶴紗「さつき私の攻撃を無力化したのは？」

桜「あれは防御する時に鶴紗ちゃんのマギと同じ量のマギのアーマーを木の棒に張ってお互いのマギを相殺したんだよ」

ミリアム「まさか美鈴様がワシの攻撃を素手で受けたのはそれか！」

楓「そんな事が可能なんですか?!でも！アルトラ級ヒュージをどうやって討伐したんですか?!それでは説明が足りません！」

桜「それは私のマギを相手に侵食させ体内で暴発させる」

ミリアム「さつき木の棒でやったことをヒュージでやったという訳じゃな」

桜「そしてお前達にはこれを全員に習得してもらおう！てことで明日から修行開始だ！今日はたっぷり休め！飯にするぞー飯！」

食

堂にて

二水「こ、これは！」

楓「まさか!？」

神琳「こんなことあってもいいのですか?!」

ミアム「んーんーんー肉じゃーんーんーんー!!!」

桜「今日はお前らの歓迎会で奮発してA5ランクの焼肉だ！」

雨嘉「美味しそう！」

梨璃「ではさっそく」

一同「いただきまーす!!!」

梨璃「はあくお肉を口に入れた瞬間脂がとろけます」

夢結「梨璃口の周りが汚れているわよ、はい取れたわ」

梨璃「ありがとうございますお姉様！」

鶴紗「ふわ〜おいひい〜！」

がや

がや

がや

が

や

ふー

夢結「師匠またタバコですか？」

桜「おう夢結も吸うか？」

夢結「私は未成年ですよ」

桜「おっとそりや悪かったな」

夢結「師匠！美鈴様は！」

桜「知ってるよ」

夢「正直私美鈴様をこの目でもう一度見れた時は少し嬉しかったんです、でもそれは数秒の幸せですぐに絶望に変わりました」

桜「うん」

夢結「まさかお姉様が敵になるなんて思わないじゃないですか、梨璃が強くなりたいと言った時も止めたかったもう大切なものを失いたくないから！」

桜「夢結！」

夢結「、、！」ギユ!

桜「私の前では我慢すんなよ、私はお前の師匠だぞだからお前の全部を受け止めてやる」

夢結はいままでたまっていた気持ちがあふれるままに泣いた影で梅が笑みをこぼした

梅「よかつたな夢結」

翌日の朝

桜「よーし！お前ら全員いるな！」

梨璃「はい！どんな修行でもどんと来いです！」

桜「頼もしいね梨璃ちゃん！」

楓「それでどんな訓練を？」

桜「鬼ごっこだ」

鶴紗「は!？」

一同「鬼ごっこー！ー!!!？」

桜「でもただの鬼ごっこじゃない3時間ぶっ通しでやってもらう！」

夢結「始まってしまった」

梅「みんなここから地獄の始まりだゾ」

鶴紗「でも3時間だけならまだ遊び程度なんじゃ？」

桜「ちなみに全ての修行ではこの30キロの重りをつけて行ってもらうらう」

鶴紗「地獄だ、」

桜「お前たちに足りてないものそれはそれぞれの個の力だ！」

梨璃「個の力、」

桜「お前たちのチームバランスはとても安定しているからそこは問題ない！でも個人の力はまーったくダメだから3時間鬼ごっこの後に個人の修行を開始する！そして修行中はレアスキル、charmの使用を一切禁止とする！」

神琳「レアスキルとcharmの使用禁止？」

桜「レアスキルやcharmに頼ってちゃ力は身につかないからね」

二水「でもちよつとキツすぎる気が、、」

桜「あーあと鬼ごつこの範囲はこの山だからそこんところよしくな
！」

梨璃・二水「え、この山ー!!!?」

桜「マギナの特訓、その後に組手だ!」

もうみんな言葉が出なくなっていた

梨璃「でも!これくらいしないと美鈴様には勝てない!みんなを守
れない!ですよね!桜さん!」

桜「まあそうだね」

梨璃「やろうみんな!強くなれるんだつたらなんでもやるべきだよ
！」

鶴紗「そうだな!」

楓「梨璃さんの言う通りですわ!」

神琳「やってみる価値ありますものね」

雨嘉「うん!」

二水「私もやれることは全部やります!」

ミリアム「ワシもやるぞ!」

桜「ほんとチームとしては完璧だね、、そんじや修行開始!!!」

二水「タツチ!」

楓「、、つやられましたわ」

梨璃「はあ、、はあ流石に30キロの重りは疲れるよお」

鶴紗「思ったように走れねえ!」

雨嘉「梅様と夢結様流石に慣れてる!」

神琳「やつぱり、、この、、修行、、を一度クリアしている、、だ
け、ありますわね」

梅「30キロは聞いてないゾ、なあ夢結」

夢結「ええ以前の修行がまだ本気の修行ではなかったことにゾツと
するわ」

桜「はい終了!」

一同「はあ、、はあ、、はあ」

桜「最後鬼だった二水ちゃんペナルティで山ランニングな!」

二水「ふ、ふえくく！わ、わかりました行ってきました！」
ミリアム「これがあと1ヶ月続くのか〜！」

桜「さ！次はマギナの練習だ、全員分の鉄の玉があるそれを1ヶ月以内にマギの力だけで破壊してもらおう」

楓「なかなか割れませんか」

ミリアム「地味に30キロの重りが聞いとるの〜」

桜「コツとしてはマギを物体の中に流し込んでそのマギをあとから爆発させる感じかな、まあそう簡単には出来ないよ」

夢結「、っ！」

夢結が力を入れた瞬間鉄球にヒビが入る

梨璃「お姉様凄い！」

桜「流石夢結だな！でもまだまだだ力を入れずにやるように心がける！」

夢結「はい！」

桜「よし今日のマギ練はこれでいいだろう！次は組手だ！」

楓「行きますわよ！二水さん！」

二水「はい！楓さん！」

楓が拳で二水を攻撃するが全く当たらない二水に関してはただ逃げているだけだ

桜「あはははははははははは！！ぎこちねえー！！ほらほらお互い殴り合わねえと終わんねえぞ〜」

桜に感化されたのか両方拳を構えて攻撃の体制に入り拳と拳が混じり合う、だが

楓・二水「いったーい！！！！」

神琳「私たちリリイは普段charmを使って戦っているから素手での戦闘を全く得意としていない、なるほどレアスキルやcharmの禁止する理由がわかりました」

桜「正解！神琳ちゃん！じゃあ鬼ごっこはどんな理由があるかわかる？」

神琳「基礎体力ですか？」

桜「それもある、けどもっと重要な事だよ」

神琳「、、、！戦闘時の動きの強化！」

桜「そう！それに重りをつけて手っ取り早く体力や動きの俊敏さを身につけようって訳！」

雨嘉「鬼ごっこにしたのは嫌でも避けることと当てることを無意識にすることが出来るから！」

桜「雨嘉ちゃん！大正解！今はあんな動きだけど1週後には格段にレベルが上がる、、、そして1ヶ月後には！」

カツン、、、カツン、、、カツン

美鈴「さあ始めようか」

t o b e c o n t i n u e d

episode 4 成長

アサルトリリイ4 The beginning of the
end

episode 4 成長!

神琳「梨璃さんタツチです! あっ!」

梨璃「危なかった」

華麗な身のこなしで神琳を回避する梨璃

神琳「やりますわね!」

そしてその後ろから颯爽と一人の少女が飛び出してくる

楓だ

楓「鬼さんこちらですわ!」

神琳「待ちなさい!」

一柳梨璃です! 桜樟院で修行を開始してから2週間が経ちました!
! 一柳隊のみんなの力は以前とは比べ物にならないくらい成長しています!

桜「よし今日の鬼ごっこ終わり! 最後鬼だったやつはペナルティ
な」

神琳「わかりました!」

桜「残りのやつはマギナ練に移れ!」

一同「はい!」

二水「マギナ!」バン!

梅「今日も二水が1番早いな!」

鶴紗「凄いな二水」

二水「ありがとうございます!」

桜「(こいつら2週間程度でもうマギナを習得しやがった!)」
ミリアム「次は組手じゃ!」

て

組手に

鶴紗「はあ!」

鶴紗が勢いよく拳を打ち付ける!

楓「流石は鶴紗さんです！でも！」

楓が鶴紗の攻撃をかわし反撃に入る！二水の拳にマギの力が宿る

鶴紗「(マギで拳を強化してきた！マギで腕にアーマーをつ！)うわっ！」

楓が攻撃する仕草を見せると同時に鶴紗の足元を引っ掛ける

鶴紗が体勢を立て直し楓の体に思いつき蹴りを入れる

楓「アーマー！」

楓がすかさず腕にマギを集中させ防御に入る

鶴紗「やるな楓！」

楓「鶴紗さんこそ！」

雨嘉「2人とも凄い！」

楓「とーぜんですわ！」

桜「charm無しの戦闘も大分板に着いてきたな」

桜「よし！今日の特訓はここまで！明日からはcharmを使った

特訓を開始する、行けそうか？」

梅「大丈夫だゾ！」

ミアム「やってやるぞ！」

桜「いい感じだな！それじゃ飯だ！飯！」

梨璃「お腹減ったー」

二水「本当です」

楓「もう動けませんわ」

夢結「お疲れのようね」

梨璃「桜さくん今日の晩御飯なんですか？」

桜「今日はしゃぶしゃぶだよー牛と豚のやつ」

ミアム「ご飯との相性最高じゃの」

梅「ゴマだれがいいゾー！」

雨嘉「私ぼん酔」

桜「おう！いっぱい食え食え！、、(みんな成長してきてるこれなら美鈴にも勝てるかもしれない)」

美鈴「集まったかな？エフタ・デゼスペロの諸君」

ルクシユーリア「は〜い」

ソベルバ「はい」

アヴァリーザ「ひひっ」

インヴェージャ「ああ、美鈴様美しいです！」

イーラ「はい！」

グルマンデイズ「お腹減った、、」

プレギーサ「だりい」

美鈴「それじゃあ会議を始めようか、議題は百合ヶ丘の壊滅についてだ」

ソベルバ「まずは百合ヶ丘最強のリリイ樟蔭 桜を殺すことを最優先にするべきかと」

美鈴「そうだね桜師匠確かにあれは厄介だ」

インヴェージャ「樟蔭 桜私の知らない美鈴様を知っている人物、、妬ましい、白井 夢結そして一柳梨璃と一緒に殺す！」

アヴァリーザ「落ち着けよ、嫉妬女」

インヴェージャ「なにか言いましたか？欲深クソ女」

アヴァリーザ「んだとゴラア！もういつペン言ってみろ！」

インヴェージャ「何度でも言ってるやりますわ！クソ女！」

イーラ「2人ともやめなさい！美鈴様の前でみっともない！」

美鈴「いいんだよイーラ」

アヴァリーザ「そうだぜイーラキレんなよ血圧上がんぞ」

インヴェージャ「美鈴様！私が樟蔭 桜を殺します！居場所を教えてください！」

美鈴「それは無理だよインヴェージャ」

インヴェージャ「なぜですか?!このサード・デゼスペロの私にかかればあのようなもの一瞬で片付けて見せますわ！」

美鈴「樟蔭 桜には君たちが束でかかっても敵わないよ」

プレギーサ「そんなに強いのかよ、、だりいな」

ソベルバ「それではラージ級5体アルトラ級2体を試しに放つとい

うのはどうでしょう」

アヴァリーザ「おいおいそりやあ鬼畜すぎねえか？全員死んじまうじゃねえか」

美鈴「それで百合ヶ丘を壊滅に追い込めるならそれでいいだろう」
インヴェージャ「ということは樟蔭　桜以外はまったくの雑魚という
ことでよろしいのですね？」

アヴァリーザ「いいんじゃないの？」

美鈴「それじゃあ1週間後に百合ヶ丘にヒューズを放つということ
にしよう」

デゼスペロ達「了解」

桜「よし！準備はいいな梨璃！」

梨璃「はい！」

二水「それでははじめ！」

梨璃が腕にマギを込め一気に攻める！
だがすかさず桜も腕にマギを込める！

桜「うおりやー！ー！」

梨璃「ぐぬぬぬ！おりやー！」ばん！

二水「この腕相撲バトルは梨璃さんの勝ちです！」

桜「ほんとみんなめちやくちや強くなったな、明日で最終日か、
寂しくなるな」

梨璃「私もですよ」ぎゅ

二水「私もです」ぎゅ

ミリアム「ワシも」ぎゅ

桜「うーん可愛いなお前ら」よしよし

鶴紗「はあ、お前らそんなんで大丈夫か？」

夢結「そうよ梨璃そんな調子じゃいつか痛い目を見るわよ！そんな
事をするなら、私にきなさい！」

鶴紗「あんたもかよ」

梅「あははっ、みんななんかまえとちがつて余裕が出てきたな！」

神琳「そうですね」

雨嘉「うん！」

桜「よしお前ら〜今日はさっさと寝ろよ〜」
一同「はい」

翌朝

桜「よし！今日は最後の特訓だ！重りを外せ！」

一同「あ、」

桜「え、なんだよ？」

二水「いや、そういえばしてたな〜と思って」

梅「最後らへんは全く違和感なかったもんな」

楓「確かに全く気にせず訓練してましたわ」

桜「まあ外してみな」

重りを外した一同は驚愕した

鶴紗「うわっ!？」

二水「軽!？」

雨嘉「凄い！」

桜「1番わかりやすいのは梅だな、梅！縮地を使ってみろ」

梅「え？うん、縮地！」

梅の姿が消えた

楓「どこにいったんですの？」

梅「ここだゾ！」

夢結「?!」

梨璃「梅様!？」

梅は夢結の後ろにいた

鶴紗「見えなかった」

楓「これが修行の成果！」

桜「まあこれはオマケみたいなもんだよ、お前らの修行の成果は
こんなもんじゃないからな！」

プルルルル

桜「ん？百由、どうしたの？」

百由「桜さん！百合ヶ丘にヒュージが！アルトラ級2体とラージ級5体！」

鶴紗「嘘だろ!？」

桜「そつちに一柳隊をよこせてことか？」

百由「話が早くて助かるわ！」

夢結「師匠！」

一同が桜の目を見つめる

桜「うん！わかつてるよ、でもお前らに言うておくことがある！」

梨璃「言うておくこと？」

桜「お前らは強い！この私！樟蔭 桜が断言する！今のお前らは誰にも負けない！だから存分に暴れて来い！ことが片付いたら一緒に飯を食おうな」

一柳隊「はい！」

桜「行つてらっしゃいみんな！」

一柳隊「行つて来ます！」

百合ヶ丘女学院にて

天葉「なんでこんなに上位のヒュージが！」

亜羅椰「ちっ！私たちのマジもそこを着きましたわ！」

樟美「どうすればいいの？」

天葉「?!樟美!!!後ろ!!!」

樟美「えっ?」

樟美の後ろにラージ級ヒュージ一体が一瞬で樟美の後ろをとり攻撃に入る

亜羅椰「樟美!!!」

その瞬間樟美の前に一人のリリイが現れヒュージの攻撃を断絶した

樟美「二水さん、、、」

天葉「素手で止めた?!」

梨璃「遅くなりました！一柳隊！到着しました！」

天葉「一柳隊!?帰ってきたの？」

夢結「大丈夫？天葉！」

天葉「ええ、大丈夫、情けない姿を見せたわね、、うっ！」

夢結「あとは私たちに任せて休んでいなさい」

天葉「でも！」

樟美「お姉様きつと大丈夫です、今の一柳隊なら」

天葉「わかったあなた達に任せるわ」

夢結「ええ！」

梨璃「行きましょう皆さん！一柳隊！出撃！」

二水「アルトラ級は梨璃さんと夢結様に！あとのラージ級はほかの皆さんで対処してください！雨嘉さんは援護射撃をお願いします！」
「了解!!」

鶴紗「さてと」

楓「それじゃあ」

ミリアム「試しに」

梅「やって見るゾ」

神琳「実験台にちょうどいいですわね」

5人が一瞬でヒュージの前に移動し体に静かに触れる

「マギナ!!!」

5体のヒュージがバラバラに砕け散る

リレイ1「嘘、、」

リレイ2「あのラージ級をcharmも使わずに倒すなんて、、」

天葉「ほんとにどんな訓練したらあんな化け物が量産されるのよ」

鶴紗「さてと次はアルトラ級だけどもまあいつらなら大丈夫か」

夢結「アルトラ級、、やはり大きいわね」

梨璃「はい、でも今の私と夢結様なら倒せます！」

夢結「そうね、行くわよ！梨璃！」

梨璃「はい！」

2人がヒュージの体を駆け上がっていく

アルトラ級の体内から無数の小型ヒュージが現れる

梨璃「小型!?!」

夢結「ぎつと2000はいるわね梨璃！片付けるわよ！」

梨璃「了解！」

梨璃と夢結がヒュージを切って進む

梨璃「このまま！一気に！」

夢結「駆け登る！」

梨璃・夢結「はああああ!!!」

アルトラ級の後頭部にたどり着いた梨璃と夢結はcharmの出力を最大限まで上昇させる

梨璃・夢結「(マジ増幅量10倍!)」

梨璃「ソレイユ!!!」

夢結「フォルモント!!!」

梨璃・夢結「奥義！」

梨璃「グラン!!!」

夢結「マギナ!!!」

アルトラ級ヒュージが跡形もなく消え去った

百由「アルトラ級2体、ラージ級5体完全に消失」

鶴紗「私たちの勝ちだ」

アヴァリーザ「ふーん」

インヴェージャ「どうでしたか？まあどうせ全員死んだと思います
が」

アヴァリーザ「インヴェージャ」

インヴェージャ「ん？」

アヴァリーザ「覚悟しておいた方がいい、」

インヴェージャ「そんな顔して言う言葉じゃないでしょ、」

アヴァリーザが不敵な笑みをこぼした

to be continued

次編、エフタ・デゼスペロ編

エフタ・デゼスペロ編 episode5 宣戦布告

アサルトリリイ5 The beginning of the
episode5 宣戦布告
end

百由「さて！みんなご苦労さま！まさかあそこまで強くなっていると
は思わなかったわ！」

高松「本当によくやってくれた、一柳隊の諸君！」

梨璃「はい！ありがとうございます！」

ミリアム「でもなぜあんなにヒュージが攻めてきたんじゃ？」

百由「多分美鈴様の仕業ね」

夢結「お姉様の?!」

百由「そう！こんなことをするのはあの人ぐらいしか居ないもの」

梨璃「もうあの人の計画は始まっているってことですね」

百由「まあそういう事ね、だから早急に敵の本拠地の場所を特定し」

ドローローン

鶴紗「なんだ?!」

楓「何事ですの?!」

土煙の中から一人の少女が現れた

アヴァリーザ「ここが百合ヶ丘か、結構デカイな」

鶴紗「お前！誰だ！」

アヴァリーザ「あ？私か？私は美鈴様の部下エフタ・デゼスペロの

2番手、セカンド・デゼスペロ、アヴァリーザ・イズリナムだ」

百由「美鈴様の!?!」

鶴紗「梨璃こいつ、強いぞ！」

梨璃「はいマギの強さが尋常じゃない」

アヴァリーザ「おいおいそんなに警戒すんなよ別に戦いに来たわけ
じゃねえからな」

雨嘉「じゃあなんのために？」

アヴァリーザ「宣戦布告だよ」

神琳「宣戦布告？」

アヴァリーザ「そう、私たちエフタ・デゼスペロ全七名は百合ヶ丘女学院一柳隊を全力で叩き潰すことを宣言する！」

夢結「エフタ・デゼスペロ？」

アヴァリーザ「じゃあな」

梅「待て！」

二水「、、」

夢結「いったいなんだったの？」

ミリアム「あれはリリイなのか？」

百由「違うでしょうね」

鶴紗「じゃあなんですか？」

百由「あれは私の推測からすると、ヒュージが人の姿になったものかしらね」

梨璃「ヒュージが?!」

百由「ええ、変異体と言った方がいいかもしれないわね、そしてあのマギの濃さ、きつと強さはアルトラ級以上」

神琳「しかもそれが7人いるとなればかなり厄介ですね」

百由「でも今のあなた達なら大丈夫かもしれない！だってあの樟蔭

桜の弟子なんだから！」

梨璃「そうですね！」

二水「そうですねよ！私たちはあの厳しい特訓を耐えたんですから！」

百由「じゃあ相手の本拠地の解析が済んだら、攻撃を仕掛けるわよ！」

一柳隊「了解！」

桜樟院

桜「来たか、、」

同時刻

美鈴「お久しぶりです師匠」

桜「おう！バカ弟子！」

美鈴「相変わらずお元気で何よりですよ、、」

桜「まあな」

美鈴「あなたを殺します」

桜「とんだ化け物に堕ちたな、、まあ弟子の間違いを正すのが師匠の責任だ、いいよ相手をしてやるその代わり、、本気で行く！咲けキルシュ・ブリューテ」

美鈴「これは、油断していると本当に死ぬらしい、私もcharmを解放しよう、、呪え、クロユリ」

バシユン！

桜「お前はcharm解放後いつも動き出しが遅いんだよ、あれほ
ど言ったのにまだ直してねえんだな」

美鈴「ふふっ、、そう来ると思っていましたよ」

桜「こいつあえて動き出しを遅くしたのか?！」

美鈴「あえて受けて、流して切る、あなたが教えたことですよ」

美鈴は桜の攻撃を受け流し渾身の一撃を叩き込む

桜「私はそんなヤワな攻撃をしるなんて教えた覚えはないぞ、えらく弱くなったな美鈴」

桜は美鈴の一撃を人差し指と親指でつまむようにして断絶する

美鈴「これじゃあどっちが化け物か分からないな」

バキッ！

美鈴の眼前に桜の拳が一瞬で迫る

美鈴「ぐはっ！ゲホ！ゲホ！」

桜「おい、さっさとヒューズの力でも使って殺してみろよ、殺せるかどうかは知らんがな」

美鈴「次の攻撃がくる！（やはりまだ完全な適合はしていないか）」

桜「遅い」

ドーーーーーン

桜「ん？」

インヴェージャ「美鈴様お助けに参りました！」

美鈴「インヴェージャ来てはダメだと言ったはずだ」

インヴェージャ「あなたはこんなところで死んではいけません」

桜「お前誰だ？」

インヴェージャ「私は美鈴様の忠実なる下僕エフタ・デゼスペロの
サード・デゼスペロ、インヴェージャ・ルーシカでございます」

桜「じゃあ、殺しとくか」

桜は一瞬でインヴェージャの前に現れる

インヴェージャ「嘘でしょ?! 私が気づかなかった?!」

インヴェージャがかううじて攻撃を避ける

桜「これ避けるんだ、やるじゃん」

インヴェージャ「相手が悪すぎますわ、ここは一旦引きますわよ」

美鈴「ああ、」

インヴェージャはケイブを発生させる

桜「ケイブ？」

インヴェージャ「いつか殺しますわ!」

桜「そうか、でもこれだけは覚えとけお前らの敵は私だけじゃな
いってことを」

インヴェージャ「わけの分からないことを!」

そう言つて2人はケイブの中に姿を消した

桜「行ったか、」

百合ヶ丘アーセナルに

て

百由「みんな解析が済んだわよ!」

夢結「それで敵の本拠地はどこにあるの？」

百由「ケイブの中の世界、、ヘイジオンよ!」

梨璃「ヘイ、ジオン?」

百由「まあヒュージの世界と言った方がいいかもね」

夢結「で、私達に行けと?」

百由「そゆこと」

鶴紗「でもどうやってケイブの中に、?!まさか!」

百由「あらゝ察しがいいわね鶴紗、そう!ケイブが出てくるところを狙って行くしかない!名付けて、超ド級行き当たりばったりケイブ侵入作戦よ!」

一同「なんか捻れや!!」

百由「そしてあのアヴァリーザとかいう奴らもそこにいる!」

二水「、、」

楓「でもヘイジオンに美鈴様達がいることは分かりましたが、ヘイジオンのどこにいるかは分からないんじゃないかと?」

百由「それなら安心して!このマジ探知機で絶大なマジを指して歩けば1発よ!」

梅「あはっ!流石は百由だな」

梨璃「それでは明日作戦決行でよろしいですか?」

夢結「そうね、1日でも早くお姉様を止めなければ行けないものね」

神琳「では明日から長旅になりそうですね」

雨嘉「charmのメンテナンスしとかないと」

ミリアム「そうじゃなく」

百由「あーあと二水!」

二水「はい?」

百由「あれできてるわよ」

楓「?」

二水「ありがとうございますごいます百由様!」

翌日

梨璃「それでは皆さん準備はよろしいですか?」

楓「もちろんですわ」

梅「準備万端だゾ!」

夢結「みんな大丈夫そうですね」

梨璃「はい!」

百由「夢結!」

夢結「？」

百由「さっさとケリつけて帰ってきなさい」

夢結「ええ！」

高松「一柳隊の諸君！頼んだぞ」

一柳隊「はい！」

夢結「梨璃」

鶴紗「あれ頼む」

梨璃「はい！、、一柳隊！出撃！」

t o b e c o n t i n u e d

episode 6 遭遇

アサルトリリィ6 The beginning of the
end

episode 6 遭遇

百由「さあ着いたわよ」

雨嘉「このケイブの先にヘイジオンが」

神琳「ついに始まるのですね」

夢結「ええ、みんな覚悟はできてるわね!」

鶴紗「当たり前ですよ夢結様!」

夢結「頼もしい限りだわ」

梨璃「行きましょう」

百由「気をつけてねみんな!」

一柳隊「はい!」

百由「梨璃!梅!」

梨璃「はい?」

百由「夢結を頼んだわよ」

梨璃「任せてください!お姉様は私が守ります!」

梅「じゃあ梅はその2人の制御係だナ!」

百由「心配なさそうね」

ミアム「それじゃあ行って来るぞ百由様!」

百由「グロっぴ!おいで」

ミアム「ん」

百由「必ず帰って来てね、私の大事なシルト」ギューツ

ミアム「百由様くはずかしいのじゃ」

百由「さああんた達!行ってきなさい!」

一柳隊「行ってきます!」

一柳隊がケイブの中へと姿を消した

ヘイジオン到着

二水「ここがヘイジオン!」

楓「なんだか殺風景なところですね」

神琳「ヒュージの世界と言うだけあるようですね」

梅「?!みんな隠れろ!」

ミリアム「わっ!なんじゃ!」

梨璃「ラージ級ヒュージがあんなに!」

夢結「奴らにバレずに移動するしか無いようね」

梨璃「そうですね」

ピピ、、、ピピピピピピ!!!!

鶴紗「?!、、つなんだこの反応!」

二水「2時の方向から強力なマギが接近中です!」

雨嘉「このマギは!」

ドーーーーーン

「(名答、、)」

神琳「やはりあなたですか」

楓「アヴァリーザ・イズリナム!」

アヴァリーザ「やつぱり来たんだな一柳隊」

神琳「先を急いでるので通して貰いますよ、、、という訳には行かな

さそうですね」

二水「皆さんここは私に任せてください」

梨璃「二水ちゃん!」

アヴァリーザ「なんだ?こんなチビが相手かよ!?!全く舐められたも

んだな」

梅「二水大丈夫なのか?」

二水「はいこの人とは1度戦って見たかったんです」

梨璃「わかった二水ちゃんを信じるよ!」

楓「梨璃さん!」

夢結「私もあなたを信じるわ二水さん!」

二水「ありがとうございます皆さん」

梨璃「でも約束だよ絶対追いついてね」

二水「はい」

ミリアム「ヒュージが気づいておる!早く逃げるぞ!」

アヴァリーザ「行かせねーよ」

アヴァリーザが梨璃の前に一瞬で移動する

梨璃「っ!？」

二水「あなたの相手は！」

アヴァリーザ「何?!」

二水「わたしです！」

アヴァリーザ「うぐあー！」メキメキ

二水がアヴァリーザの顔面を思いつき殴る

アヴァリーザ「んだよこのチビ少しはやるみてえじゃねえか」

二水「今のうちに行ってください！」

梨璃「うん！」

アヴァリーザ「(一発で私の頭蓋骨を砕いたか再生能力が無けりや死んでたな) おいチビ！」

二水「なんですか？」

アヴァリーザ「お前もんだ？」

二水「普通のリリースですよ、」

アヴァリーザ「私の体はヒューズの装甲の10倍は硬いはずなのにそれを素手で砕いたんだ普通なわけないよな」

二水「ただ拳にマギを乗せて殴った、、それだけですよ」

アヴァリーザ「おもしれえ殺しがいがあるなあ」

二水「そうですか」

アヴァリーザ「一瞬で楽にしてやるよ!!」

3日前百合ヶ丘アーセナルにて

百由「そう言えば結局誰が」柳隊の中で一番強いのか?桜さん」

桜「そうだな」二水かな!」

百由「えっ!?!二水ちゃん?」

ンッ!!

二水「威勢だけでは私は殺せませんよ」

バタ

桜「あの子は潜在能力だけで言うなら一柳隊で一番だよ、間違いない
く今まで見てきた中で一番のバケモンだ」

アヴアリーザ「……」

アヴアリーザが倒れる

二水「さて皆さんのところに向かわないと……よし！」

鷹の

目!!!

二水「結構遠くにいるみたいですね」

ラージ級「キュイイイイイイ!!!」

二水「少し……黙ってください！」

二水が目を見開く

ラージ級「キュルルル」

ヒュージが次々と後ずさりする

一方その頃梨璃達は

楓「二水さん大丈夫でしょうか」

梨璃「大丈夫だよ！楓さん！二水ちゃんは強いもん！」

楓「そうですね！」

ミリアム「さあ着いたぞ！」

鶴紗「デケエ城だな」

夢結「ここにお姉様が」

梨璃「行きましようお姉様！」

夢結「ええ！」

???「ここまで来れたのですね！」

楓「誰ですの?!」

天空から少女が飛来する

インヴェージャ「初めまして、私は美鈴様の忠実なる下僕、エフタ・

デゼスペロ、サード

インヴェージャ・ルーシカでございます」

雨嘉「また！」

マジ探知機「ピピピピピピピピピピ」

神琳「相当なマジの濃さですね!!」

インヴェージャ「美鈴様の元へ行きたいなら私を倒してから行きなさい！」

楓「皆さん先に行ってください！ここは私に任せてください！」

梨璃「楓さん、はい！任せます！」

鶴紗「ありがとな楓！」

楓「私にもカツコつけさせてくださいまし！」

インヴェージャ「あなたが相手ですの？なんだか私も舐められたもんですわね、こんなに弱そうなりリーの相手をしなければならぬなんて」

楓「あら？ヒュージも罵倒ができるなんて驚きですわ〜！」

インヴェージャ「どういうことですの？」

楓「あく今まで能無しのカスだと思っていたので驚きを隠せなかつたんですの！私とした事ははしたない」

インヴェージャ「あなたイラつかせてくれますわね」

楓「あら、イラつくこともできるのですね

えらいえらいですわ〜」

インヴェージャ「いいでしょうこの私が直々にぶち殺してあげますわ」

楓「上等ですわ!!」

インヴェージャ「憎め！デイゼスト!!!」

インヴェージャがcharmを解放する

楓「行きますわよ！ジョワユーズ!!!」

インヴェージャ「はああああ!!!」

インヴェージャが尋常ではないスピードでcharmを振りかざす

楓「んっ！（なんですの！このcharm！重い！）」

インヴェージャ「重いでしょう！それもそのはずこのcharm
デイゼストは私の憎しみが強ければ強いほど攻撃力が上昇する私専用のcharm！」

楓「それはそれはなんて醜い能力なんでしょう！」

インヴェージャ「戯言をつ!!」ギンツ！

インヴェージヤの刃が狂ったように暴れる

楓「(とは言ったもののやはり攻撃力はあちらの方が上、、、気づいてはいましたがこの人やはり強い!)」

インヴェージヤ「どうしたんですか? 守るだけじゃ私は殺せませんわよ!」

インヴェージヤの連撃が楓を襲う

楓「くつこのままだと私が先にあジャパーですわ!」

インヴェージヤ「あら? やっぱり弱いじゃないですか、く楓さくん!」

楓「マギナ!」

楓が地面に掌をかざす

インヴェージヤ「?! 目眩しか!」

ぶわっ!

インヴェージヤ「後ろか?!、、、でも甘い!!」

楓「ぐあつ!」

楓の首根つこが掴まれる

インヴェージヤ「良い考えですがそんな作が私に通じる訳がないでしょう!」

楓「うっ、、、く、、、」ぐとっ

楓がcharmを落とす

インヴェージヤ「このまま締め殺します! あなたの負けですわ!

楓・J・ヌーベル!!」

楓「いいえ! 私の勝ちですわ!」

インヴェージヤ「何?!」

楓「マギ形状変化! 鞭切(ウィップスラッシュ)」

鞭に形状を変化させた楓のマギがcharmをつかみインヴェージヤを切り裂いた

インヴェージヤ「なん、、、ですの!?!」

楓「私のマギの形状を変化させcharmを扱う新技ですわ!」

インヴェージヤ「まさか! あの目眩しは?!」

楓「そうあの時のマギナは地面にマギを流すために打った布石!」

インヴェージャ「地面に流れたマギを使った攻撃と言うわけか！、っ！小癩なああああ!!!」

楓「死になさい!!!」

インヴェージャ「なーんてねですわ♡」

楓「?!」

インヴェージャ「確かにこの攻撃は見事です！褒めて差し上げましょう、でもまだまだですわ〜」

切り裂かれたインヴェージャの体が元通りになっていく

楓「なん、ですの？」

インヴェージャ「さあてえどうやって死にたいですか？」

t o b e c o n t i n u e d

おまけコーナー作者のダダ漏れーション

もしアニメ化したらオープニングはSPYAIRに歌って欲しい

後エンディングはRASが良い

そして松蔭桜の声優は絶対日笠陽子さんが良い

後今の二水ちゃんめっちゃ強い

episode 7 反撃開始

アサルトリリイ7 The beginning of the
end

episode 7 反撃開始

楓「まさか!?レアスキル!!」

インヴェージャ「ご名答!私のレアスキルは、ペルフェイト・レコペラーセオどんな状態からでも完璧に回復できるスキルですわ!」

楓「有り得ませんわ!ヒュージにレアスキルなんて使えないはず!
!」

インヴェージャ「あなた達には言ってませんでしたわね、、私達デゼスペロは全員がヒュージとリリイのハイブリットなのですよ!」

楓「、、」

インヴェージャ「デゼスペロは元々ゲヘナによつて実験台にされたリリイなのですから」

楓「なるほどだからレアスキルも使えて普通のリリイではありえないような身体能力が備わっていると言うことですね」

インヴェージャ「さあどうしますか?もう私は倒せませんよいい加減諦めたらどうですか?」

楓「うるさい羽虫ですわね」

インヴェージャ「何?」

楓「いい加減気づいてはいかがでしょう?」

インヴェージャ「え?!、、何故?!体が動かない!」

楓「はあ、、やっぱり能無しのカスですわね」

インヴェージャ「なんですのこれ!」

楓「毒ですよ」

楓がポケットの中からカプセルのようなものをのぞかせる

インヴェージャ「毒?!」

楓「そうヒュージとリリイ専用の毒ですわ」

回想百由「これはリリイとヒュージ専用の毒よ!これを使えば相手を細胞から崩すことができる!」

インヴェージャ「何?! つ! ぐあああああ!!! くつ、知っていたと
いうのか! 私がヒューズでありリリイであることを!!」

楓「ええとつくの前から」

インヴェージャ「ならあの反応はなんだ!!! まるで初めて知ったみた
いな口調だったのに!!!」

楓「やはり能無しですわね、毒が回るまでの時間稼ぎですわ、百合
ヶ丘のアーセナルの情報網を舐めないでくださいまし!」

インヴェージャ「フフフツ! だが残念だったな! 私は何度でも回復
するこのレアスキルで!!!、?! 何故?! 何故?! 治らない!!」

楓「あなたの中のリリイの細胞は死んでますよ、リリイと言っても
生命力はただの人間なので、レアスキルなんてもう使えませ
んわよ」

インヴェージャ「貴様あああああ
パチン!!!」

楓「C'est la fin (これで終わり)」

インヴェージャ「ぐあああ!!!」

インヴェージャの体が灰になっていく

楓「はあ、流石に疲れましたわね、」

その瞬間楓の脳内に雷が走った!

楓「なんですの!?! このマギは?! 近づいてくる! でもこの状態では戦
えない!」

二水「楓さーん」

楓「二水さん?」

二水「追いつきましたよ!」

楓「(あのマギは二水さんのマギということですか?!)」

二水「どうしたんですか? 楓さんぼーっとして」

楓「あついえ! 偉く早いですわね」

二水「早く終わったので走って来ました!」

楓「デゼスペロを倒したんですの?」

二水「もう何言ってるんですか? でなければここにいませんよ」

楓「そうですわね、(早すぎるいくらなんでも)」

二水「ところで皆さんはどこに？」

楓「もう乗り込んでますわ」

二水「楓さんは何を？」

楓「私はたった今サード・デゼスペロを倒したところですよ！」

二水「やっぱり弱かったか」

楓「なにか言いましたか？」

二水「いえ、さあ皆さんを追いかけましょう！」

楓「え、ええ」

EDEN内部

ミリアム「完全に迷ったのう」

梅「うーんみんなともはぐれちゃったゾ」

神琳「ここはどこでしょうか？」

雨嘉「迷っちゃったね」

梨璃「みなさーんどこですかー」

夢結「本当にどこかしらここ」

鶴紗「適当に進みすぎたか」

完全に迷っていたそして、

はぐれていた

神琳「さて完全にはぐれましたねどうしますか雨嘉さん」

雨嘉「とりあえずマジ探知機で見してみるね、あれ？」

神琳「どうしました？」

雨嘉「私たちのすぐ近くに2つのマジが」

ドーーーーン

天空からふたつの影が飛来する

神琳「なんですか?!」

イーラ「全く、鬱陶しい虫が入りましたねキルシュ」
キルシュ「ええイーラさつさと殺してしましましょう」

神琳「あなた達は?!」

雨嘉「デゼスペロ?!」

イーラ「いかにも、私はファイフス・デゼスペロイーラ・トレーバス」

キルシュ「同じくファイフス・デゼスペロキルシュ・トレーバス」

神琳「名前が」

雨嘉「同じ?」

イーラ「私達は」

キルシュ「姉妹なので」

神琳「来ますよ!雨嘉さん!」

雨嘉「うん!」

神琳「相手の力は未知数まずは様子を」

イーラ「マジの濃さはそこまでのようですね」

神琳「?!ぐあっ!」

神琳がイーラの蹴りをまともにくらった

雨嘉「神琳!!」

キルシュ「人の心配をしてる場合?」

雨嘉「ウアッアッ!!!」

神琳「はあ、はあ、ゲホッゲホッ」

雨嘉「早すぎるゲホッ!目で追えない!」

神琳「マジでアーマーを張っていなかったら死んでましたね」

イーラ「遅いんですよっ!!」

神琳「マソレリック!」

神琳がかろうじて攻撃を防ぐ

雨嘉「アステリオン!」

神琳「私は雨嘉さんを守るので攻撃をお願いします!」

雨嘉「わかった!」

イーラ「そんなことが出来ますか!!」

キルシュ「私達姉妹のスピードは捉えられない」

イーラ・キルシュ「そうこれこそが私たちの華麗なるレアスキル!

トップスピード！」

雨嘉「ダメ神琳！早すぎて捉えきれない！」

神琳「くっ！」

イーラ「教えてあげますよ」

キルシュ「私達の力を!!」

イーラ・キルシュ「貫け！ジエミオス！」

神琳「槍の形をしたcharm!」

雨嘉「しかも同じ形!」

イーラ「ぼーつとしてる場合ですか？」

イーラとキルシュが凄まじいスピードで攻撃を仕掛ける

雨嘉「うっ!、、神琳！まずいよ！このままじゃやられちゃう！」

神琳「!、!、」

雨嘉「神琳？」

神琳「雨嘉さんしばらくこれが続けますよ」

雨嘉「何言ってるの神琳！攻撃しないとやられちゃう！」

神琳「まだです！まだ攻撃の時じゃないんです」

雨嘉「神琳!、わかった信じるよ」

イーラ達の攻撃が神琳達を容赦なく襲う

2週間前

桜「神琳！」

神琳「はい!」

桜「なんで攻撃しない」

神「!、私は防衛専門のリリイですから、攻撃を鍛えるより防衛を鍛えた方がいいと思っただけ」

桜「違うな」

神琳「?!」

桜「お前ビビってんだろ」

神琳「な！何を言ってるんですか？私はリリイですよ！攻撃が出来ないわけがないじゃないですか！」

桜「なら攻撃してみなよ」

神琳「っ、っ、」

桜「ほら出来ない、いいか神琳、防御だけじゃ死んじやうよ」

神琳「!」

桜「やれることを全部やれ、もつと強くなることに貪欲になれ、それができないならリリイなんて辞めちまえ」

神琳「、、、」

雨嘉「神琳!」

夢結「待つて雨嘉さん!、、、彼女ようやく本気になったようね」

桜「やつと目に闘志が宿ったな」

神琳「雨嘉さんどうですか?」

雨嘉「どうって」

神琳「そろそろ慣れてきたんじやありませんか? 奴らのスピードに」

雨嘉「え? あ、ほんとだ早いのにには変わりはないけど少しずつ慣れてきたかも、、、まさかこのためにあえてずつと守りの体制に?!」

神琳「そういうことです!、、、さてそろそろ」

神琳・雨嘉「反撃開始!」

神琳がc h a r mを外す

雨嘉「あれをやるんだね」

神琳「ええ」

イーラ「なんですか?」

神琳「私のc h a r mは攻撃向きではないのでどうしようかと思っ
ていたんですよ」

キルシュ「一体何が?!」

神琳「その時ふと思いついたんですよ、無ければ作ればいいと、、、
ここからは本気で殺しに行きますよ」

神琳のマジが形を変えていく

神琳「ジ・グランデ!!」ガンツ!!

イーラ「マギの!？」

キルシュ「大剣!？」

雨嘉「これが守りを捨てた神琳だよ！」

キルシュ「守りを捨て、、え？」ブシュ

キルシュの右腕が切り落とされる

ゴトツ

神琳「あらあら油断してはいけませんよ」

イーラ「キルシュ?! (このリリイいつの間に!)」

キルシュ「こんなものすぐに再生でき」

雨嘉「やらせない」バアン!!

キルシュ「なんだ!？」

神琳「雨嘉さんの射撃ですね！」

イーラ「射撃!?! あんな距離から?!」

キルシュ「しかも威力が高すぎる！」

雨嘉「銃弾をマギで強化して威力をあげて撃つ！そして！」

雨嘉がアステリオンを剣形態へと変化させ地面を蹴り攻撃の体制に入る

イーラ「何!?! 早い！」

雨嘉「ぶった斬る!!!」

イーラ「ぐあつ！」

神琳「これで一人目！顔面直撃!!!」

神琳がイーラの顔面に思いつきり大剣を叩きつける

イーラ「バカ、、な、」

キルシュ「イーラ!! ちっ！今回はここまでにしておいてあげますよ」

神琳「逃げられる！」

雨嘉「神琳！私が行くよ」

神琳「雨嘉さん！」

雨嘉「これが私の特訓の成果!! リミッター解除！」

アルミュール!!!

T
o
B
e
C
o
n
t
i
n
u
e
d

episode 8 逆転

アサルトリリィ8 The beginning of the
end

episode 8 逆転

雨嘉「リミッター解除！アルミユール!!」

マギが雨嘉の体にまとわりつく

雨嘉「アルミユールはリミッターを解除して私の体から溢れるマギを鎧として纏うことですべてのステータスを3分間だけ大幅に上げる！ちなみに攻撃力は通常の10倍!!」

神琳「これが雨嘉さんの力！」

マギ探知機「ピピピピピピピピピピピピピピピピ!!」

神琳「凄い反応です！」

キルシュ「なんだこのマギ！」

雨嘉「3分以内に終わらせる!、、行くよ！」

ギョんツ!!

キルシュ「早い!!グアツ！」

雨嘉がキルシュの腹に膝蹴りを入れる

雨嘉「オプスキュリテ!!」

キルシュ「は！」

雨嘉「ディアスキーゾ！」

闇切り（オプスキュリテ・ディアスキーゾ）

キルシュ「かかりましたね！」

雨嘉「え?!」

キルシュ「サブスキル!!マギアブソープ！（吸収）これで終わりで

すよ!!」ブシューー!!

雨嘉「!、」

キルシュ「えつ!、」

キルシュの上半身と下半身が別れる

神琳「あなた達姉妹はやはり油断してしまうようですね」

キルシュ「普通のcharm?」ドサツ

神琳「あらあら内臓が飛び出てますよはしたない」

キルシュ「まさかあのマジの鎧も私の気を引くための罠?！」

神琳「ええそうですよ」

キルシュ「クソが!ぶっ殺してやるすぐに再生し」ぐしやつ

神琳「うるさいですよ、黙っててください永遠に」

神琳がキルシュの顔面を踏み潰した

雨嘉「、、神琳!」

神琳「!なんですか?!雨嘉さん!」ギョ

雨嘉「神琳!」

神琳「ひゃい!」

雨嘉「落ち着いて」

神琳「あ、ありがとうございます」

二水「あのー」

ビクンツ!

楓「何、、してるんですの」

雨嘉「か、楓!?!」

神琳「コホンいえ別に!」

雨嘉「な、何もしてないよ!」

神琳「何故ここに来れたんですか?」

楓「二水さんがこつちと云ってたので着いてきたのですが、、」

雨嘉「ねえ、なんで一度もここに来たことない二水が道を知ってるの?」

神琳・楓「!!」

神琳と楓が警戒態勢に入る

楓「あなた誰ですか?!」

二水「フフフツ!バレちまったなら仕方ねえな」

二水の体から液体のような物がでてきた

楓「あなたは!」

雨嘉「アヴァリーザ!」

神琳「イズリナム!」

バタン!

楓「二水さん！」

アヴァリーザ「いい体だったぜ！おかげでマギの回復ができた！」

神琳「何故二水さんの中に!？」

アヴァリーザ「私のレアスキルスニーク・ポシードは相手の身体に侵入してマギの吸収ができる！そして相手が私に気づくことはない！」

雨嘉「そんな能力が、、、」

神琳「二水さん！、、、あれ？」

二水「なんか違和感があると思うたらあなたが入り込んでいたんですね、、、さすがにイライラしますね！」

アヴァリーザ「おいおい！マギもねえのに闘えるわっ」

バギイ!!

アヴァリーザ「何?!」

二水「調子に乗るのもいい加減にしてくださいよ、マギなんか使わなくてもあなた如きなら素手で殺せる」

アヴァリーザ「私如きだあ？」

二水「一気に決めます、、、桜流奥義!!」

アヴァリーザ「くっ！charm!!解っ！」

二水「遅い!!乱れ桜・砕!!」

神琳「charmを！」

雨嘉「素手で砕いた!？」

アヴァリーザ「お前本当に何もんだ！」

二水「普通のリリース、、、というのはもうやめです私は」

二水が拳を掲げる

アヴァリーザ「?!」

二水「一柳隊のブレインであり!!拳です!!!」

アヴァリーザ「認めるよ、、、お前は私より強い!!」
ぐしゃ!!

二水「そうですかでも私はあなたに認められるために闘っている訳ではないので、、、さっさと死んでください!!」

アヴァリーザの顔面がえぐれる

神琳「乱れ桜・砕ですか、あれは二水さん以外習得出来なかった桜さんの秘伝の技」

二水「やつと死にましたね」

楓「本当に桜樟院を出てから変わりましたよね」

二水「いえ私なんてまだまだです！」

雨嘉「あ、性格戻った」

二水「さあ早く皆さんの元へ行きますよ！」

神琳「待つてください！このまま行くとまたバラバラになってしまいます」

二水「あ、確かに」

楓「ならどうします？手でもつなぎますか？」

神琳「いいですね！それ！」

楓「いやいや冗談ですよほかの方法を試し、てあれ？」パシ！

神琳「これならはぐれませんか！」

雨嘉「(神琳可愛い！)」

楓「はあ、、、なんでこうなりますの」

同時刻

鶴紗「ほんとにここ何処だよ？」

???'「教えてあげようか？」

鶴紗「?!誰だ!!」

グラマンディーズ「私はグラマンディーズ・イルム、フォー스デゼスペロだよ」

鶴紗「デゼスペロ！」

グラマンディーズ「じゃあさつそく、、、」

鶴紗「ん？」

グラマンディーズ「死んじゃえ!!!」

鶴紗「なっ！（こいついつの間?!）ぐはっ！」

グラマンディーズ「ふふっ！」

鶴紗「早い!、、、というよりいつの間にか私の死界に居るような感

じがする」

グラマンデイズ「ほらほら後ろだよー」

鶴紗「ぐはっ！くそっ！」

グラマンデイズ「ハハッ！おもしろーい！」

鶴紗「なめやがって!!」

グラマンデイズ「イライラしてちゃ勝てないよー」

鶴紗「うるさいぞ!! charm解放!!いくぞ！テイルフィング!!」

グラマンデイズ「喰らえ、、マンジャーレ！」

鶴紗「charmか！」

グラマンデイズ「私のマンジャーレの能力は攻撃力の倍増あなた達のオーバーストライクシステムと同じものだと思う、、そして」

鶴紗「?!」

グラマンデイズ「あなたは私に勝てない」

鶴紗「(また後ろに！なんなんだこいつ！)」

鶴紗が間一髪で攻撃を避ける！

グラマンデイズ「ハハッ！ぶっ飛ばす!!」

鶴紗「ぐあ!!」

鶴紗が壁に激突する

グラマンデイズ「諦めたら？私には絶対に勝てないよ」

鶴紗「また、、こんなところに、、一瞬で」バギイ！

グラマンデイズ「私のレアスキルはフェルマーレ、時間を止めることができるレアスキルだよ」

鶴紗「時間を止める、、」

グラマンデイズ「あははははははははは!!!!本当に弱いね!!もう諦めて死んじやええば？」

鶴紗「時を止めるなんて、、そんな(無理だ勝てない、、)」

グラマンデイズ「絶望したね、じゃあ、、死んじやええ」

「鶴紗さん!!」

鶴紗の心に声響く

鶴紗「まだだ！」

グラマンデイズ「?!」

鶴紗「私は、、ゲヘナに実験台にされてる時は死んでも良いと思っ
てた！死にたいと思つた！でもなあ！今は生きろつて言つてくれる
仲間がいるんだよ！」

グラマンデイズ「立ち上がった!?あの状態で!？」

鶴紗「だから！あいつらが諦めない限り！私は諦めない!!そして!!
絶対に死なない!!!これが！私の覚悟だ!!!」

グラマンデイズ「うるさい!!!うるさい!!!うるさい!!!うるさい!!!
うるさい!!!うるさい!!!うるさい!!!」

鶴紗「!!」

グラマンデイズ「お前は私には勝てないんだよ!!なに言おうが私
には勝てないんだよ!!!」

鶴紗「いや、、勝てるよ！」

グラマンデイズ「何?!」

鶴紗「周りを見な！」

グラマンデイズ「?!な、なにこれ！私の周りにマジが散りばめら
れてる?!」

鶴紗「私がただ吹っ飛ばされてるだけかと思つた？」

グラマンデイズ「?!」

鶴紗「これをするためにあえてやられてたんだよ!!」

グラマンデイズ「え!？」

鶴紗「展開!!!絶対反射領域（アブソリュートカウンター・フィール
ド）」

鶴紗の撒き散らしたマジが繋がって大きなフィールドを作る

グラマンデイズ「なにこれ?!なにをしたの?!」

鶴紗「アブソリュートカウンター・フィールド、5分間相手を閉じ
込め自分への全ての攻撃を相手に100倍の威力で跳ね返す私の奥
の手!!」

グラマンデイズ「つ!!!フェルマーレ!!」

時が止まる

グラマンデイズが後ろから鶴紗を襲う

グラマンデイズ「死ねえええ!!」

鶴紗「無駄だよ、言ったらる全ての攻撃は100倍で跳ね返ると!!」

グラマンデーズ「何?!」

ぐしゃ!!!

グラマンデーズ「ぐああああ!!!」

鶴紗「時を止めたところで無駄だ!お前の攻撃は跳ね返りそして5分間という制限時間をお前が時間を止めることによって伸ばしていることに気づかないのか!!」

グラマンデーズ「そんな!!」

鶴紗「あんたの詰みだ!!」

グラマンデーズ「うああああああああ!!!」

To Be Continued

!!!!!!!!!!!!

おまけ作者のくダダ漏れーション

最近Switchとモンハン買ったけどばつかムズい

後ジョジョ3部を見る

今めっちゃ眠い

チャンチャン

episode9 レインフォースメント

アサルトリリイ9 The beginning of the
end

episode9 レインフォースメント

2 週間前桜

樟蔭

鶴紗「うわっ!!」ドサツ!

桜「ほらほら立ちなーまだ始まったばっかだよー」

鶴紗「クツソ!」

桜「鶴紗く全然攻撃当たらないなく笑笑まだ一本も取れてないじゃーん」

鶴紗「うるさいですよ!、、、次こそは!」

桜「うーん、、、行き詰まってるようだからヒントをやるよ!」

鶴紗「ヒント?」

桜「当たらないなら!当てるの辞めちやえばいいんだよ!」

鶴紗「、、、は?」

桜「教えてやるよ攻撃を当てなくても絶対に攻撃が当たる方法がある!」

グラマンデイズ「はあはあはあ、、、」

鶴紗「どうした?さっきまでの勢いが無くなってきたな」

グラマンデイズ「くっ!」

鶴紗「流石桜さんだ私じゃこんな攻撃方は思いつかなかった、、、」

グラマンデイズ「(最終手段だ5分間逃げるしかない!)」

鶴紗「今お前はこう思っただろ、逃げればいいと」

グラマンデイズ「?!」

鶴紗「無駄だよ」

グラマンデイズ「、、、?!」

グラマンデイズの目に一本の腕が映る

パシッ!

鶴紗「ヒュージの腕は案外柔らかいのか？」

グラマンデイズ「私の腕が!!」

鶴紗「私は5分あれば10回は殺すぞ」

グラマンデイズ「助けて！」

鶴紗「逃がさない、、、(ありがとう桜さんあなたのおかげで少し成長
出来ました)」

グラマンデイズ「?!」

鶴紗「桜流奥義!!夜桜一閃!!」

グラマンデイズ「う、、、あ、、、」

鶴紗「Before you die (死んじまいな)」

グラマンデイズ「ごめん、、、ね美鈴！」

首「ボトツ」

鶴紗「はあはあ、、、さて先を急ごう」

百合ヶ丘

桜「どうしたんですか？理事長代理いきなり呼び出して」

高松「樟蔭桜くん、、、君のシユツツエンゲルの釈放が決定した」

桜「?!」

高松「川添美鈴の件で今は少しでも戦力が必要だ」

桜「そうですか」

高松「仕方ないことなのだ」

桜「、、、で私を呼び出した理由は？」

高松「君にエンペラー・エンジエロの身元引き受けに行つて欲しい
のだ」

桜「犯罪リリイ、、、ですか」

高松「、、、すまない」

桜「いえ」

高松「そしてエンペラー解放後百合ヶ丘四天王を全員招集すること
にした」

桜「ついにですか」

高松「闇は大きくなっている一刻も早く取り払わなければならぬ
い」

桜「ええわかっています」

リリース刑務所エンドラ

エンペラー「、、お姉様が来る」

D E N

E

梅「みんなとはぐれちゃったゾ、ていうかここどこだ?」

???'「教えてやろうか?」

梅「?!誰だ!」

柱の物陰から誰かが出てくる

プレギーサ「はあ、、私はプレギーサ・インバータ、セスト・デゼ
スペロだ」

梅「セスト!6番目か!」

プレギーサ「まあそうだな」

梅「ん?(なんかコイツやる気ないナ)」

プレギーサ「あー今ーお前はこう思ったんじゃないか?コイツやる
気ないなーって」

梅「?!」

プレギーサ「凶星か、いつもそうなんだよなー最初はいつも舐
められるんだよ、でもーそういうやつはだいたい私に殺されてる」

梅「何が言いたい」

プレギーサ「つまりあれだよ、お前は死ぬってことだ」

梅「?!」

プレギーサ「お前早いな」

梅「(縮地で避けなかったら、右腕が飛んでたゾ!そしてコイツ!パ
ワーが尋常じゃないほど強い!)」

プレギーサ「避けんなよ、、だりいな」

梅「これじゃ本当に秒殺だ、charm解放!!タンキエム!!」
プレギーサ「charmか、、だるいな」

梅「一気にキメるゾ！縮地!!」

梅のスピードが上昇する

プレギーサ「早いな」

梅「師匠の元で鍛えた梅の縮地だゾ！スピードは通常の5倍だ！」
梅がとてつもないスピードで攻撃を繰り返す

プレギーサ「だるすぎだろコイツ」

梅「(今だー)」

プレギーサ「今だ、か、、後ろだな」

パシッ！

梅「?!」

プレギーサ「私のレアスキルはフォグノーゼ対象の人物の行動を10手先まで予知することができる」

梅「ファンタズムみたいだ」

プレギーサ「少し違う、ファンタズムは何通りもある未来から1番近い物を選び予測するが私のフォグノーゼは確実な未来を予知することができる」

梅「へえ、、じゃあ試してみるか！」

プレギーサ「右斜め上肩にかけて強打」

梅「ッ!？」

プレギーサ「手を切り落とすと見せかけて足を切り落とす」

梅「くっ!」

プレギーサ「そして上に飛んで一旦回避」

梅「ぐあッ!」

梅の腹部にプレギーサの拳が入る

プレギーサ「未来を予知するということは防御だけじゃないんだよ
」

梅「ゲホッ！くそッ！（今ので肋骨2本行ったゾ!）」

プレギーサ「今の攻撃は肋骨2本ってどこかな？」

梅「、、お前の能力未来予知だけじゃないな」

プレギーサ「、、」

梅「おかしいと思ってたんだ梅の考え出ることをさつきからわかっ

ているような感じだった！」

プレギーサ「気づいたんだ、その通りだよ私のレアスキルフォグノーゼは未来予知だけじゃなく相手の思考がわかるというスキルなんだ」

梅「10手先を読めると言っても思考まで読めるはずはないと思っただけだな」

プレギーサ「だるいなー」

梅「お前なんで笑ってるんだ？」

プレギーサの不敵な笑みがこぼれる

プレギーサ「久しぶりに楽しめそうだな」

梅「?!(コイツマジが濃くなってきたよ！いや濃いというよりでかい!!!)」

プレギーサ「charm解放、エクスブリンガー」

梅「なんだあの神々しいcharm、あのデゼスペロ特有の黒くて禍々しいマジとは正反対だ」

プレギーサ「私のエクスブリンガーは王の覇気を纏った最強のcharmなんびとたりとも触れる事は出来ぬ」

梅「(コイツ雰囲気が変わった!?)」

プレギーサ「ああすまない私はcharmを解放すると少し性格が変わる、いや戻ると行った方が正しいかな」

梅「お前は本当にデゼスペロなのか！」

プレギーサ「そうだが？」

梅「(ならなんでアイツのマジはヒュージのマジより濃いんだ)」

プレギーサ「それは私がリイだからに決まっているじゃないか」

梅「?!(後ろ！いつの間に?!)」

プレギーサ「遅い!!」

梅「ぐあッ！」バキッ

プレギーサ「ほらほら！まだ私の攻撃は終わらないぞ!!」

梅「う、、、あ、、、(ダメだ意識が、、、遠くなって、行く)」
ドクンッ！ドクンッ！

プレギーサ「その命貰い受ける！」

梅「梅は死ねないんだあいつらの笑顔を見るまでは!!!」

プレギーサ「コイツマジが濃くなっている!」

梅「梅は師匠の元で縮地だけを鍛えたんじゃない!」

プレギーサ「なに!?!」

梅「梅が手に入れたのは折れない心だ!!!」

プレギーサ「精神論を語るのは弱者のすることだ!!個の力が全てなのだよ!」

梅「そうか、ならその個の力見せる必要があるようだな」

プレギーサ「?!」

梅「梅のマギナは少し特殊なんだ」

梅の体にマギが流れる

プレギーサ「なんだコイツのマギは!」

梅「普通マギナっていうのは相手に自分のマギを流し込み暴発させる技なんだ」

プレギーサ「何?!」

梅「でも梅は自分のマギを体で循環させる事によつて全ての力を完全解放する!!!」

プレギーサ「どんどんマギが濃くなっていく、そして!やつの力が上がっていくのが肌に伝わって来る!!」

梅「グラン・マギナ」

レインフォースメン

ト

t o b e c o n t i n u e d

episode 10 堕ちた王

アサルトリリイ10 The beginning of the
episode 10 堕ちた王

1年前

プレギーサ「、、おい貴様何者だ」

美鈴「これはこれはあなたがヒュージ王プレギーサ・インバータ様であらせられるか、申し遅れました私の名前は川添美鈴、リリイでございます」

美鈴がそういった瞬間周りにいたヒュージが美鈴に敵意を向ける

プレギーサ「まあ待て貴様らコイツの話の間こうでは無いか」

美鈴「流石は王、聡明なお方だ」

プレギーサ「それで、リリイ風情がなんのようだ」

美鈴「はい、ひとつ私と手合わせをお願いしたいのです」

プレギーサ「ふん、手合わせか、なぜだ？」

美鈴「王に私の實力を見極めて欲しいのです」

プレギーサ「なるほど、、本当の目的はなんなのだ？」

美鈴「はい、、私の本当の目的はあなたを打ちのめしこの国を自分の物にすることです」

ヒュージ「キューーーーーーーー!!!」

プレギーサ「落ち着け!、、貴様私を打ちのめすと言ったな」

美鈴「はい」

プレギーサ「よかろう貴様が勝てば私は貴様の手下にくだらうそしてこの国を好きにしても良い!」

美鈴「ありがたきお言葉」

プレギーサ「だが!」

美鈴「!!」

プレギーサ「貴様が負けた時は私の配下になれ」

美鈴「、、わかりました」

プレギーサ「(リリイ風情が私に勝つだど?笑わせる、まあすぐに)」

ザシュ!!

カツンカツンカツン

その時プレギーサは悟ったコイツには勝てないとそれは幾度となく修羅場を駆け抜けて来た王故の悟りである

美鈴「これでチエツクメイトだ」

美鈴がプレギーサの首筋にc h a r mを突き出す

プレギーサ「川添美鈴、、、いや我が王よ」

美鈴「、、、」

プレギーサ「私はあなた様の配下になりましたよう美鈴様」

美鈴「そうかなら私に着いてくるがいいプレギーサ」

プレギーサ「どうした貴様ら、なぜそこで動きを止めている」

ヒュージ1「キュイ?キュウーイ」

ヒュージ2「ぐおおお!!!」

プレギーサ「なるほどぼつと出の王にはついていけないか、、、しでものが!!!貴様らはこのプレギーサ・インバータが認めれた相手を認めぬというのか!!!」

ヒュージ1「キュウーイ!!!」

プレギーサ「そうか、、、ならば死ぬがいい!!」

美鈴「待ってくれないかプレギーサ」

プレギーサ「美鈴様?」

美鈴「君は私が憎いのかい?」

ヒュージ1「キュウー!!」

美鈴「その執念深さ良い兵士になりそうだな」

プレギーサ「美鈴様?」

そういった美鈴はヒュージに触れる

ヒュージ「キュイ?、、、?!!!ギユイイイイイイイイ!!!」

プレギーサ「これは!」

ヒュージの体大きくなっていく

美鈴「さあこれでアルトラの完成だ」

プレギーサ「流石は美鈴様素晴らしい力をお持ちだ! (だがこんな力どこで?あの方は元々はリリイ、リリイにこのような力があるとは

思えない)」

アルトラ「ギユイイイイイイイ!!!」

プレギーサ「コイツ襲ってくる!美鈴様!!」

美鈴「オステイリテ」

ブシュ!

アルトラ「ギユエ!」

プレギーサ「アルトラ級が一瞬で! (本当に何者なんだ)」

現在

梅「レインフォースメント」

プレギーサ「マギが濃くなっていく!」

梅「桜流奥義、ソメイヨシノ・ライキリ」

プレギーサ「?!」

梅「今の梅は1秒に15回はお前を切るゾ」

プレギーサ「?なんだ私の後ろに移動しただけか?」

梅「言っただろ1秒に15回切るって」

プレギーサ「なに?」

ブシューー!!!

プレギーサ「グアっ!!」

梅「まだだゾ」

プレギーサ「ぐっ!」

梅「梅の早さはまだ最大じゃない!」

プレギーサ「何?!」

梅「ちなみに、、パワーも上がってると思っただ方がいいゾ!」

プレギーサ「ツ!?(コイツ!いつの間に!!)」

梅「はああああ!!!」

プレギーサ「この私がパワー負けするなんて

っ!」

プレギーサ「がはっ!!」

梅「ここで仕留めるゾ!!」

プレギーサ「(コイツ強い!パワーだけでいえば美鈴様以上か?!)」

梅「確かにお前のレアスキルはすつごく厄介だ！でも予測できないレベルの早さとパワーで上回ればいい！」

梅が空中で回転しプレギーサにタンキエムを叩きつける

プレギーサ「そんなことができるリリイがいるなんて!!」

梅「これで最後!!!」

プレギーサ「(一柳隊もしかしたらこのモノたちなら美鈴様を超えるかもしれない)」

梅「グラン・マギナ!!!!」

プレギーサ「これが、リリイなのか、舐めちゃ行けませんよ美鈴様、、だっりい」

スタツ

梅「はあはあはあ、、ちよつと疲れたゾ」
ふらッ

梅「(やばい倒れる、)」

???「おっと、大丈夫ですか？梅様」

梅「鶴紗？」

鶴紗「全く、柄にもなく無理するから、ちよつと休んでてください」
梅「うん、ありがとう」

ミリアムはその頃

ミリアム「完全に迷ったのー足が疲れてきたのじゃー」

???「あらあら可愛い子がいるわー」

ミリアム「誰じゃ?!」

ちゅッ

ミリアム「な、な、な、なんじゃ!!いきなり何しとるんじゃー!」

???「ごめんねーほら、ギューー」

ミリアム「お前デゼスペロか」

???「あらあらばれちゃった？」

ミリアム「後言うておくことがある、ワシには心に決めた人がおる、気安く触れるな」

???「あらーそんなところも、可愛いわねー」

ミリアム「おい貴様、さっさと名を名乗れ」

ルクシューリア「私はルクシューリア・ブレイス、以後お見知り置きを」

ミリアム「グアっ!!」

ルクシューリアがミリアムの腹に蹴りを入れる

ミリアム「ゲホツ！ゲホツ！（油断した！でもパワーはあんまり強くないみたいじゃの）」

ルクシューリア「ふふ あなた私のキスを受けたわよね」

ミリアム「ん？あーあの鬱陶しいキスか！よくもやつてくれたの！」

ルクシューリア「じゃあおっけー！あなたはもう抜け出すことはできないわよ」

ミリアム「、、、」

ルクシューリア「あらーもう逝っちゃったかしら、フフ、私のレアスキル、メンタルブレイクは相手の精神を汚染し壊すスキル、まあ相手の肉体に干渉しなければ行けないけど、あっさりキスできたからラッキーね」

ミリアム「、、、」

ルクシューリア「それから抜け出すことが出来たか相手は居ないわ」

ミリアム「ワシは何をしとるんじやあいつを倒さないと先に進めんぞー！」

梨璃「ミリアムさん」

ミリアム「梨璃?!なんでここにいるんじや！」

梨璃「あなたって本当に役立たずですね」

ミリアム「えっ、、、」

夢結「そうねなぜ百由があなたみたいなきずをシルトにしたのかは分からないわね」

ミリアム「夢結様?、、、」

百由「グロピウスさん？私に付きまとうのはもう、、、やめてちょうだい」

ミリアム「ワシの存在は必要ないのか、」

必要ない

必要ない

必要ない

必要ない

ミリアム「ワシはなんなのじゃ、」

ルクシューリア「さあそのまま精神を壊しなさい！」

ミリアム「もう、、ワシは、、」

ルクシューリア「それでは永遠の絶望を楽しんでね♪？」

回想百由「絶対に無事に帰ってきてね私の可愛いシルト」

回想百由「大好きよグロっぴ」

ルクシューリア「さあて美鈴様のところへ戻りましょうか」

「蹴散らせ、ニョルニール」

ぶろううん!!!

突風が巻き起こる

ルクシューリア「何?!」

ミリアム「おい、貴様、、何をしてくれとる」

ルクシューリア「そんな!?あれを自力で解放したと言うの!ありえ

ない!!」

ミリアム「ワシの仲間が、ましてや、お姉様が!!!そんなことを言う

訳がないじゃろう!!!」

ルクシューリア!!「なんで精神が壊れていないの!?!」

ミリアム「確かにお前の能力は恐ろしい、だが貴様はひとつ見落と

した!」

ルクシューリア「何?!」

ミリアム「ワシの仲間はそのことを言わんと言うことを

じゃあああああ!!!」

ルクシューリア「グアっ!!!」

ルクシューリアの肩がえぐれる

ミリアム「ワシの仲間を侮辱したということは！死ぬ覚悟ができて
いるんじゃない!!」

ルクシユリア「あなた可愛くないわね」

ミリアム「うるさいぞ外道!!とどめじゃ！グラン・マギナ・ザ・ブ
レイク!!!」

ルクシユリア「あ、あ、あ、」

ベチャツ

ミリアム「Das ist das Ende（これで終わり
じゃ）」

ミリアム「勝ったぞ百由様」

梨璃「夢結様、ここどこでしょうね？」

夢結「分からないわね、とりあえずここを抜けましょう」

梨璃「はい！」

夢結「それにしても妙ねさつきから同じところをぐるぐる回ってい
るような？」

梨璃「そうですねなんだか迷宮に閉じ込められているような、」

???「その通り」

梨璃・夢結「?!」

???「流石は一柳梨璃」

夢結「あなたデゼスペロね！」

ソベルバ「ええ、そうよ私がファーストデゼスペロ、ソベルバ・リ
タムよ」

梨璃「ファースト!」

夢結「まさか一番目!」

ソベルバ「そうよ私はファーストデゼスペロ、デゼスペロの中で一
番強い」

夢結「(強い！今までのヒューズとは訳が違う!)」

梨璃「お姉様！」

夢結「梨璃？」

梨璃「はあ、はあ、勝ちましょう、」

夢結「(この子震えて!)」

梨璃「はあ、はあ、はあ、」

夢結「梨璃!」

梨璃「はい!」

ギューー

梨璃「お、お姉様?!」

夢結が梨璃を抱きしめる

夢結「落ち着いて、確かに相手は強い、でも私とあなたなら大丈夫、
これまでだってどんな困難も乗り越えてきたじゃない!しやんとし
なさいリーダー」

梨璃「暖かい、とても落ち着く、」

夢結「落ち着いたかしら」

梨璃「はい!!」

ソベルバ「終わったかしら?」

夢結「ええ、待たせたわね!」

梨璃「行きましょう!お姉様!」

夢結「ええ!!」

梨璃「とりあえず!」

夢結「今は!」

梨璃・夢結「あなたをぶっ倒す!!!」

ソベルバ「来なさい!!」

t o b e c o n t i n u e d

episode 11 暴走

アサルトリリィ11 The beginning of the
end

episode 11 暴走

夢結「行くわよ！梨璃！」

梨璃「はいお姉様！」

夢結「（今の私と梨璃のテンションで出せるのはオーバードライブ
システムの5〜7倍の威力！とりあえず最初は今出せる最大倍率を
叩き込む！）梨璃！」

梨璃「はい！今出せる最大倍率ですね！」

夢結「流石ね！あれで行くわよ！」

梨璃「はい！」

梨璃と夢結が刃をクロスさせる

夢結・梨璃「ザ・デュアルフアング!!!」

ソベルバ「…、くっ！」

夢結「一気に決めるわよ！」

梨璃「はい！行きます！」

夢結「グラン!!」

梨璃「マギナ!!」

ソベルバ「なに？高質力のマギ?!」

梨璃「決まった！」

夢結「いえ！まだよ！」

ソベルバ「これはなんなの？挨拶？」

夢結「無傷!?!」

梨璃「ありえない！グランマギナですよ!?!」

ソベルバ「グランマギナか…、こうか？」

ぶろううん

梨璃・夢結「?!」

梨璃「撃った？グランマギナを？」

夢結「私たちが習得に1ヶ月かかったグランマギナを?!」

梨璃「この一瞬見ただけで覚えた?！」

ソベルバ「そしてこれが」

ソベルバが落ちている石を拾う

ソベルバ「さっきの一個前」

ばん!

夢結「マギナ?!」

梨璃「くっ!」

梨璃が攻撃を仕掛ける

夢結「梨璃! 待ちなさい! 梨璃!!」

梨璃「はああああ!!」

ソベルバ「フン、、やっぱり弱い」

パシッ!

梨璃「えっ! うわっ!」

夢結「梨璃!!」

ドーン

梨璃が壁に叩き付けられる

夢結「貴様!!」

梨璃「いててて」

夢結「梨璃! 大丈夫?!」

梨璃「はい!」

夢結「あなたは少し休んでなさい」

梨璃「お姉様、、」

夢結「大丈夫よ心配しないで、私を信じて」

梨璃「はい!」

ソベルバ「あなたひとりで私の相手をするの?」

夢結「ええ1度ひとりでもどこまでやれるか試してみたかったの」

ソベルバ「ふーん」

夢結「はあああああ!!!!」

ソベルバ「?!」

夢結「ルナティックトランサー!!!」

夢結の髪が白く染まる

ソベルバ「暴走しないの?!」
夢結「喋っている場合かしら?」
ソベルバ「?!(早い!)」
夢結「私の特訓の成果を見せてあげる!!」
ソベルバ「コイツなかなか厄介ね」
ソベルバが夢結の斬撃を受け止める
ソベルバ「当然だけどパワーは上がっている見たいね」
夢結「パワーだけかしら?」
ソベルバ「?!消えた!」
夢結「今のスピードは梅以上よ」
ソベルバ「くっ!」
夢結「はああああ!!!」
ソベルバ「c h a r m解放!!」
夢結「梨璃!!」
ソベルバ「何?!」
梨璃「マギナ!!」
ソベルバ「グアっ!!!」
ソベルバの右腕が破壊される
夢結「トドメ!!」
ソベルバ「うっ!」
夢結「(グラン・マギナナルナティックトランサー出力最大倍率!!!)」
夢結「グラン・マギナフルバースト!!!」
ソベルバ「なんだこのパワーは!!」
夢結「落ちろー!!!」
ソベルバ「グアっああああ!!!」
夢結「やったわ!」
梨璃「凄いですお姉様!!」
夢結がルナティックトランサーを解除する
夢結「さあ梨璃先を急ぎま、ま、」ポタポタ

れる

ソベルバ「なんだこれは、こんなの見たことない」

梨璃「アッアッアッアッ」

ソベルバ「お前はここで殺す」

ソベルバが梨璃の腕を切り落とした

梨璃「、、、、」

シユルシユル

ソベルバ「腕が一瞬で再生した？なら！これならどうだ！（マギを縮小し一点に集中させる、そして放つ！）ランツェー」

槍状のマギが梨璃に向かって猛スピードで接近する

梨璃「ギャウ!!!」

梨璃が片手を振りかざしマギが破壊される

ソベルバ「ちっ！一旦引くしか！」

ブウン！

一瞬で梨璃がソベルバの後ろに移動する

梨璃「ハアアアアア」

ソベルバ「?!（感知できない?!）」

梨璃「フーーーーー」

ソベルバ「ぐあッ！」

体制を崩したソベルバの首を梨璃が掴む

ソベルバ「はあ、、はあゲホッ！ゲホッ！（今のはマギナ、だが！威力が高すぎる！）」

梨璃「、、、、」

夢結「ん、、はっ！私はどのくらい寝て！うッ、、、梨璃は！梨璃はどこ?!、、?!あれは何?」

夢結が梨璃を見て驚愕する

ソベルバ「これが今の一柳梨璃よ！」

夢結「?!梨璃!!その姿は何?!」

ソベルバ「無駄よ！コイツは怒りによって我を忘れてる！」

梨璃「ブオオオオオオオオオ!!!」

梨璃がソベルバを思いつきり投げる

ソベルバ「ぐあッ！」

梨璃が手のひらを広げる

夢結「梨璃？何をする気!？」

梨璃「ハアアアアア」ブウウウウン

梨璃の手のひらからありえない威力のマジが放出される

夢結「あれはグラン・マギナ?!でも威力が高すぎる！」

ソベルバ「ちっ!仕方ない、charm解放

、デューカイエル、」

夢結「charm!？」

ソベルバ「能力は全てのマジの！」

バリイン

梨璃「、、、」

ソベルバ「なん、、だと?!」

夢結「charmを砕いた?!素手で?まるでお姉様のような力、、、
ぐしゃ!

ソベルバ「私の首をもぎ取って何をする気?私は不死身だよ何をし
ても死なないんだ、どんな威力で粉々ににされてもね」

梨璃「ぐちゃぐちゃ」

ソベルバ「ねえ何してるの?!ねえ!!!」

梨璃はソベルバの体を食べていた

夢結「梨、、璃?」

ソベルバ「なるほどね倒さなけりや食べればいいってことかその対
処は出来ないわね」

梨璃「ぐちゃぐちゃ」

すかさず夢結が止めに入る!

夢結「梨璃!!何をしているの!やめなさい!梨璃!!」

梨璃「ハアアハウツ!!アッアッアッアッ」

夢結「梨璃!!」

ソベルバ「その仮面をこわしなさい」

夢結「?!なんですって?!」

ソベルバ「私のレアスキルは、、胴体ありきで発揮されるレアスキ

ルよもう死ぬ」

夢結「そんなこと信じられるわけないじゃない！」

ソベルバ「その仮面がヒュージとしてのエネルギーを送り込んでるだからさっさと壊しなさい」

夢結がそれを聞いた後には梨璃はソベルバの胴体を食べ終わって
いた

夢結「やるしかないのね！」

夢結が梨璃を抱きしめる

夢結「梨璃、私がルナティックトランサーで暴走した時助けてくれたのはあなただった、だから、だから今度は私があなたを助けるのよだからお願い梨璃元に戻って」

ソベルバ「、、、」

梨璃の仮面が崩れ落ちる

梨璃「う、、、あ、、、お姉様?」

夢結「おはよう梨璃」

ソベルバ「これがシュツツエンゲルの愛、、、」

梨璃「あなたなんでそんな姿に」

ソベルバ「覚えていないのね」

梨璃「まさか私がやったの、、、?」

ソベルバ「、、、ええ」

梨璃「これを、、、私が」

夢結「梨璃、、、」

ソベルバ「その力はいずれあなた達を傷つけることになる」

梨璃「私達を、、、」

ソベルバ「まさかこんなにあっさりやられるなんて思ってたわじゃあね」

そう言つてソベルバは灰になった

t o b e c o n t i n u e d

おまけ

ちなみにソベルバの c h a r m デイリーカイエル能力は全てのマ

も ギの断絶です解放されてたらしめかしたらソベルバが勝っていたか

episode 12 帰還

アサルトリリイ12 The beginning of the
episode

episode 12 帰還

梨璃「おえっ！ゲホッ！ゲホッ！」

夢結「梨璃！どうしたの?!大丈夫!？」

梨璃「はあはあ、、、お姉様、教えてください」

夢結「!!」

梨璃「私は何をしたんですか?」

夢結「、、、わかったわ」

梨璃「私が食べた、、、」

夢結「ええ、、、あの謎の仮面を被った瞬間あなたは豹変した、、、
うまるでヒュージのように」

梨璃「、、、お姉様！」

夢結「?!何?梨璃」

梨璃「私がまた暴走したらまた止めくれますか?」

夢結「梨璃、、、ええ止める!私が守る！」

梨璃「お姉様、、、ありがとうございます」

ソベルバ「本当にそれでいいの?」

梨璃「?!」

梨璃の心の中で悪魔が囁く

ソベルバ「本当に参っちゃうわよねーまさか食べられるとは思って
なかったわ」

梨璃「お前は!ソベルバ！」

ソベルバ「倒したと思ってた?残念ながら一応魂だけは残しておい
たのよ」

梨璃「そんなことが」

ソベルバ「でも安心しなさい私は魂だけは残ってるけどあなたの体
を乗っ取ったりしようとして色々試したけど何も出来なかったわ」

夢結「梨璃?どうしたの?」

梨璃「まだソベルバは生きています私の中で！魂だけ残して生きてます！」

夢結「なんですって!?!」

梨璃「でも安心してください、私の体には何も出来ないようです」
夢結「あいつならもうとつくに体に乗っ取ったりしているはず、何も出来ないのは本当のようね」

ソベルバ「よろしくねー柳梨璃♪」

梨璃「あなたを食べたのは私なの?」

ソベルバ「ええそうよ!ぐちゃぐちゃにねおかげで私のレアスキルもあなたのものになったわ!」

梨璃「レアスキル?、、もしかして不死身の?!」

ソベルバ「そう、私のレアスキル、イモータルデッドをね、」

夢結「結果的には良かったのかしら、、でもあの力は一体何なの?」

ソベルバ「まああなたたちの力になる気はないけどここから美鈴様とあなた達の戦いを傍観するのは少し楽しそうね」

梨璃「お姉様は大丈夫ですか?」

夢結「ええ、、(そういえば傷が治ってる?)」

梨璃「良かった!」ぎゅ!

夢結「あつ、梨璃!」

お互い顔を見合わせる

梨璃「お姉様、、」

夢結「梨璃、、」

ソベルバ「あのーもしかしておふたりって発情期?」

梨璃・夢結「は?!はつ!発情期?!」

梨璃「違うよ!これはそういうムードだったから!」

夢結「梨璃、、私はいつでも大丈夫よ」

梨璃「顔を赤らめるのはやめてください!お姉様!」

ソベルバ「やっぱ発情期じゃん」

二水「梨璃さーん!夢結さまーん!」

梨璃「二水ちゃん!」

楓「梨璃さーん」

梨璃「楓さん！…、うわっ！」

楓「大丈夫ですか？梨璃さん怪我はありませんか?!あれば私が、ソベルバ「ここは発情期しかないの?」

楓「?!誰ですか！（このマジはデゼスペロのマジ!）」

楓がcharmを展開する

二水「皆さん気をつけてください!かなり強いです!」

梨璃「違うのみんな!」

一同が梨璃の方に顔を向ける

夢結「事情は私が説明するわ」

楓「そんなことが…、ソベルバとか言いましたね!今すぐ梨璃さんの体から出ていきなさい!」

ソベルバ「はあ?話聞いてたの私はこの体から離れられないのよ?これだから脳ミソに血の回らないリリイは嫌なのよねえ」

楓「ツ!なんですって!もう一回言ってみなさい!この外道!」

ソベルバ「外道?それはどっちよコイツ人くってんのよ?」

楓「ぶっ殺してあげますわ!」

梅「楓!今ムカついてもなんにもならないゾ!」

神琳「夢結様」

夢結「?どうしたの神琳さん」

神琳「その梨璃さんの暴走知っていますわ」

ソベルバ「?!」

夢結「なんですって!?!」

二水「私も聞いた事があります」

神琳「10年前のリリイに梨璃さんと同じような前例があったんです」

二水「二人のリリイに謎の仮面が出現しありえない力が発現しリリイの大量虐殺を行ったとか」

神琳「そのリリイの名前はエンペラー・エンジェロ」

ソベルバ「エンペラー・エンジェロ?」

雨嘉「このまま行って、美鈴様に勝てるのかな?」

一同「?!」

ミリアム「確かにみんなボロボロじやし梨璃がこの状態なら一度引き返した方が、、」

鶴紗「そうだな、1番の安全策はそれだ」

梨璃「ダメです!」

鶴紗「梨璃!!」

夢結「私はここでお姉様を打つ」

梅「夢結!」

梨璃「お願いします! 皆さん! ここまで来たんです! 美鈴様を倒すためにここまで来たんです!、、、それなのに!」

梅「ダメなものだめだ!!」

梨璃「それに!今の私は不死身です!何回だって死んでもいい身体なんです!だから美鈴様もきつと!」

鶴紗「梨璃!!」

梨璃「ツ!鶴紗さん?!」

鶴紗「お前!今なんつった!」

鶴紗が梨璃の胸ぐらを掴む

梨璃「私が死に続けたら美鈴様に勝てるって言ったんです!」

鶴紗「ツ!ふざけんな!私に一人で抱え込むなって言ったのは誰だ!死んじゃダメって言ったのは誰だ!何回も死ねる身体だ?お前が何回も死んでいい分けないだろ!私達のリーダーが仲間がそんな簡単に死んでいい訳ないだろうが!」

夢結「鶴紗さん、、」

鶴紗「だから、、そんなこと言うな、、、死ぬなんて言わないで」

梨璃「ごめん、、なさい」

梅「夢結、撤退しよう」

夢結「ええ、、」

ソベルバ「仲間ね、、」

ソベルバが胸に手を当てる

ミリアム「百由様から貰ったケイブ発生装置を使うぞ
シュワーン

隊撤退

百由「?!みんな!」

高松「帰ってきたか!」

桜「お前ら!」ギユ!

夢結「すみませんでした!」

桜「どうしたんだ?」

梨璃「エフタ・デゼスペロは倒しました!」

夢結「でも、川添美鈴には干渉せずに帰還しました!」

桜「何かあったんだな、でもまずは!よくやったお前ら!」

桜がみんなを抱きしめる

高松「理由を聞こう!」

梨璃・夢結「はい!」

桜「なるほどね、そういう事か、ならお前達の判断は正しかった!そしてタイミングがいい事に梨璃の問題はすぐに解決されるかな!」

梨璃「え?」

桜「ほら!エンジエロ!来い!」

エンジエロ「は、はい!」

鶴紗「エンジエロ?!」

二水「まさか!」

神琳「エンペラー・エンジエロ!」

エンジエロ「ひゃい!」

楓「二水さん!」

二水「はい!相手がリリイ大量虐殺の犯人なら全力で行きます!叩け!アセフター!」

二水と楓がcharmを展開する

桜「待て!」

二水・楓「?!」

エンペラー「ウエーーンお姉様ー怖いですー」

神琳「お姉様?!」

雨嘉「まさか?!」

鶴紗「エンペラー・エンジェロって」

桜「私のシルトだ」

一柳隊「えええー！ー！！！！」

夢結「師匠のシルトがエンペラー?!」

桜「あれ？言つてなかつた？」

楓「初耳ですわ！」

桜「あははーごめんごめん！」

エンペラー「ぐすん、ひつく、ひつく」

桜「あーよしよし」

鶴紗「これがエンペラー・エンジェロ？」

梨璃「桜さん！」

桜「どうしたんだ梨璃？」

梨璃「その人がエンペラー・エンジェロならリリイ大量虐殺の犯人なんじゃないんですか？」

桜「そうだよ」

梨璃「?!」

桜「そしてお前と同じ境遇にいたりリイだ」

梨璃「同じ、境遇」

エンペラー「梨璃ちゃんはもしかしてヒュージ化をってしまったんじゃない、」

梨璃「ヒュージ化？」

ミリアム「ヒュージ化ってなんじゃ?!百由様！」

百由「分からない！そんなの聞いたことないわ」

エンペラー「今見せるね」

梨璃「え？」

エンペラーが手を顔にかざす

エンペラー「行くよ」

夢結「？」

ソベルバ「?!」

エンペラーの手に黒いマギが集まる

エンペラーの顔に仮面が現れる

梅「?!このマギなんだ!!押し潰されるような感覚だゾ!」
夢結「このマギの濃さは禍々しさはあの時の梨璃と同じ!」
桜「改めて紹介するよ、私のシルトにして百合ヶ丘四天王の一人、エンペラー・エンジエロ」

EDEN

美鈴「デゼスペロ達がやられたようだね、さあ君たちの出番だよ」
??? 「はい」

t o b e c o n t i n u e d

episode 13 ヒュージ化

アサルトリリイ13 The beginning of the
end

episode 13 ヒュージ化

エンペラー「、、、、」

神琳「すごいマジです」

夢結「ええレベルが違う」

梨璃「私があるに、、、、」

桜「梨璃！今日からお前はエンペラーにこの力のコントロールの仕方
方を教えて貰え！」

梨璃「はい！」

桜「夢結！お前も来い！」

夢結「、、、、はい！」

桜「ほかは私と一緒に修行だ！前より厳しく行くぞ！」

一同「はあゝ」

エンペラー「み、みんなどうしたの？」

二水「本当に皆さんどうしたんですか？」

楓「二水さんタフになりましたわね」

エンペラー「梨璃ちゃん、、、、」

梨璃「なんですか？」

エンペラー「覚悟しておいてね」

梨璃「っ！、、、、はい！」

夢結「梨璃、、、、」

梨璃「お姉様！大丈夫です！こんな特訓前の修行に比べたらなんと
もありません」

エンペラー「わあ！梨璃ちゃんって頼もしいのね」

桜「夢結」

夢結「はい？」

桜「頑張ってくれよ」

夢結「？」

桜「よーしお前ら行くぞ」

一同「はい」

エンペラー「じゃあ梨璃ちゃん夢結ちゃん行こうか」

梨璃・夢結「はい！」

エンペラー「はい！じゃあヒュージ化の訓練を初めます！」

梨璃「は、はい！（大丈夫かな？）」

ソベルバ「なんか頼りないわね（でもあの人のマギの強さは本物下手したら美鈴様より、）」

エンペラー「じゃあ梨璃ちゃんヒュージ化の基本を教えるわね」

梨璃「はい！」

エンペラー「ヒュージ化っていうのは自分の中のヒュージのマギ、これをノアーアズール
というの」

梨璃「ノアーアズール、」

エンペラー「私はこのノアーアズールを自分のマギと融合させることによって、こうやって融合させてマギを形にするの」

梨璃「なるほど」

夢結「でもなぜ梨璃が暴走を？」

エンペラー「それはノアーアズールがリリイのマギと融合できずに飲み込まれたことによって暴走したの」

夢結「そういうことなんですネ」

梨璃「もしかしてエンペラーさんがリリイ大量虐殺の犯人なのっ
て」

エンペラー「そう、私も暴走してしまったの、そして大量虐殺で
はなくて正確には大量捕食」

梨璃「うっ！オエッ！ゲホッ！ゲホッ！はあはあ、」

夢結「梨璃!!大丈夫?!」

エンペラー「ごめんね思い出させちゃって、でもこれを受け止めな
いと次には進めない、少しキツイけど、あなたはこの力を持ってし

梨璃「くっ！」

黒梨璃「ほらほら！charmで私を殺せ!!」

梨璃「うわっ！」

黒梨璃「ちっ！こんなじやなんも守れねえよなあ！諦めちまえ、生きることでも戦うこともなあ！」

梨璃「これが私の弱さ、、、私ってこんなに臆病だったんだ」

黒梨璃「ッ！ほざけ!!」

黒梨璃が剣を振りかざす

梨璃「（これが私の弱さなら私はそれを受け入れる）」

ぐしゃ！ギユ！

黒梨璃「何?!」

胴体に剣を刺された梨璃が黒梨璃を抱きしめる

梨璃「私気づいたんだ、自分の弱さを受け入れることそれが強さだって、だから私はあなたを受け入れるそれがみんなを守ることに繋がるんだ」

黒梨璃「、、正解だよ、たくっ気づくのがおせえよ」

梨璃「ごめんね！」

梨璃のマジと黒梨璃のノアールが融合する

黒梨璃「さあ仲間でもなんでも守ってこい！」

黒梨璃が梨璃の背中を押す

梨璃「うん!!」

エンペラー「あっ！梨璃ちゃん！」

梨璃「、、」

夢結「姿が仮面だけに！」

梨璃「お姉様！」

夢結「!!」

梨璃が仮面を外す

梨璃「お姉様!!!」

夢結「梨璃!!」

エンペラー「成功したようね！」

梨璃「エンペラーさん！」

エンペラー「うん！第1段階クリア！」

夢結「第1段階？」

エンペラー「そう！第1段階、まだこの力を制御するにはあと1ヶ月はかかるわよ」

梨璃「そ、そんなに?!」

エンペラー「じゃあ梨璃ちゃん早速ヒュージ化してみようか」

梨璃「は、はい！はああアアアアアア!!!」

梨璃の顔に仮面が出現した

梨璃「これがヒュージ化！」

エンペラー「9、10」

バリン!!

エンペラー「やっぱり10秒が限界ね」

梨璃「なんでこんなにすぐに！」

エンペラー「ヒュージ化になったばかりだもの持続時間はこんなものよ、ヒュージ化の持続時間は最大で30分が限界なの、私でもこれ以上は持つたことがないわ」

梨璃「なるほど！」

エンペラー「だから1ヶ月は私との訓練よ」

梨璃「はい！」

夢結「じゃあ梨璃私は桜さんの所に戻るわね」

梨璃「、、はい」

夢結「そんな悲しい顔をしないで、でも私も強くならなければなら
ないの」

梨璃「わかってます」

夢結「また私にあなたの強くなった姿を見せてね」

梨璃「はい!!」

夢結「よし！それではエンペラーさん梨璃をお願いします！」

エンペラー「ええ、わかったわ」

夢結「それじゃあ梨璃」

梨璃「1ヶ月後に」

夢結・梨璃「また会いましょう！」

夜

エンペラー「梨璃ちゃんそれじゃあおやすみ」

梨璃「はい」

ばたん、

梨璃「ふうく疲れたー」

ソベルバ「ねえー柳梨璃」

梨璃「どうしたの？」

ソベルバ「あなたにとつてー柳隊つて何？」

梨璃「どうしたの？いきなり」

ソベルバ「いいから答えなさい」

梨璃「うくんそうだなー家族、かな？」

ソベルバ「家族、」

梨璃「みんなといると暖かくて安心するんだ」

ソベルバ「安心する、」

回想

ソベルバ「ねえ！アヴァリーザ！特訓付き合つてよ！」

アヴァリーザ「あ？んなもん自分やれよ、鬱陶しい」

ソベルバ「あつ、」

インヴェージャ「あなたつてー一番強いのになんでそんなことしてるんですか？意味分らないですわー」

グラマンデイズ「、、、変なの」

ソベルバ「そつか私は、」

梨璃「どうしたの？」

ソベルバ「なんにも！、おやすみ！」

梨璃「う、うん」

ブーン！ブーン！

百由「ふあく、なんなの？、、、これは?!」

夢結「百由！どうしたの！」

百由「アルトラ級10体接近中！」

二水「10体ですか?!でも今の私たちなら」

百由「ちよつと待って!なにか様子がおかしいわ!」

楓「どうしたんですか?」

百由「こいつらマジの濃さがデゼスペロを超えている!」

鶴紗「何?!桜さんは?!」

百由「今晚御飯の買い物よ!」

鶴紗「まじかよ!」

神琳「それでも戦うしかありません!」

雨嘉「私たちでできることをやろう!」

鶴紗「でも梨璃がないぞ!誰が指揮をとるんだ!」

夢結「二水さん!」

二水「はい!」

夢結「あなたに指揮を任せるわ!」

二水「わかりました!、、、一柳隊!出撃!!」

一柳隊「了解!!」

ヒュージ「キュイイイイイイ!!」

楓「くっ!強い!」

鶴紗「なんだこいつら!全く弱らない!」

雨嘉「天の計り目!!グラン・マギナ!!」

神琳「弱点に入った!」

ヒュージ「?」

雨嘉「効いてない!」

神琳「ちっ!クリエイト!ジ・グランデ!」

神琳が尋常ならざるスピードで攻撃を仕掛ける

雨嘉「神琳!」

神琳「グランデイスザツクライナー!!!」

ヒュージ「ギユイイイイイ!!!」

神琳「はああああ!!!」

ヒュージ「ギユガガガガギ」

ドーーーーーン

神琳「はあ、はあ、1匹目！次！」

雨嘉「神琳!!!危ない!!!」

神琳「?!」

油断していた神琳の背後にもう1匹のヒュージが現れた

楓「神琳さん！」

神琳「やられる！」

神琳が恐怖で目を瞑る

「はあああああ!!!」

ガキーンン!!!

一同「?!」

神琳が目を開けると見覚えのある背中が瞳に写った

神琳「梨璃、、、さん！」

夢結「梨璃!!!」

梨璃「遅れました皆さん！」

To Be Continued

なんて！」

ミリアム「流石は百由様じゃ！」

楓「任せなさい!!最高のパスですわ!行きますわよ!って!え?!」
ヒュージ「ぐおおおおお!!」

ミリアム「楓!!ヒュージに捕まりおった!」

梨璃「charmが!」

楓「大丈夫ですわ!!」

楓がcharmを捨てヒュージからぬけだした

楓「私たちはこういう時のためにcharmなしの訓練をしていた
のではなくて!拳にマギをこめて!!!全力で殴る!!!行きます!夢結様
!!」

楓がマギスファイアを拳で殴る!

神琳「そうか!charmがなくても」

雨嘉「腕にマギを流し込めば!」

夢結「ええ!!受け取ったわ楓さん!!ルナティックトランサー!!!オー
バーストライクシステム最大出力!ルナティックブラスター!!決め
なさい!梨璃!!!」

梨璃「はい!お姉様!!はアッアッアッ!!!」

ヒュージ化!!!オーバーストライクシステム最大出力!!!これで最後
です!」

一柳隊「行けー!!!梨璃!!!」

梨璃「ノインヴェルト・フルバースト!!!」

ヒュージ「ギャギゴガコダバ!!」

ドローーン

梨璃「これで終わりです!」

神琳「やった!」

夢結「やったわね梨璃!」

二水「ヒュージ化凄いです!」

雨嘉「うん!ものすごい力だった!」

楓「梨璃さんかっこいいですわー!ぐへへ!!このままどさくさに紛
れてキスを!」

ミリアム「ダダ漏れておるぞ〜」

ヒュージ「ぐぎやあやあや!!!」

梨璃「?!」

ミリアム「何?!まだ生きとるじゃと?!」

二水「甘かった!?!」

鶴紗「まさか!ギリギリで避けやがったのか?!」

夢結「梨璃!!!」

梨璃「くっ! (もう一度私の全力を叩き込めば!)」バリイーン

梨璃「なっ!?!」

神琳「ヒュージ化が!」

梅「時間切れか?!」

楓「まずい!」

エンペラー「くっ!天!」

「まだまだだな!梨璃!!!」

エンペラー「?!」

雨嘉「この声は!?!」

梨璃「桜さん?!」

桜「エンペラー!!」

エンペラー「はい!!」

桜「こんな状態の梨璃を行かせちゃダメだろ!」

エンペラー「だって〜梨璃ちゃんが言うこと聞いてくれなかったから〜ぐすん」

桜「こいつらどうせあの銀髪バカ野郎(美鈴)の回しもんだろ?無駄にでけえな」

夢結「ぎ、銀髪バカ野郎、、、」

桜「はあ、、、私の目があるうちにはこいつらには指一本触れさせない!」

鶴紗「雰囲気が変わった?」

桜「咲け!キルシュ・ブリューテ!」

梨璃「あれが桜さんのcharm!」

桜「お前らは運が悪かった、、、この私とめぐりあってしまったから

な」

ヒュージ「ぎいいいいえええええええ!!!」

雨嘉「危ない!」

桜「グラン・マギナ桜牙!」

ヒュージが次々に消えて行く

夢結「あれは!」

梅「二水が使ってた技だゾ!」

二水「いいえ!威力が違いすぎてもはや別物です!」

楓「なんなんですか?!あの威力!」

桜「これで終いだ」

ヒュージ「キュイいいイアアアアアア!!」

ドーーーーーン

鶴紗「全員一撃かよ」

ミリアム「どうやったらあんな力が出るんじや」

エンペラー「本当に昔から変わらないですねお姉様」

桜「大丈夫か?お前ら!」

梨璃「はい!」

夢結「健在ですね師匠!」

桜「あはは!これでもなままったよ!」

????「安心したぜ!!桜!!」

????「ええ!ほんとに!やっぱり最強ですわね!」

エンペラー「あれは!」

桜「やつと来たか!お前ら!」

二水「あの方達は?」

桜「紹介するよ!百合ヶ丘四天王の残りの二人!サリアフル・グ

レーダとアリスレー・v・フィード!」

鶴紗「四天王が揃った、、!」

二水「ものすごいマギを感じます!」

グレーダ「へーお前らが一柳隊ねーなかなか良い面構えじゃん」

フィー「そうね!とてもいい子達ばかり!そして!」

エンペラー「うわ!きや!」

ファイ「久しぶりねー！エンちゃん!!!」

エンペラー「ちよつ！ちよつと待つてください！ファイさん！」

ファイ「待たないわよ！ほらほらー」

エンペラー「きゃー！どこ触ってるんですか?!」

ファイ「さあて今日はベロ入れちやおうかしらー!!、?!あれは?!」

四天王アリスレー・v・ファイの眼に映ったのは一人の少女だったバシユン！

ファイ「可愛いセンサーに引つかかったわ！」

楓「へっ?!なんですの?!ちよつとお待ちになって!というか早い!」

ファイ「すりすりすりすりすりすり」

楓「いやー!!!なんですの!この人!や、やめてくださいまし!私には私には!梨璃さんという心に決めたお方が!!」

エンペラー「ひ、ひどい!あんなに弄んでおいて!ほかの女に行くなんて!」

雨嘉「そ、その発言は誤解をうみますよ!」

ファイ「そうなのねくなら!、、チュ!」

楓「へっ!?!」

そう楓は慣れていなかったのだ自分が可愛がられることに

二水「ぶほっ!」

梅「あ!二水!」

神琳「尊すぎて倒れましたね」

夢結「師匠?この人なんなんですか?」

桜「あーこいつ?これはただの馬鹿だ、ほらこっちおいでファイ」

ファイ「あー!!さ・く・らちやーん!」

桜「ファイー!!!」

ファイ「あははあはは」

桜「私の弟子に何やっとなじやー!!!」

ファイ「ぐっへっ!!!」バタン!

グレーダ「このアホ!16歳に何やってんだ!」

桜「お前も大変だな」

桜がグレーダの肩をぽんと叩く

グレーダ「ほんとだよこのアホ」

楓「さ、桜さん！この人本当に四天王なんですか?!まっ—たくそんな感じはしませんけど!」

フィー「そ、そんな!でもこの子に言われるなら本望かもぐへへ!!」
楓「ひっ!」

桜「昔はこうじゃなかったんだけどな、でも強さは本物だよ!」
グレーダ「ごめんなこいつが迷惑かけて、でも良い奴なんだ許してやってくれ」

楓「あら、まあ梨璃さん!には敵いませんがこのお方の可憐さに免じて許してあげますわ」

エンペラー「変わらないねグレーダ」

グレーダ「うん!エンジエロ!」

エンペラー「ふふふ」

グレーダ「あははっ」

その瞬間二人の拳がぶつかりあった!

グアー— — — — —!!!!

グレーダ「なまってねえようだなあ!!エンジエロ!」

エンペラー「ええ!あなたとまた戦えることとどれだけ楽しみにしてたか!!」

グレーダ「私もだ!!」

エンペラー・グレーダ「本気で行く!」

グレーダ「ドラゴンマギ!!」

エンペラー「ヒュージ化!!」

梨璃「凄い!!」

二水「これが四天王同士の戦い!」

ミリアム「言うとする場合か!このままじゃあたり一面ぶっ飛ぶぞ!」

桜「おいお前ら」

ピタッ!

桜「桜隊復活だな！」

グレーダ・ファイ「ただいま！リーダー」

桜「おかえり！」

t o b e c o n t i n u e d

三代レギオン合同訓練編

episode 15 3つの希望

アサルトリリイ15 The beginning of the
end

episode 15 3つの希望

アルトラ級ヒュージの襲撃から5日私はヒュージ化の制限時間を伸ばすために引き続き修行をしていたのですが、

エンペラー「はい！いち！にーい！」

梨璃「ちよつ！ちよつと待ってください！限界です！」

エンペラー「だめだよ！これでも加減してる方なんだからね」

梨璃「ひえー！！！」

エンペラー「はい！次は天雷よ！」

梨璃「げっ！」

このエンペラーさんが言う天雷とはエンペラーさんのレアスキル天雷を何度も何度も避けるという訓練なんですすがこれがまたきつくて、

エンペラー「行くよ！」

梨璃「はい！（昨日は避けた！だから今日は！）」

エンペラー「天雷！！」

梨璃「(受け止める!!) ヒュージ化!!!」

ズドーーーーン

エンペラー「受け止めるの!？」

梨璃「グッ！はああアッアッアッ」につ

ソベルバ・エンペラー「?! (笑った?!)」

ソベルバ「(今梨璃のマジが少し?)」

梨璃「でえええええやつ!!!」

エンペラー「凄い!! 梨璃ちゃん!!」

梨璃「はあはあ」

ソベルバ「あれを受け止めるの?!」

梨璃「うっ！ここが限界です」バリイーン

エンペラー「凄いわ梨璃ちゃん！どんどんレベルが上がってる！」

梨璃「ソベルバ今の持続時間は?!」

ソベルバ「10分よ前が9分50秒だったから10秒アップね」

エンペラー「着々と伸びていつてるわねなんなら少し早いくらいよ」

梨璃「そ、そうなんですか？」

エンペラー「ええ私でも1日に10秒は上がったことはないわ、以外と早く使いこなせるかもね」

ソベルバ「(一柳梨璃、百合ヶ丘入学時は平均スキラー値を下回っていてリリィとしてもお世辞でも良いとは言えなかった何故いきなりこんな力が？そして美鈴様は何故この子を狙うの?)」

梨璃「どうしたの？ソベルバ？」

ソベルバ「いえ少し心配になっただけよ」

梨璃「え?!心配してくれたの?!」

ソベルバ「え?!あ、いや別にそうじゃなくてね、わ、私の宿主なんだからそのくらいやって貰わないと困るわねってことよ！」

梨璃「な、なるほど」

プルルル！プルルル！

ピッ

エンペラー「はいもしもし、、分かりました、梨璃ちゃん！」

梨璃「はい？」

エンペラー「お姉様と呼んでるわ」

梨璃「桜さんが？」

アーセナル

梨璃「桜さん何か御用ですか？」

桜「おう梨璃！ヒュージ化の調子はどうだ？」

梨璃「はい！順調です！」

桜「そりゃ良かった！というわけで本題に映る」

梨璃「用事ってなんですか？」

桜「お前と言うよりお前の中の奴に用があるんだ」

梨璃「え？ソベルバに？」

ソベルバ「いったいなんなの？」

桜「エフタ・デゼスペロファーストソベルバ・リタムお前に私たちの仲間になってもらいたい」

一同「?!」

楓「ちよつと待ってください！納得行きませんわ！こいつは敵！あのエフタ・デゼスペロですわよ！ただでさえ梨璃さんの中に居座っているというのにこの百合ヶ丘の敷居を跨がせる？言語道断ですわ！」

桜「楓お前の言い分もわかるでもこいつには利用価値があるそう言いたいのか？百由」

百由「ええソベルバは敵側の情報を知っている唯一の存在、これを利用しない手はないと思っただの」

楓「ですが！」

夢結「確かに一理あるわ」

楓「夢結様!!」

夢結「楓さん落ち着いて」

楓「ッ!、!、」

ソベルバ「勝手に話を進めないでくれない？」

桜「まあこうなるよな」

ソベルバ「協力するならそれなりの見返りが欲しいんだけど」

桜「なんだ？大体のことは聞いてやるよ」

楓「桜さん！」

ソベルバ「私を、一柳隊のメンバーに入れて欲しい！」

一同「?!」

鶴紗「どういう風邪の吹き回しだよ」

ソベルバ「どうせ私は今何もできない、ちよつど暇してたからあんた達と一緒に美鈴様を倒してみることにするわ」

桜「その答えを待ってたよ！みんなそれでもいいか？」

鶴紗「正直に言うとかかなり不安だがこいつが今何もできないのは確かなようだし私はいいぞ」

二水「私もその方が美鈴様を倒すのには良いと思います」

ソベルバ「EDENの情報を全て教えてあげるもちろん美鈴の弱点も、その代わり」

梨璃「その代わり？」

ソベルバ「あんた達は私に優しく接しなさい、」

一同「え？」

ソベルバ「聞こえなかったの?! 私に優しくしてって! 言ったの！」

雨嘉「構ってちゃん？」

鶴紗「お前はどうかんだ? 隊長決めるのはあんだだよ」

梨璃「私は美鈴様を倒したい、でも」

ソベルバ「、、」

夢結「梨璃私も賛成よ」

梨璃「お姉様」

夢結「確かにこの子には殺されかけたけどこの子にはこの子なりの立場というものがあつた、でも今はこの子の力が必要な」

梅「昨日の敵は今日の友だゾ！」

楓「、、わかりました! わかりましたよ! でも私はあなたを認めたつもりはありません! それをよーよーく心に刻んでください!」

ミアム「でもこれで実質10人のレギオンになってしまうたの」
ソベルバ「で? 時間がないんでしょう? じゃあさつさと取り掛かるわよ」

桜「いいね」

百由「早速敵の情報洗いざらい履いてもらうわよ！」

ソベルバ「ハイハイ」

桜「それじゃあまずは美鈴のレアスキルについて聞こうかな」

ソベルバ「あの人のレアスキルはオステイリテ、、というレアスキルということだけはわかってるでも能力は分からないわ、、でも私以外の死んだデセスペロのレアスキルは全て川添美鈴に還元される」

桜「っ?!」

梅「なんだそれ!」

ミアム「ちよつと待て! 還元と言ったか!」

ソベルバ「、、ええ」

梨璃「まさか！」

夢結「お姉様は！」

エンペラー「レアスキル複数持ち！」

ソベルバ「えええ！そして梨璃のヒュージ化の捕食効果、レアスキルの継承で謎が解けた、あの人はヒュージ化ができる！」

神琳「そんなバカな！」

ソベルバ「そして美鈴様が梨璃を狙う理由がわかったわ」

夢結「まさか！」

ソベルバ「そう！梨璃の持つレアスキル、ラプラスの取り込み！」

桜「そういうことか！」

百由「なるほどね」

ソベルバ「そしてあなたたちの敵は川添美鈴だけではない」

梅「ちよつと待て！それってどういう」

ソベルバ「デゼスペロともう一つ川添美鈴直属の10人の精鋭部隊がいるの」

神琳「?!」

鶴紗「何?!」

ソベルバ「その名はリ・グアスト（王壊者達）」

夢結「リ・グアスト？」

ソベルバ「私たちデゼスペロが最も忠誠を誓っている者達ならあいつらは最も忠誠を誓っていない者達なの」

二水「忠誠を誓っていない？」

ソベルバ「そう、あの川添美鈴でさえも扱えない化け物なのよ」

夢結「お姉様が?!」

ソベルバ「きつと奴ら10人がかりで美鈴様と戦えば勝てるでしょうね」

梅「じゃあなんでそうしないんだ？」

ソベルバ「それはね」

梨璃「うん」

ソベルバ「美鈴様の圧倒的なカリスマ性よ」

梨璃「圧倒的なカリスマ性、」

ソベルバ「美鈴様の恐ろしいところは圧倒的な力とそのリーダーシップにある」

梨璃「だから勝てないの？」

ソベルバ「そう、勝てないと言うより勝つ必要がない、そしてあいつらは私たちデゼスペロの10倍は強いわよ」

ミアム「なっ!？」

雨嘉「10倍?!」

ソベルバ「そう、以前私が1人に挑んだことがあったの」

梨璃「うん」

ソベルバ「2秒と4回」

神琳「2秒？」

雨嘉「と4回？」

ソベルバ「私がそいつに殺された回数と時間」

梨璃「嘘でしょ?!」

桜「なあソベルバ」

ソベルバ「どうしたのかしら？」

桜「そいつらと私たち四天王どっちが強い？」

ソベルバ「それはあなた達の方が強い、と思うでも一人だけ別格の強さを誇るやつがいるのその強さはあなた達四天王以上よ」

神琳「百合ヶ丘四天王以上?!」

雨嘉「そんな、」

鶴紗「デゼスペロでもあんなに苦労したのに」

ソベルバ「そいつの名はクリーム・フラスベルタ」

エンペラー「クリーム・フラスベルタ?!お姉様！」

桜「そんな、」

夢結「なにか知っているんですか？」

桜「知ってるも何もクリーム・フラスベルタは私の元レギオンメイトだ」

ソベルバ「なんですって?!」

エンペラー「お姉様とクリームさんのコンビはとても有名で全国に名を轟かせていました、でも、」

桜「ある任務の時にあいつは私をヒュージの攻撃から庇って死んだんだ」

梨璃「まるで」

夢結「お姉様と私」

エンペラー「まさかあの人がそんなことになるなんて」

グレーダ「そうかよ、、、あいつ！」

フィー「グレーダ、、、」

ソベルバ「どうりで強いはずだわ」

桜「クリム、、、」

回想クリム「桜！今回は私の方が多くヒュージ倒したよ！」

回想桜「仕方ないから譲ってやったんだよ！いつもは私の方が多い

からな！」

回想クリム「何くく」

回想桜「なんだく？やるかく」

桜・クリム「プッ！あははは!!!」

桜「ちっ！」

ソベルバ「そして美鈴様の計画にはあなた達四天王が邪魔なの、だから確実にオーバーセラッドをしてくる」

フィー「普通に」

グレーダ「まずいな」

梨璃「オーバーセラッド？」

百由「オーバーセラッド、相手のマギと相手の意識を完全に本人から断絶する禁断の技ね」

夢結「そんな技があるなんて」

桜「この技は並のリリイじゃ使えない、やっぱりあいつ相当腕をあげているな」

グレーダ「本腰入れて潰しに行かねえとダメみてえだな」

桜「じゃあもうひとつ質問だ」

ソベルバ「？」

桜「今の一柳隊とそいつらどっちが強い？」

ソベルバ「梨璃のヒュージ化なら一人くらい倒せるかもしれないで

も」

桜「3対1でやっとなつてどこか」

ソベルバ「、、」

鶴紗「3対1でやっとなか」

楓「強すぎる、、」

二水「どうすればいいんでしょう」

神琳「数が足りない」

桜「おいグレーダ、ファイ」

グレーダ・ファイ「？」

桜「お前らここに来る前なにしてたんだ？」

グレーダ「フツ！」

ファイ「うふふ」

グレーダ「バレたみたいだぜ！お前ら！」

ファイ「あなた達も出てきなさい！」

??「はい！」

梨璃「?!」

楓「あなた達は！」

一葉「お久しぶりです！柳隊の皆さん！」

梨璃「一葉さん！」

叶星「私達もいるわよ！」

梨璃「叶星様！」

桜「ははっ！お前らやっぱりこいつらに教えてたか！」

叶星「梨璃さん！話は聞いたわ！私たちも力になるわ！」

瑤「ヒュージ化の話も美鈴様の話も聞いてるよ」

一葉「マギナもグラン・マギナも会得しました！戦う準備は万全です！」

桜「よし！2週間後に総攻撃を仕掛ける！今度こそ！美鈴を打つ！」

一同「了解！」

エンペラー「さあ梨璃ちゃんここからは実戦訓練よ！」

梨璃「え？」

エンペラー「やるんですよね、お姉様！」

桜「ああ！一柳隊！ヘルヴォル！グラン・エプレの合同訓練！」

エンペラー「梨璃ちゃんこの人達と訓練してヒュージ化をマスターするのよ！」

梨璃「はい！」

グレーダ「あいつらわざわざ私達を尋ねて来たんだぜ強くなりた
いってな」

フィー「そうそう」

回想一葉「私達も自分達のGARDENは自分で守りたい！」

回想叶星「私達も同じ気持ちです！」

グレーダ「ほんとに良い後輩達だよ」

桜「こいつらなら絶対に美鈴を倒せる！今後の世界を守るのはい
つらだ！」

フィー「はいそうですね」

エンペラー「ほんとに」

桜「よしお前ら！明日から3代レギオン合同訓練開始だ！打倒美鈴
！覚悟は良いか！」

一同「はい！」

夜

桜「グレーダ、エンペラー、フィー」

エンペラー「？」

グレーダ「なんだよ急に呼び出して」

フィー「美鈴ちゃん？」

桜「クリームは私が殺す！」

桜「からありえない程の殺気が溢れる」

???「うーんこの子達が美鈴ちゃんの言う一柳隊？なんかちょー弱そ
う〜」

クリーム「油断しないでね一応デセスペロを倒してるのよ、私達には
かなわなくてもどんな相手でも全力で叩き潰すのが懸命よ、そうだっ

たわよね桜」

??? 「おっけー」

次回 三第レギオン合同訓練編開始

episode 16 訓練開始!

アサルトリリイ16 The beginning of the
end

episode 16 訓練開始!

桜「よし!お前ら!チームを分けるぞ!」

ミアム「チーム?レギオン同士で訓練するんじゃないのか?」

桜「うん、レギオンをシャッフルして全く違う環境でもチームワークを取れるよう訓練する」

千香瑠「なるほど、」

藍「えー藍みんなと離れ離れになっちゃうの?」

桜「大丈夫だよ藍すぐにみんなと仲良しになれるからな」

藍「うん、わかった!藍桜好き!」

桜「そうかそうかく偉いぞ〜藍〜」

一葉「流石は四天王」

恋花「藍を一瞬で手なずけるなんて」

高嶺「うふふ、面白い人達ね」

叶星「そうね高嶺ちゃん」

灯莉「ほんとだね」

紅巴「うう、、グラン・マジナの訓練もものすごく大変だったのにまだ訓練があるなんて、、でも頑張ります!(二水さんだってあんなに強くなったんだから!)」

姫歌「姫歌も!もーっと強くなって最強のアイドルリリイを目指すの!」

鶴紗「ぶれねえな」

ミアム「そうじゃの〜」

姫歌「何よ!志は高い方がいいのよ!」

エンペラー「うふふ、頼もしいわね」

グレーダ「ビシバシやってやるよ!」

梨璃「さあ!やりましょう皆さん!」

一同「ええ!」

桜「そしてお前らにはひとつの課題を出す！それは、」

梨璃「それは？」

桜「最小限のマジで最大限の技を使えるようになることだ！」

夢結「それはどういう？」

桜「そうだなー簡単に言うとは少量のマジでもグラン・マジナが打てるようになるんだ、マジの省エネだな！」

グワアアアアン!!!

二水が天空にグラン・マジナを放つ

二水「私もこれくらいならできますよ？」

桜「え？」

二水「ほら」

梨璃「なんで?!二水ちゃん！」

二水「私ずっとこれ使ってますよ？効率がいいんで」

夢結「どうやってそれを身につけたの?!」

二水「私は元々マジの量が少ないのでマジナはいいとしてグラン・マジナは体内のマジをほとんど使っちゃうので自然に身につきました」

楓「確かに二水さんはマジの量が多いと言えませんが扱いは一柳隊で一番ですが、」

桜「ポテンシャルたけーなおい、、、みんなにはこれを二水のように無意識で使えるようになってもらう」

一同「はい！」

桜「まずはチーム分けだ！エンペラー！」

エンペラー「はい！梨璃ちゃん、高嶺ちゃん、藍ちゃん、二水ちゃん、姫歌ちゃん、紅巴ちゃんはレギオンA」

グレーダ「夢結、雨嘉、楓、瑤、灯莉、

一葉はレギオンB」

フィー「千香瑠ちゃん、恋歌ちゃん、梅ちゃん、鶴紗ちゃん、神琳ちゃん、叶星ちゃん、ミリアムちゃんはレギオンC」

高嶺「梨璃さんあなたとは1度組んで見たかったの」

梨璃「高嶺様にそんなことを言われるなんて光栄です！」

高嶺「ふふっ、、、ほんとに可愛いわね」

高嶺が夢結を見つめる

夢結「？」

桜「よし初戦はレギオンA対レギオンCだ」

梨璃「皆さん頑張りましょう！」

二水「はい！」

姫歌「最強のアイドルリリイになるためにみんなぶっ倒すわよ！」

藍「藍いっぱい暴れる!!」

紅巴「私上手く連携取れるかな、、、」

高嶺「大丈夫よ紅巴、」ぎゅ

紅巴「はわわわわ!!!高嶺様!」ぷしゅゝ

エンペラー「梨璃ちゃん！」

梨璃「はい？」

エンペラー「訓練中は常にヒュージ化しておいてね」

梨璃「わ、分かりました！」

紅巴「(梨璃さんのヒュージ化!)」

高嶺「、、、」

梨璃「はああああアアアア!!!!」

ギユウウウウウン!!!梨璃の周りに黒いマギが吹き荒れる

高嶺「黒い、、マギ?!」

紅巴「凄い、、、」

藍「梨、、璃?」

姫歌「なにこれ、こんなに禍々しいマギ見たことも感じたことも無

い、、、

バチバチバチ

一葉「これが梨璃さんのヒュージ化！」

梅「上がってるな」

ミリアム「ああマギがまた濃くなっておる」

ソベルバ「当然よ!この子はエンペラーの修行に耐え抜いてるんだ

から!」

ミリアム「なんでお主が誇らしげなんじゃ?」

叶星「あれと同等の力とやり合わないとダメなのね」

梨璃「さあ始めましょう」

レギオンA対レギオンC開始

二水「まず先手を打ちます！梨璃さん！」

梨璃「了解二水ちゃん！グラン！マギっ！」

千香瑠「ヘリオスファイア！鶴紗さん！」

梨璃「なっ！」

鶴紗「梨璃のヒュージ化は制限時間がある、でもそんなの待ってた
らこつちが負ける！」

叶星「だから先に梨璃さんを無力化する！」

二水「そう来ると思っていましたよ！」

鶴紗「何?!」

二水「姫歌さん！」

姫歌「え?!まだ準備できてないわよ！」

二水「え?!合図と同時にグラン・マギナですよ！」

姫歌「あ！そっか！えっと！グラン・マギナ！」

桜「お」

鶴紗が姫歌のグラン・マギナを交わす

姫歌「あ！」

二水「姫歌さん！作戦は伝えましたよね！」

姫歌「そ、そんなこと行ってもあんなにいきなり言われてもわかん
ないじゃない！」

二水「合図なんていきなりするものですよ！」

梨璃「まあまあ2人とも落ち着いて！」

グレーダ「まあこうなるわな」

桜「思ってた通りバラツバラだな」

フィー「ね〜」

桜「なあグレーダ」

グレーダ「ん？」

桜「姫歌のグラン・マギナを見た時思ったんだけどまさかドラゴン
マギ？いやそれにしては威力が弱いような」

グレーダ「そうそう、ドラゴンマギは私しか使えない、だから似たようなものを習得させた」

桜「似たようなもの？」

フィー「そう！名付けてマギ・ドラグノス！」

グレーダ「なんでお前が言うんだよ！」

神琳「ミーさん！パターンBです！」

ミリアム「了解じゃ！行くぞー!!!」ガンツ

梨璃「ぐっ！」

二水「あつ！もう梨璃さんのところに！藍さん！」

紅巴「わ、私が行きます！」

二水「紅巴さん!?私は藍さんに！」

紅巴「はあ!!!」

ミリアム「な、なんじゃ!?」

叶星「梅！カバー！って恋花!？」

恋歌「ちよっ梅?!」

梅「ぶつかる！」

ゴンツ！

恋歌・梅「いったた」

梅「ごめん恋花」

恋歌「ううんこっちこそ」

叶星「全くなれないわね（いつものグラン・エプレのメンバーとは波長が違う）」

紅巴「はああ！」

ミリアム「こ、こいつ！力が強い！わしが押し負ける！」

紅巴「私も二水さんに追いつく！絶対に！」

二水「落ち着いてください！紅巴さん!」聞こえてない!?）梨璃さん！ミリアムさんを取りあえず振り払ってください！体制を整えます！」

梨璃「了解！はアゝアゝアゝアゝ!!!」

鶴紗「やらせない！」

梨璃「鶴紗さん!?いつの間に?!」

鶴紗「夜桜一閃!!」

梨璃「ぐあっ!!!」

二水「梨璃さん!!」

カチャ

叶星「終わりよ」

二水の首筋に銃口が向けられる

高嶺「あら終わるのはどっちかしら」

叶星「高嶺ちゃん?!」

桜「そこまで!、、、やっぱりバラツバラだな」

二水「まだやれます!だから!」

桜「二水!」

二水「!」

桜「あんま焦んな」

二水「、、、はい」

桜「よし!お前らに休暇を与える!」

夢結「このタイミングで?!」

桜「でもひとつ条件がある」

藍「じょーけん?」

桜「今のレギオンで行動すること!」

楓「そんな!梨璃さんとあんなことやこんな事ができると思ったのに」

ミリアム「もう突っ込まんぞ」

姫歌「(二水と気まずいのに)」

桜「じゃあ休暇開始!」

レギオンC

叶星「さあ何しようかみんな」

鶴紗「私は久しぶりに猫カフェに行きたい」

叶星「猫カフェねじゃあ行きましょうか」

レギオンB

一葉「どうしましょうか? (瑠様はともかく他の人達はあんまり関わったことないんだよねー)」

夢結「あなたはどこか行きたいところは無いの?」

一葉「わっ私ですか?!え、えーと」

灯莉「私ユニコーンの世界にいきたーい」

一葉「ユ、ユニコーン?!わっわかりました!ユニコーンですね、えーつと、ん?ガン、ダム?なんでしようこれ?」

一同「(真面目過ぎない?)」

レギオンA

梨璃「私たちは何をしましょうか?」

二水「、、」

姫歌「、、」

紅巴「(はわわわ凄く気まずいです凄く!)」

藍「なんで二水と姫歌は喋らないの?」

梨璃「(えっ?それ言っちゃうの?言っちゃうの?)」

高嶺「私は早くゲームセンターに行きたいわ!」

梨璃「(高嶺様が全く空気読めてない!)」

梨璃「と、とりあえず!あそこのクレープ屋さんのクレープでも食べましょうか!」

藍「藍クレープ好きー」

梨璃「そ、そうだよねーあはは!」

紅巴「?あれなんでしよう?」

梨璃「え?」

???「なあ親父ー頼むよー」

クレープ屋の店主「いやーこつちも商売だからねー」

梨璃「どうかされたんですか?」

店主「お!百合ヶ丘の嬢ちゃん達じゃねえか、いやーこの人がクレープを無料で食べさせて欲しいって言うんだよ」

???「頼むよー私結構遠いところから来て腹へってるんだよー」

店主「そう言われてもねー」

梨璃「あの一」

???「ん?なんだよ?」

梨璃「お金出しましょうか?」

??? 「マジで!? いいのか!？」
梨璃 「え、ええ大丈夫ですよ!」
??? 「かあく流石はリリイだなー器のデカさつてもんが違うよなー」
店主 「悪かったな! 小さくて!」
??? 「じゃあ私はスーパーパーチョコバナナクレープアイス大盛りで!」
姫歌 「一番高いやつじゃない!」
二水 「凄い! 遠慮が全く感じられません!」
紅巴 「(アイス大盛りつてできるんだ!)」
梨璃 「私の今月のお小遣いがー!!!」
??? 「すまねえなりリイさん!」
梨璃 「いえ困ってる人を助けるのはリリイの努めですから泣」
??? 「あんた名前はなんて言うんだ?」
梨璃 「私は一柳梨璃です! レギオン一柳隊のリーダーです!」
??? 「へえーあんたがね」
梨璃 「何か言いましたか?」
??? 「いーやなんでもない」
梨璃 「あなたの名前は?」
??? 「私か? 私はクレア! クレア! ファイントだ!」
梨璃 「クレアさんですねよろしくお願いします!」
梨璃 が手を差し出す
クレア 「うん! よろしく梨璃さん!」
梨璃 「クレアさんはどこから来たんですか?」
クレア 「ちよつと遠いところからかな?」
梨璃 「へえー」
クレア 「少し殺風景なところなんだよなんもないんだよなー」
二水 「いいですね!」
高嶺 「ゲームセンターに行きましょう!」
姫歌 「どんだけ行きたいのよ!」
紅巴 「(行ったことないんだらうなー)」
クレア 「みんな面白いなく! ん? あなたの名前は?」
藍 「、、、」

藍が梨璃の後ろに隠れる

梨璃「(藍ちゃん?) あーこの子人見知りなんですよ!」

藍「、、、」

クレア「じゃあ私はそろそろ行くよ!」

梨璃「はい!それでは!」

クレア「クレープありがとうな!」

梨璃「不思議な人でしたね!」

二水「そうですね」

t o b e c o n t i n u e d

episode17コミュニケーション!

アサルトリリイ17The beginning of the
end

episode17コミュニケーション!

ヘイジオン

クリム「ねえ美鈴一柳梨璃を狙うのはなんでなの？」

美鈴「彼女には底知れぬ可能性を感じたんだ」

クリム「可能性ね、あの子桜の弟子だったわよね」

美鈴「ああそうだよ」

クリム「強いのか？」

美鈴「あああの子はとても強い心の持ち主だ」

クリム「心？」

美鈴「あの夢結とシュツツエンゲルの契りを交わした唯一のリリイだ、そしてヒュージ化、ラプラスの覚醒」

クリム「戦うのが楽しみだわ」

ゲームセンター

梨璃「高嶺さん!そっち行きましたよ!」

高嶺「任せて!」

ゾンビ「ぐおー」

高嶺「ゼノンパラドキサ!」

姫歌「こんなところでレアスキル使うな!」

バン!バン!

ゲーム筐体「perfect!」

高嶺「よし!」

梨璃「高嶺様すごい!」

高嶺「うふふっ」

姫歌「ちよつと二水!あんたも何か!」

二水「鷹の目!」

ばばばん！

二水「こんなもんですね！」

姫歌「モグラ叩きでレアスキル使うな！あとモグラを拳で叩くな！」

姫歌「ねえ紅巴！えっ?!」

シユパパン

紅巴「これで虹レートまで行きましたね！」

姫歌「あ、あんた音ゲー上手いのね」

紅巴「はい！昔からずっとやっています！」

姫歌「な、なるほど」

梨璃「姫歌さんも一緒にやりましょうよ！」

姫歌「も、もうしようがないわね！」

まんざらでもなかった

姫歌「何？このゲーム」

梨璃「VRをつけて戦う新感覚ゲームみたいですよ！」

二水「チームワークを鍛えるには持つてこいですね！」

姫歌「ひいいいやあああ!!!」

紅巴「姫歌さん！こつち来ないでえええ!!!」

ゾンビ「ぐおおおおお!!」

バババン!!

梨璃「だ、大丈夫？」

姫歌「はあはあ、、、もう嫌!!」

紅巴「こうなったらもうやるしかないです！」

姫歌「やってやるわよ！ぶっ倒してやるわ!!」

二水「やる気ですね、、、」

高嶺「梨璃さん！後ろ！」

バババン！

梨璃「危なかった、、、ありがとうございます！高嶺様！」

高嶺「油断しちゃダメよ梨璃さん」

高嶺が梨璃を顎クイする

梨璃「は、はい、、、」

二水「夢結様には言えませぬ、」

紅巴・二水「あ、鼻血が」

姫歌「(リリオオタクどもめ)」

ゾンビ「はあう！」

姫歌「二水！後ろ！」

二水「え?!」

バババン!!

姫歌「全く！気をつけなさいよね！」

二水「は、、、はいすみません」

紅巴「はっ！これは！新しい可能性!?」 だら

藍「あはは!!これ楽しい！」

梨璃「藍ちゃんすごい！」

二水「めっちゃくちや倒してますね！」

姫歌「私達も負けてられないわよ！二水！」

二水「はい！」

紅巴「サポートは任せてください！」

梨璃「はあ！」

バン！バン！

姫歌「二水！」

二水「了解！」

姫歌「二水！2時の方向に敵よ！」

二水「はい！」

バン!!

ゾンビ「ぐおう！」

clean hit!

高嶺「あの二人いい感じね」

梨璃「はい！土台が固まって来たって感じですよ！」

バン！

ゾンビ「ぐおう！」

梨璃・高嶺「え?、」

紅巴「お2人とも！油断しないでください！」

梨璃・高嶺「は、はい」

パツパラパーオールクリア!!

姫歌「二水、さつきはごめんね」

二水「いえ！私もキツク言い過ぎました、」

梨璃「さあ帰って特訓の続きです！」

一同「おー！」

百合ヶ丘

桜「フー」

エンペラー「あー！」

桜「?!なんだよ！」

エンペラー「またタバコ吸ってる！」

桜「あっ！」

エンペラー「辞めるって言ったのに！」

グレーダ「そうだぞー桜タバコなんて辞めとけて！」

フィー「桜くさーい」

桜「臭い言うなよ！」

梨璃「桜師匠！」

桜「ん？帰って来たか！どうだ！仲直りはできたか！」

二水・姫歌「はい！」

桜「あいつらも帰って来てるぞ！（良い目になった）」

梨璃「行きましょう！皆さん！」

一同「了解！」

プルルルル！プルルルル！

桜「電話？はい」

クリム「久しぶり桜」

To Be Continued

episode 18 雨嘉VS神琳!

アサルトリリイ18 The beginning of the
end

episode 18 雨嘉VS神琳!

桜「クリーム、、」

クリーム「ねえ、桜あなたはまだ強いのか?」

桜「お前をぶつ殺せる位にはな」

クリーム「あら怖い」

桜「ふぎけるのもいい加減にしろよクソ野郎!!」

グレーダ・フィー・エンペラー「?!」

3人が固唾を飲む

クリーム「ふーんまだ強さは健在、、か、楽しみにしているよ」

ぶちっ!プープー

エンペラー「お姉様?」

桜「すまん、ちよつと出てくる」

グレーダ「お、おう」

フィー「クリーム・フラスベルタ、、桜ちゃんの親友、、そして今は

川添美鈴の配下か、、」

桜「ふー、、」

回想クリーム「桜!これ誕生日のプレゼント!」

回想桜「え!?マジ!ありがとう!」

回想クリーム「開けてみて!」

回想桜「おー!ペンダントか!」

回想クリーム「これ私とお揃いのやつ!」

回想桜「大事にするよ!クリーム!」

回想クリーム「うん!」

桜「、、クリームっ!」

桜がペンダントを握りしめた

桜「さて！今回はレギオンC対レギオンBだ！」

一葉「叶星様と戦える日が来るなんて思ってたんです！」

叶星「ええ、本気で行くわよ！」

桜「で！この試合には勝利条件を設けようと思う！」

鶴紗「勝利条件？」

そう言った桜は二つの旗を取り出した

桜「この旗を取ったら勝ち！取られたら負けだ！」

ミリアム「なるほどじやの」

千香瑠「シンプルでいいですね！」

雨嘉「、、神琳が相手！」

神琳「、、」

鶴紗「神琳、顔怖いぞ」

神琳「え、あ、、」

鶴紗「頼むぞ！」

ぼん

鶴紗が神琳の方を小突く

神琳「はい、、」

神琳・雨嘉「なんだろうこのモヤモヤは」

一葉「私たちの作戦は遠距離型の千香瑠様を警戒しつつそして攻撃力エースの二人ミリアムさんと鶴紗さんを抑え司令塔である叶星様を叩きます、鶴紗さんは夢結様、ミリアムさんを灯莉さんをお願いします！そして恋歌様と叶星様の相手は私におまかせください！」

瑤「大丈夫なの？」

一葉「はい！試したいことがあるんです！」

夢結「わかったわ」

灯莉「りよーかい！」

一葉「そして最後の砦、旗を守る神琳さんの相手は」

雨嘉「私がやるよ！」

楓「雨嘉さん?!」

一葉「え?!でも雨嘉さんは！遠距離攻撃を、、」

夢結「いいんじゃないかしら」

一葉「夢結様、、わかりました雨嘉さんを攻撃に加えた超攻撃型で
行きましょう！」

楓「ならわたくしは新しい技を試したいので旗の防衛に回りつつ梅
様の相手を致しますわ！」

一葉「わかりました！瑠様は千香瑠様の索敵をお願いします」

瑠「わかった！」

桜「作戦は決まったようだな！それじゃあ」

試合開始！！

ダウン！！

夢結「?!」

間一髪で夢結が弾丸を避ける

夢結「これは?!芹沢さんの！」

一葉「瑠様！」

瑠「了解！（千香瑠が居そうなところ！、、ここ！）」

バン！！

千香瑠「くっ！一発で場所が割られた！」

瑠「追いかける！」

一葉「瑠様！あまり深追いせずに！」

瑠「わかってる！」

鶴紗「よそ見してたら！」

ミリアム「やられるぞ!!」

一葉「夢結様！灯莉さん！」

夢結・灯莉「了解!!」

ガキンツ!!

鶴紗「あんたとは一回やってみたかったんだ」

夢結「奇遇ね、、私もよ!!」

夢結・鶴紗「につ！はあああああ!!!」

ガギン!!

ミリアム「元気なやつがおると思うたらお前か！灯莉!!」

灯莉「アハっ！でもミリアムもすごーく元気じゃーん」

ミリアム「抜かしよる！」

レギオンBフラッグ

梅「ふうく相手の懐に上手く潜り込めたな、あとは雨嘉の狙撃に気をつけながら旗を取るだけナ！」

バン！バン！

梅「噂をすれば！雨嘉か！、、え？」

楓「やっぱり雨嘉さんが後衛と思っていましたね」

梅「裏を突かれたってことだな」

楓「まあそうなりますわね」

梅「その旗渡して貰ってもいいか？」

楓「いいですわよく私に勝てたらの話ですが」

梅「お前がその気なら梅も本気で行くゾ!!」

楓「望むところですよ!!」

梅「グラン・マギナ、、完全解放」

梅「レインフォースメント!!」

梨璃「あれが梅様の完全解放した姿！」

二水「凄いマギですよここから見ていてもビンビン伝わって来ます

！」

バチバチバチバチ!!!!

楓「このマギは!!かなり濃い!!初めて見ますわね梅様の完全解放

梅「楓、、見失うなよ！」

楓「(後ろ?!)」

梅の蹴りが楓を襲う

ドーーーーー!!

楓「ぐはっ!!」

梅「見失うなうなよって言っただろ楓」

楓「さ、流石は梅様ですよ、(目で追えないなんて!)」

梅「縮地+レインフォースメントだ目で追えないのも無理ないな」

楓「わたくしもするしかなさそうですわね、、桜師匠との修行で身につけたこの技を!!」

梅「?!」

楓「完全解放」

プロテジー・プリユフオール

レギオンCフラッグ

神琳「あなたが来るとは思っていませんでした」

雨嘉「うん神琳がいると思つて来たんだよ」

神琳「トレーバス姉妹と戦つた時のこと覚えていますか？」

雨嘉「え？あ、うん」

神琳「あなたの完全解放（リミッター解除）アルミュールを見た時思つたんです、私のジ・グランデとどちらが強いのかと」

雨嘉「、、、そうなんだ」

神琳「一度本気でぶつかつて見ませんか？」

雨嘉「、、、うん！」

神琳・雨嘉「完全解放!!!」

雨嘉「アルミュール!!!」

神琳「ジ・グランデ!!!」

二人が思いつきり地面を蹴る！

ぐうん！

雨嘉「(凄い攻撃力!!!)」

神琳「(これがリミッター解除した雨嘉さん！今までのどの相手よりも強い!)」

雨嘉・神琳「(でもこの勝負！この勝負だけは負けられない!!)」
ブシユン!!

神琳「(早い！一瞬で後ろに!)」

雨嘉「はああ!!」

ギユン!

雨嘉が神琳の体を蹴る！

神琳「ぐっ!!」

雨嘉「まだまだ!! (ジ・グランデは自分のマギを大剣の形にする！完全解放パワーは別としてアルミュールのスピードには着いて来れない!!)」

神琳「やられっぱなしは松蔭桜の弟子として情けない!!!はああ!!!」

桜「あいつ変わったな！」

雨嘉「なっ！思ったより早い!!!ぐあっ!!!」
ブンッ!!

雨嘉が空高く吹っ飛ぶ

雨嘉「(舐めてはいなかった!でもあんなパワーがあるなんて!!マギナで防がなかったらやられてた!次食らったら確実に落ちる!!)」

フンっ!

神琳が雲の影から現れる!!

キーン!!!!

二人の刃が軋り合う!!!!

神琳・雨嘉「はあああ!!!」

神琳「っ、強い!本当に成長したね、あの時から比べたら本当にたくましくなりました!」

雨嘉「神琳!神琳のおかげで私前に進むことができたよ!自信を持つことができた!あの時の私はもう居ない!ここにいるのは一柳隊の一員の私!王 雨嘉だ!!!」

神琳「雨嘉さん、、、いえ雨嘉!!」

雨嘉「神琳!!!」

神琳「来なさい!!」

雨嘉「アルミュール!」

神琳「ジ・グランデ!」

神琳・雨嘉「グラン・マギナアアア!!!」

ガキンッ!!

夢結「なかなかやるわね鶴紗さん!」

鶴紗「夢結様も相当ですよ、、、」

夢結「ならこれでどうかしら!!」

鶴紗「?!(マギの濃さが!!)」

夢結「ルナティックトランサー!!!」

鶴紗「(流石夢結様だ力が上がって行くのがわかる)」

夢結「他のみんなも完全解放を使っているようね」

鶴紗 「、、そうですね」

夢結 「なら私も少し張り切ってしまおうかしら」

鶴紗 「？」

夢結 「完全解放、、」

デモン・メーゼ

To Be Continued

真島百由の補足コーナー、リリイ大辞典

どうもアーセナルの真島百由よ！今日からリリイについてあなた達に優しく説明してあげるわね！

今日はグラン・マギナについて話すわよ

グラン・マギナには2種類あつて

解放型と放出型の2種類があるの

放出型は文字通り高出力のマギを放出する

グラン・マギナ

そして解放型はリリイの力を最大限に引き出すリリイの奥の手これを完全解放と言うわ

例えば二水ちゃんのグラン・マギナ桜牙や普通のグラン・マギナは放出型

そして雨嘉のアルミールや梅のレインフォースメントそして神琳のジ・グランデが解放型

今回はここまでよみんな！わすれないでね！

episode19デモンメーゼ

アサルトリリイ19 The beginning of the
end

神琳「はあはあ少しマギを使いすぎたようですね」

雨嘉「うん、疲れた」

二人の完全解放が解ける

神琳・雨嘉「うっ！」

桜「ファイ」

ファイ「りょーかい」シユン！

ファイが二人を受け止める

ファイ「よく頑張ったわね2人とも」

紅巴「(早い!)」

アナウンス「神琳、雨嘉リタイア!!」

episode19 デモンメーゼ

夢結「完全解放、、デモンメーゼ」

鶴紗「(なんだこの完全解放!ルナティックトランサーみたいに姿が変わるわけでもなければマギが濃くなった訳でもない!)」

夢結「さあどこからでもかかってきなさい!」

鶴紗「なら!グラン・マギナで!!、出ない?!」

夢結「気づいたようね私の完全解放デモンメーゼは相手のマギをゼロにする!」

鶴紗「なるほどな、グラン・マギナが出ないわけだ」

夢結「そして、」

鶴紗「?」

夢結「私の反射神経は神速を超える」

鶴紗「なに?!」

夢結「よそ見をしている場合かしら?」

鶴紗「早い!でも!」

鶴紗が攻撃態勢に入る

鶴紗「マギがないなら剣技で、、、桜流奥義！夜桜一閃！（夜桜一閃は桜流奥義の中では最速！避けられるはずがない！）」

夢結「甘い！」

夢結が鶴紗の奥義を交わす

鶴紗「そんな！これを避けるなんて！」

梨璃「あれがお姉様の完全解放！」

夢結「言ったでしょう私の反射神経は神を超えると」

鶴紗「なら！これでどうですか」

夢結「?!これはアブソリュート・カウンターフィールド！」

二水「流石の夢結様もこれは、、、え？」

夢結がcharmを構える

高嶺「あれはグラン・マギナの態勢ね」

二水「そんな！あんなところで打つなんて無謀にも程があります
！」

鶴紗「何するつもりですか、、、」

夢結

「見ればわかるでしょ、、、グラン・マギナ」

夢結が放ったグラン・マギナが跳ね返り夢結に飛んでくる

ヒュッ！

鶴紗「避けた！、、、ってまさかこれを5分間続けるつもりかよ！」

夢結「その通りよ！」

夢結が全てのカウンターを紙一重で避け続ける

鶴紗「はあ！」

ガキンッ！

鶴紗が夢結に連続攻撃を仕掛ける

夢結「なるほど、この間に私に攻撃を仕掛けることによって私の回避を断ち切るという考えね」

鶴紗「（この人私の攻撃を受けながら避け続けてる?!）なら！」

鶴紗が反射するグラン・マギナに飛び込む

姫歌「なっ！鶴紗！血迷ったの？」

二水「違うあれは！」

鶴紗「マギナ！」

ボウン!!

鶴紗「どんなに膨大なマギでもその力を利用してマギナで相殺してしまえばいい！」

夢結「なるほどファンタズムでグラン・マギナの落下位置を予測し絶妙なタイミングでマギナで相殺したのね」

鶴紗「その通り！」

夢結「なかなかやるわね」

鶴紗「あんたもな！」

夢結「5分経過ね」

フユン

フィールドが消え跳ね返り続けたグラン・マギナが上空に打ち上がる

夢結「あれを利用して！」

夢結がcharmをガンモードへ切り替える

夢結「はあ!!」

夢結が莫大なマギに向かって弾丸を放つ

ギャリーン!!!

鶴紗「ま、眩しい！」

夢結「これで、、私の勝ちよまだまだ甘いわね」

夢結がcharmの切っ先を鶴紗の首筋に突きつける

鶴紗「甘かった、、あんたがな！」

夢結「何ですって?!」

鶴紗「下を見てみな！」

夢結「これは！カウンターフィールド?!」

鶴紗「終わる2秒前に圧縮してマギの密度を上げあんたの足を止めた、マギがなくてもマギを操る事くらいはできる！名付けて！アタッシュ・コンプレッション！」

夢結「動けない！」

鶴紗「立場逆転」

鶴紗が夢結の首筋に銃口を突きつける

夢結「くっ！」

鶴紗「その恐ろしいほどの反射神経でも足を止めれば意味はない！」

夢結「一葉さん！」

鶴紗「何?! 一葉！」

一葉「了解！」

ガキンツ!

叶星「邪魔はさせない！」

一葉「叶星様?!」

叶星「一葉あなたまたまた腕をあげたわね! 反応が早くなってる!」

一葉「ええ! でも! 反応だけじゃありません!」

叶星「?!」

一葉「ブルトガング!!!」

叶星「なら私も! クラウ・ソラス!!」

一葉「行きます! 叶星様!」

叶星「来なさい! 一葉!」

一葉・叶星「レジスタ!!」

キュイーン!!!

一葉「(流石は叶星様マジの濃さが凄い!)」

叶星「(一葉のレジスタも威力が上がってる、流石ね)」

一葉・叶星「でも!」

一葉「負けません!」

叶星「こつちもね!」

叶星が一葉を振り払いcharmを投げる

一葉「え?! charmを!」

ガキンツ!

一葉が飛んできたcharmを防ぐ

パチン!

叶星が指を鳴らす

プシュンツ

一葉「なっ！一瞬で移動した?!」

叶星「charmと私の位置を入れ替えたの！これが私の新しい技スペース・スイッチ」

一葉「そんな！こんな技ありなの?!」

紅巴「出た！叶星様のスペース・スイッチ！」

梨璃「なんですか！あの技！」

姫歌「スペース・スイッチ、自分と対象の物または生命のある物体の位置を入れ替える技よ」

紅巴「使用条件は対象の物体に1回でも触れていること」

桜「あれお前が教えたのか？グレーダ」

グレーダ「いや、あれは私にできる芸当じゃねえし勝手にできるよ
うになっていやがった、ありや稀に見る天才だ」

ミシ！

叶星が一葉に関節技を決める

一葉「(合気道?!というか早い!)」

叶星「うふふ、驚いた？」

一葉「(くっ！解けない!)」

叶星「さあどうする！一葉!」

一葉「なら！ファイ師匠から伝授して貰ったこの技で!」

叶星「ん?!」

一葉「(右腕にマギを集中させて、、、)一気に放つ!!」

叶星「うわっ!」

夢結「これがあなたの試したいことなの?」

一葉「いえ、私の試したいことは、、、」

一葉からマギが溢れる

叶星「いった!、、、?!」

夢結「一葉さん、あなた!」

一葉「これはまだ未完成なのですが、、、」

叶星「未完成?」

一葉「これが特訓の成果!」

奥義、、、竜胆(リンドウ)

!!!!!!

その瞬間一葉のcharmから有り得ないほどのマギが放出され
た

グワアアアアアン!!!!

叶星「な、なにこれ?!」

鶴紗「訓練所が!」

夢結「半壊した?!」

一葉「はあはあ、、、この奥義は著しくマギを消費するので打つのは
少々躊躇しましたが我ながら凄い威力ですね、おかげでマギはすつか
らかんですが」

叶星「なかなかやるじゃない一葉!（これで未完成ってことは完成
したら、、、考えるだけで鳥肌立つわね）」

桜「おーすっげえー威力」

フイー「あれは私も知らないわね、いつ覚えたのかな?」

藍「藍知ってるよ」

高嶺「?」

藍「一葉ねずっとあの技練習してたの、、、凄かったよ」

桜「なるほどな」

桜が藍の頭を撫でる

姫歌「、、、」

桜「すげえなお前の隊長!」

藍「うん!」

叶星「はあはあでもマギが無くなったならもう戦えないんじゃない
の!」

ガキンツ!

一葉「いや!これを打った理由は他にある!」

叶星の後ろから一つの影が現れる

叶星「瑠?!いつの間に来ていたの?ていうか千香瑠は?」

瑠「もう片付けた!」

叶星「そんな簡単に?!、、、まさか?!今の一葉の技で千香瑠を?!」

一葉「そう!私の竜胆で狙ったのは叶星様じゃない!千香瑠様です
!」

千香瑠「うう、、いたい」

叶星「なるほどそれであっちに行つてた瑠がこっちに！」

一葉「この中で一番厄介なのは千香瑠様なので」

叶星「2対1、、ふつつ劣勢じゃない、、行くわよ！一葉！瑠！」
一葉・瑠「！」

梅・楓サイド

楓「完全解放プロテジー・プリユフオール」

梅「へえー楓も完全解放を！どんな能力か教えて欲しいなっ！」
ギョーン!!

梅が楓に攻撃を仕掛ける

楓「やっぱり早いですわね！」

楓が身構える

シユンツ！

梅「後ろだ！」

楓「?!」

梅「とりあえずぶっ飛べ！」

梅が楓の背中目掛けて足を伸ばす

グウン!!

楓「流石は梅様、早いし、攻撃力も高い、、でも私の防御にはかな
いませんか？」

梅「完全に止めた？」

楓「わたくしの完全解放プロテジー・プリユフオールはシンプルな
能力それは、、完全防御！」

梅「完全防御!？」

楓「今のわたくしにはどんな攻撃も効きません」

梅「なら！これでどうだ！グラン・マギナ！」
ブウウウン!!

楓「そんなものですか？効きませんね」

梅「まじか！レインフォースメントで強化したグラン・マギナでも
ビクともしないなんて！」

楓「次はこっちから行きます！」

ギョーン!!

楓が行き良いよく飛び出す

梅「マギナで体にアーマーを！」

楓「無駄ですわ！さあ！わたくしに応えなさい！ジヨウユース行き
ますわよ！解放奥義！」

キャッセ・ラ・デフランス（守碎）

バギバギツ！

梅「グアっ!!（マギアーマーが一瞬で!）」

ビュン!

梅が吹っ飛ぶ

梅「いつてて、防御力だけじゃなくて攻撃力も高いな」

楓「流石の梅様もこの力には敵いませんか？」

梅「ああ今のままじゃな」

楓「？」

梅「解放する時が来たみたいだな」

楓「何を、解放するのですか？」

梅「レインフォースメントフェーズ2」

シユユン、

楓「フェーズ2?!」

梅「スロウバースト」

楓「スロウ、バースト?」

梅「レインフォースメントには2段階目の解放があるその能力は1
段階目の速さと引き換えにパワーを極限まであげる」

楓「なら!どのくらい上がったか見せてくださいまし!」

楓が攻撃を仕掛ける

梅「解放奥義、グランヴォルグ!!」

楓「なっ!（なんですの?!この超高質力のマギは?!）」

楓「なら力比べと行きましようか」

梅「いい度胸じゃないか」

フウウウン

二人からマギが溢れる

梅・楓「はああああ!!!」

カチャ!

梅「グラン!! マギナアアア!!!」

グワアアアアアアアアアアア!!!

楓「解放奥義!」

楓が片手を振りかざす

キヤツセ・ラ・アタック (攻砕)

ブワンツ!

梅「まじか! そんな簡単に!」

楓「いいえ! ギリツギリですわよ!」

シューー

楓の掌が焼ける

楓「今度はこっちから行きますわよ!

キヤツセ・ラ・デフアンスオーバーエンチャント」

梅「やばい!! 防御が間に合わない!」

楓「刹那崩し! 撃!!!」

楓が体制の崩れた梅の体制をさらに崩し攻撃を与える

梅「グアっ!!!」

ドローン!!!

梅が建物に吹っ飛ばされる

楓「トドメですわ!」

楓がcharmをガンモードに切り替える

梅「い、」

楓「グラン!! マギナ!!!」

グワアアアアアアアアア!!!

梅「グラン」

楓「何?!」

梅「ヴォルグ!!!!」

楓「っ! 押し負ける!」

梅「はあああああ!!!」

楓「きやああああ!!」

楓がぶっ飛ぶ

梅「これで終わりだな!、うっ!」バタン

アナウンズ「楓、梅リタイア!」

桜「やっぱりまだまだだな、でも確実に成長してる!」

To Be Continued

おまけ

梨璃「さあこのお話も19話まで来ましたねお姉様!」

夢結「ええ作者もよくここまで続けたものね」

百由「えーここで作者のリア友から質問が来ているわ」

梨璃「え?なんですか?」

百由「えーつとお前の話インフレえぐすぎひん?ほんで1話の文字数もはやSSじゃ無くない?これやったらSSじゃなくてLSじゃない?との事よ」

梨璃「確かにデゼスペロ編つてでかでかを書いて相手の強さほとんど分からないまま全員倒しちゃいましたもんね」

夢結「そうねルクシュリアなんて出番ほぼ10行くらいだったものね」

ルクシュリア「そうなのよ!」

梨璃「うわっ!びっくりした!」

ルクシュリア「なんで私があんなに早く退場なの?!ほかのデゼスペロはあんなに活躍してたのに!」

アヴァリーザ「そんなことを言うなら私もだ!charmも解放してねえし挙句の果てには素手で思いつきり殺されたんだぞ!まあ10行退場よりはマシかもしれないがな!」

ルクシュリア「喧嘩売ってんのあんた!そんなこと言うなら私はcharmで殺された分まだマシかもね!」

アヴァリーザ「うるせえ!私は相手の奥義で殺されたんだからお前よりマシだ!」

ソベルバ「私なんて食べられたのよ!」

アヴァリーザ・ルクシューリア

「お前は今でも出番あるからまだマシだろうが!!」

ルクシューリア「なんで私は相手の精神的な感じで倒されなきゃいけないのよ!確かに技使って殺されたけどもうちよつとあるじゃない!完全解放で殺すとか」

百由「あーそれについてはグロっぴが作者の推しだからまだ完全解放暖めてるって言ってたわよ」

ルクシューリア「どんな都合じゃー!!」

アヴァリーザ「結局ソベルバ以外全員美鈴様に還元されて美鈴様が強くなるって結局ソベルバしか勝たんじゃねえかよ!!」

夢結「二人とも!」

二人「?!」

夢結「どれだけ足掻いてももう出番なんてないのよ!」

二人「いきなりトドメ刺しにきやがった!」

ドン!終わり!

episode 20 恋歌VS一葉

アサルトリリイ20 The beginning of the
end

episode 20 恋歌VS一葉

叶星・一葉サイド

叶星「2対1劣勢ね」

一葉「諦めますか？」

叶星「諦める？そんなわけないじゃない！」

叶星が攻撃を仕掛ける

ガキンツ！

二人のcharmが軋り合う

瑶「私も忘れないで！」

バアン！

瑶が一葉の後ろから弾丸を放つ

カキンツ！

叶星「おっと！危ない」

瑶「まだまだ！」

瑶がcharmを剣に変形させる

叶星「ツ！」

瑶「はああ!!」

ガキンツ!!

叶星「くっ！（流石に分が悪い!）」

瑶「今！」

叶星「な!?!」

瑶「グラン・マギナ!!」

叶星「フフツ！」

叶星がcharmをガンモードに変形させる

バアン！

瑶「弾を打った?!」

弾丸が瑠の体の横に流れる
パチンッ!

叶星が指を鳴らす
プシユンッ

瑠「え?!」

一葉「弾丸と自分の位置を入れ替えた?!」

叶星「はあ!」

ドウン!

叶星の蹴りが瑠の横腹に炸裂する

瑠「うっ!このっ!」

瑠がcharmで叶星を突く

叶星「遅い!」

グイツ!

瑠「うわっ!」

叶星が突きを受け流す

叶星「よーいしよつと!」

瑠「きやあ!」

ドン!

一葉「背負い投げ?!」

叶星「武術は一応全部かじってるの」

一葉「流石叶星様、わかってはいたけど超ハイスペック!」

高嶺「フフ張り切ってるわね叶星」

梨璃「(ちよつと嬉しそう)」

一葉「瑠様!」

瑠「了解!」

叶星「何度やっても同じよ!」

瑠「そうかな!」

叶星「え?」

瑠「一葉、、、いくよ!」

一葉「はい!」

グレーダ「あの体制!」

フィー「フフツ」
瑶・一葉「ツインバースト・ザンナ（連撃双牙）」
瑶と一葉が同時に弾丸を放ち一瞬で剣のモードに変える
瑶「一葉！」
一葉「はああ!!」
叶星「早い！」
瑶と一葉の連撃が叶星を襲う！
グレーダ「あれ！私とフィーの同時技じゃねえか！」
フィー「教えたのよ便利でしょ！」
叶星「（一旦体制を建て直して）」
一葉「させません！」
ガキンツ！
一葉がc h a r mで銃弾を弾く
叶星「銃弾の進行方向が！まずい！」
瑶「はああ!!!」
恋歌「させないよ」
ガキンツ!!
恋花が瑶の斬撃を止める
瑶「なっ！」
一葉「恋花様?!」
恋花「危なかったね叶星！」
叶星「助かったわ恋歌！」
一葉「瑶様、」
瑶「？」
一葉「お願いします」
瑶「わかった」
一葉「ありがとうございますもう一つお願いが」
瑶「何？」
一葉「叶星様の相手をお願いします」
瑶「大丈夫かな？」
一葉「大丈夫です！あなたなら！」

瑠「わかった！」

一葉「では」

瑠「うん」

一葉「そうと決まったら！」

恋花「来な！一葉!!」

一葉「はい!!」

一葉「(恋花様は接近戦が得意、対処ならできる)」

恋花「(一葉が相手か〜一緒に訓練してたから一応対処はできると

も問題はそこじゃないあの子まだ力を隠してる!)」

一葉「竜胆!!!」

恋花「やっぱ!!」

一葉「と見せかけて！」

恋花「なっ！」

一葉「突撃!!!」

ガッキーーンツ!!

恋花「ちよっ！油断も隙もない！」

一葉「はあ!!」

一葉が蹴りを入れる

恋花「うわっ！（やっぱ蹴りの威力が前より上がってる）」

恋花が受け身をとる

一葉「まだまだっ！」

一葉がcharmを構える

恋花「全く休む暇がない！」

ガキンツ!

一葉「(相手に攻撃の隙を与えない!)」

一葉の連撃が恋歌を襲う

恋花「(攻撃出来ない!)」

一葉「今！」

ガンツ!!

恋花「ッ！」

一葉が恋歌の体制を崩す

一葉「グラン、」

恋花「そう来ると思ったよ！」

恋花の崩れていた体制が一瞬にして攻撃体制に移行する
ババババンツ!!!

恋花がcharmのモードを切り替え一葉に銃弾を撃ち込む

一葉の体制が崩れグラン・マギナの放出を中断する

一葉「やられた！（やつぱり厄介すぎる！恋歌様のフェイズトラン
センデンス・フォアモーメント）」

梨璃「あれは?!」

二水「恋花様の身体能力が一瞬格段に上がったような？」

フィー「フェイズトランセンデンス・フォアモーメント」

姫歌「フォアモーメント？ただのフェイズトランセンデンスじゃな
くて？」

紅巴「英語で一瞬って意味ですね」

フィー「そうこれはね、フェイズトランセンデンスを一瞬だけ使う
ことによつて身体の一部のマギを無限大にすることで身体能力を一
瞬だけ極限まであげる技だよ」

二水「なるほどフェイズトランセンデンスは使えば動けなくなりま
すが一瞬だけの使用なら反動も一瞬だけ」

フィー「うんでも、」

恋花「うっ！」

恋花の動きが一瞬止まる

姫歌「動きが一瞬止まった！」

フィー「そうやつぱり一瞬だけと言つても反動は残る、例え一瞬だ
けの反動でも戦いの時はその一瞬が命取りになる、そこが恋花ちゃん
の課題かな」

一葉「（やつぱりまだ使いこなせていない！叩くなら今！）」

恋花「今度はこつちからいくよ！」

一葉「(来るっ！)」

恋花「やああ!!」

ギンっ！

両者の刃が軋り合う

恋花「力上がってんじゃん！」

一葉「そちらこそ！」

両者の攻撃がぶつかり合う

一葉「はあ！」

一葉がcharmを振りかざし攻撃を仕掛ける

恋花「そこっ！」

ガンツ！

だが恋花が隙をついて攻撃体制を崩す

一葉「そんなっ！」

恋花「おつりやー！！」

ぐんツ！

一葉「ぐはっ！」

恋花が一葉の体を思いつき蹴る

恋花「よっしゃ！」

一葉「はあはあ、拉致があかない！…、あれをしましょうか」

恋花「ん？」

一葉「…、」

一葉が息を止める

恋花「あれって！」

一葉「…、」

ブンツ

恋花「?!!!!!」

一葉が一瞬で恋歌の目の前に現れた

恋花「ぐっ!! (重い！パワーが格段にあがってる！)」

ガキンツ！ガキンツ！

恋花「(やばい！防ぎ切れない！)」

一葉「…、!!!」

ギユンツ！

一葉が恋花に蹴りを入れる

恋花「くっ！」

恋歌がcharmを使ってガードする

一葉「、、、!!!」

バキンッ!

恋花「そんなっ!」

一葉の蹴りが恋花のcharmを砕く

梨璃「すごい、、、」

二水「なんですかあれ、、、」

フィー「無呼吸運動、、、」

藍「むききゅーうんどー?」

高嶺「無呼吸運動、人間の瞬発的に出る大きな力は大抵呼吸を止めて力を出すことが多い、それは息を止めた方が力が入りやすいから、でも呼吸つまり息継ぎをすることで力が出なくなる、」

フィー「そこが大きな隙になる、息継ぎのタイミングが動きと関係している場合は息継ぎをした瞬間、あるいは息を止めている時が、特定の行動をしている時と見切られて、反撃をされる可能性がある」

紅巴「でも無呼吸の場合はそれが無い、だから行動を読まれることも無いということですか」

高嶺「そう、そして無呼吸の間は常にフルパワーで攻撃を繰り出すことができる」

二水「攻撃に隙が全くない」

梨璃「でもそんなことを続けていたら疲労で倒れてしまうんじゃない、、、」

フィー「ええ、、、だからあの子の精神力は尋常じゃない」

一葉「、、、!!!」

恋花「うああああ!!!」

一葉が恋花を蹴り飛ばす

一葉「はぁーふうー!!!」

一葉が呼吸を開始する

恋花「あーあcharm壊しちゃって」

一葉「すみません、力が入りすぎました」

恋花「今度から気をつけなよー!全くcharmがないならあれや

るしかないじゃん」

一葉「？」

恋花「ふう、完全解放」

一葉「?!」

桜「へえ」

恋花「リバース・アクション（反転行動）」

一葉と恋花の周りにフィールドが出現する

一葉「何が起こったのですか？」

一葉が困惑する

恋花「来なよ」

一葉「（今接近するのはまずい、ここは遠距離で攻める!）」

一葉がcharmを変形させる

一葉「恋花様！避けてくださいね!」

一葉が恋花に照準を定める

恋花「あー大丈夫大丈夫、打てないから」

一葉「え？」

一葉がcharmを下げる

恋花「残念!」

一葉「?!」

恋花が攻撃を仕掛ける

一葉「くっ！（なんで私打たなかったんだ!）」

一葉が防御体制に入る

恋花「無駄だよ」

一葉「あれ？」

一葉が防御を解く

恋花「ほらっ!」

一葉「ぐはっ!!」

恋花の蹴りがまともに一葉の胴体に入る

一葉「ゲホッ!ゲホッ!（なんで防御を解いたんだ?!）」

桜「こりやえげつないな」

梨璃「何が起こってるんですか?!」

姫歌「攻撃しようとしたら途端にcharmを下げたり防御しようとしたら防御を解くなんて、一葉らしくないわね」

桜「一葉が自分でやってるんじゃない、強制的に全ての行動が逆になってるんだよ」

紅巴「逆？」

桜「そう逆だ、攻撃をしようものなら攻撃しないし防御しようものなら防御もしない、恋花の完全解放は敵の行動を逆にする能力だ」

高嶺「確かにすごい能力ね」

二水「強力すぎる」

恋花「そういうこと、だからさ降参してよ一葉」

一葉「嫌です」

恋花「でも今のおんたに勝ち筋ないよ」

一葉「勝ち筋ならありますよ」

恋花「え？」

一葉「今です！瑶様!!」

恋花「しまった！」

瑶「一葉待ってたよ、この力を使う時が来た、」

撃槍ランサ・ヴァルガ

瑶が槍状の高質力のマジを放つ

梨璃「あれは！」

ソベルバ「私のランツェー?!」

ギギギギツツツ!!!

恋花「威力が高すぎる！フィールドが持たない！」

ブウウウウン!!!!

ギャリーーーンツツ!!!

フィールドが割れる

瑶「一葉!!」

一葉「はああああ!!!! 竜胆!!!!」

びたっ!

その時2人は驚愕した

瑶「?!」

ガタンッ!

一葉「(なぜ私はcharmを離した?)」

瑠「解除したはずなのに?!」

一葉・瑠「攻撃ができない」

恋花「言つてなかつたね、あのフィールドただの防御壁だよ!」

一葉・瑠「は?はああああ!!!」

一葉「あんなフィールド張ぢ!?!?!」

恋花「うん笑」

瑠「フィールドが持たない!とか言つといて?」

恋花「う、うん笑」

桜「あははははっ!!!」

恋花「あははーなんかごめん」

フィー「あー見えてあの子戦略立てるの得意なのよね」

二水「まんまと騙されましたね」

桜「でも良く考えればそうなんだよな、完全解放は普通の技と違っ

て使用者が解除しなければ能力が継続し続ける」

紅巴「だから相手に解除されない」

一葉「これじゃあどうすることもできませんね」

恋花「諦めてくれた?」

一葉「はい」

瑠「一葉、、、」

一葉「私たちの、、、」

瑠「、、、」

一葉「勝ちです」

恋花「え?」

夢結「とつたわよ!」

一葉「お疲れ様です!夢結様!」

レギオンC「(あつ旗取るの忘れてた)」

to be continued

真島百由の補足コーナーリイ大百科

百由「今回は完全解放について説明するわね」

完全解放はリリイの奥の手と言うことは前にも説明したわね、でも完全解放には種類があるの

一つ目は領域系

相手を領域内に閉じ込め相手の能力を一時的に大幅に下げたり特殊な攻撃を相手にお見舞いできるわ！

二つ目は強化系

自分一部のステータスを最高の段階まで持つていくことができるの！梅のレイフォースメントがいい例ね

三つ目は一撃系

解放と同時に一撃必殺の技を繰り出す完全解放よ！

そして四つ目は催眠系

恋花の完全解放リバース・アクションは催眠系の完全解放ね催眠系は相手の五感を支配できるの

今回はここでおしまいよ！覚えておいてね！

episode 21 EDEN

アサルトリリイ21 The beginning of the
episode

episode 21 EDEN

フィー「で戦いに集中して旗を取るのを忘れたと」

レギオンC「はい、」

フィー「旗とるの忘れるとは何事なの！だいたいね」

桜「ありや1時間コースだな」

梨璃「あはは、」

グレーダ「よし！よくやったお前ら！」

レギオンB「ありがとうございます！」

グレーダ「何がいい？」

夢結「何が良いとは？」

グレーダ「勝った褒美だ！奢ってやる！」

灯莉「でも僕そんなに活躍してないよ」

グレーダ「大丈夫だよ細かいこと気にすんな！」

楓「皆さん何が食べたいんですの？」

夢結「ここはせーので行きましょう」

レギオンC「せーの！」

雨嘉「焼肉」

灯莉「焼肉！」

夢結「焼肉」

楓「焼肉！」

瑠「焼肉！」

一葉「焼肉！」

グレーダ「うわっ！満場一致で焼肉かよ！花がねえな！それでもリイか！」

リイか！

夢結「焼肉に生き！」

楓「焼肉に死ぬ！」

雨嘉「それが私たち！」

瑤「そ、それが私たち！」

一葉「レギオン！」

灯莉「B!!!」

グレーダ「あ、あいつ（桜）の影響か？」

松蔭桜、大好物、焼肉

グレーダ「わかったわかった！」

灯莉「どこに行くの！ツーカービ？牛丸？」

グレーダ「おいおい四天王ともあろうものが安い食べ放題に連れていくと思うか？」

楓「ま、まさか！」

夢結「そんな！」

雨嘉「嘘！」

一葉「まさか?!」

瑤「それももう言ったよ一葉、、、まさか!？」

グレーダ「驚きのレパトリー少なすぎんだろ！5分の3がまさかだよ！」

灯莉「高いところ!？」

グレーダ「高級店も高級店！ジュジュ苑だ！」

レギオンC「やったー!!」

桜「あはは、、、あっちもあっちで盛り上がってるな」

エンペラー「さてみんな！明後日の訓練に備えて今日は休みましよう！」

みんな「はい！」

桜「じゃあ私達は用事があるから、グレーダ、フィーみんなに飯作ってやってくれ」

フィー「おっけー！」

桜「じゃあ行こうかエンペラー」

エンペラー「はい♡」

エンペラーが頬を染める

梨璃「どこに行くんですか？」

桜「え？あーまあ遊びに行くんだよ！遊びに！」

梨璃「どこに遊びに行くんですか？」

夢結「梨璃！私たちはそろそろ寮に戻りましょう！」

楓「そそそ、そうですね！戻ってUNOでもしましょう！」

二水「い、いいですね！久しぶりに盛り上がりましょう！」

神琳「あらあらまあまあ、雨嘉さん」

雨嘉「な、何？神琳？」

神琳「今夜わたくし達もどうですか？」

雨嘉「え?!いきなりそんなこと言われても」

神琳「久しぶりにちよつと激しい雨嘉さんを見てみたいですわ」

雨嘉「、、やさしくしてね」

ミアム「ありや朝まで帰らんの」

鶴紗「だな」

梅「あはは！まだまだ元気だな師匠！」

恋花「お熱いね」

千香瑠「さあ私たちもご飯にしましょうか！」

夢結「それじゃあ私たちは焼肉なので」

梨璃「え?!お姉様UNOは?!」

夢結「帰ってからやりましょう！」

楓「すみません梨璃さん、、焼肉がわたくし達を待っているのです

わー！ー！！」

夜

叶星「UNO！」

梨璃「早っ！」

二水「こちらも負けませんよ！」

夢結「ただいま」

梨璃「あ、おかえりなさいお姉様！」

楓「最高でしたわ」

灯莉「焼肉最高」

姫歌「ちよつと灯莉食べすぎてないでしょうね」

灯莉「大丈夫大丈夫！腹八分目にしといたから、、ちよつとトイ

レ行ってくる」

姫歌「ダメじゃないの!!」

瑤「美味しかった」

一葉「ほんとに最高でしたね!」

鶴紗「いくらしたんだ?高かったろ」

夢結「170万2460円よ」

紅巴「え?!どれだけ食べたんですか?!

雨嘉「美味しすぎて止まらなかった、」

叶星「なんで師匠はそれを払えるのよ」

一葉「あの霜降り和牛が最高でしたね」

梨璃「いいな」

フィー「ほらほらみんな!明日は授業でしょ!」

梨璃「そうだった!」

二水「明日はヘルヴォルとグラン・エプレの皆さんと一緒に授業を受けるんです!」

グレーダ「おいフィーまだかよー!スマブラするんだろ!」

フィー「あーごめんごめん!可愛い弟子たちを寝かしつけてからね!」

藍「藍お風呂入りたーい」

一葉「そうだね入ろっか!」

フィー「じゃあお風呂入ったら寝るのよー」

みんな「はーい」

グレーダ「よっしゃーじゃあやるぞー!!」

ドタドタドタ!!!

フィー「フフフ!!見せてあげるわ!私の崖奪い空後!!!」

千香瑠「わ、私たちはお風呂に入りますか」

梨璃「そ、そうですね」

ミリアム「その前に行きたいところがあるのじゃが
アーセナル

ミリアム「百由様おるかー!」

百由「すーすー」

ミリアム「やっぱり寝とるの」

叶星「ねえ梅」

梅「なんだ叶星？」

叶星「今度私たちで合わせ技でもやってみない？」

梅「良いなそれ！でもなんでだ？」

叶星「今日あなたのレインフォースメントを見て思ったの私のスペース・スイッチとあなたの完全解放合わせれば強力な技になると思うのよ」

梅「なるほどなやってみるか！」

高嶺「紅巴さん」

紅巴「はい！」

高嶺「私たちもやってみない？合同技」

紅巴「え?!いいんですか?!私のようなリリイが高嶺様のような最高のリリイと一緒に技を打てるなんて！（そしてプロポーションが神!）」

高嶺「ええやってみましょう強力な技をね」

姫歌「ねえ灯莉私達も一回あれ試してみない？」

灯莉「別にいいけど定盛着いてくれるの？」

姫歌「こっちのセリフよ！全く！」

夢結「ふー」

楓「夢結様ちよつと」

夢結「ん？」

露天風呂

夢結「え？梨璃のヒュージ化について？」

楓「はい夢結様も不思議に思いませんか？」

夢結「確かにあの子にあんな力があつたと言うことは驚いたわね」

楓「そう！そこなんですのよ！現状ヒュージ化が可能な人物は3人、美鈴様、エンペラー様、そして梨璃さん、でもこの3人共通点がリリイであると言うこと以外全く見つからないんですのよ」

夢結「確かに共通点が無さすぎる、でも何かあるのは確かなのよね」

夢結が梨璃が暴走した時のことを思い出す

楓「夢結様？」

夢結「怒り？」

楓「え？」

夢結「梨璃は私がソベルバにやられた時怒りを爆発させた瞬間にヒュージ化したそしてエンペラーさんはヒュージに仲間を殺された怒りでヒュージ化した、だから多分トリガーは怒り」

美鈴「ほぼ正解かな」

夢結・楓「え？」

銀色の髪をなびかせ夢結と楓の間に現れたのは川添美鈴その人だった

二人のあたまが真っ白になる

美鈴「やはり百合ヶ丘の風呂は気持ちがいいし眺めがいい、そうは思わないかい？夢結」

楓「(全く気づかなかった?!いつ?!なんでここに?!)」

美鈴「焦らないでくれ楓」

夢結「なぜ、、あなたが、、ここにいるの！川添美鈴！」

美鈴「もうお姉様とは呼んでくれないんだね、、面白そうな話をしていたから少しね」

楓「な、何を、、しに来たんですの！（早く皆さんにー）」

美鈴「無駄だよ楓今私は君たち以外の時間を止めている」

楓「(なぜワタクシが思っていることを?!それに時間を止めるって?!)」

美鈴「別に大したことじゃない、君たちの話を聞きに来ただけだよ」

楓「話？」

美鈴「ヒュージ化について教えてあげよう」

夢結「え?!」

美鈴「さつき君はヒュージ化のトリガーは怒りだと言ったね」

夢結「ええ」

美鈴「正解だが条件はもうひとつある」

楓「もうひとつの条件？」

美鈴「カリスマ」

夢結「?!」

楓「カリスマ?!」

美鈴「カリスマ持ちのリリイは自分の体の中にノアールを持っていて怒りを爆発させた瞬間体内のノアールを呼び起こし覚醒する」

夢結「なんですって?!」

楓「でもエンペラーさんのレアスキルは天雷のはず!カリスマではないですわ!」

夢結「いやエンペラーさんは元々はカリスマ持ち天雷の覚醒はヒュージ化の後と桜師匠が言っていたわ」

美鈴「そうヒュージ化の覚醒条件はカリスマとリリイの怒り、その条件が全てクリアされることによって自分自身の闇が具現化する、それがヒュージ化だよ」

夢結「闇の、、具現化」

美鈴「言うなればカリスマがリリイにとってプラスの力ならリリイの怒り、つまりノアールはマイナスの力だ」

夢結「、、」

美鈴「楓、—1+1はなんだい?」

楓「0、、ですか?」

美鈴「正解だ、つまり0というのは原点なんだ」

夢結「原点、、まさか?!」

美鈴「その通りだよ夢結、カリスマ持ちのリリイは本来はヒュージ化こそが本来の姿なんだ」

楓「そんな!そんな、、ことって、、」

美鈴「ヒュージとリリイの力を持ち両方の支配者としての素質を持つものこそが本物のリリイとして君臨する、私は思うんだこの世のリリイは私たち本物だけで十分だと」

夢結「どういうこと、、」

美鈴「私はこの世界を創り直す、この有象無象が溢れる世の中を本物のリリイだけが生きる樂園、、そうEDENに!」

楓「それがあなたの目的ですね!」

美鈴「ああ、、おっとそろそろだね、それじゃあね」

ポチャン

風呂にひとつの波紋が浮かぶその波紋が広がる頃には美鈴の姿はもうなかった

楓・夢結「はあー！はあはあはあ!!」

楓と夢結の方の力が一気に抜ける

楓「夢結様！」

夢結「待って！」

楓「あっ！」

夢結「今は少し休ませて、」

楓「はい、」

To Be Continued

アサルトリリイ絆の章

アサルトリリイ

少女「お母さーん」

母親「どうしたの？」

少女「今日ねオムライスが食べたい！」

母親「良いわよくじゃあ買い物に行こうね」

ブウウウン!!!

少女「あれなに？」

母親「NG？」

少女「降りてくるよ！」

母親「え？」

飛行船が降り立つ

ドアが開き白衣をまとった人間が現れる

???'「初めましてわたくしNEO GEHENNA研究員長、平牧ノ

アと申します」

母親「何の用ですか？」

ノア「担当直入に言いましたよう、娘さんを私達に渡してください」

母親「何を言ってるんですか?!渡すわけがないでしょう！」

ノア「お金なら用意しますいくらでも」

母親「そんなものでうちの娘は渡さない！」

少女「お母さん、」

母親「大丈夫よ！」

ノア「そうですか、、やれ」

合図と同時にノアの後ろから無数の人間が現れる

母親「何するんですか！やめてくだつ！」

ブシュツ!

少女「お母さん!!」

ノア「連れていけ」

部下「はい」

少女「お母さん!!お母さん!!」

ノア「さあ行こうか」
ガシツ!

母親「行かせない!」

ノア「健気だな、ん? 私のスーツに血がついてしまったな」

母親「娘を返して!」

ノア「邪魔ですわね」

バァン!

少女「え? お母さん?」

ノア「処分しておけ」

少女「そんな、」

ノア「さあこれで準備は整った、」

院

百合ヶ丘女学

楓「りっりさー!ーん!!!」

梨璃「うわっ!! どうしたんですか楓さん!」

楓「んもー! もちろん毎朝恒例の愛のスキンシップでございますわ
」

ソベルバ「相変わらず発情期なのかしら?」

楓「うるさいですわね! 引きこもりは黙っててくださいまし!」

ソベルバ「はあ?! 引きこもりだア?!」

梨璃「まあまあ二人とも」

夢結「楓さんあなた私の梨璃に何をやっているのかしら?」

楓「げっ! 夢結様!!」

梅「あははっ! 朝から元気だな!」

鶴紗「全く飽きねえなお前ら」

梨璃「梅様! 鶴紗ちゃんおはようございます!」

鶴紗「おはよう」

梅「おはよう!」

二水「みなさー!ーん!! 号外! 号外です!」

梨璃「あっ! 二水ちゃん! おはよう!」

二水「あ、おはようございます」

ミリアム「なんじやなんじや朝から騒がしいのじや」

雨嘉「みんな元気だね」

神琳「もう少し静かにして欲しいものですわ」

梨璃「皆さんおはようございます!」

二水「そんなことより!号外です!号外!」

楓「もー何が号外なんですの?さっさと言いなさいちびっ子1号!」

二水「GEHENNAが!」

一同「え?!」

近未来の地球。人類は謎の巨大生命体「ヒュージ」の出現で破滅の危機にあった。全世界が対ヒュージという一事に団結し、科学と魔法の力「マギ」を集めた決戦兵器「CHARM(チャーム)」の開発に成功。CHARMは10代の女性に高いシンクロを示すことが多く、CHARMを扱う女性は「リリイ」と呼ばれ英雄視されていく。ヒュージに対抗するため、リリイ養成機関「ガーデン」が世界各地に設立され、拠点として人々を守り、導く存在となっていた。

これはそんなガーデンでの、立派なリリイを目指して儂くも美しく戦う、少女たちの物語、

アサルトリリイ絆の章

梅「GEHENNAがどうしたんだ?!」

二水「はい、2ヶ月前GEHENNAが活動を再開しました!」

夢結「そんな!GEHENNAは今お姉様の手により崩壊されED ENと名を変えたはず!」

二水「そうなんです、でもこれを見てください」

梨璃「NEO GEHENNA、元の研究員平牧ノアにより構成された小規模の研究グループ」

二水「そしてココ!」

楓「え?私たちの研究はリリイのサポートをする研究をすることをここに誓いますう?!」

鶴紗「こいつら!!」

桜「全くだ」

梨璃「桜師匠！」

二水「師匠も見たんですネ」

エンペラー「私も見たわよ」

梨璃「エンペラー師匠！」

桜「調査する必要があるみたいだな」

夢結「お姉様と何か関係があるのかしら？」

桜「分からない、でも可能性はあるな」

プルル、プルル

ミリアム「なんじゃ百由様？」

百由「みんな大変よ！ギガント級ヒュージ一体接近！一柳隊出撃して！」

一柳隊「了解！」

梨璃「でも今の私たちならギガント級くらいならノインヴェルト無しでも戦えます！私が行ってきます！」

楓「あーんお待ちくださいませ！梨璃さん！」

夢結「(なぜギガント級なのかしら、お姉様ならアルトラ級のヒュージかり・グアストの刺客を送ってくるはず、)」

外

楓「ギガント級ですか、今となつては雑魚もいいところですよ」

二水「でもなんでギガント級なんでしょう？」

梨璃「はああああ!!!」

??「助けて」

梨璃「え？」

梨璃の攻撃が止まる

鶴紗「梨璃！どうしたんだ!!」

梨璃「今声が出たんです！」

二水「声？」

梨璃「助けてって！」

夢結「何かありそうね、二水さん！行きましよう！」

二水「はい！」

鶴紗「助けて、か」

梨璃「お姉様！二水ちゃん！もしかしたら前のダンスレイフみたいにヒュージの中にいるのかも！」

二水「なるほど、なら倒さずに半分に割ってこじ開ける必要があるみたいですね」

夢結「そういう事なら私が切り裂くからその裂け目からこじ開けてちようだい梨璃！二水さん！」

梨璃・二水「了解！」

夢結「行くわよ!!ルナティックトランサー！」

夢結の髪が白く染まる

二水「梨璃さん！行きましょう！」

梨璃「了解！」

夢結「行くわよ！」

夢結がヒュージの体を駆け上がる

梅「早い！」

雨嘉「夢結様完全にルナティックトランサーを使いこなしてる！」

夢結が一番上に到達する

夢結「はあああああああ!!!!」

ブツツシヤヤヤ!!!!!!

ギガント「ぐおおお!!!!!!」

二水「今です！梨璃さん！」

梨璃「了解!!」

二人が裂け目に手を入れる

梨璃・二水「せーのっ!!!!」

ぐしゃっ!ぐしゃっ!!!!!!

神琳「裂けました!!」

雨嘉「あれは?!真ん中に女の子が」

梅「助けるぞ!鶴紗!ミリアム！」

梅が二人の手を掴む!

ミリアム・鶴紗「え?」

梅「縮地いいいい!!!!」

ミリアム・鶴紗「ぎゃああああ!!!」

鶴紗「梅様!!いきなり何するんですか!」

ミリアム「全くじゃ!びっくりするじやろうが!」

梅「ごめんごめん、よし外すぞ!」

ミリアム・鶴紗「了解!」

二人が少女をヒュージから切り離す

梅が少女を抱き抱える

梅「行くぞ二人とも!」

鶴紗「はいよ!」

ミリアム「了解じゃ!」

梅「縮地!」

夢結「よし!3人とも行ったわね!梨璃!二水さん!トドメよ!」

梨璃・二水「了解!」

梨璃・二水「はあああああ!!!!」

梨璃・二水「グラン・マギナ!」

ドウワアアアアン!!

ギガント級撃破

アーセナル

鶴紗「でこの子はなんなんだ?」

百由「解析するから待ってね」

百由「これって」

ミリアム「何かわかったのか?」

百由「リリイでもヒュージでもない、なんなのこの子、」

夢結「どういうこと?百由」

百由「普通リリイとヒュージのマギってそれぞれ違う特徴を持っているの、結梨ちゃんの時もそうやって判断したんだけど、この子はど
ちらのマギにも当てはまらないのよね」

鶴紗「NEO GEHENNA」

一同「え?!」

二水「関係がある?」

鶴紗「ブーステッドリリイ、、あれを作ったのもあいつらだ」

百由「なるほど、じゃあ鶴紗はこの子に何かしらのものを投与されていると言いたいよね」

鶴紗「はい、」

少女「う、うん、あ、」

梨璃「あ！気がついた！」

少女「だーれ？」

梨璃「私は一柳梨璃、梨璃って呼んで！あなたの名前はなんて言うの？」

少女「分からない」

夢結「困ったわね」

少女「だーれ？」

夢結「私は白井夢結、夢結で良いわよ」

鶴紗「安藤鶴紗」

雨嘉「王 雨嘉だよ！」

神琳「郭 神琳です！」

二水「二川 二水です！」

梅「吉村・t h i・梅だぞ！」

楓「楓・J・ヌーベルですわ」

ミアム「わしはミアム・ヒルデガルド・v・グロピウスじゃ！」

少女「いっぱいいるー」

梨璃「あなたはどこからきたの？」

少女「うーん、覚えてない」

梨璃「そっかあ、どうしよう」

シューイン

ドアが開く

高松「その少女について何かわかったかね」

百由「理事長代理！」

高松「一柳隊の諸君ご苦労であった」

一柳隊「はい！」

高松「真島くん早速だがこの少女について教えて貰おうか」
百由「了解」

高松「なるほどヒューズでもリリイでもないとはそれでは一体なんなのだろうか」

桜「あの胡散臭い研究機関じゃねえのか？」

梨璃「桜師匠！」

桜「よっ！」

エンペラー「この子がギガント級の中にいたって子ね」

鶴紗「多分あいつらの仕業だと思います、こういうことはあいつらの得意分野ですから」

桜「NEO GEHENNA、やっぱり調査する必要があるみたいだな」

桜「よし！エンペラー！私たち二人で調査に行くぞ」

エンペラー「了解！」

梨璃「私達も一緒に行きます！」

桜「いや！お前らはこの子と一緒にいてやれ」

梨璃「でも！」

桜「大丈夫！こういう事は師匠に任せとけ」

エンペラー「心配しなくても私たちなら大丈夫よ」

夢結「梨璃ここは師匠達に任せましょう、私たちはこの子のそばにいてあげましょう」

梨璃「そうですね、それじゃあお願いします！師匠、」

桜「おっしや！任せとけ！」

エンペラー「私たちに任せて！」

鶴紗「桜さん！」

桜「どうした？」

鶴紗「私も連れて行ってください」

桜「ダメだ！危険すぎる！」

鶴紗「お願いします！私はいつらに造られたリリイですから！あいつらのやっていることをこの手で止める責任がある！」

桜「わかったよ」

鶴紗「ありがとうございます！」

桜「ただし！」

鶴紗「?!」

エンペラー「私とエンペラーの言うことは絶対に聞くこと!何があつてもだ!いいな!」

鶴紗「わかりました!」

梅「気をつけて行ってこいよ!鶴紗」

鶴紗「はい!」

桜「行くぞ!」

エンペラー・鶴紗「了解!」

百由「さて!とりあえずこの子なんて呼ぶ?」

梨璃「え?」

神琳「確かに名前がないと不便ですわね」

梅「結梨の時は梨璃がつけたんだよな」

梨璃「はい!」

夢結「じゃあ今度は私が、」

1時間後

夢結「決まったわ!」

一同「おー」

夢結「この子の名前は!」

雨嘉「名前は!」

夢結「椿」

梨璃「椿!いい名前ですね!」

梅「それじゃ!今日からお前は椿だ!」

椿「つばき?」

二水「椿ちゃん!いいですね!」

ぐー

椿「お腹減った」

夢結「そうねそろそろお昼でも行きましようか」

ミリアム「わしも腹が減ったぞ」

二水「今日の日替わりランチは、、オムライスです!」

神琳「いいですね!オムライス」

椿「オムライス?、オムライス」
ザザッ!　　ザザッ!

「、さん!、さん!!」

梨璃「どうしたの?椿ちゃん」

椿「ううんなんでもない!」

食堂

椿「いただきます!はふっ!」

梨璃「美味しい?椿ちゃん」

椿「美味しい!!」

二水「いい食べっぷりですね」

椿「梨璃!あーん」

梨璃「え!?!あーん」もぐ

椿「美味しい?」

梨璃「美味しいよ」

夢結「椿、口にケチャップが着いてるわよ」

夢結がハンカチで椿の口をふく

梅「なんか結梨を思い出すな」

梨璃「そうですね!」

ソベルバ「ねえ梨璃」

梨璃「どうしたの?ソベルバ」

ソベルバ「ちよっと」

外

梨璃「え?椿ちゃんのマギ?」

ソベルバ「ええあの子のマギは私たちデゼスペロに似ている」

梨璃「え、、」

ソベルバ「本来デゼスペロは川添美鈴が元々ヒュージだった私たち
にリリーのマギを流し込み作られた人造リイ、、あの子にも同じも
のを感じる」

梨璃「NEO GEHENNAと美鈴様何か関係があるのかな?」

ソベルバ「分からない、でも今は鶴紗達の情報を待つしかなさそう
ね」

梨璃「そうだね、、ねえソベルバはここには慣れた？」

ソベルバ「え？ええまあぼちぼちつてところかしら」

梨璃「そっか良かった、、」

ソベルバ「ありがとね梨璃」

梨璃「え？」

ソベルバ「あんたが認めてくれなかったら、私は一生ひとりぼっちだったかもしれない、あんたには感謝しかないわ、、私がこうだから私は椿を守ってあげたい、ひとりぼっちにならないように」

梨璃「ソベルバ、、」

ドーーーーーッッッ
!!!!!!

梨璃・ソベルバ「?!」

梅「なんだ!!」

二水「なんですかあれ」

空に少女が一人浮かんでいる

??? 「はあ、、なんで私が鍵の回収なんだよ、ノアも人使い荒いよなあ」

梅「おい!!」

梅がcharmを振りかざす

??? 「あ？おっと!!」

梅「(梅の全力の攻撃を避けた?!)」

二水「はあああああ!!!」

??? 「おいおい!!いきなりなんだよー」

梅「こつちのセリフだ!!人の学校の校舎破壊しといてよくそんなこと言えるな！」

二水「あなたはなんなんですか!!」

??? 「俺はNEO G E H E N N A幹部オルトロン実験成功体の一人

ニヒル・アレンス」

梨璃「あれは誰?!」

椿「梨璃、、」

椿が梨璃の袖を引っ張る

梨璃「大丈夫だよ」

ニヒル「弱えなあああ!!!」

雨嘉「アルミュール!!!」

ガキンツ!!

ニヒル「あ?」

雨嘉「梨璃! 二水! 時間を稼ぐから椿ちゃんと神琳を安全な所へ!」

梨璃・二水「わかりました!」

ミリアム・夢結「はあああああ!!!」

ニヒル「よつと!」

ミリアム「逃げるなあ!!!」

夢結「ミリアムさん!」

ニヒル「大丈夫か? 隙しかねえぞ?」

ドウグ!!

ミリアム「がはっ!!!」

夢結「貴様ア!!!」

ギユンツ!!!

夢結が地面を力強く蹴りルナティツクトランサーを発動する

夢結「グラン・マギナアアア!!!」

ニヒル「どきやがれ! 邪魔だあああ!!」

ニヒルが素手で夢結のグラン・マギナを防ぐ

夢結「なんですって?!」

ニヒル「全くよお全員マギの使い方がなっちやねえなあ!、、本物を見せてやるよ」

二水「夢結様!! 危ない!!」

ニヒル「ゼノン・ディザスター!!」

ブウウウウウウン!!!

赤い高質力のマギが放たれる

二水「やるしかない!! はあああああ!!!」

二水「グラン・マギナ桜牙!!!」

マギ同士がぶつかり合う

ニヒル「ちったあやるじゃねえか、でもよおまだまだなんだよお!!!」

二水「押し負ける！うゝあゝあゝあゝあゝ!!!」

雨嘉「二水!!」

梅「梅達でやるしかないぞ！楓！雨嘉！」

雨嘉「はい！」

楓「わかってますわ！」

ニヒル「三人かゝ、一人3秒だな」

楓「何を言っがはっ！あゝ、あゝ、」

ニヒル「フンっ入ったな」

楓「あゝ、」バタン

雨嘉「楓!!あっ!!!」

雨嘉の首が掴まれる

雨嘉「アゝゝゝ、アゝゝゝ、アゝ 離して」

ニヒル「いいぜ」

ニヒルが首から手を離す

雨嘉「ガハアツ!!!」

ニヒル「おもしれえなお前、決めたよお前には10秒使うことにした！」

雨嘉「ぐはっ!!おえっ！」

ニヒル「オラ！オラ！オラ!!」

梅「レインフォースメント」

ニヒル「あ？」

梅「やめろゝゝ、」

ニヒル「あ？なんつった？聞こえねえな」

梅「やめろって言ってるのが分からないのかあああああ
!!!!!!!!!」

ニヒル「おー怖」

梅「殺す!!!はあああああ!!!」

梅が尋常ではないスピードで攻撃を仕掛ける

ニヒル「殺す？誰が誰を殺すって？」

ニヒルが梅の顔面を掴む

梅「離せえ!!!」

ニヒル「騒ぐんじやねえよ!!」

ぐいいいいい

梅「アッアッアッアッアッ!!!」

ニヒル「ちっ!くそつたれが、さてと」

梅「待て、」バタン

ニヒル「大分時間食っちゃまったな雑魚はほつといて行くとするか」
ブワッ!

夢結「完全解放!デモンメーゼ!!!」

ニヒル「何?!(こいつどこに隠れてやがった?!)」

夢結「はあああああ!!!」

ブシヤアアア!!!

夢結がニヒルの背中をcharmでえぐる

ニヒル「俺に傷をつけるか!!おもしれえ!!」

夢結「あなただけは梨璃の元に行かせない!」

ニヒル「そうかよ!」

ドスツ!

夢結「がはっ!まだよ!」

ニヒル「へえまだ立てんのか、じゃあこれはどうだ!!!」

ニヒルの蹴りが夢結を襲う

夢結「アッアッ!!!」

ニヒル「さっさつと攻撃してこいよ!ほらっ!!」

夢結「グラン・マジっ!!がはっ!」

ニヒル「おせえんだよ!!」

夢結「はあはあ!!!貴、様!!!」バタン

ニヒル「雑魚は死んどけ!クソが!」

ガシツ!

ニヒル「なんだと?!」

夢結「行かせない!!!絶対に!!!」

ニヒル「邪魔だあああ!!!」

夢結「がはっ!!!」

ニヒル「イラつかせんじゃねえよ!」

アーセナル

ニヒル「何?!ヒュージのマジ?!」

梨璃の顔に仮面が現れる

梨璃「ヒュージ化完了」シュン!

ニヒル「消えた?!」

梨璃「ぐん!!!」

ドウンツ!!!

梨璃がニヒルに一撃を食らわせる

ニヒル「なっ?!(早い!アイツらとは違うこれがヒュージ化か?!)」

梨璃「おそイ!!!」

ニヒル「ちっ!」

梨璃「はあ!!」

ガキンツ!

ニヒル「パワーはまあまあか!」

梨璃の刃がニヒルの手を弾く

梨璃「(隙ができた!今なら)」

ニヒル「ちっ!(流石にパワーは上がってるか)」

梨璃「(切れる!!!)はあ!!!」

ピンツ!

ニヒル「危ねえな」

梨璃「ナニ?!」

ニヒルが梨璃の斬撃を人差し指と親指のみで軽々と止める

梨璃「う、動かない! (なんて握力なの!)」

ぐぐぐぐつ!

ニヒル「全然動かねえなこれがヒュージ化つてやつか?期待外れも

いとこだな」

梨璃「ならこれでどうだ!!!」

梨璃がニヒルからほんの少しだけ距離をとる

ニヒル「?」

梨璃「オーバーストライクシステム100パーセント!!グラン・マ

ギナアアア!!!」

グワアアアアン!!!!

ニヒル「つまんねえな、、ほらよ
ふうん！」

梨璃のグラン・マギナを一瞬で消し去る

梨璃「まだ!!」

ニヒル「何?! (早い!)」

ぶしゆうう!!!

夢結が与えた傷口に梨璃がさらに刃を入れる

ニヒル「(本命はこっちかよ! さっきのエネルギーの放出は囮か
!!)」

梨璃「ソベルバ!! 残り時間ハ？」

ソベルバ「あと30秒！」

梨璃「仕留めル! はああああアッアッアッ!!」

ニヒル「調子に乗るなよ」

梨璃「え？」

ガシツ!!!

ニヒルが梨璃の顔面を掴む

ニヒル「調子に乗ってるやつは、、ムカつくんだよ
!!!!」

バリイン!!

梨璃「そんな、、」

梨璃の仮面が割れる

ソベルバ「そんな!! ヒュージ化した梨璃が通用しないなんて!」

梨璃「離して!!」

ニヒル「ギャーギャーうるせえよ、ぶち殺すぞ、、まあ殺すんだけ
どなあ!」

ニヒルの手のひらに赤黒いマギが集まる

梨璃「くっ!」

ニヒル「じゃあな、ゼノン・ディザスター」

ソベルバ「やめなさい!!! やめてえ!!!!」

ぶしゆう!!!

ニヒル「なっ!」

ソベルバ「腕が、、」

梨璃「え?!」

ニヒル「クソが!!なんだ!!」

???「ねえ」

ズウウウウン!!!!

ニヒルに圧倒的な圧力がかかる

ニヒル「!!!」(なんだこの威圧感!今までの奴らとは訳がちげえ!)

???「一回しか言わないわ、今あなたが引けば命だけは助けてあげ

る、でもここで下手なことしてみなさい、死ぬだけじゃ済まさない

わよ」

ニヒル「わかった、引こう、俺もバカじゃねえ力の差くらいわかる(こりやまともにやり合ったら確実に死ぬ)」

???「賢明な判断ね、さっさと帰りなさい」

ニヒル「ちっ!」フュンツ!

ニヒルが消える

着信音「テンテテテンテン」

???「そっちはどうだフィー」

フィー「こっちは大丈夫そっちは?グレーダ」

グレーダ「こっちは怪我人だらけだ樁の保護が終わったら手伝ってくれ」

フィー「あの子達怪我が酷いの?」

グレーダ「かなりな」

フィー「わかった保護が終わり次第そっちに行くわ」

グレーダ「了解」ぴっ!

梨璃「あの、あなたは?」

ソベルバ「気をつけなさい梨璃!こいつのマジ桜と同等の濃さよ!」

梨璃「え?!じゃあ四天王レベル!」

フィー「自己紹介がまだだったわね」

フィー

「私の名前はアリスレー・v・フィー、樟蔭桜と同じ百合ヶ丘四天王の一人あなた達の味方よ、桜に頼まれてあなた達になにかあったらよろ

しく頼むって言われてたのよ」

梨璃「そうなんですネ！ありがとうございます！」

フィー「ところで怪我はない？」

梨璃「はい、お姉様達は大丈夫ですか？」

フィー「命に別状は無いけど怪我がかなり酷いみたい」

梨璃「そんな、」

フィー「大丈夫よもう一人が救出に向かっているから」

梨璃「良かった！うっ！」

フィー「梨璃ちゃん！」

梨璃「あ、頭が、」バタン

フィー「ヒュージ化の後遺症ね、とりあえず保健室に行かないと！

(桜！早く帰ってきて！)

NEO GEHENNA本部

桜「やつと着いたか」

鶴紗「当然ですが表からは入れそうにないですね」

エンペラー「どうすれば」

桜「ガードマンが3人か」

鶴紗「サイズ行けっかな？」

エンペラー「え？サイズ？あれ?!鶴紗ちゃん?!」

桜「あいつ！何やってんだ！」

バンツ バンツ バンツ

鶴紗が峰打ちでガードマン3人を気絶させる

ズザーーーーー

桜「引っ張ってくる」

エンペラー「引っ張って来ますね」

鶴紗「こいつらが着てる服ひん剥いて侵入しましょう」

桜・エンペラー「有能」

ガードマン「交代だ！」

三人「了解」

鶴紗「上手く入れましたね」

桜「ああこのまま奥まで行くぞ」

エンペラー・鶴紗「了解」

鶴紗「(平牧ノアあいつだけは許さない!)」

桜「よしこのまま行けば奥にすぐ着くな」

???「あらあらあらあらこんなどころになぜガードマンがいるのかしらー?」

桜「ちよつとトイレに行きたいんですけど迷っちゃって」

エンペラー「そうなんですよー」

???「あらあらあらあら嘘着いちゃダメよー」

エンペラー「嘘じゃありませんよ本当にトイレを探してるんですけど漏れそうなんです!」

???「あらあらあらあら、あなた達が漏らしているのはくその尋常ならざる大きなマジじゃないの?」

三人「?!」

鶴紗「お前!誰っ!」

ザッ!

エンペラーが鶴紗の口を塞ぐ

鶴紗「エンペラーさん?」

エンペラー「はったりかもしれない」

桜「本当に知らないんですよくなんですか?マジって?」

???「ふーん本当に知らないのね、、じゃあ」

少女が鶴紗に襲いかかる

鶴紗「?!」

桜「鶴紗!!」

???「あらあらあらあらその反応!やっぱりあなた達リリィね!!」

桜「ここまで来たのにバレちゃったな!鶴紗!エンペラー!お前らは先に行け!私はいつの相手をする!」

鶴紗・エンペラー「了解!」

桜「さてと正体がバレちゃったなら仕方ねえ!あつたばかりですまねえが本気でやらして貰う!」

???「あらあらあらあら、リリィ風情が私に齒向かうの?」

桜「あははっ!そりゃこつちのセリフだよ!何冗談抜かしてやが

る」

??? 「今ちよつーとイラッて来たわね」

桜 「へえお前面白いな名前は？」

???

「私はオルトロン実験成功体完全適合者リリス・ヴァーナル」

桜 「オルトロン？なんだそれは」

リリス 「言ったところで意味無いわよ、あなたは死ぬんだから」

桜 「そうかよ、なら死ぬ前にお前をぶっ飛ばして何かを聞く必要があるな」

リリス 「戯言を!!」

リリス がものすごいスピードで桜を襲う

桜 「(早い!) でも!」

ドウグ!!

リリス 「がはっ!!」

ズザーーーーー

リリス が桜の蹴りで吹っ飛ぶ

リリス 「いい蹴りじゃないの、、、?!どこに行ったの?!」

桜 「よそ見してんじゃねえよ」

リリス 「(こいつ!いつの間にか?!)」

桜 「ぐんっ!!」

リリス の顔を桜が蹴る

リリス 「ちっ!」

桜 「? (私の蹴りを防いだ? 対応するのが早い)」

リリス 「(何こいつ! 私が攻撃を受ける度に骨が折れる、普通の人間ならまだしも、私みたいな強化リリイの骨を一撃でおるなんて! どんなパワーなの?!)」

桜 「なあ!」

リリス 「何かしら?」

桜 「さつきから骨折ってんのになんで動けるんだ?」

リリス 「私の再生速度は普通の強化リリイの10倍よ、骨くらい一瞬で治せるわよ」

桜「へえく、じやあさ」
シユン!

桜「これならどうだ？」

リリース「なっ!!」

ぶしゅう!!!

桜がリリースの腕を引きちぎる

桜「、、」

リリース「嘘でしょ?!」

シユルル!!

桜「(再生速度はやっぱり早いなこりや内蔵潰したとしてもすぐに動くな、少し次の行動にタイムラグがあるが毎回身体の一部を壊してたらキリがない、でもあいつ自体消しさえれば情報を聞き出すことが不可能になる、、さてどうするかな)」

NEO GEHENNA 最深部

エンペラー「ここが最深部」

鶴紗「早いところ情報を手に入れて帰りましょう!」

エンペラー「ええ!」

カチツ

パソコンにUSBを刺す

鶴紗「時間かかりそうですか？」

エンペラー「いやすぐ終わるから鶴紗ちゃんは少し見張りをしている」

鶴紗「わかりました!、、なっ?!」

エンペラー「どうしたの? ってえ!!」

二人の目に移ったのは恐ろしい光景だった

鶴紗「これは人間の女の子?!」

無数のカプセルの中に少女達が入れられていた

エンペラー「なんなのこれは!」

鶴紗「なんでだ、、なんで全員あの子と同じ顔なんだ!!」

エンペラー「なにこれ?!」

鶴紗「どうしたんですか!!、、これは!」

桜サイド

リリス「(なんなのこいつ強すぎる！意味が分からない、リリイってあんなに強いのか、、、まさか) あなた名前は？」

桜「樟蔭 桜」

リリス「?!(やつぱり！最強のリリイ！百合ヶ丘四天王の樟蔭 桜!!なんでこんなところに!)」

桜「だからさあ!!よそ見してる暇あるのかよ！」

リリス「ぐあ!!!」

桜「どうした？もう終わりか？」

リリス「さすがに四天王、強いわね」

桜「そりやどうも、私も急いでるんだ、、、そろそろ首取らせて貰うぞ」

リリス「何言ってるのよ、これからじゃない！」

桜「？」

リリス「charm解放!!」

桜「何?!charm!？」

リリス「穿て、、、ロングヌス!!!」

ブウウウウウウン!!!

リリスの周りに突風が吹き荒れる

エンペラー・鶴紗「桜さん!!お姉様!!」

リリス「あらあらあらせつかくい所だったのに、流石に四天王と複数人は相手が悪すぎる」

桜「懸命」

リリス「(もう一つ大きいマジ、あつちも四天王ね)」

エンペラー「お姉様！情報は手に入れました！」

桜「わかった」

カツン、、、カツン、、、カツン

リリス「(そして大きいマジがもう一つ)」

桜・エンペラー・鶴紗「?!」

桜「(でかい！四天王と同等！いやそれ以上か?!)」
??? 「全く騒がしい、、、」

リリス「あらあらあらあら、お目覚めかしら、、、ノア」
ノア「起きるのも無理ないさあんなに騒がれちゃあね」
桜「それはすまなかつたなもうちよつと寝てても良かったんだけどな」

ノア「そうさせてもらうよ」
すつ

桜「、、、」

ノア「君の首を切ってからじつくりとね」

桜の首筋に刃をかざす

エンペラー「(お姉様が！気づかなかった?!)」

桜「物騒なもん人の首に突きつけてんじゃねえよ」バリンツ！

桜が素手で刀を砕く

ノア「これはこれはとても乱暴な客が来たみたいだね」

桜「エンペラー！鶴紗！とりあえず!!」

ノア「?ぐっ!!」

ドーーーーーン!!!!

桜の拳がノアの腹に炸裂する

桜「撤退だ!!」

エンペラー・鶴紗「了解!」

リリス「待ちなさい!」

ノア「待てリリス」

リリス「ノア!」

ノア「いいんだニヒルの方も終わったようだ」

リリス「了解」

百合ヶ丘

「、、、さまー、姉さま!!、お姉様!!!」

夢結「う、、、はっ！梨璃!」

梨璃「良かった！お姉様!」ぎゅう

椿「良かった!!」ぎゅう

夢結「ええ私は無事よ、、、それより少し痛いわ」

梨璃「ああ!!ごめんなさい!」

椿「ごめん！」

グレーダ「目が覚めたな白井」

ファイ「良かった！」

夢結「あなた達は？」

グレーダ

「私は百合ヶ丘四天王サリアフル・グレーダだ」

ファイ

「同じく百合ヶ丘四天王アリスレー・v・ファイ」

夢結「四天王?!え?!」

梨璃「二人が皆さんを助けてくれたんですよ」

夢結「ありがとうございます！」

グレーダ「いいってことよ！」

ファイ「素直でいい子ね！」

二水「伝説の四天王が二人も!ぶはっ！」

雨嘉「二水!鼻血が！」

楓「皆さん元気そうですね」

梨璃「楓さん!!怪我は大丈夫ですか!？」

楓「ええ何とか」

梅「梅もいるぞ！」

夢結「梅!あなたも無事だったのね！」

神琳「騒がしいですね、まあいい事ですけど」

ミリアム「全くじやの！」

夢結「みんなも無事だったのね！」

グレーダ「全員マジで致命傷を防いでたんだな」

神琳「はい、でも危なかったですわもしお二人が来ていなかった

ら、い、

楓「ゾツとしますわね」

ガラガラッ!

鶴紗「梨璃!!みんな!!」

梨璃「鶴紗さん?!うわっ！」

鶴紗が梨璃の肩を掴む

鶴紗「ケガしてねえか?!大丈夫か?!」

梨璃「大丈夫ですよ!」

鶴紗「良かった!本当に、」

桜「グレーダ、ファイアーありがとうこいつらを守ってくれて」

グレーダ「まあ、お前の頼みじや断れねえよな」

ファイアー「そうそう!」

エンペラー「お二人のお陰で私たちも行動出来ました、ありがとうございます!」

ファイアー「相変わらずねエンペラーちゃん!」

エンペラー「ファイアー様も相変わらずお元気で何よりです」

桜「みんな早速だが情報を整理する」

一同「了解!」

桜「その前に梨璃、その子について話さないといけないことがある」

梨璃「え?椿ちゃんのこと?」

椿「?」

梨璃「クローン?」

鶴紗「椿を媒体にしてクローンを作り出す」

エンペラー「そしてこれが奴らの計画よ」

夢結「PROJECT OLT RON?」

エンペラー「そうこれは椿ちゃんの体内にだけ存在するオルトロン細胞というものを使った計画」

梨璃「オルトロン細胞?」

エンペラー「データによるとこの細胞はヒューズの力とリリイの力とは全く違う力を持ちその力は絶大」

百由「なるほど調べても分からないはずだわ」

鶴紗「そして平牧ノアは椿の細胞を量産して世界の全てを自分の手のものにしてしようとしている」

神琳「ニヒル・アレンスのあの力は椿さんの細胞を使っていたのですね」

梅「ニヒルは椿のことを鍵と言っていた」

エンペラー「多分だけあのギガント級の中に居たのは実験中に暴

走して逃げ出したってところかしら」

二水「椿ちゃんを回収しに来たのはそういう事ですか」

梨璃「許せない、、」

夢結「梨璃、、」

梨璃「一人の人間を使ってこんなことをするなんて絶対に許せない!!だから皆さん!あっ!」

一同の覚悟は決まっていた

梅「行くんだろ!」

梨璃「はい!」

夢結「全くあなたと来たらわがままにも程があるわよ、、でも今回は私達もわがままになろうかしら」

鶴紗「私もこれ以上私と同じ境遇の人間を増やしたくない!」

梨璃「やりましょう皆さん!奴らを止め!」

一柳隊「了解!隊長!」

梨璃「目的はNEO GEHENNAの作戦阻止!」

鶴紗

「そして!椿の為に!平牧ノアをぶっ倒す!!」

一柳隊「了解!」

桜「それじゃあ明日あいつらの城壊しに行くぞ!」

一柳隊「はい!」

フィー「桜ちゃん良い弟子を持ったわね」

グレーダ「だな」

フィー「思い出すわねあの時を」

回想桜「桜隊!出撃!!!」

グレーダ「あの時、、か」

夜

椿「梨璃」

梨璃「どうしたの?椿ちゃん?」

椿「エンペラーが言ってたの悪い人達が椿を狙ってるって、だから梨璃達はその人達を退治しに行くんだって」

梨璃「うん、椿ちゃんにこれ以上嫌な思いをさせない為に、、、」
椿「危ないことするの?」

梨璃「え?」

椿「椿やだよ梨璃達が傷つくのは」

梨璃「椿ちゃん、、、」

鶴紗「大丈夫だよ」

梨璃「鶴紗ちゃん、、、」

鶴紗「私達は悪い奴らのほつぺたビンタしに行くだけだから心配しなくても怪我なんてしないよ」

椿「そうなの?」

鶴紗「ああ」

椿「怪我しない?」

鶴紗「しないよ」

椿「梨璃も?」

梨璃「うん!」

鶴紗「心配してくれてるんだよな」ぎゅう

鶴紗が椿を抱きしめる

椿「うん、、、」

鶴紗「ありがとな椿」

椿「うん、、、」

ザザッ!

「、、、さん!!お母さん!!!!」

椿「うっ!」

鶴紗「椿?」

ザザザッ!

椿「うっ!うあああ!!!!」

梨璃「椿ちゃん?!」

椿「うあああああ!!!!」バタンツ」

梨璃「椿ちゃん!椿ちゃん!」

鶴紗「椿!!」

保健室

百由「発作ね」

梨璃「発作？」

百由「ええ椿ちゃんの中で記憶が蘇ろうとしているのかもしれない」

鶴紗「記憶が、、」

梨璃「蘇る？」

百由「ええ、でも記憶を掘り起こすと同時になにかが椿ちゃんの記憶の邪魔をしているの」

鶴紗「なんなんだ、、、一体」

椿「う、、あっ！」

梨璃「椿ちゃん！」

鶴紗「椿！」

椿「梨璃、鶴紗、、戻ったよ記憶」

梨璃・鶴紗「え!？」

椿「思い出したよ平牧ノアのこと、私のお母さんのことも全部」

百由「梨璃みんなを」

梨璃「はい」

夢結「平牧ノアに母親を?!」

椿「うん、、二年前あいつは私が持っている細胞オルトロン細胞を目的に私ごと細胞を奪いに来た、そして私の母さんは私を守ろうとしてあいつに殺された」

雨嘉「そんなことって、、」

ミリアム「ゲス野郎じやの」

椿「そしてあいつは私の細胞を使って二年間研究重ねNEO GE HENNAを設立し二人の適合者を抽出した」

梅「それがニヒル・アレンス」

桜「そしてリリス・ヴァーナル」

椿「あの子達は私の細胞を人間に投与して、人を超えた力を無理やり引き出されたの、だからあの子達も被害者なのよ」

桜「人間に無理やり、、」

椿「、、、」

鶴紗「心配すんな私達はあいつらをぶっ倒すよ、リリイとして何よりお前の友達として」

椿「鶴紗、、、」

夢結「私達も同じ気持ちよ」

楓「か弱いレディにここまでのことをやっておいて何も払わないなんてことさせませんわ!」

二水「そうですね!」

ミリアム「あのニヒルとか言うやつにも、たっぷりお返しをあげんとな!」

椿「みんな、、、ありがとう」

深夜

梨璃「Zzzz」

椿「梨璃ごめんね」

翌朝

梨璃「皆さん!!大変です!」

夢結「どうしたの梨璃、朝から騒がしいわね今日は大切な、」

梨璃「それより大変なんです!椿ちゃんが!」

夢結「え?!」

楓「え?!椿さんが一人で?!」

梨璃「はい、朝こんな手紙が」

手紙にはこう書いてあった

「一柳隊の皆さん突然抜け出してすみません、たくさんのご迷惑をおかけして本当にすみませんでした、この騒動は私の細胞が起こしたことよって起こってしまいました、だから私は自分でケリをつけに行きます、一柳隊の皆さんが守ってくれたように、私にはあなた達を守る義務があります短い間でしたがこんな私のことを守ってくれてありがとうございます。」

梨璃「私のグングニルの代わりにこれが置いてありました」

鶴紗「あいつ!なんで私達に言わなかったんだ!」

梅「言えなかったんじゃないか?」

鶴紗「え？」

梅「椿は自分に責任を感じていた、だからだよ」

雨嘉「じゃあ、NEO GEHENNAに一人で、、」

鶴紗「はっ！、、くっ!!」

鶴紗がcharmを持って走り出す

梅「鶴紗!!」

鶴紗「(椿!!今行くから!まってて!)」

梨璃「鶴紗さん!!」

鶴紗「あ?!」

梨璃「待つて!!」

鶴紗「早く行かねえと!椿が!!」

桜「だからって一人で行くのは違うだろ」

鶴紗「師匠!」

梨璃「みんなで行こう!椿ちゃんを助けに!」

鶴紗「あ、、うん!!」

梨璃「皆さん!私達は今からNEO GEHENNAに乗り込み椿

ちゃんを助け!」

一柳隊「了解!!」

梨璃「そしてなんとしてでも椿ちゃんを助けます!」

梅「じゃありーダー!いつものあれやつとくか!」

梨璃「はい!」

一柳隊!!!

全員「出撃!!!」

GEHENNA

同時刻NEOG

椿「着いた」

???「へえ鍵が自分の足で歩いてきてくれるなんてなあ」

椿「?!お前は!ニヒル!!」

ニヒル「お前、記憶が戻ったのか!」

椿「残念だけど話してる余裕はないの、私は平牧ノアを殺す!!そこを通してもらうわ!」

ニヒル「なら俺を倒してからにしろよ、あと」

椿「?!」

ニヒルの後ろから人影が現れる

リリス「あらあらあら誰かと思えば私達の元じゃないの!」

椿「元でも鍵でもない!!私は、、私は、、安藤 椿だ!!!」

ニヒル「安藤?、、なんだその名前?」

リリス「あなたは元らしく無様に散りなさい!」

椿「(来る!!) お願い梨璃!!力を貸して!!私に答えて!!グングニルウウ!!!」

ギユイイイン!!!!

グングニルの宝玉が光る

リリス・ニヒル「なに?!」

椿「お前たちの好きにはさせない!梨璃や鶴紗、一柳隊のみんなのために!」

ニヒル「おもしれえ」

リリス「あらあらあら、私達二人の相手を一人でするのかしら?」

椿「お前達の相手は私一人で十分だ!!」

ニヒル「じゃあ!!相手してくれよ!!椿ちゃんよおお!!!」

ニヒルが問答無用で攻撃を仕掛ける

椿「(早い?!) でも!!」

ニヒル「なに?!」

椿「はああああ!!!」

ニヒル「ぐはあ!!!」

椿の蹴りがニヒルに炸裂する

リリス「ニヒル?!」

椿「舐めないで!!あなた達の元の細胞は私と言うことを忘れないで!!」

リリス「あらあらあら調子に乗るのもいい加減にきなさい!!!」

椿「グングニル!!!」
ガキンツ!!!」

リリス「やはり元だけあってパワーがありますね!!!、でもあなた
戦闘は初めてのはずですけど?」

椿「何が言いたいのか?」

リリス「大した事じゃありませんのよ、、、ただやはりあなたの細胞
には刻み込まれているようですわね、、、殺戮の本能が!!!」

椿「?!違う!!!」

リリス「違わないですわ!!ならその戦闘力はどう説明すると言うの
ですか!!」

椿「そ、それは!」

リリス「あなたは人を殺す為に生まれて来た殺戮兵器なんですわよ
!!」

椿「違う!!!」

リリス「あなたの母親はあなたが生まれたから殺されたんですわよ
!」

椿「はっ!!!」

ニヒル「それくらいにしといてやれよリリス、早くこの親殺しを
とっ捕まえようぜ」

椿「親、、、殺し、、、そうか、私が生まれたからお母さんは死んだん
だ、、、私さえ死ねばお母さんは喜んでくれるかな?」

ニヒル「さてとこいつのメンタルもぶっ潰れたことだし、さっさと
ノアの元に連れていくか」

リリス「そうね、、、じゃあ」

リリスの手が椿に近づく

????「その汚え手で!!!」

????「私達の友達に!!!」

梨璃・鶴紗「触れるなああ!!!」

上空から二人のリリイが降り立つ

ニヒル・リリス「なに?!」

椿「梨璃、、、鶴紗、、、」

梨璃「全く一人で رفتちやうなんて水臭いよ椿ちゃん」

鶴紗「困ったことがあつたら言えよな、私達友達だろ」

椿「(ああ、いっぶりだろうこんなに大きな背中を見たのは)」

椿が二人の背中を母親の背中と重ねる

鶴紗「まあとりあえず！」

鶴紗・梨璃「助けに来たよ！椿ちゃん・椿!!」

椿「うん、ありがとう二人とも」

夢結「私達もいるわよ!!」

椿「みんな!!」

桜「よしお前ら!!到着だ!!ここからは自由に行動しろ!!思いっきり
暴れて来い!!」

一柳隊「はい!!」

ニヒル「ちっ!!こいつら!!待ちやがれえ！」

桜「おっと！お前らの相手は私達四天王の二人がやってやるよ」

エンペラー「光栄に思ってくださいね！」

桜「お前ら!!ここは私達に任せとけ！お前らは平牧ノアを!!」

梨璃「了解です!!行きましょう！皆さん！」

一同「了解!!」

ノア「ついに来たか、あれを使う時が来たようだね」

オルトロンシステム起動

アナウンス「オルトロンシステム起動、オルトロンシステム起動」

梅「なんだ?!」

二水「オルトロンシステム、まさか?!」

ザッ!ザッ!ザッ!

建物の奥から大勢の足音が聞こえる

夢結「あれは?!」

神琳「冗談キツイですね！」

楓「全くですわ！」

雨嘉「これ全員、椿のクローン?!」

ミリアム「こりやえげつないの！」

クローン達「私達はガーディアン研究所を守る、ガーディアン」

梅「夢結、これ何人いる？」

夢結「ざっと二千人ってどこかしら」

楓「なら一人で300人って所ですかね」

夢結「梨璃！鶴紗さん！あなた達は先に行きなさい!!この子達は私達が何とかするわ！」

梨璃「でも!!お姉様!!」

夢結「いいから行きなさい!!椿を助けるんでしょ!!、、私達を信じて」

梨璃「わかりました!!」

鶴紗「行こう!梨璃!椿！」

梨璃・椿「わかった!!」

夢結「さあ来なさい!ここから先は一步も通さないわよ!!」

ニヒル「ああああ!!!」

桜「はああああ!!!」

グウウウウウウン!!!

二人の拳が混じり合う

ニヒル「やるじゃねえか四天王!!」

桜「そりやどうもっ!!!」

桜が攻撃を仕掛ける!

ニヒル「早え!!!ぐあっ!!!」

桜の拳がニヒルの鳩尾に入る

桜「まだまだ!!」

ニヒル「なっ?!ぶはあ!!」

ニヒルの顔面に桜の回し蹴りが炸裂する

桜「おい!どうした!椿の力を使って私の可愛い弟子達を痛めつけたんだこれだけじゃすまねえぞ!!」

ニヒル「くそっ!(リリースが言ってた通りだ、あのカス共とは違う

!いや!違いすぎる!本当に同じリリースか?!)」

桜「ボーツとしてんじゃねえよ!」

ガシッ!

桜がニヒルの顔面を掴む

ニヒル「ぐっ!!」

バゴーリーーン!!!!

ニヒルの顔面を思いっきり地面に叩きつける

ニヒル「くそっ! (このままじゃ死んじまうじゃねえか!)」

リリス「死ぬ!!!」

エンペラー「甘い!!!」

エンペラーがリリスの攻撃を避け横腹に蹴りを入れる

リリス「ぐっ!!」

エンペラー「どうしたのかしら? あなたの力はそんなもの?」

リリス「(私達の攻撃が全く通用していない!)」

エンペラー「私はね怒っているのよ、普段は私も怒らない、、、でも今は怒っているこれがどういう意味かわかるかしら?」

リリス「フンっ! だからなんだって言うのよ! あなたが怒っているからなんだっ、、ぐぶあ!!」

エンペラーの拳がリリスの腹に食い込む

エンペラー「理解ができないと言うのは罪なものね、、震え!!! 狂雷(くるいかづち)」

リリス「ぐあああああ!!!」

リリスの体に尋常ではない電撃が走る

ニヒル「リリス!!」

桜「このまま地獄に送ってやるよ」

エンペラー「二人ともね」

リリス「あらあらあら!!!! 調子に乗るのもいい加減にして欲しいものね、、ニヒルあれをやるわよ!」

ニヒル「ここでやるのか?!、、、いやここでやるしかねえよなあ!!」

リリス「行きましようか!! ニヒル!!」

ニヒル「ああ!!」

リリス・ニヒル「解放!!!」

リ・ヴァイタライズ(活性化)

桜・エンペラー「?!」

桜「マギが濃くなつていやがる!!」

エンペラー「このマギ!今の私達以上!」
プシュン!!

桜「消えた?!」

ブオン

ニヒル「、、、」

桜「(後ろっ?!)がはっ!!」

ニヒルの拳が桜に炸裂する

エンペラー「(あのお姉様に一撃を?!)」

リリス「ボーツとしてる場合かしら?」

エンペラー「(しまった!)あがつ!」

ニヒル「ほらほらあああ!!!」

桜「ぐあっ!ぶはっ!」

ニヒルの連撃に桜が翻弄される

エンペラー「お姉様!!」

リリス「だからああ!!よそ見すんじやねえよ!」

エンペラー「うあああ!!!」

エンペラーが壁に叩きつけられる

桜「エンペラー!大丈夫か?!」

エンペラー「はい、、、何とか」

桜「細胞が活性化した瞬間尋常じやねえほど強くなりやがった」

エンペラー「あれがオルトロン細胞の本来の力」

ニヒル「べらべら喋ってんじやねえよ!」

ニヒルが構える

リリス「やっちゃって!ニヒル!」

ニヒル「ゼノン!!!」

桜「咲け、、、」

ニヒル「デイザスタアアア!!!!」

桜「キルシユブリユーテ」

ドウウウウウウン!!!

エンペラー「お見事ですお姉様」

ニヒル「てめえら！手え抜いてたのか!!」

桜「は？お前バカか？まずは相手の出方を伺い相手の手を調べるそれが戦いの基本だ、そしてお前達を殺して本当に私達にデメリットがないかを見極める」

ニヒル「まさか！俺たちの攻撃を食らったのは！」

桜「あれは久しぶりに良い攻撃だったな、確かに早かったし私もほんの少しだけ痛かった、認めてやるよお前は梨璃達より強いよ」

エンペラー「まあまあでしたね」

ニヒル「たりめえだ！あんなカス共と同じにすんじゃねえ！」

桜「でも、、ここはお前より私の弟子達の方が強い！」

そう言つて桜は自分の親指で心臓をさす

ニヒル「何を言つてやがる！」

桜「お前リリースが死んだ瞬間絶望したんじゃねえか？勝てないつて」

ニヒル「んなわけねえだろ！」

桜「じゃあなんで手が震えてるんだ？」

ニヒル「何?!」

ニヒルが自分の手を見る

桜「怖いのか？」

ニヒル「そんな、、訳が！（足が動かねえ）」

その時ニヒルが感じたものは死に対する恐怖それだけだった

桜「それじゃ」

エンペラー「待つてくさいお姉様、ここは私にやらせてくさい」

桜「わかった」

エンペラー「殺す前にひとつ聞くわ」

ニヒル「なんだよ」

エンペラー「平牧ノア、やつの力を教えなさい」

ニヒル「知らねえな、、」

エンペラー「そう、、ならもういいわ」

ニヒル「すまねえなノアあとは一人で何とかやってくれ、こいつら

！」

神琳「え?!」

楓「なんですって?」

夢結「ただしみんなのありったけのマジを使うことになるわ!」

雨嘉「大丈夫!!」

神琳「望むところですよ!」

ミリアム「その方法はなんじゃ!」

夢結「マジを使つてこの子達の足を止める!行動出来なくなったところを一気に叩くわよ!」

一同「了解!」

夢結「梅!雨嘉さん!この子達を中心に集めて!」

雨嘉・梅「了解!」

梅「行くぞ雨嘉!!」

雨嘉「はい!!」

雨嘉・梅「完全解放!」

雨嘉「アルミュール!!!」

梅「レインフォースメント!!」

雨嘉と梅がクローン達周りを高速で周り始める

雨嘉「梅様!!」

梅「おう!!」

雨嘉・梅「はああああ!!!」

グウウウウウン!!!

クローン「これは、何?」

クローン達が後ずさりをする

夢結「そう、そうやってこの子達を1箇所を集める」

クローン達が1箇所に密集する

夢結「今よ!!神琳さん!!」

神琳「了解!完全解放!ジ・グランデ!!!」

夢結「ミリアムさん!!」

ミリアム

「任せろ!!グラン・マギナ・ザ・ブレイク!」

夢結「梨璃達を助けに行きましょう！」

桜「待て！」

夢結「え？何故ですか？早く行きましょう！」

桜「ダメだ」

雨嘉「なんで！」

夢結「冗談を言っている場合じゃありません！」

桜「冗談じゃないよ、あの戦いはあいつら3人任せる、、あいつらがやらないと意味がない、私はあいつらの師匠だ弟子が成長する機会を壊すわけには行かない」

梅「大丈夫だ！梨璃達は必ずやってくれる」

神琳「はあ、理由はあるんですの？」

梅「梅達の仲間はそんなにヤワじゃ無い！これが理由だ！」

楓「まあ、信じるしかなさそうですわね」

二水「そうですね！」

NEO GEHENNA最深部

梨璃「ここが最深部、、」

鶴紗「来てやったぞ平牧ノア!!」

パンツ パンツ パンツ

奥から拍手が聞こえる

ノア「いやー素晴らしい、実に素晴らしい」

梨璃・鶴紗「?!」

ビクッ!

椿がノアの声に反応する

ノア「まずは、、」シュンツ!

鶴紗・梨璃「消えっ！ガハッ!!」

ドウグッ!

ノア「ごあいさつだ」

椿「梨璃！鶴紗！」

ノアの拳が梨璃と鶴紗のに炸裂する

ノア「フツ、、ん？（拳が？）ガハッ!!」

鶴紗「挨拶だつてよ梨璃」

梨璃

「挨拶されたら、挨拶を返すのが礼儀だよね」

二人の回し蹴りがノアに炸裂する

ノア「ほう、ここまでとはね」

鶴紗「すううう、」

鶴紗が大きく息を吸う

鶴紗「行くぞ!! 梨璃!!」

梨璃「よしっ!!!」

ぐん!!!!

二人が思いつきり地面を蹴りノアに攻撃を仕掛ける

梨璃「はああああ!!!」

バァン!!!

梨璃の蹴りがノアに炸裂しすかさずcharmで追い討ちをかける

ガキンツ!!

ノア「強い!」

シュンツ!

鶴紗「グラン、」

ノア「(後ろか?!)」

鶴紗「マギナアアア!!!」

グワアアアアアアアン!!!!

ノア「ぐあっ!」

ドサツ!ズザーー!!!

ノア「、」

梨璃「まだまだ!!!」

ノア「ん?!」

梨璃「吹っ飛べええええ!!!」

ノア「ぐっ!!!」

梨璃の膝蹴りでノアが空中に吹っ飛ぶ

梨璃「鶴紗ちゃん!!!」

ノア「何?! (早い!!)」

鶴紗「何が言いたい!!」

ノア「分からないかな? 私はこの細胞を使って世の中に私の力を見せつける!そして全世界は戦いを私に仕掛けるだろう、それが目的さ、私にとって幸せな世界、それは戦いの絶えない、無秩序で混沌とした世界だ!」

ノア「だから椿! そのためには君が必要だ! 君さえいれば私の究極の力は衰える事はない! 君さえいれば永遠の最強が手に入る!! これほど幸せな事があるだろうか!!! 否!! 無い!!!」

鶴紗「そんなことのために椿を一人の人間を使おうとしてんのか!!!」

椿「誰があなたのためになんか!!」

ノア「もし!!」

椿「?!」

ノア「君が私に協力すると言うなら、この二人を殺さずに見逃してやってもいい」

椿「?!」

鶴紗「おい! 椿話に乗るな!! 絶対にダメだ!」

ノア「さあどうする? 君次第でこの二人は生きるかもしれないし、死ぬかもしれない」

梨璃「椿ちゃん!!! ダメだよ! やめて!!」

椿「、、、わかった!」

鶴紗「おい、、、椿!! やめろ!! ダメだ!!」

ノア「少しうるさいな!!!」

ノアが鶴紗に殴りかかる

椿「やめて!!」

ノア「?」

椿が膝をつく

椿「あなたに、、、協力します、、、だからその二人を助けてください、お願いします」

ノア「決まったようだね、行こうか」

ノアが椿の手をとる

梨璃のcharmから黒いグラン・マギナが放出される

ノア「黒い？ 奴のマジと同じ!! 川添美鈴!!」

ソベルバ「梨璃!! やめなさい! これ以上やったら人間に戻れなくなる!!」

梨璃「グアアアアア!!!」

鶴紗「梨璃!! やめろ!!! 頼む!!」

鶴紗が梨璃を抑えつける

ソベルバ「どうすればいいの、、、」

椿「私の細胞なら打ち消せるかもしれない」

ソベルバ「え?」

椿「私の細胞を梨璃に投与する!」

鶴紗「わかった! やってみよう!」

梨璃「グアウ!! アアア!!!」

椿「私の血を梨璃に」

鶴紗「ありがとう椿」

鶴「うん!」

鶴紗「落ち着け! 梨璃!!」

梨璃「ごくっ!」

どつくん! どつくん!

梨璃「うっ!! はあはあ、、、」

鶴紗「戻ったか梨璃!」

梨璃「はい、、、 何とか」

ソベルバ「椿が止めてくれたのよ」

梨璃「ありがとう椿ちゃん!」

椿「ううん 梨璃が無事でよかったよ」

梨璃「うん!、、、 あれ? 私のマジが」

鶴紗「これは?」

椿「適合したんだわ!」

梨璃「適合?」

椿「そうあなたがオルトロン細胞の本物の適合者よ」

梨璃「私が、、、 本物」

ノア「何故だ！何故貴様が適合者なんだ！私の方が私の方がこの細胞を使いこなせる！」

鶴紗「違うな」

ノア「なに?!」

鶴紗「選ぶのはお前じゃねえ！選ぶのは椿だ！椿はお前を選ばなかった！椿は梨璃を選んだんだ！」

ノア「言わせておけばああああ!!!!」

梨璃「鶴紗ちゃん離れてて！」

鶴紗「おう」

ノア「一柳いいいい!!!!」

梨璃「遅い」

ノア「なっ！」

梨璃「はああ!!!!」

バゴーン!!!!

ノア「こいつ、、、!?」

梨璃「にぶいですね」

ノア「貴様！」

鶴紗「おい私の事も忘れんなよ！」

ドウン！ドウン！ドウン！

鶴紗がノアの背中に三発入れる

ノア「カハッ！」

梨璃「さあもうあなたに勝ち目は無い！諦めて！」

ノア「諦める？フフフツ！フハハハハ!!!!」

鶴紗「何がおかしい！」

ノア「これからじゃないか！戦いは！これからだ!!見せてやろう私の最後の手を！」

鶴紗・梨璃「?!」

鶴紗「マギが重い！」

梨璃「どんどん濃くなっていく！」

ノア「行くぞ！リミッター解除！」

梨璃「来る！」

ノア「はああああ!!!」

鶴紗「ついに本気で来るか」

梨璃「さあ行こう！鶴紗ちゃん！私達の本気見せてあげよう！」

鶴紗「ああ！私達の本気であいつの本気を叩き潰す！」

ノア「がああああ!!!」

ブンっ!!

ノアが尋常ではないスピードで二人に迫る

鶴紗「梨璃！」

梨璃「うん！」

二人が同時にノアの攻撃を避ける

鶴紗「もうてめえの速さには慣れたんだよ！」

ノア「黙れエ！」

ノアの蹴りが鶴紗を襲う

鶴紗「そんなもんか？」

ノア「何?!受け止めた?!」

鶴紗「そんな蹴り受けなれてんだよ！」

ノア「ガハア!!」

鶴紗のcharmがノアに叩きこまれる

梨璃「はああああ!!!」

ダダダダダダッ

ノア「ぐううう!!!」

梨璃の連撃が炸裂する

梨璃「私たちは負けない！」

ブンっ!!

ノア「ぐっ！」

鶴紗「お前みたいなゲス野郎に！」

梨璃・鶴紗「負けてたまるかあ!!」

ノア「調子にのるなあああ!!!」

ガンッ!!

梨璃・鶴紗「ぐっ!!」

ノアが二人の顔面を地面に擦り付ける

梨璃・鶴紗「くっ!!!」

鶴紗「(上がらねえ!!!)」

梨璃「ああああ!!!」

椿「離せええええ!!!」

グサア!!!

ノア「ぐうううっ!!!椿貴様!」

鶴紗「椿!!」

ノアにグングニルが刺さる

椿「梨璃!鶴紗!私も戦うよ!私は落とし前をつける!」

ノア「どけえええ!!!」

椿「アッアッアッアッ!!!」

ノアが椿を振り払う

ノア「よこせえ!!貴様の細胞を!!!」

椿「今よ!!二人とも!」

ノア「何?!(私の下に?!)」

鶴紗・梨璃「吹っ飛ばえええ!!!」

ノアを上空に蹴りあげる

ノア「貴様らあああ!!、、、何?!!」

鶴紗・梨璃

「グラン・マギナ!!ツインドライブ!!!」

ノア「この程度!!」

梨璃・鶴紗「はあああああ!!!!!!」

ノア「ぐうううっ!!!何故だ!何故邪魔をする!私の思う素晴らしい

世界の創造の邪魔をするなああ!!」

梨璃「そんな世界誰も望んでいない!」

鶴紗「目の前に悪があるのなら私達は全力でその邪魔をする!そ

れが!」

梨璃・鶴紗「私達リリイだ!!」

ノアが全力で二人の攻撃を防ぐ

鶴紗「椿!!!」

ノア「何?!!後ろか?!!」

ノア「なんだ？」

梨璃「川添美鈴について何か知っているんですか？」

一同「?!」

夢結「なんですって?!」

ノア「知っている、、、と言ったら？」

梨璃「教えてください！全部！」

ノア「、、、いいだろう、川添美鈴、やつは」

シユフィンツ!!

ノア「あ、、、なん、だと」

ノアの首が切り落とされる

???'「喋りすぎだよノア」

梨璃「?!」

夢結「何故、、、あなたが！美鈴お姉様！」

美鈴「おしゃべりな口を塞ぎに来ただけさ」

桜「じゃあ殺されに来たって言う解釈でいいな？」

美鈴「今回は戦うために来たわけではありませんよ桜師匠、、、じゃ

あねー柳隊の諸君」

夢結「待って！」

梨璃「お姉様！」

夢結「、、、梨璃！よくやったわね」

梨璃「、、、はい！」

桜「じゃあみんな！帰ろうか！百合ヶ丘に！」

みんな「はい！」

こうして私達は百合ヶ丘に帰還しました、椿ちゃんは自分の細胞を世の中のために役立てるためにアーセナルで研究をするそうです

夜

二人のリリイが星空を見上げていた

梨璃「ねえ鶴紗ちゃん」

鶴紗「ん？」

梨璃「星綺麗だね」

鶴紗「ああ」

椿「梨璃、鶴紗」

梨璃「椿ちゃん！」

椿「まだお礼言ってなかったね」

椿「ありがとう」

鶴紗「うん」

梨璃「お礼なんていいのに」

椿「そんなわけには行かないよ、私のわがまま聞いてもらったんだから」

梨璃「そっか」

鶴紗「そういえば椿」

椿「どうしたの？」

鶴紗「お前の本当の名前ってなんなんだ？」

椿「あ、私の名前は、、忘れちゃった！」

鶴紗「え？」

椿「私の名前は椿！安藤 椿だよ！」

鶴紗「そっかお前が言うならそうなんだろうな」

梨璃「じゃあ！椿ちゃん！これからもよろしくね！」

椿「うん！」

END

episode 22 高嶺ズ・オペレーション

アサルトリリイ22 The beginning of the
episode 22 高嶺ズ・オペレーション
end

前回までのアサルトリリイ

合同訓練1日目が終了し私達は身体を休ませるために皆さんで入浴をする事に、ですが二人で話していたお姉様と楓さんの前に美鈴様が現れEDENの目的は世界をカリスマ持ちのリリイだけが生きる世界に創り直すと言うことが発覚しました。

梨璃「そんな！美鈴様が?!」

夢結「ええ」

楓「わたくしと夢結様の前にいきなり現れて」

夢結「川添美鈴はこの世界を創り直すと言っていたわ」

神琳「創り直す、」

雨嘉「どういう意味なんだろう」

一葉「どうあれカリスマ持ちのリリイが狙われる、これは确实です」

梨璃「そうですね、」

叶星「ほんと息つく暇もないわね」

グレーダ「なるほどな」

高嶺「でも私達にできることは訓練を頑張ることくらいしかできないわ」

ミリアム「そうするしかなさそうじゃな!」

梨璃「明日の訓練頑張りますよ!!」

みんな「うん!」

夜 訓練所

二水「ふう、」

二水がマギを高める

二水「グラン・マギナ!!!桜牙!!!」

スン!

二水「やっぱりダメですね、、、どうすれば」

回想梅「力を抜くことが大切なんだぞ！」

二水「力を抜く」

恋歌「なーにしてんの！」

二水「恋歌様！」

恋歌「寝ないと身体壊すよー」

二水「、、、」

恋歌「なんか悩み事？」

二水「、、、はい」

恋歌「言ってみ」

恋歌が二水の隣に座る

二水「グラン・マギナ桜牙が完成しないんです」

恋歌「桜さんのやつか！あれすごいよね〜あれを二水はやろうとしてるんだ」

二水「はい、でもまだ未完成なんです、桜師匠の桜牙と同等の威力が出せなければいけないのに」

恋歌「なるほどね」

二水「これからも敵はどんどん強くなって行きますだから私達も強くならなければならぬのに」

恋歌「大分焦ってるね、まあ力抜きなよ」

二水「力を抜く、梅様もそれを言っていました、正直全然分かりませ
ん」

恋歌「そうだな〜楽に行こうってことかな」

二水「楽？」

恋歌「そうそう！何事もね！」

二水「何事も」

恋歌「じゃあおやすみ！」

二水「おやすみなさい」

二水「どうすれば、、、」

朝

桜「さあみんな！合同訓練2日目だ！先日美鈴が来たという事は聞

いた、みんな授業があつたと思うが時間がない！私が無理言つて訓練にしてもらつた、お前ら！気張つて行けよ！」

全員「はい！」

桜「よし、じゃあ早速準備に取り掛かれ！今日は

レギオンAとレギオンCの試合だ！」

梨璃・叶星「はい！」

桜「試合は10分後に開始する！」

高嶺「叶星」

叶星「どうしたの？高嶺ちゃん」

高嶺が叶星の手を取りあごクイする

高嶺「あなたと戦うのちよつと嫌だわ」

叶星「ちよつと高嶺ちゃん！恥ずかしい、」

二水・紅巴「ぐはっ！」バタンっ！

梨璃「あー！！二水ちゃん！」

姫歌「ちよつと！紅巴！」

桜「へー面白いじゃねえか」

夢結「何がですか！あーもうちよつと二人とも！早く起きなさい！

試合が始まってしまおうわよ」

レギオンAサイド

梨璃「二水ちゃん！今回の作戦をお願い」

二水「はい！まず今回は攻守の切り替えがしやすい陣形で行きます、アタッカーは藍さん、姫歌さん、梨璃さん、

そしてディフェンスは高嶺様、

紅巴さん、そして私です、梨璃さんは戦闘に入った瞬間にヒュージ化を解放してください」

梨璃「了解！」

二水「そして今回一番気をつけなければいけないのは恋歌様の完全解放リバース・アクションです正直あれを使われたら一人は完全に落とされます」

姫歌「確かにあれは厄介ね、どうすれば攻略できるのかしら？」

紅巴「そうですねあれを攻略しない限りは私達に勝ち筋はないに

等しい、」

二水「そして恋歌様は必ずアツカーとしてこちらの陣地にやっ
てきます、そこでの相手を」

高嶺「それなら私に任せてはくれないかしら」

姫歌「え?!何か攻略方法があるんですか?」

高嶺「ええ、とっておきの攻略方法がね」

藍「あのね」

二水「?どうしたんですか藍さん?」

藍「千香溜にはぜーつたいに気をつけないとダメだよ!」

二水「それはなぜですか?」

藍「すーっごく強いから!」

二水「(レギオンメイトの藍さんがこういうんだ間違えない!)わか
りました!梨璃さん、千香溜様の相手を任せます!」

梨璃「わかった!」

二水「そして初めの動きは相手の動き方を十分に見て行動してくだ
さい!」

全員「了解!」

二水「それじゃあ梨璃さんお願いします!」

梨璃「うん!レギオンA出撃!」

高嶺「二水さん」

二水「はい?」

高嶺が二水に耳打ちをする

二水「わかりました」

桜「作戦は決まったみたいだな、それじゃあ!

試合開始!」

二水「皆さん!まずは様子を見てください!

その後また指示をっ!」

梅「スロウ、バースト」

ギユワアアアアン

!!!!

姫歌「え?!」

二水「皆さん！避けて！」

全員がスロウバーストを間一髪で避ける

梨璃「訓練所のど真ん中に?!」

姫歌「風穴ぶち空けられた?!」

叶星「みんな！攻撃開始！」

二水「来ます！デیفエンスは旗を守ることを最優先！アタッカーは敵を迎え打ってください！」

全員「了解！」

恋歌「そんな暇があるかな？」

ミリアム「全くじゃ！」

鶴紗「さっさと終わらせるぞ！」

二水「もうこんな所まで?!」

鶴紗「恋歌様！二水の相手は私がやります、あなたは紅巴を！」

恋歌「了解！」

ミリアム「ならワシは！高嶺様の相手を！」

高嶺「違うわよ」

ミリアム「何?!」

姫歌「あんたの相手は！私よ！ミリアム！」

恋歌「(姫歌！下がってきた?!)」

高嶺「それじゃあ行ってらっしゃい二水さん」

二水「はい！」

ドゥン!!

二水が建物の側面を思いっきり蹴り敵陣へ乗り込む

試合開始前

高嶺「二水さんもし恋歌がこっちに攻めてきたなら私があなたとデیفエンスを交代するわ、そしてあなたは梅の相手をお願い」

二水「わ、わかりました！（交代ってどうやるんだろ？）」

現在

二水「(この試合正直数では常に劣勢の試合、でも今なら、相手のアタッカーが味方陣地に攻め込んで今なら一人を確実に仕留めるこ

とができる!」

梅「くっ!来ちやっただか二水!」

二水「あなたが開けた穴のおかげで進み安くなりました!」

梅「うわっ!(まずい!)」ドサツ

二水「はああああ!!!」

叶星「そう来ると思ってたわ!」

叶星が二水に触れる

二水「な?!(やられた!叶星様に触れられたってことは!)」

叶星「スペース・スイッチ」

二水「(位置が変えられてしまう!)」

パチンツ!

叶星「これで!」

高嶺「おつちよこちよいね叶星」

叶星「え?高嶺ちゃん?!なんで!」

梅「なんで高嶺が!」

桜「え?!」

グレーダ「まじかよ」

夢結「なぜ宮川さんが?!スペース・スイッチは対象に触れていなければ行けないはず!」

灯莉「確かにスペースイは触れた対象の生命物体を瞬時に移動させることができるんだけどね、もう一つ条件があるんだよ!」

夢結「条件?」

灯莉「うん、もう一つは入れ替える対象を心の中で思い浮かべる必要があるんです」

夢結「心の中で、、まさか!」

桜「そう、さっきの高嶺の大胆な行動には理由がある、叶星に記憶に高嶺と言う存在を強く刻み高嶺を思い浮かべ安くするため、そしてもう一つは叶星に触れること、これで条件達成だな」

一葉「じゃああの時のアゴクイ、、」

楓「そういうことなんですの?!」

高嶺がベンチの方を見る

高嶺「ふふ」

一同「あ、悪女だ、、」
トンツ!

高嶺が梅の首に手刀を入れた

梅「今日良いところないぞ、、」バタ

アナウンス「梅脱落!」

叶星「これ以上はさせない!」

カチャ

高嶺の銃口を叶星に向ける

叶星「うっ!」

高嶺「ふふっ可愛いわね叶星」

叶星「動けない!」

神琳「完全解放!ジ・グランデ デイビジョン!」

無数のマギが高嶺の前に飛来する

高嶺「?!」シュツ!

神琳「避けましたか、高嶺様が来るなんて予想外ですね」

高嶺「あなたが最終防衛ラインなのね」

神琳「そういうことですわ」

高嶺「今のあなたに私がどれだけやれるか、、」

神琳「(相手は高嶺様、隙が全くない)」

高嶺「ゼノンパラボキサ」

神琳「?! (早い!)」

高嶺「後ろがから空きよ」

神琳「(これは、骨が折れそうですね)」

前線

千香瑠「あなたが相手なのね梨璃ちゃん」

梨璃「お相手お願いします千香瑠様!」

千香瑠「ええ!」

梨璃「力を解放します、、はアッアッアッアッ!!」

千香瑠「(すごい力、感じたことのないマギが体全体に巡っていることがわかる)」

梨璃「ヒュージ化完了、、」

千香瑠「すごいマジね、あなたの力が上がっているのがわかるわ」

梨璃「まだ完成してないんです、中途半端な力で手合わせに挑んだことをお許してください」

千香瑠「中途半端なんてとんでもないわ、あなたも努力しているのね」

梨璃「ありがとうございます！」

千香瑠「でも私だって同じよ、以前の私ならあなたの力の前に怯えていたかもしれない、、でも今の私は違う」

梨璃「千香瑠様？」

千香瑠「あなたが本気で来るというのなら私も

本気で行く必要があるみたいね」

完成解放

(ツグナ

イ)

代償

鎖ノ解

(どやしのかい)

t o b e c o n t i n u e d

episode 23 梨璃VS千香瑠

アサルトリイ23 The beginning of the
end

episode 23 梨璃VS千香瑠

前回までのアサルトリイ

どうも白井夢結よ、合同訓練第二試合が開始

開始直前に梅のスロウバーストが訓練所に炸裂し相手に進軍を許してしまった梨璃達だったけど宮川さんの作戦によって戦場は元通りに、でも芹澤さんの完全解放が炸裂、さあこれからどうなるのかしらね、頑張りなさい梨璃

千香瑠

「代償・鎖ノ解（ツグナイ・とぎしのかい）」

ビクッ！

梨璃「（すごいオーラ！これが千香瑠様の！体にビリビリくる！）」

千香瑠「さあ梨璃ちゃん、始めましょうか」

梨璃「はい、、、？千香瑠様右手が」

千香瑠「説明し忘れていたわね、私の完全解放、代償・鎖ノ解は代償を支払うことで私の力の鎖つまり私の中の縛りを解くことができるの」

梨璃「代償？」

千香瑠「そう解放する力によって支払う代償は変わってくるけど今の私は純粋な力の鎖を解いた、そして支払う代償は5分間の右手の使用を不可能にする」

そう言った千香瑠が自分の体に右手を固定する

梨璃「ということは今の千香瑠様は左手しか使えないと言うことになりませんが」

千香瑠「そういうことになるわね」

梨璃「（行ける！右手ならまだしも左手なら！）」

千香瑠「さあ行くわよ！」

ギョーン！

千香瑠が地面を蹴り梨璃に襲い掛かる

梨璃「(早い!)」

千香瑠「はああああ!!!」

グウン!

梨璃「うっ!!(何?!このパワー!)」

ドゴンツ!!!

攻撃を受けた梨璃の地面が凹む

千香瑠「言ったはずよ純粋な力をあげると!」

梨璃「くっ!(本当に左手だけの力なの?!ヒュージ化してなかったら受けきれない!)」

千香瑠「そんなものかしら!」

梨璃「今度はこつちから行きます!」

千香瑠「!」

梨璃「はアッアッアッアッ!!!」

梨璃の斬撃が千香瑠を襲う

ガキンツ!!!

梨璃「嘘でしょ?!私の攻撃をビタ止め?!」

千香瑠「こんなものかしら!」

千香瑠が梨璃を薙ぎ払う

梨璃「うわああ!!!」

梨璃が空中に吹き飛ばされる

梨璃「(早く体制を!)」

千香瑠「遅い!」

ドウグウ!

梨璃「ぐはっ!」

千香瑠の蹴りが梨璃に炸裂する

千香瑠「落ちたかしら?うっ、」

ソベルバ「ん?」

作戦会議に遡る

回想叶星「この中で一番厄介なのは梨璃ねヒュージ化のパワーに加えてカリスマのレアスキル、正直一番最初に落としたいわ」

千香瑠「わたしにやらせてくれない?」

叶星「え?!でもヒュージ化以上の力を出せないと梨璃には叶わないはずじゃ」

千香瑠「お願い!」

叶星「、、わかったわ!」

現在

夢結「芹澤さんのあの力は」

一葉「代償・鎖ノ解、千香瑠様の完全解放です」

楓「梨璃さんのヒュージ化以上の力なんて!」

一葉「完全解放には強化、催眠、一撃、領域の四つが存在します、そしてあれは強化系の中でも最上位の超強化系」

雨嘉「超、、」

夢結「強化系」

一葉「初めはただの強化系でした、、でもあの時、、」

三週間前

千香瑠「はあ、、はあ、、」

フィー「どうしたの?千香瑠ちゃんあなたの本気はそんなものなの?」

千香瑠「くっ!まだです!!」

瑠「完全解放は完成してるのになんで!」

恋歌「千香瑠そろそろ限界だよ!」

一葉「伸びるんだ」

瑠・恋歌「え?」

一葉「きつと千香瑠様の完全解放はまだ完成していない」

瑠「完成したはずじゃなかったの?」

一葉「分かりません、でもなんかそんな気がします」

フィー「(まだ早かったかしら?)千香瑠ちゃん」

千香瑠「まだだ、、」

フィー「え?」

千香瑠「まだ私は強くなる」

フワアアアアン

フィー「(やっぱり間違っただけでなかったこの子の潜在能力はヘルヴォルで一番!)」

藍「千香溜すごい!」

一葉「この力は?!」

恋歌「ビリビリくる!」

瑠「マギが濃く!」

千香溜「私はもう弱くない!自分の弱さも恐怖心も全部強さに変えてやる!」

一葉「くる!」

千香溜「はああああ!!!」

千香溜がフィーに殴りかかる

フィー「最高だよ千香溜ちゃん」

ドウワアアアン!!!!

フィーが千香溜の拳を受け止める

千香溜「私は、まだ、」ボタンっ!

フィー「驚いたわね、まさかここまでとはね」

フィーの後ろの建物が消え去っていた

現在

梨璃「イテテ、、ヒュージ化が通用しない!

どうすれば」

ソベルバ「梨璃」

梨璃「どうしたのソベルバ?」

ソベルバ「見つけたのよ、勝ち筋をね」

梨璃「え?」

ソベルバ「千香溜を見ていてわかったの、さっき攻撃の後少し動きが止まった」

梨璃「そうなの?」

ソベルバ「ええ多分あの完全解放は自分の能力を格段にあげることができる、ヒュージ化以上にねでもペナルティもあるみたいよ」

梨璃「代償?」

ソベルバ「違う、あの完全解放は激しい攻撃の後少しのクールダウン

梨璃の力がみなぎる

梨璃「はああアッアッアッアッ」

その時梨璃のマジに微かな変化が現れた

千香溜「?!（梨璃ちゃんのマジが黒く!）」

ガキンツ!!!

梨璃が千香溜を弾きグラン・マギナの体制に入る

梨璃「グラン! マギナ!!!」

梨璃の放ったグラン・マギナは黒を纏い千香溜に襲いかかった

千香溜「これは?!」

梨璃「え?! 黒い!」

千香溜「グウウウウ!!!」（威力が!）」

千香溜がかるうじてグラン・マギナを弾く

梨璃「今のは?」

桜「あれって」

エンペラー「はい、10年前の私と同じ、」

桜「ノアーアズールとマジの瞬間的な融合」

エンペラー「はい、ブラックマギナの前兆です」

梨璃「はあ、はあ、（今のなんなの?! 私の中のノアーアズールが暴発したような）」

千香溜「すごい威力ね梨璃ちゃん、もしかしたら一葉ちゃんの竜胆より強いかも!」

梨璃「え!?!（あの竜胆より、、）」

千香溜「（まずい、、あの一発で体が限界ね）」

梨璃「（今の一発でマジがほとんど持っていかれた

ソベルバ! 後何分?）」

ソベルバ「（喜びなさい梨璃、後38秒よ）」

梨璃「ギリギリ上等!」

ギユンツ!

梨璃が地面を思いつき蹴り千香溜に攻撃を仕掛ける

千香溜「（来る! どうすればいいの! 相手はヒュージ化を置いてこっちは同等の攻撃はできない! ヒュージ化? ヒュージ、、あ!）」

梨璃「はああああ!!!」

千香瑠「あなたがヒュージの力を使うのなら! こうするまで!」

梨璃「え?!」

千香瑠「ヘリオスファイア!!」

梨璃「レアスキル?!」

一葉「そうか!」

瑤「ヘリオスファイアの能力はヒュージの力を削ぎ自分の防御力をあげる能力!」

バリイン!

梨璃の仮面が割れる

梨璃「そんな! ヒュージ化が!」

ソベルバ「やられた! 完全解放に気を取られすぎた!」

梨璃「もう一度ヒュージ化を!」

ソベルバ「やめなさい梨璃! ヒュージ化の連続使用は自分の身体に大きなダメージを与えることになる!」

梨璃「でも!」

ソベルバ「それにまだ残ってる!」

梨璃「え?!」

ソベルバ「まだ勝ち筋なら残ってるって言ってるのよ!」

梨璃「勝ち筋って?!」

ソベルバ「さっきの黒いやつもう1回出すわよ!」

梨璃「無理だよ! っていうかもうマジは残ってない!」

ソベルバ「マジは使わなくて良い、あんたにはまだノアーアズールがあるでしょ!」

梨璃「あれってマジと合わせて初めて使うことができるんじゃない?!」

ソベルバ「いや、本来ノアーアズールは私たちヒュージの力、マジと合わせて使う必要はないのよ!」

梨璃「え?!」

ソベルバ「エンペラーの言うマジとノアーアズールを合わせて使うっていうのはリリーの身体不可を下げるためにバランスを取るということ、確かにあなた達リリーがそれを使うとなれば多少のリスク

は覚悟しなければいけない」

梨璃「なるほど、」

ソベルバ「でも梨璃、あんたには私がついてる
足りない部分は私が補う！」

梨璃「ソベルバ、」

ソベルバ「だから信じなさい！」

梨璃「わかった！信じて打つよ！」

ソベルバ「それでよし！」

梨璃が攻撃態勢に入る

梨璃「(ヒュージ化はノアーアズールを体で循環させて自分のマギ
と中和させていく感じだった、ならこれはありったけのノアーアズー
ルを右腕に集中させてc h a r mに流し込む！)」

ソベルバ「(わかってるじゃない！)」

夢結「でもノアーアズールはヒュージの力、またヘリオスファイアで
かき消されてしまうんじゃない！」

エンペラー「多少はね、でも純粋なヒュージの力だけならどうかし
ら」

梨璃「はああああ(高まれ！私の力！)」

千香瑠「あの力は！さっきの！いや違う！さっきのとはまた別の力
！」

ソベルバ「今よ梨璃!!」

梨璃・ソベルバ

「放てええええ!!!」

ドワアアアアン!!!!

千香瑠「(防御に全てを集中させる！)」

梨璃「行ける！この威力なら！」

シユユン☒?

梨璃・ソベルバ・千香瑠「え？」

桜「消えたな」

エンペラー「まだ慣れてないのに打つから、」
グレーダ「あーあ」

ファイ「あっちゃー」

桜「でも初めてでここまでできるとはな」

エンペラー「ですね、ソベルバのおかげでもあるんですけどやはりあの子の成長速度は計り知れない」

梨璃「くっ！もう一度！」

ジャキ！

千香瑠が梨璃の首にcharmを突きつける

千香瑠「やめておいた方がいいんじゃないかな？」

ソベルバ「梨璃今回は私たちの負けよ、でもつぎ勝てば良い！」

梨璃「そうだね」

一柳梨璃リタイア

桜「一步前進つてとこかな」

エンペラー「ええ、あの子は確実に成長しているそしてみんなも」

グレーダ「まあさすがは私たちの弟子つてところだな！」

ファイ「うんうん！やっぱり私が千香瑠ちゃんに完璧に教えこんだ
かいがあつたつてもんだよ！」

???「ほほう！俺のバカ弟子共もいつちよ前に弟子を持つようになつ
たか」

桜「遅かったじゃないですか」

グレーダ・ファイ・エンペラー

「?!」ビクッ！

エンペラー「こ、この声」

ファイ「もしかして」

グレーダ「嘘だろ」

三人「鉄心師匠!？」

鉄心「よおお前ら」

To Be Continued

episode 24 払拭

アサルトリリイ24 The beginning of the
end

episode 24 払拭

エンペラー「鉄心師匠何故ここに?!」

鉄心「うーん、、、」

四天王「?」

鉄心「せいれーっ!」

四天王「はい!」ビシッ!

夢結達「え?」

鉄心「心得!!!」

グレーダ「心得その一!どんな時も油断しない!」

ファイ「心得その二!挫ける暇があったらヒューズをぶん殴る!」

エンペラー「心得その三!飯はしっかり食う!」

桜

「心得その四!一人でできないことはみんなに頼る!」

四天王「その五!絶対に諦めない!」

鉄心「よーし覚えとんな!久しぶりやお前ら!」

四天王「はい!」

グレーダ「ていうか来るなら言えよ!師匠!」

鉄心「いやー悪い悪い桜に言わんといってくれ言われとったさかい、

連絡出来んかってん」

グレーダ「桜!てめえ!」

桜「いやーお前らの驚きっぷり最高だったよ!」

エンペラー「全くお姉様ったら!」

揺「あのー」

鉄心「ん?」

夢結「どちら様ですか?」

鉄心「おー!紹介まだやったな!俺は轟鉄心!こいつら百合ヶ丘四

天王の師匠や!」

楓「四天王の師匠、、、」

雨嘉「グラサン、、、」

神琳「雨嘉そこじゃないですよ」

鉄心「まあ、あれや細かい話はあとやまずはあの子らの実力でも見るとするわ」

夢結「(四天王の師匠、、、この方の実力はどれほどのものなのかしら)」

ミリアム「さあわしと戦うのはお主か二水！」

二水「はい！」

ブンっ！

ミリアム「早速行くぞ！」

二水「早っ！ぐっ！」

ミリアム「さあ楽しませてくれ！二水!!」

二水

「(早いけど対処できない程ではない)」

ミリアム「おりやあああああ!!!」

ドウワン！

二水「うっ!! (重い!)」

ミリアム「受けるか！」

二水「c h a r m解放！」

ミリアム「！」

二水「叩け！アセフター」

夢結「あのc h a r mは」

百由「フフン！私が解説しましょう！」

楓「百由様?!」

雨嘉「一体どこから！」

百由「二水のc h a r mアセフターは打撃に特化した殴り専用c h a r m以前のグングニルはあの子の戦い方にあっていなかったから私が作ってあげたのよ」

灯莉「はいはいしつもん」

百由「はい！灯莉さん！」

灯莉「charmつて遠距離もできて近距離もできるのが売りなのに殴りだけじゃ不利だと思いまーす」

百由「良い質問ね！二水のcharmアセフターは基本的に殴りが専門だけどマギを流し込むことによって形状変化をさせることができる、まあ百由は一見にしかず見てなさい！」

二水「近距離じゃ分が悪い！こうなったらー！」

二水がcharmにマギを込める

charmの形状が変化する

ミリアム「あれが百由様を作った形状変化型charmか！」

二水「行きます！グラン・マギナ！」

ミリアム「なっ！危ないの！」

ミリアムが二水の攻撃を避ける

二水「解除！」

アセフターが元に戻る

ミリアム「(距離を詰めてきた！)」

二水「はああ!!」

ミリアム「くっ！」

二水の蹴りがミリアムに炸裂する

二水「まだまだ!!」

ミリアム「こっちもじゃ！」

二水「!!」

二水・ミリアム「はあああ!!!」

ドワアアア!!!

お互いのcharmがぶつかり合う

ミリアム「やりおるの！」

二水「そっちこそ！」

ミリアム「ニョルニール!!」

ミリアムがcharmを投げる

二水「どこに投げてるんですか?!」

ミリアム「お前に投げたんじゃよ！」

二水「え?!」

ミアム「セーのっ!!」

ミアムが手を振りかざす

グルルルルンツ!!!

ニオルニールが回転し二水に遅いかかる

ガキンツ!!

二水「んな?! こんなのありですか?!」

ミアム「ありありで頼むぞ!」

楓「なんですかあれ!」

鉄心「ほおーおもしろいマジの使い方しよる」

桜「ほんとですね」

楓「マジをニオルニールに込めて遠隔操作する」

ミアム「ニオルニールはなかなか重いcharmじゃ、だから

梅様や夢結様のような俊敏かつ攻撃力の高い相手には遅れを取るこ

とになる」

桜「なるほどなあれがあいつの新しい戦闘スタイルってわけか」

銃皇無尽に駆け回るニオルニールが二水に襲いかかる

二水「くっ! (こんなにも早い打撃なのに一発一発が重い!)」

二水がkarouうじて防御する

ミアム「こんなこともできるぞ!」

ミアムがcharmを操作する

ガシャンツ

charmが変形する

ミアム「乱れる!!!」

バババババツ!!!

ニオルニールが回転しグラン・マギナを乱射する

二水「ミアムさんに近づけない!」

ミアム「グラン!」

二水「?!」

ミアム「マギナ!!!」

グワアアアアン!!

二水「まずい！」

二水「きやあああああ！！！！」

二水に直撃する

ミリアム「トドメじゃ！」

ミリアムがcharmを手に戻す

二水「ただのグラン・マギナじゃ防がれる！こうなったら打つしかない」

二水の周りにマギが溢れる

ミリアム「?!」

鉄心「あれは！」

桜「そうです」

二水「グラン・マギナ!!」

ミリアム「?!」

百由「グロっぴ防御!!」

二水「桜牙!!!」

しゅん

二水「くっ！」

ミリアム「やはりまだ未完成か！」

二水「こうなったら！」

二水が制服のボタンを外し地面に叩きつける
ピシャーーーーー!!!

ミリアム「目くらましか！」

二水「(今のうちに!)」
がしっ!

二水「なっ?!」

ミリアム「逃がさんぞ！」

二水「そんな！」

ミリアム「ほらっ！」

ギョーン!

ミリアムが二水を投げ飛ばす

二水「うわあああ!!!」

ガンツ!!!

二水が壁に叩きつけられる

二水「はあ、はあ、うっ! (やっぱりダメだ! どうしても上手くない)」

回想梅「力を抜くことが大切なんだぞ!」

二水「力を抜く、、あー! もう!! わかんないですよ!!」

桜「二水?!」

楓「イライラしてますわね、、」

夢結「ええ、、あんな二水さん初めて見たわ」

ミアム「ど、どうしたんじや?!」

二水「どうしたもー! こうしたもありませんよ! あれだけ練習してるのに全く上手くないんです! そりゃこうなるのも無理ないですよ!」

エンペラー「二水、、ちゃん?」

二水「はあ、、もうやめです! 考えるのも、頑張るのも悩むのも! 今はもうゼー! んぶやめです!」

ミアム「二水お主何を言ってる?」

二水「皆さん!!」

レギオンA「?!」

二水「指示を出します! 作戦変更です!」

姫歌「え?!」

高嶺「ふふ」

二水「全員目の前の敵を倒してこの試合に勝ちに行ってください」
高嶺

「あらあらえらく自分勝手なリーダーね、、まあ嫌いじゃないけど」

レギオンA「了解!」

ミアム「行くぞ二水!」

二水「ええ! 全力で来てください!」

ミアム「やああああ!!!」

ガキンツ!!!

二水がミアムの攻撃を弾く

ミリアム「なっ!」

二水「ふうー」

ミリアム「(防御が間に合わん!)」

二水「はあ!」

ぐううん!!!

二水の拳がミリアムに炸裂する

ミリアム「ぐあっ!!」

桜「入った!」

ミリアム「まだじゃ!!」

二水「(攻撃がくるなら)」

ミリアム「やああああ!!!」

二水「(避ければいい)」フラツ

ミリアム「なっ!」

二水「そして、流れに身を任せて」

ミリアム「くっ!」

ミリアムが防御にはいる

二水「打つ!!」

ぐううん!!!

ミリアム「ぐああああ!!!」

二水

「(何故だろう今ならなんでもできる気がする)」

ミリアム「はあ、はあ、なんじゃ?!」

二水のマジが極限まで高まる

二水

「力を抜くってこういうことだったんだ、力を抜くってことは心に余裕を持つこと、焦っちゃダメなんだ」

ゆらっ

ミリアム「なんじゃこのマジは!今までとは違う!、、まさか?!」

二水の拳にマジが集中する

桜「行け二水、一発ぶちかませ!」

二水「これが私の答え!」

episode 25 完全支配

アサルトリリイ25 The beginning of the
end

episode 25 完全支配 (ペルフェクトドミナシオン)

ミリアム

「エボルシオン (進化)」

アンリミテッドトランセンデンス

桜「桜牙を防いだ、」

夢結「ミリアムさんのマギ、すごい量ね」

百由「グロっぴのレアスキルフェイズトランセンデンスは知ってるわね」

夢結「ええ」

楓「一定時間マギを無限大にし使用者の力を極限まで高めるレアスキルですわよね」

百由「そう！でもあのレアスキルは使用した反動でしばらくは動けなくなってしまう、つまり限界がある」

グレーダ「アンリミテッド、まさか?!」

百由「そうです！今のグロっぴには限界がない」

ミリアム「一定時間ではなく常にわしのマギは無限大じゃ」

二水「私の桜牙を防げたのはその無限大のマギで防御したってことですね」

雨嘉「レアスキルの進化、」

ミリアム「行くぞ」

二水「!!」

ミリアム「グラン・マギナ」

ドドドン!!

二水「グラン・マギナを一気に三つも?!」
シュンっ!

二水の目の前にミリアムが現れる

二水「早い?!ぐあッ!」

ミリアム「でええええりや!!!」

二水「(やばい!)」

ミリアムがニョルニールを振りかざす

二水「(どうする! 桜牙を打っても防がれるし、もうマギはほとんど残っていない! どうする! どうする!)」

ミリアム「グランマギナ・ザ・ブレイク!!」

二水「これしかない!」

二水がc h a r mにマギを込める

ミリアム「何をするつもりじゃ?!」

二水「百由様すみません!」

パシっ!

二水がニョルニールを掴む

ミリアム「なっ?!」

二水「ふんっ!」

バキッ!

ミリアム・百由「んなあああああ!!!」

二水「行ける!」

ミリアム「防御を!」

二水「遅い!」

二水が拳にマギを込める

二水「はあああああ!!!」

どぐううううん!!!

ミリアム「ぐああああおあ!!!!」

ドサツ!ドサツ!

ミリアム「一発食らってしまったのう」

二水「(もうマギが限界です、)」

ミリアム「全く! c h a r mを壊すとは何事じゃ!、、、まあ治すだけじゃが」

二水「なっ?!」

エンペラー「マギで破片をくつつけたのね」

ミリアム「さあどうする! 二水!」

二水「今の私にはマギがない、そして相手は無限のマギ、どっからどう見ても勝ち筋なんてないに等しい、、、でも無いなら作れば良い勝ち筋を」

ミリアム「勝ち筋を作る？」

二水「今ある可能性を試さず捨てて負けるくらいなら、それを試して負ける方が何億倍もマシです」

ミリアム「ほう」

二水「だから私は私の可能性を信じます」

桜「来るぞ」

夢結「え？」

二水「奥義」

連鎖流極

ミリアム「連鎖流極？」

二水「今の私は全てを流す」

ミリアム「なにかは知らんがお主の奥義見せてもらおう！」

ミリアムがc h a r mで攻撃を仕掛ける

ミリアム「出りやあああ!!!」

二水「行ける」

しゅん！

ミリアム「え？」

どうぐう！

ミリアム「ぐあっ!!」

二水が攻撃を避け拳を入れる

ミリアム「まだじゃ！」

ミリアムがc h a r mを横に振る

ミリアム「でやっ！」

二水「それじゃ甘い！」

ビュンツ!!!

二水が攻撃を紙一重で避け攻撃を叩き込む

二水「やああああ!!!」

ぐううん!!!

ミリアム「ぐあっ!!!」

二水がミリアムを吹っ飛ばす

二水「もう一回!」

二水が空中に飛び出る

ミリアム「やらせん!」

ミリアムがcharmを変形させる

二水「っ!」

ミリアム「空中なら避けれんじやろ!グラン・マギナ!!」

二水「グラン・マギナジェット!」

ミリアム「何?!」

楓「グラン・マギナの威力を推進力にして避けた?!」

二水が天高く舞い上がる

二水「やああああ!!!」

ぐるんぐるんぐるん!!!

二水が空中で回転しミリアムに懇親の一撃を叩き込む

バゴオン!!!!

ミリアム「ぐはあ!!!」

夢結「それにしてもマギがほとんど残っていないのにあの威力の打撃を叩き込むなんてどんなことをしているの?」

桜「運動連鎖だな」

楓「運動連鎖?」

桜「運動連鎖っていうのは野球やテニスなどのスポーツで足↓体幹↓腕↓手首この順番でバットやラケットに力を伝える運動のことだ、これを利用してホームランや強い一撃を放つことができる」

エンペラー「でも二水ちゃんは攻撃を避けたあとの勢いで一撃を叩き込んでる」

グレーダ「普通に殴るのと助走つけて殴るとじゃ全然威力が違うからな」

フィー「でもわざわざ助走なんてつけてたら隙が大きくなって逆に反撃を食らってしまう、だから攻撃を交わす勢いを利用して強力な一

撃を叩き込んだ」

二水「梨璃さんと夢結様があえて受けて流して切るなら、私は全部流してぶっ叩く!!」

ミリアム「やばいッ!!!」

二水「でええええりやああああ!!!」

ミリアム「(死ぬっ!)」

桜「そこまで!」

しゅん!

二水の拳がミリアムの目の前で止まる

桜「続けるか?ミリアム」

ミリアム「無論続行じゃ!」ガクッ!

ミリアムが膝からバランスを崩す

ミリアム「と言いたいところじゃがわしの体力が限界のようじゃ」

ミリアムリタイア

二水「はあはあ、何とか勝ちました、頼みますよ高嶺様」

高嶺サイド

神琳「ジ・グランデ!!!」

神琳が大剣を振り回す

高嶺「!」

高嶺が神琳の攻撃を避ける

神琳「まだまだ!」

シュファイフィンツ!!!

大剣が分裂し小さい剣が増殖する

神琳「デイビジョン!」

高嶺「増えた?」

神琳「飛ばしますよ!」

ビュン!

高嶺「なるほど」

高嶺はそれらを簡単に避けていく

神琳「当たらない!ならこれで!」

小さな剣がさらに増殖する

高嶺「?!」

神琳「はあああああ!!!」

小剣が高嶺に襲いかかる

高嶺「マジシールド」

ガガガンッ!!!

神琳「防ぎきった!？」

高嶺「フフツ」

ギョーン!

高嶺が地面を蹴り神琳に攻撃を仕掛ける

神琳「くる!」

高嶺「はあ!」

ドゥーン!

神琳「守れ!」

神琳が小剣で防御する

高嶺「あら」

高嶺が攻撃を中断する

神琳「危なかった!」

高嶺「あの技は厄介ねそろそろ終わらせようかしら」

神琳「何をするつもりですか」

高嶺「大丈夫、ただの奥の手よ」

灯莉「たかねん先輩まさか?!」

高嶺「完全解放」

ペルフエクトドミナシオン

(完全支配)

姫歌「出た!性悪完全解放!」

夢結「性悪?」

姫歌「まあ見りや分かりますよ」

神琳「早く決着をつけないとまずい!」

神琳が大量の小剣を展開する

神琳「はあ!!」

ピタッ！

神琳「なぜ動かないの?!」

楓「神琳さんの攻撃が止まった、」

高嶺「フフツ」パチンツ！

高嶺が指を鳴らす

それと同時に神琳の小剣が神琳に刃を向ける

神琳「なぜ?!」

高嶺「私の完全解放ペルフェクトドミナシオンは全てを支配する」

神琳「全てを、、支配?!」

高嶺

「ええ、そしてここからは」ザツ

全てが私の支配

下よ

To Be Continued

episode 26 最強の完全解放

アサルトリリイ26 The beginning of the
end

episode 26 最強の完全解放

前回までのアサルトリリイ

ごきげんよう！楓・J・ヌーベルですわ！ミリアムさんと二水さんの戦闘は満身創痍の中二水さんの新技！連鎖流極によつて二水さんの勝利！そしてついに高嶺様の完全解放が明らかに！さあ！だい2試合もやつと面白くなって来ましたわ！

高嶺「完全解放ペルフェクト・ドミナション」

神琳「私のマギが言うことを聞かない?!」

高嶺「言ったでしょ全ては私の支配下だと」

神琳「デビジョン!!」

スン、

小剣が全く動かない

神琳「(ほんとに動かない)」

ふうん

神琳が完全解放を解除する

高嶺「あら解除するのね」

神琳「ええ解放していても体力を消耗するだけですから」

高嶺「まああなたがしないなら私がするんだけどね」

神琳「えっ?」

高嶺「デビジョン」

楓「強制的に完全解放を?!」

グレーダ「ついにやりやがったな」

夢結「あれは?」

グレーダ「ペルフェクト・ドミナション相手のマギを操作する完全解放だ」

雨嘉「え?!それって」

グレーダ「ああ、私が見てきた中で間違いなく一番やばい完全解放

だ」

高嶺「さあ行きなさいデイビジョン」

神琳「くっ！」

無数の小剣が神琳を襲う

シユババババツ！

神琳「我ながら厄介ですわね！」

高嶺「これも面白いけど、こっちも面白そうね」

神琳「え？」

高嶺「ジ・グランデ」

高嶺の前にマギで出来た大剣が現れる

桜「あいつの一番の苦手分野だな」

夢結「そうですね、神琳さんはマギを使った攻撃が得意なりリイでも逆を言えばマギがなければ何もできない」

神琳「(また高い壁だ、超えなきゃ行けないのに私はまたこの壁を避けることを考えてる、怯えてるんだ)」

桜「さあお前の答え聞かせてくれ」

神琳「超えるべき壁があるなら、壊せばいい！」

桜「最高だ」

パンっ！

神琳が自分の頬を叩き気合いを入れる

神琳「さてマギなしでどれだけやれるか」

高嶺「お手並み拝見ね」

神琳「行きます！」

ドウンッ!!!

神琳が思いつきり地面を蹴る！

高嶺「デイビジョン」

シユファイインッ!!!

神琳「避ける！」

神琳が高嶺の攻撃を全て紙一重で避ける

高嶺「流石は神琳さんね私の攻撃を全て反射神経だけで避けてる」
楓「凄い集中力！」

高嶺「ならこれはどう！」

高嶺が巨大な大剣をマギで構成し神琳に投げつける

神琳「ここだ！」

それをジャストタイミングで回避する

夢結「避けた！」

神琳「そして！こう！！」

神琳が大剣の側面を思いつき蹴り宙へ舞う

神琳「マソレリック！」

神琳が宙にマソレリックを投げ足場に思いつき蹴る

高嶺「まずい！マギは全部あそこの大剣に！防御が間に合わない
！」

神琳「ここです！！」

ドグウウウン！！

高嶺「ぐあっ！！」

神琳の拳が高嶺にヒットする

神琳「勝負ありですわ！」

高嶺

「効いたわよあなたの拳」

神琳「はあ、はあ、それは良かったです」

高嶺「でもね」

神琳「え？」

高嶺「あなたの負けよ」

神琳「なぜ！体力が戻って！確かに渾身の一撃を叩き込んだのに
！」

高嶺「良かったわちよっとだけ残しておいて」

神琳「そんな、あの一撃を食らう瞬間マギで防いだというの！」

高嶺「もうマギも回収できたしフルスロットルで決着と行きましょ
うか」

神琳「ここまでのようですね、私の出番は！」

高嶺「?!」

神琳「出番ですよ！鶴紗さん!!」

高嶺「なっ?!」

高嶺の後ろに爪をといだ獣が一匹姿を表す

鶴紗「任せろ」

高嶺「まさか！カウンターフィールド！」

鶴紗「違いますよ！」

高嶺「?!」

鶴紗

「行くぞ！私の新技！」

高嶺「新技？」

鶴紗がcharmを構える

鶴紗

「燃え盛れ!!テイルフィング!!」

鶴紗が尋常ではないスピードで高値に突撃する

夢結「炎?!」

鶴紗のcharmから炎がほとぼしる

高嶺「言つたはずよ全ては私の支配下と！」

鶴紗「はああああ!!!」

高嶺「はあ!!」

高嶺が構えるが鶴紗の炎は消えない

高嶺「まさか、その炎！」

!!!

高嶺「マジじゃない?!」

鶴紗「獄炎赫羅（ごくえんせきら）」

ブワツ！ドワアアアアン!!!

燃え盛る炎が高嶺を激しく包む

高嶺「くっ！」ボタン

鶴紗「これが私の私だけの奥義だ!!」

高嶺「流星は一柳隊の2人強いわね」

神琳「打つ手はもうないですよ！」

灯莉「たかねん先輩はここからだよ」

奥義

夢結「そうだと思うわ」

楓「どういうことですか?」

夢結「あの攻撃を受けてなお宮川さんはまだ立ってる」

雨嘉「そういえば」

夢結「つまりあの人の強みはマジを操る完全解放だけじゃなくて、その異常なまでの耐久力」

灯莉「正解」

高嶺「私も最後ね、マジロック!」

ガチャンっ!!

鶴紗・神琳「なっ?!」

鶴紗「身動きが!」

神琳「取れない!」

高嶺「悪く思わないで!」

どうグウ!

神琳・鶴紗「がはっ!」

高嶺が二人の鳩尾に一発入れる

高嶺「あとは残りの人に任せるわ」ボタン!

神琳・鶴紗・高嶺リタイア

姫歌「紅巴準備いいわね」

紅巴「は、はい!」

恋歌「あんたたちが相手か」

姫歌「来た!」

恋歌が挨拶がわりに姫歌に攻撃する

しゅんっ!

姫歌はその攻撃が来るのを知っていたかのように回避する

恋歌「避けた?!」

紅巴「テストメント!」

恋歌「二人かーじゃあ!本気で行くよ!」

E D E N

人型ヒュージ「クリーム・フラスベルタ」

クリーム「？」

人型ヒュージ「担当直入に言うあなたをゲストNo. 1の座から引きずり下ろす」

クリーム「そう、でどうやって私を、」

バタン

人型「、、、」

クリーム「あれ？もう死んじゃった、一柳隊はこんなじゃなけりや良いな」

勝負は一瞬にして決まる、これ以上につまらない言葉ってこの世にないかもね

t o b e c o n t i n u e d

episode 27 姫歌と紅巴

アサルトリリイ27 The beginning of the
end

episode 27 紅巴と姫歌

前回までのアサルトリリイ

安藤鶴紗だ第2試合も後半高嶺様の完全解放

ペルフェクトドミナシオンが神琳を翻弄する、そして私の新技「獄炎赫羅」でなんとか追い詰めるも結果は相打ち、このままじゃダメだ！私ももつと強くなる！

姫歌「紅巴準備できるわね！」

紅巴「は、はい！」

恋歌「二人相手ならこっちも全力だよ！」

姫歌「のぞむところ！」

紅巴「絶対に勝つ！」

叶星「あらなんだか楽しそうね私も混ぜて貰うわ」

姫歌・紅巴「叶星さま?!」

紅巴「まずい！叶星様の完全解放は！」

叶星「あなた達のこととは私が誰よりも知ってる！だから手加減はしないわよ！」

姫歌「ならっ！」

ガキんっ！

叶星「っ！」

姫歌「早くリタイアさせるまで！やあ！」

叶星「うわっ！」

恋歌「完全解放」

姫歌「紅巴！」

紅巴「止めます！」

ガッ！

恋歌「くっ！（早い！）」

紅巴が恋歌に蹴りを入れる

紅巴「その完全解放封じさせて貰います！」

恋歌「え?!」

紅巴が恋歌の体に触れる

紅巴「マジロック！」

ガチャーン!

恋歌「動けない?!」

夢結「あれは宮川さんの！」

灯莉「いやあれは元々とつきーの技だよ」

グレーダ「あいつは器用だからな相手に触れさえすれば自分のマジギを相手に流し込み妨害できちまう」

灯莉「たかね先輩が二人の動きを止めた時のマジロックあれはとつきーの技の応用で相手のマジギを使って二人の動きを止めてたんだよ」

鉄心「なるほどな器用なやつにしか出来ん芸当や」

紅巴「リリイは完全解放の時に自分のマジギの一部を集中的に高め一気に解放する傾向にあります、だからその部分に私のマジギを入れて邪魔してしまえば一定の時間それは使うことができないんです」

恋歌「ひえーこりやまたえげつない！」

紅巴「ちなみに慣れれば少量のマジギで全てのマジギを妨害することができます！」

恋歌「元気な声でとんでもないこと言うなこの子は」

姫歌「阻止できたみたいね、紅巴そのまま妨害頼んだわよ！」

紅巴「了解！」

姫歌「よしっ！上手くいった！」

叶星「あらでも姫歌ちゃんはこの後リタイアするのよね」

姫歌「なんでそんな当たり前のこと今頃言うんですか？」

紅巴「?!」

楓「どういうことですか？」

グレーダ「あいつの完全解放」

叶星

「コンセプト・クリエイション (概念創造)」

グレーダ「文字通りこの世の概念を数秒だけ創ることができ、一度使った相手には二度と使うことは出来ないがな」

紅巴「ここで叶星様の完全解放コンセプト・クリエーションについての説明です」

この能力はグレーダさんが説明した通りこの世の概念の創造

正確にはこの世の概念が変わった世界を一人の相手にだけ魅せることができるという能力です

これは催眠系の完全解放に当たりますね

紅巴「やられた!」

恋歌「よそ見してる場合?」

紅巴「あっ! きゃあっ!」

恋歌「完全解放が使えなくても私は戦えるよ」

紅巴「でしょうね」

叶星「じゃあ姫歌ちゃんはリタイアしてね」

姫歌「でも叶星様も何か忘れてませんか?」

叶星「何かって?」

姫歌「例えば私に完全解放を一回かけている事とか?」

叶星「そんな?! だってあなたには一度も完全解放を! ってまさか?!」

姫歌「リライトメモリー、私の新しいレアスキルです、能力は記憶の上書き、叶星様には私に完全解放を一度使ったという記憶を消して私にはまだ使っていないと言う記憶を上書きしました」

叶星「やるわね」

姫歌「いえいえリーダーには敵いませんよ」

叶星「嘘をつくのが下手ね」

楓「あのー」

グレーダ「ん?」

楓「前から気になっていたんですが、なぜグラン・エプレの皆さんはレアスキルがもうひとつあるんですか?」

グレーダ「リリイは原則として一人に一個しかレアスキルを会得する事ができない、例外をあげるとしたら、美鈴、エンペラー、梨璃だ

な、まあ内容は言わないでおくが、」

楓「それ以外にレアスキルを増やす方法がある？」

グレーダ「リミッターを解除する事だ」

夢結「オーバードリミッターですか？」

グレーダ「よく知ってるな！夢結！」

夢結「はい、百由がグレーダ師匠の論文を読んだと言っていたので」

グレーダ「あー私の卒業論文か、あいつどっから引き出してきやがった？」

夢結「これはリリイだけじゃなくて人間自体にも言える事なのだけれど、人間の脳というのは基本的に80パーセントの力しか出せていない、その残りの20パーセントを解放する事で本当の力を発揮できる」

グレーダ「そうリリイはその20パーセントを解放する事で新しい力を発揮する事ができる」

夢結「でも、これを解除してしまうと脳を常にフル回転させてしまうから身体に影響を及ぼしてしまうんじゃない？」

グレーダ「良い着眼点だ、でも私は常にその20パーセントを引き出せなんて言っていないぞ」

雨嘉「あ！一瞬！」

グレーダ「正解！」

楓「なるほどその力を引き出す方法が分かれば！」

瑤「その力を使う時にだけそこを解放すれば良い！」

グレーダ「さすがだなお前ら！」

姫歌「確かに叶星様あなたの完全解放は相当厄介です、でもタイミングさえ計ればまともに相手くらいはできる」

恋歌「まさか私達の完全解放が封じられるなんて思ってた、ふふっ」

叶星「あら、なんだか楽しそうね恋歌」

恋歌「当たり前じゃん私たちの背中を追っかけてきた後輩が今まさに近くまで迫って来てる」

こんなにくくわくする事って他にないっしょ！

叶星「自分にとって不利な状況っていうのは自分を一番に成長させてくれる最大のチャンス！」

恋歌「じゃあそのチャンス逃す訳には行かないよね！」

叶星「やることはひとつ！」

恋歌「おっしや！」

叶星・恋歌「私達は全力でそれを迎え撃つ！」

姫歌「紅巴もう一度聞いわ、覚悟は良い？」

紅巴「姫歌さんこそ！」

姫歌

「言うようになったじゃない、行くわよ！」

紅巴「了解!!」

姫歌「GO!!」

紅巴「やああああ!!!」

紅巴が恋歌に向かって行く

恋歌「はああああ!!!」

ギイイイン!!!!

お互いのcharmがぶつかり合う

紅巴「流星は恋歌様お強い！」

恋歌「あんたもなかなかやるじゃん！」

紅巴「でも！」

ぐううう!!!!

恋歌「なっ！（力が強い！）」

叶星「恋歌が押し負けてる!?紅巴ちゃんあんなに強くなったのね、あなた達のこととは私が一番にわかってるなんて言えたもんじゃないわね」

紅巴「やああああ!!!!」

恋歌「うあっ!!!」

紅巴「グラン・マギナ!!」

恋歌「やっばい！叶星！」

叶星「OK！スペーススイッチ！」

叶星が小石を投げる

パチンっ！

叶星が恋歌と小石の位置を入れ替える

紅巴「外した！頼みます！」

姫歌「わかってる！おりやあああ!!!」

叶星「ぐっ！」

姫歌が叶星の一瞬の隙を付き蹴りを入れる

紅巴「姫歌さん！ノインヴェルトです！」
バァン!!

紅巴がノインヴェルト弾を放つ

姫歌「え！ふたりで?！」

紅巴「姫歌さん！」

紅巴が魔法球をパスする

姫歌「了解!!」

叶星「どうするつもり?! (近くに來たら場所を入れ替えて!)」

姫歌「はああああ!!!」

姫歌の魔法球が手のひらで肥大化する

叶星「あれをぶつけるつもり？」

姫歌「ありったけのマジ、くらええええ!!!」

叶星「スペーススイッチ!!」

パチン！

紅巴「そう來ると思いましたがよ！」

叶星「え?!ぐはっ!!!」

ドサツ！バンツ、ゴツ！

「叶星に魔法球が直撃する

紅巴「姫歌さん！今です！」

シュンっ！

姫歌が恋歌のそばに一瞬で移動する

恋歌「なっ！」

姫歌「マジナフィスト!!!」

マジを纏った姫歌の拳が恋歌に直撃する

恋歌「ぐあっ!!」

叶星「なんで、魔法球を持っていたのは姫歌ちゃんじゃ」

姫歌「簡単ですよ、私が別の場所に飛ばされる直前に自分と魔法球を切り離して紅巴に打たせたんです」

叶星「そういう事ね、私もまだまだね」バタンっ

恋歌・叶星リタイア

姫歌「よっしゃ！」

紅巴「急いで旗を取りに行きましょう！」

姫歌「そうね今なら後衛には誰もいない！」

フラっ！

姫歌「うっ！」がくっ

紅巴「姫歌さん?!」

姫歌「限界っぽい」

紅巴「わかりました、姫歌さんはここで休んでおいてください、それにまだ私たちには藍さんが居ます」

姫歌「任せたわよ」

紅巴「はい！」

姫歌「藍！」

藍「はい！」

姫歌「体力は温存してるわね」

藍「バツチリだよ！」

姫歌「じゃあ二人とも行って！」

姫歌が二人の背中を押す

紅巴・藍「了解！」

ばああああん!!!!

3人「?!」

千香瑠「私も最後の力を出すわ！」

紅巴「千香瑠様！」

千香瑠「行くわよ！」

紅巴「(来る!) 藍さん! 援護を!

藍「うん！」

ガシャン!

藍がc h a r mを銃型に変形させる

鶴紗「私もいるんだけど！」

ガアンツ！

鶴紗が藍の攻撃を断つ

藍「たづさ?!」

紅巴「こんな時に限ってこの二人なんて、」

面白くなってきましたね

t o b e c o n t i n u e d

episode 28 決着

アサルトリリイ28 The beginning of the
end

episode 28 決着

紅巴「藍さん！一気に決めましょう！」

藍「うん！」

千香瑠「完全解放」

紅巴「まずい！」

千香瑠

「代償・鎖ノ解（ツグナイ・とぎしのかい）」

「三」

紅巴「三？」

藍「紅巴！気をつけ！」

ブウン！

紅巴「かはっ！」

ドウウウン！！

千香瑠の蹴りが紅巴に炸裂する

紅巴「げほっ！」

紅巴が壁に叩きつけられる

藍「紅巴！」

鶴紗「なんだあの早さ?!」

千香瑠「私の完全解放は一時的に代償を払うことによって自分の身体能力を飛躍的にあげることが出来る、その代償を増やすことによって私の力は神の領域に到達するの」

紅巴「すごい能力ですね」

千香瑠「ちなみにいまは両方の視力と左腕」

紅巴「視力?!じゃあなぜさつき私の位置があんなに正確にわかったんですか?!」

千香瑠「音よ」

紅巴「え？」

千香瑠「目が見えない代わりに聴力を研ぎ澄ましたの、今なら呼吸の音であなたがどこにいるかわかるわ、、例えば」

紅巴「？」

千香瑠「こんな感じにね」

紅巴「そんな?！」

千香瑠が一瞬で紅巴の背後をとる

紅巴「(防御を!)」

千香瑠「(呼吸が乱れた!防御ね)」

千香瑠がc h a r mを引つ込める

紅巴「え?!」

千香瑠「マギナ!」

ポオンツ!

紅巴「きやあ!」ドサツ!

千香瑠「まだまだ行くわよ!」

シュンっ!

紅巴「見えない!？」

ガキンツ!!

藍「っ!」

千香瑠の攻撃を藍がかろうじて止める

紅巴「藍さん!」

藍「紅巴」

紅巴「はい?」

藍「離れてて!」

千香瑠「まさか!鶴紗さん!逃げて!」

鶴紗「え?」

完全解放

藍「ドリーム・ステップ(段階夢)」

二人を黒いフィールドが包む

藍「おやすみ」

千香瑠「目は見えないはずなのに頭に変な感じのものが流れ込んでくる!」

藍「千香溜〜」

千香溜「え？藍ちゃん？」

藍「ぎゅー！」

千香溜「ど、どうしたの？よしよし」

藍2「たい焼きあげる〜」

千香溜みあれ？藍ちゃんが二人？」

藍3「千香溜大好き〜」

千香溜「え？え？えー！ー！ー！！！！」

藍「ごめんね千香溜〜」

千香溜「は、ふわあ〜」

千香溜 戦意喪失

フィールドが解除される

鶴紗「千香溜様?!」

千香溜「藍ちゃんが二人藍ちゃんが三人」

鶴紗「え、えええ」

紅巴「な、何が起こったんですか、」

鶴紗「とりあえずあの完全解放はヤバいってことだけはわかった」

千香溜「あー藍ちゃん、たい焼き〜」

瑠「藍の完全解放は、催眠、幸福、悪夢の3段階で構成されていて、

1、まずは強制的に相手を眠らせる

2、相手にとって一番幸せな夢を見せる

3、その一番幸せな夢をどうしようも無いくらいにボロボロにする

そして相手は耐えられず精神崩壊に陥る」

一同「こ、怖すぎる」

フィー「おそらく催眠系の中で一番強い完全解放ね」

夢結「でも悪夢を見せるならあんなに幸せそうな顔して寝ないで

しよ?。」

瑠「調整できるんだよ、相手が千香溜だから2段階目で止めたんだ

と思う」

藍「紅巴あとはよろ、し、く、く、Zzz」パタリ

瑠

紅巴「ひっ！」

鶴？紗

「グラン・マギナ、、、
インッ！フィニティ」
「」

ドバババババンッ！！！！！！！！！！

無数のグラン・マギナが地に降り注ぐ

グアアアアアン！！！！

鶴紗「完全決着だな、ちよつと本気出しすぎたから怪我させてた
ら、、、?!」

シユウウウウウ

立ち込めた煙の中から一人の少女が姿を表す

紅巴「全く！死んだらどうするんですか！」

ブワッ！！

鶴紗「なんで立てるんだよ、いや待て、なんで一発も当たってない
んだ！」

紅巴「完全解放、」

アブソリユート・エヴィタシオン

(絶

対回避)

紅巴「能力はシンプル、全ての攻撃の完全回避」

紅巴の瞳が紫に光る

鶴紗「そうか、」

ババンッ！

鶴紗が三発放つ

ひゅひゅんっ！

紅巴はそれをもろともせず全て回避する

鶴紗「まじか、ファンタズムでもあそこまで出来ねえぞ」

紅巴「ふうう、、、」

紅巴が息を整える

鶴紗「なんだ？」

紅巴「行きます」

ビュンツ!!!

紅巴が地面を蹴り鶴紗のいる上空まで一瞬で飛翔する

鶴紗「なっ!?でええや!!」

一瞬の出来事に理解が追いつかなかった鶴紗は咄嗟に攻撃を仕掛ける

ひゅん

その攻撃を紙一重で避ける紅巴

鶴紗「(くっそ!当たんねえ!)」

紅巴「避撃!」

そして渾身の一撃を鶴紗に叩き込む!

鶴紗「うぐっ!」

どおおおん!!!

鶴紗が地面に叩き付けられる

鶴紗「獄炎、」ボワっ!!

紅巴「!!」

鶴紗「赫羅!!」

ボワアアアン!!!

紅巴「くっ!危ない!」

鶴紗「二連!紅!!」

一撃目を回避した紅巴にすかさず二撃目を繰り出す

紅巴「!」

紅巴はそれも上手く回避する

鶴紗「三連!真紅!」

紅巴「まだあるの!?なら!!」

ひゅん!

紅巴が攻撃を避けc h a r mで鶴紗を攻撃する
ガギンツ!!!!

二人のc h a r mがぶつかり合う

鶴紗「やっと近づいてくれたな!」

紅巴「なっ!」

鶴紗「終連!カグツチ!!」

ブワアアア!!

紅巴「ウアッアッアッアッ!!!」

紅巴が地面に叩き付けられる

紅巴「うっ!ぐう!」

鶴紗「今だ!!」

紅巴「まずい!」

鶴紗「解放奥義!無限掌!!」

マギで形成された無数の拳で紅巴に最後の攻撃を仕掛ける

鶴紗「でえええりやあああ!!!」

どどどどどど!!!

紅巴「当たりませんよ!」

紅巴が襲いかかる拳を全て避けていく

鶴紗「当たらなくてもいいんだ!」

紅巴「え?!」

ガシツ!

紅巴「なっ!なんですか?!」

鶴紗がマギで形成した巨大な手で紅巴を掴む

鶴紗「動きを封じれば避けるものも避けられない!」

紅巴「まだです!」

紅巴が巨大な手に触れる

鶴紗「何を!」

紅巴「この手がマギなら!これも通用するはずです!」

マギナっ!!

バリイインっ!!

紅巴を押さえつけていた手が爆散する

鶴紗「やられた!」

紅巴「やあああ!!!」

どうぐう!

鶴紗「ぐはっ!!」

鶴紗の鳩尾に紅巴の蹴りが炸裂する

紅巴「これで最後です!」

紅巴「師匠!!私強くなりました!」
グレーダ「ああ!最高だ!」
To Be Continued

リ・グアスト強襲編

episode 29 beginning

アサルトリリイ 29 The beginning of the
end

episode 29 The beginning of the
end

桜「よし！全部の試合が終わったみたいだな！」

一同「はい！」

桜「で私が最初に言ったマジの節約はできるようになったか？」

梨璃「あ、そういえば」

二水「そういえば試合に夢中になってすっかり忘れてました」

桜「だろうなお前ら全力でマジ使いまくってたしな」

フィー「まあ試合の中でいきなりやれって言ってもすぐにできるもんじゃないわよ」

桜「まあそれは今後みっちり教えるとして」

グレーダ「師匠！」

鉄心「おう！」

梨璃「あなたは？」

鉄心「ワシの名前は轟 鉄心！こいつら四天王の師匠や！」

鶴紗「四天王の師匠!？」

二水「鉄心さんはどうしてここに？」

鉄心「桜に呼ばれてん！お前らをもっと強してくれ言うてな！」

灯莉「ねえねえおじさん！」

鉄心「おじさんちやうわ！ワシはまだ45やぞ！」

グレーダ・桜「いや、結構いい年だろ」

灯莉「本当に四天王のみんなより強いのか？」

鉄心「今はどうか分からんけど少なくとも昔は」

鉄心「こいつらから一本も取られた事はないぞ」

一葉「え?!」

千香瑠「信じられない、」

叶星「あの師匠達が一本も取れないなんて」

鶴紗「タイムンですか？」

鉄心「いや、四人同時でや」

楓「まじですか、」

鉄心「まあ今やったら一人一本は取れるんちゃうか？」

グレーダ「余裕だよ、舐めんな」

桜「同意」

ファイ「右に同じ」

エンペラー「もちろんです」

鉄心「そうか、じゃあ久しぶりにやってみるか？」

ブォーン!!ブォーン!!

全員「?!」

緊急事態発生！百合ヶ丘女学院上空にヒュージのマジを感知今までのに有り得ない程の数値です！

その数三！

楓「三？」

一葉「まさか！」

ソベルバ「間違いない、リ・グアスト！」

クリム「久しぶりねえ！さーくら！」

全員の頭上に三人の少女が現れる

桜「クリム!!!」

ズオオオオオオオン

桜の力が溢れる

ヒツツエンベルグ

「さてどいつから殺せばいいかな？」

ウィル「片っ端から殺って行けば良いだろ強そうなやつもいねえしな」

クリム「お楽しみのところ邪魔しちゃったかな？」

鉄心「まさかお前がそっち側やとは思わなかった」

クリム「あら懐かしい顔ね千王自らのお出迎えなんて嬉しいわ」

鉄心「アホ抜かせたまたまじゃ」

クリム「あんたらも相変わらずバカそうな面ね

グレーダ「フイー！」

グレーダ「てめえには負けるぜクソ野郎」

フイー「クリムちゃん何しに来たの？」

クリム「何って？あんたらを全員殺しに来たに決まってるじゃない」

桜「たった三人でか？舐めんじゃねえよ」

クリム「大丈夫よこんなどころ私達だけで十分

それに、他の奴らは別で行動してるから」

桜「別、まさか?!」

エレンスゲ女学院

リリイ「や、やめてお願い！」

ぐしや!!

一人のリリイの頭部が壊される

ラズカ・カナリ

「これで100人目！うん！順調ね！」

ロゼッタ・ベール

「わたくしの分も残して置いてくださいね楽しみがなくなってます」

ラズカ「分かってる分かってる」

神庭女子藝術高校

ラシステ・ゲエテ

「リリイは全員粛清する」

リリイ「皆さん！続いて！総攻撃を仕掛けます！」

リリイ達「はい！」

ラシステ「やめておけ無駄に命を枯らすことになる」

リリイ「なんと言われようこの学園を守って見せる」

ラシステ「そうか、なら死ね」

ブシユシユシユシユ!!!!!!
ラシステ「やめておけ!と言ったのに」

・御台場女学校高等科

アゼル・ミラ

「お姉様この子達弱すぎて面白くありません」

アゼル・リラ

「仕方ないでしょうリリイなんてこんなものよ」

アゼル姉妹「ね、船田姉妹」

純「くっ!ぐはっ!」

初「私達が手も足も出ないなんて」

リリイ「そんな、」

リリイ2「あの二人が敵わなかったらもう、」

リラ「ん?」

ブオン!

リリイ「え?」

リラが一瞬で後ろを取る

リラ「みいつけた!」

純「殺すなあああ!!!!」

ぐしゃ!

ボトボト

リリイ2「あ、あ、アッアッアッアッ!!!!!!」

クリム

「あんたらを潰すのは私達リ・グアストだ」

アーセナル

百由「夢結!」

夢結「百由!」

百由「他三つのガーデンからの救援要請が止まらない!」

桜「三つか、お前ら一人1ガーデンだ」

「了解!」

桜「この三人は私と師匠で相手をする」

エンペラー「みんな！、頼めるかしら」

一同「はい！」

グレーダ「これは訓練でもないマジの実践だ全員本気で行け！いや、本気以上の力を出せ！」

一同「了解！」

桜「グレーダとグラン・エプレは神庭！

フィーとヘルヴォルはエレンスゲ！

エンペラーと一柳隊は御台場！に行け！」

全員「了解！」

桜「四天王は戦闘に他のリリイは人命救助を最優先！」

桜「GO!!」

クリム「あなた達二人で大丈夫？」

桜「心配すんな十分すぎるくらいだ」

ウイル「いいねえ！いいねえ！千王と最強のリリイが相手とは、武者震いがとまんねえなああ！」

桜「何人殺した？」

ウイル「は？そうだなあ？ぎつとゴミを200匹くらいかあ？ぎやはははは!!!」

桜「そうか、」グワア！

クリム「は！ウィ！」

ウイル「(あ、あれ？なんだこれ？血?)」

桜は一瞬でウイルの喉をちぎった

桜「お前はもう、喋るな」

ウイル「

!!!!」

桜「死ね」

グワアアアアアン!!!!!!

ウイルが跡形もなく消し飛んだ

桜「ほらな十分だって言っただろ」

ヒツツエンベルグ

「強いとは聞いていたけどここまでの化け物なんて！」

クリム「仇はとるよ、私達だって同胞を何度も殺されてるんだから

！」

桜「おい、話してる場合かよ」

ヒツツエンベルグ

「うぐああ!!」

桜「心臓はここか？」

ぐしや！

ヒツツエンベルグ

「あつぐ！あああああああああ!!!」

桜「私を殺すんだろ？なあ？クリム」

クリム「この悪寒、ようやく本来のあなたに戻ったのね」

桜「先生ここは私がやるから、先に行つてて」

鉄心「お前やりすぎんなよ」

桜「分かつてる」

鉄心「百由！」

百由「はい？」

鉄心「百合ヶ丘からリリイ全員避難させろ、ほんでそいつら全員一般人の避難誘導に使い」

百由「流石にグアストと言えどここからじゃ一般人に被害は出ない気がするんですが？」

鉄心「そいつらのこと言うてるんとかやうねん、今から桜が一人の敵を本気で殺しに行くんや、お前やったらこの意味がわかるやろ」

百由「なるほど、了解しました、鉄心さんも手伝ってください！」

鉄心「おつしや任しとき！」

クリム「(ヒツツエンは瀕死、ウイルスは死んだ)

やるしかないわね荒っぽくなるから嫌だけどあんたが相手なら仕方ない」

クリムが顔に手を当てる

桜「あ？」

クリム「よく知ってるわよね」

シユユン

バアアアアン!!!

クリーム「ヒュージ化だよ」

クリームの顔に仮面が現れ黒いマギが吹き荒れる

桜「、」

クリーム「さあ、ぶっ殺して！」

桜「そんなおもちゃはとうに見飽きてんだよ」

クリーム「あれ？」

バリバリイ

クリームの仮面が粉々に砕ける

桜「親友のよしみだ次は地獄じゃなくて天国に送ってやる」

ばあごおおおん!!!!

桜がクリームの顔面に渾身の一撃を叩き込む

クリーム「ぐぼおあ!!」

クリーム「一瞬でヒュージ化が溶けるなんて！

(私の最大持続時間は40分！ヒュージの仮面の硬さは持続時間に比例する！それをこうも易々と粉々にするなんて、こいつ一体どんな握力してんのよ)「

クリームの手に黒い鎖鎌が現れる

クリーム「charm解放！」

桜「キルシユブリユート」

スパッ！

クリームのcharmが切断される

桜「なんだこれ？」

クリーム「な、なんで！」

桜「じゃあな親友」

桜がクリームを殺そうとする

クリーム「ブラツク・グラビティ」

ダウンっ！

桜の周りの重力が増加する

桜「ちっ！」

クリーム「あなたを殺す」

桜「救えねえなお前」

エレンスゲ

ラズカ

「来たのね、アリスレー・v・ファイ」

ロゼッタ「お楽しみはこれからってことですね」

ファイ「二人か、余裕ね」

神庭女子藝術高校

ゲーテ「サリアフル・グレーダ美鈴の予想通りだ」

グレーダ「てめえか？ここを荒らしに来た美鈴のクソ見てえなこしきんちやくは」

ゲーテ「あまり言葉が良くない不快だぞ」

御台場女学校

ミラ「エンペラー」

リラ「エンジエロ」

純「あなたは？」

エンペラー

「エンペラー・エンジエロ！百合ヶ丘四天王です」

EDEN

美鈴「さあ始めようか」

To Be Continued

episode 30 狂龍姫

アサルトリリイ30 The beginning of the
end

episode 30 狂龍姫

前回までのアサルトリリイ

三代レギオン合同訓練が終了し意気込む梨璃達

だがその前にファーストグアスト兼元四天王の

クリム・フラスベルタが現れる。そして他のGARDENにもり・

グアストの魔の手が忍び寄る

神庭女子

ラシステ「サリアフル・グレーダ」

グレーダ「お前がり・グアストか？」

ラシステ「だとしたらなんだ？」

グレーダ「名前は？」

ラシステが左目の眼帯を外す

ラシステ「テン・グアスト、ラシステ・ゲート」

ラシステの左目には10の数字の刺青が入っている

グレーダ「お前がこの子達を殺したんだな？」

ラシステ「だったらなんだ」

グレーダ

「いや、それを聞いただけで十分だ、遠慮なく殺せる」

ラシステ「私を殺す？そんなことはできない、

リリイ風情が私達グアスト超えることなど万に一つ いや、億に一

つもないからだ」

グレーダ「そうかよ、じゃあお前らヒュージ風情が四天王を殺すの

は兆に一つもありえないって解釈でいいな」

ラシステ「話にならないな、今すぐ殺して、

ん？どここだ！何故目の前から」ガシッ！

ラシステ「?!」

ラシステの顔をグレーダの手が掴む

ラシステ「ここじや戦えねえ場所を変えるぞ、
グラン・エプレ！」

叶星「は、はい！」

ラシステ「全員を避難させた後別のGARDENの救助に行けお前
らの力が必要だ、大丈夫私は必ず戻ってくる必ずだ！」

グラン・エプレ「了解！」

ラシステ「は、離せ！」

グレーダ「言われなくてもはなしてやるよ」

ラシステ「ちっ！、?!なんだここは！」

ラシステが周りを見渡す

ラシステ「あの一瞬でここまで移動したのか？」

グレーダ「さあここならお前も私も思う存分やれるぜ」

ラシステ「後悔することになるぞ！私の力の前に！ひれ伏せ!!!」

グアアアアアン!!!

ラシステの力が膨れ上がる

ラシステ「行くぞ！」

ギユンツ！

ラシステがグレーダに攻撃を仕掛ける

バゴオーン!!!

グレーダに拳が直撃する

ラシステ「フンっ！この程度の攻撃も避けられないのか！四天王
！」

グレーダが空中に吹っ飛ぶ

シュンっ！

ラシステがグレーダの目の前に一瞬で移動する

ラシステ「はあ！」

バギイ！

ズトオオオン!!!

グレーダが地面に叩き付けられる

シュタツ！

ラシステ「なんだ？四天王というのはこんなものか？弱すぎるぞ！

もつと真剣にやれ！」

グレーダ「弱すぎる？」

ラシステ「?!（なんだこの感じたことのないマジは?!）」

グレーダ「てめえ自分に言ってるのか？こっちのセリフだカス野郎」

グレーダ「そんな中途半端な力であの子達を殺したのか？」

ラシステ「な、何を！」

グレーダ「もういい、終わらせてやるよ」

ラシステ「なんだと！」

グレーダ「喰らい尽くせ、六天龍王」

グレーダの背中から六体の龍が現れる

ラシステ「完全解放か！」

グレーダ「ちげえよ、ただのレアスキルだ」

ラシステ「なんだと！」

グレーダ「来いバハムート」

ラシステ「やめろ！やめてくれ！」

グレーダ「二度と消えることのない炎の中で一生苦しみ続ける」

ラシステ「ぐあああああ!!!」

グレーダ「フンっこんなもんがよ、さてあいつらの所に帰るかな」グシュツ！

ぽたぽた

グレーダ「は？なんだこれ刃？」

グレーダの胸を刀が貫く

グレーダ「ごほっ！」

ラシステ「油断したな四天王」

グレーダ「何?!」

グレーダ「何故あの中から！ごほっ！げほっ！」

ラシステ「私の能力、ディスクイードマター」

グレーダ「な、なんだと！」

ラシステ「相手が一瞬でも油断すれば全てにおいての勝負は私の勝ちになる」

グレーダ「クソが！がはっ！」

ラシステ「さつきお前はこう言ったなこんなものかと、それではそっくりそのまま言葉を返そうこんなものか？四天王」

グレーダ「ならもう一回殺せばいい！今度は油断する間もなく！来いバハムート！」

……

グレーダ「なんで！バハムート！おい！バハムート！」

ラシステ「バハムート？ああもしかして、この事か？」

ラシステの背中から六体の龍が現れる

グレーダ「何故！お前が、それを、！」

ラシステ「貴様から奪ったのさ、美鈴が与えてくれたこのスキルロベラー（能力強奪）でね」

グレーダ「そんな、もんが！」

ラシステ「さあ行け！六天龍王！！」

グレーダ「ぐはああああ！！！！」

六体の龍がグレーダを襲う！！！！

ラシステ「はははははっ！！！！こうなってしまったら四天王もゴミ同然だな！」

グレーダ「ダメだ死んじまう、私の技を取られるってんなもん聞いてねえよ、ごめんな叶星、みんなお前らに教えてやらねえと行けないこと、まだまだあるのに、師匠失格だよ私は」

ラシステ「フツ！はははははっ！！！！大したことないじゃないか！四天王！これならあの上位三人のグアストを殺して私がファーストになることも夢じゃない！」

どんなピンチでも諦めるな！これがサリアフル家の掟だ！

グレーダ「なんだこれ？走馬灯か？それっぽいのが出てきやがる、今になって父さんの言ってたことを思い出すなんて」

グレーダちゃん強いから弱い人を守ってあげてね

グレーダ「弱い人を守る、そうだ！私にはまだやるべきことがめちゃくちゃ残ってるそれをやりきるまでは、死ねない！！！！」

グレーダ「はああああああ！！！！！！！！！！」

ラシステ「?!」

ザッ!

グレーダが立ち上がる

ラシステ「何故、まだ立てるんだ!!」

グレーダ「さあな俺にもわかんねえよ、まあ四天王の意地とでも言っておこうか!あと絶対戻るって約束したからな!」

ラシステ「わ、訳がわからん!お前はもう息をするのにも精一杯のはずだ!なのになぜ!」

グレーダ「ごちゃごちゃうるせえな!!知らねえつつてんだろ!」

バゴオン!

ビュンツ!!

ラシステ「ぐはっ!」

グレーダがラシステのを思いつき殴り飛ばす

ドサツ!

ラシステ「ゲボっ!まだ、こんな力が!」

グレーダ「俺もびつくりしてるよ、こんな窮地に立たされてるのに、何故か笑っちゃう自分がいることに!」

ラシステ「、!!」

グレーダ「行くぜ!」ダツ!

グレーダが勢いよく走り出す

ラシステ「くっ!!バハムートオオ!!!」

龍がグレーダを襲う

グレーダ「へっ!使い方がなつてねえな!!!万引き野郎!!!」ガシツ!

グレーダがバハムートの攻撃を避け首を掴む

ラシステ「何?!」

グレーダ「凶暴なペットが言うことを聞かない時どうするか知ってるか?」

ラシステ「は?!」

グレーダ「首根っこ掴んで無理やり言う事聞かせんだよ!!!」

ラシステ「ぐああああっ!!!」

掴んだバハムートでラシステを殴打する

グレーダ「ユグドラシル！」

ラシステ「何を言ってる?！」

グレーダ「遅せえよ！」

ガアアアアン!!!

グレーダがラシステの顔面を地面に叩きつける

ラシステ「うぐうおあ!!!」

グレーダ「あつた!あつた!よこせ!」ガシッ!

グレーダが完治の龍ユグドラシルの首を掴み自分の身体にぶつけ

る

グレーダ

「だはははははっ!!!完全回復!!!」

ラシステ「狂ってる、あれが四天王なのか?」

グレーダ「狂ってる?元々俺はこんなんだ!!」

ラシステ「ぐえっ!!はあ、はあ、ユグドラシル!」

グレーダ「おいクソ蛇共俺の言う事が聞けねえのか?」

龍達「ぐうううう、」

グレーダの威圧に龍達が萎縮する

グレーダ「だよなあ!俺の命令は絶対だ!じゃあどうすれば良いか

わかるな!」

龍達がラシステを見る

ラシステ「な、なんだ!」

グレーダ「バハムート!新しいご主人様を消し炭にしろ!」

ラシステ「ぐあああああ!!!」

グレーダ「さあラストだ!お前が殺したりリイの分あの世で後悔し

やがれ!!!」

ラシステ「や、やめてくれ!!あつい!あついよ!!!やめてええ!!!」

グレーダ「やめねえよ」

ラシステ「あつ!あつ、あ、どこにそんな力が」

グレーダ「俺の中で決めていることが一つあってな、気に入らねえ

やつは血反吐吐いてでもボコボコにぶち殺す!」

グレーダが目を見開く

Nへ救助に行け」

叶星「わかりました」

グレーダ「全速力で行けよ他のGARDENが助けを待ってる」

グラン・エプレ「了解！」

グレーダ「私はもう少し回復に時間がかかるがあとから追いつく！」

ピツ！

グレーダが電話をきる

グレーダ「任せたぞお前ら！」

t o b e c o n t i n u e d

episode 31 成長する最強

アサルトリリイ31 The beginning of the
end

episode 31 成長する最強

10年前

クリム「ねえ桜」

桜「どうした？」

クリム「私がお前が悪いことをしてあんた達の敵になったらどうする？」

桜「そんな時はお前の顔面ぶん殴って説教してやるよ」

クリム「そう、よかった」

現在

クリム「さくらあああああ!!!」

桜「クリムウウウウウ!!!」

どうううううん!!!」

二人の拳がぶつかり地面が割れる

クリム「私の中のヒュージ!! 来い!!」

ヴアアアアアア!!!」

桜「さつき割ってやったのにまた出すのか!」

クリム「ガアアアア!!!」

桜「なっ!」

クリムの角から高質力のマジが発射される

ブウウウウン!!!」

桜「ぬううううあ!!!!」

桜がなんとか受け切る

クリム「さあてぶっ殺してあげる♡」

桜「(なんだあいつさつきよりマジが濃くなってやがる)」

クリム「あんたこう思ってるでしょ、こいつ思ったより大したことないなって」

桜「まあな」

クリーム「でももう今のあんたより強いわよ私」
ブンっ！

桜「っ！（早い！気づかなかった！）」
どぐう!!!

桜「あがつ!!!」

メリメリメリ

クリームが桜の肋付近を殴る

桜「（こいつ！パワーも！）」

クリーム「グラン・マギナ！ディザスター!!」

桜「ぐああああ!!!」

クリーム「どう？私のグラン・マギナ久しぶりでしょ？」

桜「（おかしいと思った、あいつが強くなったのもあるが私が弱くなってる！）」

クリーム「あら？気づいたのね、そうよあんたは今着実に弱くなってる私と打ち合う度にね」

桜「なんだって！」

クリーム「これが私のレアスキル」

クリーム「ジ・アブソバー」

桜「ジ・アブソバー？」

クリーム「有する能力は相手の力の吸収、シンプルだけど強そうでしょう？」

桜「（力が入らねえ！）クソ！」

クリーム「あーあと二人ともそろそろ起きて！」

桜「何?!」

ウイル「おいおいせつかく気持ちよく寝てたのに起こすなよクリーム」

ヒツツエン「全くこれ疲れるのよねえ」

桜「なんで！さつき確実に殺したはずだ！」

クリーム「桜あ！言ったでしょあんたの力を吸収したって、これがどういうことかわかるかしら？」

桜「お前まさか！こいつらを治すために私の力を！」

百由「桜さんでもあの三人相手は厳しいと思うわ」

鶴紗「師匠、」

百合ヶ丘

桜「ぐはっ！あがっ！げほっ！」

ウイル「ほらほら！死んじまえ!!カスリリイ！」

桜「グラン、マギ、ナ」

桜が右腕を伸ばす

桜「桜牙!!」

ウイル「何?!」

シユフィンっ！

ポトツ！

桜の右腕が切り落とされる

ヒツツエン「させない」

桜「あ、くっ！（痛みも感じない、もうダメなんだろうか、）」

ドサツ！

ウイル「もう死ぬなこいつ、おいクリム！とどめは元親友のお前が

させよ！」

クリム「そうねこの因縁に終止符を打つとここえか」

ヒツツエン「最強のリリイ樟蔭 桜大したこと無かった」

ウイル「お前やられたたじやねえか」

ヒツツエン「あんたもね」

クリム「それじゃあね桜、久しぶりにあえて嬉しかった」

グサア!!!

クリムのcharmが桜の心臓を貫く

百由「生命反応、ロスト」

梨璃「そんな、」

鶴紗「嘘、だろ」

楓「すぐに助けに!!」

鉄心「やめとけえ！」

楓「鉄心先生！」

鉄心「あいつはお前ら逃がすため戦つとんねん！お前らが今いつて

も死に行くようなもんや」

楓「でも!!」

雨嘉「楓、何も出来なくて辛いのはわかるよでも一番辛いのは鉄心先生だよ」

鉄心「雨嘉一個まちごうとることがあるぞ」

雨嘉「え?」

鉄心「ワシは別に辛くもなんともないし心配も全くしとらん」

神琳「な!なんで!そんなの酷いです!」

鉄心「そういう訳じゃない、ワシはあいつを桜をみんなを100パーセント信じとる、あいつはどんな時でも絶望的な状況を打破してきた」

桜「、、、」

クリム「死んだわね」

ウイル「ざまあねえな」

ヒツツエン「さてあの子達を殺しに行こう」

鉄心「生命反応が消えてもあいつの心の奥底にある命の灯火はずっと燃え続けとる!それはワシが一番よう知つとる!俺の弟子を甘く見るなよ」

雨嘉「はい」

梨璃「信じようみんな!私達の師匠を!」

鶴紗「だな!」

夢結「ええ!」

桜「死んだのか私、ごめんなみんな守つてやれなかつた、これじゃあ師匠失格だ、まだまだ教えてやらねえと行けないこと、やりたいことたくさんあったのに、あったのに、」

何言つてんだ!!樟蔭 桜!!

桜「?!」

そんなもんかよ!お前の強さは!

やりたいことがあるんだろ!

またみんなと笑い会いたいんだろ!

桜「そうだ、」

ならこんなところで！

桜「こんなところで死んでる暇は!!無い!!」

ギユワアアアアアン!!!

クリム・ウイル・ヒツツエン

「?!」

桜「待てよ三下共」

ウイル「なんだと?!」

ヒツツエン「そんな!」

クリム「なんで!なんで!生きてるのよ!桜!」

百由「生命反応戻った!!」

鶴紗「まじかよ☒!!!」

楓「流石ですわー!!」

桜「さて第二ラウンドと行こうじゃねえかてめえら三人まとめて全員ぶつ飛ばしてやるよ!」

ウイル「なんで生きてるかは知らねえがさつきと全く変わってねえじゃねえか!」

クリム「ウイル、」

ウイル「なんだよクリム」

クリム「桜の傷が全部治ってる」

ウイル「なっ!ありえねえ!人間には到底出来ねえ所業じゃねえか!」

ヒツツエン「確かに私達は致命傷を追わせたはず!」

クリム「そしてオマケにこのマジの濃さ!尋常じゃない!!」

ウイル「てめえ!どうやってあの傷を治した!」

桜「わかんねえなでも強いて言うなら、」

桜「気合いで治した!」

ヒツツエン「そんなのめちやくちゃじゃない」

クリム「やつぱりそうだ前から思っていた事が確信に変わった、あなたの本当に怖いところそれは」

鉄心「お前らはなんで桜が最強のリリイと言われるかわかるか」
二水「マジの使い方が上手いとかですか？」

鉄心「それもあある、でもなああいつがほんまに強いんは」

鉄心・クリーム

「今でも常に成長し続けていること」

ウイル「(ちくしょう！さつきはあんなに余裕だったのに！今はもう)」

ウイル・ヒッツェン「(勝てる気がしない！)」

クリーム「あんた達！、撤退よ」

ウイル「クリームお前！」

クリーム「撤退って言ってるでしょ!!」

ヒッツェン・ウイル「了解、」

桜「おいクリーム！お前がどれだけ道を間違えても私がその道を正してやる！」

クリーム「なんでそこまでするの!!」

桜「親友だからだ!!」

クリーム「うっ！」

桜「あの時私を救ってくれたように！今度は私がお前を救い出す！」

クリーム「いつまでも、親友面してんじやねえぞ！」

ふっ！くっ！クソ野郎がああああ!!!」

クリームがケイブを発生させる

桜「いいか、リ・グアスト！お前達を倒すのは次にくる私の弟子たちだ！」

ヒッツェン・ウイル「!!」

桜「美鈴にこう伝える！震えて待ってる！あいつらは私達四天王よ！お前らより強くなってお前達をぶっ倒しに行くってな!!」

クリーム「伝えといてやるわよ！お前の弟子が死にに来るってなあ!!」

桜「そしてこれは洗礼だ！」

三人「?!」

episode 32 エンペラー・エンジエロ

アサルトリリイ32 The beginning of the
end

episode 32 エンペラー・エンジエロ

御台場

エンペラー「あなた達がり・グアスト？」

アゼル・ミラ

「ええそうですか？」

アゼル・リラ

「そういうあなたはエンペラー・エンジエロ」

エンペラー「(マギが濃い、かなりやるわね)」

リラ「お姉様、さっさとやってしまいましょう」

ミラ「そうね」

エンペラー「後ろ？」

リラが一瞬でエンペラーの背後をとる

リラ「さようなら四天王！」

リラが拳を叩き込む

エンペラー「誰にものを言ってるの？」

パシっ！

リラ「何?!」

リラの一撃を軽々と受け止める

エンペラー「あなた達はこの状況でまだ分かっていないようね、今

誰の相手をしているか」

ミラ「なんですって！」

リラ「貴様は何者なんだ」

エンペラー

「貴様？誰を相手にその口を聞いているの？」

リラ「(なんだ？さっきと雰囲気か)がはあ!!」

エンペラーの拳がリラの鳩尾にはいる

リラ「ゲホッ！がはっ！」

エンペラー「美鈴に習わなかった？目上のものには敬意を持って接しろと」

ミラ「貴様!!」

どぐう!!!

ミラ「ぐはっ!!あ、あ、あ、い、い、」

エンペラー「同じことを言わせないで」

ミラ「これが!」

リラ「天の狂帝の力!」

エンペラー

天の断裁者よ

虚空を貫き黒を呑み

空を裂き

闇を潰せ

断絶 破壊 蹂躞

その稲妻は汝を砕く

ミラ「詠唱?」

エンペラー

「マギア95 (ナインティーフアイブ)」

トロヴァオ・インペラトール (雷帝裂虚)

ミラ「なん、なの」

リラ「あれは、い、い、」

二人が見つめる先には数え切れない程の雷の柱が現れる

エンペラー「抑えろ」

ズドドドドドんっ!!

五本の柱が二人を押さえつける

ミラ「ぐっ!!」

リラ「なにこれ!動けない!!」

エンペラー「落ちろおおお!!!!!」

バギバギバギッ
!!!!!!

蒼い大地が落ちてくる

赤い海が内臓になる

黒い瞳が輝を殺す

タバコの火が消える

字が空に浮かぶ

赤いドアが怖い

脚が溶ける

世界が腐敗する

リラ「あああああ!!!!」

ガンツガンツガンツガンツガンツガンツ

リラが頭を打ち付ける

ミラ「あははは!!!あははは!!!あははは!!!」

グシャツ!ぐしやつ!グシャツ!ぐしやつ!

ミラが自分の心臓に刃物を刺し続ける

エンペラー

「もう終わらせてあげろ」

エンペラー「喰らえ」

神雷天喰

ピシャーーンツ
!!!!!!

スパツ!

エンペラー「おかしい、あまりにも弱すぎる」

アゼル姉妹死亡

エンペラー

「梨璃ちゃん……こっちは終わったわ、そっちは？」

梨璃「、、エンペラー師匠」

夢結「はあ、はあ、」

梅「まさかあなたが来るとは思ってたぞ」

梨璃「無理を承知でお願いします、早く来てください」

エンペラー「何があつたの!状況報告を」

梨璃「現在私達一柳隊は川添美鈴の襲撃を受けています!」

エンペラー「なんですって！」

美鈴「通話の先はエンペラー殿かな？」

鶴紗「悔しいけど歯が立たねえ」

エンペラー「他の敵は囚か！スキを突かれた！

そして相手の目的は梨璃ちゃんの奪還！」

ミリアム「あまり言いたくないが、」

神琳「このままじゃ死んでしまう！」

雨嘉「今の私達じゃ勝てない！」

楓「師匠が来るまで耐えるしかないですわね」

二水「ですね！」

エンペラー「みんな待ってて！すぐに行く！」

エンペラー「(でもどうする！雷瞬で行って間に合うか！迷ってる

暇はない！)」

美鈴「さあ梨璃一緒に来てもらうよ」

梨璃「そう簡単には行きません！」

美鈴「なら力づくで連れていくまでだ」

シュンっ！

梨璃「後ろ！」

夢結「梨璃！」

ギンっ!!!

美鈴「受けるか」

夢結「はああああ!!!」

夢結が美鈴に特攻する

美鈴「夢結少し黙っていてくれ」

パシっ！

夢結「なっ！」

ガンッ!!

夢結「ああ!!!」

楓「夢結様！」

梨璃「はああああアアアアアア!!!!」

ソベルバ「梨璃！ソツコーで決めなさいよ！」

梨璃「わかってる！」

美鈴「ヒュージ化か」

梨璃「グラン・マギナアアア!!!!」

美鈴「貧弱だな」

バンツ!

梨璃「そんな！」

ソベルバ「ヒュージ化のグラン・マギナを」

二水「あんなに軽々と！」

鶴紗「梨璃離れろ！」

梨璃「！」

鶴紗

「アブソリュート・カウンター・フィールド」

美鈴「なるほどこれが」

鶴紗「あんたの攻撃は全て跳ね返る」

楓「これで攻撃はできないはず！」

美鈴「ぬるいな」

鶴紗「なんだと！」

美鈴「君たちと私には圧倒的な力の差がある」

鶴紗「どういうことだ！」

美鈴「こういうことさ」

バリイン!!!

鶴紗「なんだと、」

楓「カウンターフィールドが破られた?!」

美鈴「こんな矮小なもので私を抑えられると思うのか？」

鶴紗「カウンターフィールドは内部からは壊せないはず！」

美鈴「壊せるか壊せないかは君が決めることじゃない、私が決める

ことだ」

二水「(今まで色んな強い人を見てきた、でもあれはなにか違う！

あれはただの化け物だ)」

美鈴「よそ見してる場合かい？」

二水「え？」

梅「二水!!!」

美鈴

「二川 二水君は殺して置かなければならない」

鶴紗「やめろ!」

ぶしやああ!!!

二水の体に深く傷が入る

二水「そんな」な」バタン

梅「貴様ああああ!!!」

怒りが頂点に達した梅が美鈴に攻撃を仕掛ける

美鈴

「感情に身を任せてはいけないな」

梅「はああああああ!!!」

梅がcharmを叩きつける

ピン

だがそれを美鈴は指一本でピタリと止める

美鈴「力はこうやって使うんだよ」

バライイイン!!!!

梅のcharmタンキエムが砕け散る

梅「なっ!」

美鈴「終わらせよう」

梨璃「グラン・マギナ!」

美鈴「?!」

シュンっ!

梨璃が美鈴の目の前に現れる

美鈴「(感知出来ない?!)」

梨璃「オルタアアア!!!」

ズギユユユン!!!!

美鈴「危ないじゃないか」

ソベルバ「受けきった?!」

梨璃「不思議じゃないよカウンスターフィールドを素手で粉碎したんだもん」

ソベルバ「それもそうね」

美鈴「(やはりヒュージのマジが、梨璃やはり君は)」

梨璃「なぜ二水ちゃんを切ったんですか!」

美鈴「なぜそんなことを聞くんだい?」

夢結「二水さんだけを狙う必要はないでしょう」

美鈴「二川二水は私達EDENにとって最も邪魔な存在だからね」

鉄心「やっぱり知ったか」

梨璃「鉄心先生!」

美鈴「轟 鉄心、いや千王鉄心」

夢結「千王?」

鉄心「お前ら二水ちゃん連れて撤退しろ、こいつの相手はワシがやる」

美鈴「これはなかなか分が悪いな」

鉄心「逃げてもええんやぞ?」

美鈴「そうさせてもらおうとします」

鉄心「えらい物分りがええやないか」

美鈴「でも、あなたを殺してからですがね!」

美鈴が鉄心の後ろをとる

美鈴「グラン・マジナ」

ギョワアアアアン

!!!!

梨璃「先生!!」

楓「なんですかあの威力!」

神琳「私達のは次元が違う!」

ミリアム「あんなものまともに喰らったら!」

鉄心「あーあ新しい帽子が汚れてまうやないか」

雨嘉「え?!」

鶴紗「あれを喰らって傷一つ着いてない?!」

梅「あれが先生の能力か?」

鉄心「いや、ワシに能力はないただ殴るだけや」

美鈴「千王!私達ヒュージを苦しめた第一人者」

鉄心「さあ行くで美鈴!」

t
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

episode 33 千王

アサルトリリイ33 The beginning of the
end

episode 33 千王

鉄心「じゃあ行くで」

ギョーンッ!

鉄心が美鈴に攻撃を仕掛ける

美鈴「くっ!」

美鈴が鉄心の攻撃を避ける

夢結「避けた?」

梨璃「普段なら反撃するのに!」

梅「よし準備できたぞ!」

鶴紗「飛ばせ!梅様!!」

梅「縮地!!」

ビューーっ!!!

美鈴「待て!」

鉄心「よそ見すんなやドアホ」

ドウグウン!!

美鈴「?!ぐはあっ!!」

鉄心「やつぱりワシ相手やとレアスキルとマジほんでビュージの力も使われへんようやな」

美鈴「千王、我らビュージの天敵」

鉄心「お前らの敵がリリイだけや思うなや」

美鈴「分が悪いので撤退させてもらいます」

ブワァーン

美鈴がケイブを展開する

美鈴「本当に鬱陶しい物だ千王と言うのは」

ぷしゅんっ!

鉄心「帰るか」

夢結「梅!百合ヶ丘にはあと何分で着く?」

梅「5分くらいだぞ」

鶴紗「二水！あともうちよつとだからな！」

二水「うっ！ぐうう!!」

楓「二水さん！」

雨嘉「でも二水のこの傷急所を外してる」

神琳「あれを咄嗟に避けるなんて」

梨璃「天性の戦闘のセンス」

E D E N

ブワーン

クリム「美鈴!!」

美鈴「何人帰った？」

クリム「私たち以外は全員やられた」

美鈴「そうか、あちらも戦力を大幅にあげてきている、やるなら今しかない」

クリム「ヒツツエン持ち帰ったりリイの死体はある？」

ヒツツエン「バツチリね」

美鈴「儀式を開始する」

魔法陣の上に大量のリイの死体を置く

美鈴「クリム樟蔭 桜とエンペラーの髪の毛を」

クリム「ほら！持って来たわよ」

美鈴「ありがとう」

クリム「ちよつと待ってほんとに桜のもやるの？」

美鈴「あああの人は私たちの計画の邪魔になる存在だ優先して力を封じておきたい」

クリム「そう、」

美鈴「情がうつったのかい？」

クリム「そんなんじゃないわよ本気のあいつと戦いたかったから残念だなーって」

回想桜「お前がどれだけ道を踏み外しても私が正してやる」

クリム「ちっ！」

美鈴「そうか」

ヒツツエン「あの二人はいいの？」

美鈴「グレーダとファイはもう無理だ今できることをやる」
ヒツツエン「了解」

美鈴「オーバーセラッド!!」

百合ヶ丘

ファイ「ふう、こっちは片付いたよ」

桜「わかった戻って来てくれ、ぐっ!!」

ファイ「桜ちゃん? どうしたの? ねえ!」

エンペラー「師匠! 二水ちゃんは! ぐっ!」

鉄心「どうした!」

グレーダ「まさか!」

梨璃「師匠!」

一葉「これは!」

桜「あいつら、ついにやりやがった!」

鉄心「オーバーセラッド!」

夢結「なんですって!」

鉄心「対象のマジを完全に封印する禁術か!」

四天王「ぐああああああ
!!!!」

しゅゆゆん

桜「くそっ!」ガンツ!

桜が地面に拳を叩きつける

桜「私達のマジが」

エンペラー「完全に消えた!」

ファイ「とりあえずそっちに戻るわ」

30分後

ファイ「みんな!」

グレーダ「ファイ!」

桜「二水が瀕死状態だ」

ファイ「え?!」

桜「今グレーダの能力で治癒しているところだ」

二水「うっ！」

フィー「さっきのは？」

桜「、私とエンペラーのマジが完全に封印された」

フィー「なるほどね、やっつけてくれたわね」

グレーダ「フィーお前は大丈夫そうだな」

フィー「ええなぜだか分からないけどね」

桜「たぶん死体の数が足りなかったんだ」

グレーダ「リリーのか？」

桜「ああ禁術オーバーセラッドは発動するのに一人に対して200人のリリーの死体が必要になる」

梅「じゃあ、そのためにリリーを殺していたのか！」

鶴紗「ゲス野郎共が!!!」

夢結「解除する方法はないんですか？」

桜「解除するには術をかけた本人が解除するか」

エンペラー「その本人が死ぬか」

桜「あいつらの目的がこれなのはソベルバの話でわかっていたのに！」

エンペラー「私達が気づかない間にリリーをあんなに殺していたなんて！」

梨璃「師匠の力も封印されて私達の仲間もあんなに殺された、これじゃあ完敗じゃないですか」

夢結「梨璃、」

梨璃「でも！このままやられっぱなしで黙ってるほどこっちも甘くない！」

グレーダ「で桜よお前もあいつと決着つけに行かねえとダメだがどうするマジが使えないなら留守番でもしとくか？」

桜「なわけねえだろマジが使えなくてもあいつの顔面ぶん殴ることはできる」

グレーダ「だよな！」

桜「まあこれは使えねえな」

鶴紗「キルシュ・ブリュート、」

桜「鶴紗！」

鶴紗「はい？」

桜「これをお前に託す」

鶴紗「いいんですか？」

桜「お前ならこれを使いこなせるはずだ」

鶴紗「わかりました、壊しても文句言わないでくださいよ！」

桜「ああ!!」

エンペラー「じゃあ他のみんなには」

梅「なんだ？」

エンペラー「私の武器を授けるわ」

梅「charmか？」

エンペラー「いえ、マギアよ！」

梅「マギア？」

エンペラー「詠唱によって発動する魔法攻撃のようなものよ」

雨嘉「凄そう、！」

エンペラー「お手本は見せられないけどあなた達なら大丈夫で
しよ」

五人「はい！」

グレーダ「ユグドラシルどうだ？」

ユグドラシル「治癒できました」

二水「うっ！ん？」

グレーダ「大丈夫か？二水」

二水「はい、ありがとうございます」

楓「良かった！二水さん！」

二水「ありがとうございますグレーダ師匠」

グレーダ「死ななくて良かった」

鉄心「二水ちゃん」

二水「先生」

鉄心「まずは無事で良かった」

二水「ありがとうございます」

鉄心「でもあん時なんで君が狙われたかわかるか？」

二水「えつと、たまたまですか？」

鉄心「違う、単刀直入に言うわ君には千王の血が流れとる」

二水「千、王…ってなんですか！」

鉄心「だああああ!!!」ぼてんっ!

夢結「それは私も思っていました」

二水「夢結様！」

鉄心「あーそやな説明しとらんかったな」

千王、50年前ヒューズと共に現れた一番最初のリリイ全てのリリイにマギを分け与えた存在や、そして全てのリリイの中で唯一マギを使えへんリリイや

夢結「マギを！」

楓「使えない？」

雨嘉「どうやって戦うの？」

鉄心「まあ最後まで聞けや」

その代わり千王はマギを使えへんがマギを唯一

受けつへんリリイでもある

梨璃「受け付けない？」

鉄心「簡単に言うたらマギの攻撃は全部効けへんねん」

鶴紗「最強じゃん」

鉄心「まあそやな」

鶴紗「じゃああの時美鈴様のグラン・マギナが効かなかったのは」

鉄心「そう、千王の力や」

神琳「二水さんにはその血が流れているんですね」

鉄心「そうやしかも純粹な千王の血、」

夢結「でもなぜ川添 美鈴の力を受け付けたんですか？」

鉄心「血が流れとると言うてもまだ完全に適合してないんや」

鉄心「千王になるには段階があんねん」

まず一段階目は圧倒的戦闘センスの開花

梅「なるほどだから最近二水の戦闘スタイルが変わったのか」

梨璃「確かに」

二水「そうなんです、ね、」

鉄心「でも第一段階の開花には相当な努力をせな開花しよれへん、当然やとは思うけど戦闘スタイルをいきなり変えるのは大変なことや、そこで躓いたやつを俺は過去に何人も見てきた、だから二水ちゃん、君は自分自身の力でこの力を開花させてんで」

二水「!!」

鉄心「自信持ちなはれ君はめっちゃすごいやつや」

二水「先生、」

鉄心「君は確かに天才になったかもしれない、でもなその前に君はすでに努力の天才やねんで」

桜「そうだよ二水、お前はグラン・マギナ桜牙を習得した唯一のリリースなんだ」

ミリアム「ワシは知つとるぞ二水お前が修行の時

誰よりも遅くまで起きて自主練に励んどったことを」

二水「あ、あれバレてたんですか!？」

ミリアム「がははははっ!!ワシには全部お見通しなのじゃ!」

桜「だから見せてやろうぜ二水あいつら(EDEN)

に今の千王!二川二水の力を!」

二水「はい!!!」

桜「そうと分かったらまずは腹ごしらえだな!」

エンペラー「私たち四天王が最高の料理を振舞ってあげる!」

梨璃「やった!!」

桜「行くぞーお前ら!」

フィー「はい」

グレーダ「よしっ!久々に料理するな!」

ガチャっ!

四人が部屋の外に出る

桜「ふう、」

エンペラー「凄いですね二水ちゃんまさか千王の血筋だったなんて」

グレーダ「だな」

ファイー「これでようやく反撃の兆しが見えたって感じね」

桜「二水にはあのことを言うなよ」

グレーダ「わかってるよ」

桜「千王覚醒の最終条件」

エンペラー「現千王を殺すこと」

ファイー「今言えば確実に覚醒は遠のいてしまう」

桜「そうだから絶対に言うな」

夜

シユボツ

ジリジリ

桜がタバコに火をつける

桜「ふうー」

グレーダ「一本くれよ」

桜「珍しいな、ほらよ」

グレーダ「火いくれ」

シユボツ

ジリジリ

グレーダ「ふうー」

桜「どうだ」

グレーダ「不味いタバコ吸ってんな」

桜「なんだよそれ」

グレーダ「でも、」

桜「ん？」

グレーダ「悪くないかもな」

桜「そっか、」

t o b e c o n t i n u e d

episode 34 決戦前夜

アサルトリリイ34 The beginning of the
end

episode 34 決戦前夜

EDEN

美鈴「おはよう」

ミラ「!!、ここは!」

美鈴「大丈夫かい? ミラ」

ミラ「私は、」

美鈴「エンペラーに殺されてしまったんだよ」

ミラ「そうだったわね、リラは?」

リラ「ここですよお姉様」

ミラ「私達は両方共、」

リラ「仕方ないですよ相手はあの四天王だったんですから」

ミラ「ええ甘く見ていたわ、ごめんね美鈴」

美鈴「いいさエンペラーと桜の力は封印した、君たち二人のおかげ
でいいデータも取れた」

ミラ「全員を復活させたの?」

美鈴「当たり前だみんな私の仲間だからね」

朝

百合ヶ丘女学院

桜「みんな! 明日EDENに全員で乗り込む」

全員「はい!」

グレーダ「私達四天王も戦いに参加する」

エンペラー「私とお姉様はマギは使えないけど」

桜「そして二水は今も先生と修行中だから遅れて合流する」

鶴紗「師匠」

桜「どうした?」

鶴紗「今の私達はいつらに勝てますか?」

桜「大丈夫だ今までお前たちは自分達の力でどんなことでも乗り越

えて来ただろ？それとも自身がないのか？」

鶴紗「いえ勝てる気しかしないです！」

桜「流石は私の弟子だ」

夢結「みんな！私とお姉様の姉妹喧嘩に付き合わせて本当に申し訳なかつたわね」

梅

「何を今更、仲間を助けるのは当たり前だぞ」

夢結「ありがとう、」

梅「迷惑と思ってるやつなんていないぞ」

鶴紗「そうですよ夢結様」

ミリアム「ワシらは好きでやつとるんじや！」

雨嘉「夢結様がいてくれたから今の私達がある」

神琳「そうですよ夢結様」

梨璃「お姉様！一緒に戦いましょう！」

夢結「ありがとう、みんな」

叶星「いい仲間ね」

一葉「ほんとに」

桜「良かったな夢結、」

夢結「はい！」

桜「結束も固まったところでお前らのレギオン名を発表する」

梨璃「レギオン名？」

叶星「私達の」

一葉「レギオン！」

桜「命名、ヴァルキューレ」

対EDEN特殊レギオン、ヴァルキューレ

梨璃「ソベルバも一緒だよ」

ソベルバ「そっか、ありがとうね」

楓「あなたを認めたわけではありません、でも今の梨璃さんにはあなたが必要ですよ」

ソベルバ「楓、あんた達の仲間になって良かった」

梨璃「私達の力見せてやろう！みんな」

食堂

桜「さあ食べ！みんな腹が減っては戦は出来ぬ！」

グレーダ「私達が腕によりをかけて作っただんだ残したら承知しねえぞ！」

全員「はい！」

梨璃「でも、多すぎませんか？」

夢結「これ全部で何キロあるのかしら、」

雨嘉「私達料理に見下ろされたの初めて、」

神琳「多分経験したことある人の方が少ないわよ」

桜「お前らの最後の修行だ」

梨璃「修行、ですか？」

桜「まあつべこべ言わずに食ってみな」

パンっ！

夢結が勢いよく手を合わせる

夢結「頂きます！」

はむっ！

夢結「美味しい！」

ハムっ！ハグっ！あむっ！

夢結「梨璃！これ相当美味しいわ！」

梨璃「え？あ、はい！」

もぐっ！

梨璃「ほんとだ！」

ミリアム「なんじゃこれ！めちやくちや美味しいぞ！」

ガツガツ!!

雨嘉「この魯肉飯すごく美味しい！」

神琳「ええ！これはなかなか！」

一葉「この海鮮丼最高です！」

叶星「肉！うつま!!」

高嶺「叶星のキャラが変わってる！」

姫歌「このケーキもやばい！語彙力無くなるくらいやばい！」

灯莉「天井おかわり！」

姫歌「早っ!!」

千香瑠「お寿司美味しい!」

楓「なんだか力が湧いてくる気がしますわ!」

桜「だろうな」

グレーダ「私達が丹精込めて作ったからな」

神琳「ほんとに美味しいです!」ブワツ!

美鈴「?!」

クリム「美鈴!」

美鈴「ああ!これは」

クリム「こんなにでかいマギ久しぶりに感じたわ」

美鈴「しかも一人だ、あっちの最終段階も終了したわけか」

クリム「何よそれ?」

美鈴「料理だよ特別なね」

クリム「は?料理?」

桜「私達を作る料理はちよつと特殊でね」

フィー「私達のマギを込めて作ってるからね」

グレーダ

「美味しい飯のハッピーセットに潜在能力の解放付きだ」

エンペラー「これはあの訓練を受けたあなた達にしか食べられない

料理よ」

夢結「そうなんですか?」

梨璃「ソベルバ、今ならできる気がする」

ソベルバ「え?」

梨璃「ソベルバと一緒にになれる!」

夢結「一緒に?」

桜「この最終訓練もう一つの目標があるんだ」

楓「もう一つの、」

千香瑠「目標?」

グレーダ「ソベルバのマギの解放!」

ソベルバ「梨璃、凄いやあんたのマギがどどん

覚醒していく！」

梨璃「私もソベルバのマギを凄く近くに感じる」

桜「お前ら離れてろ！食器ぶっ飛ぶぞ！」

エンペラー「ソベルバの実戦で蓄積された経験が梨璃ちゃんのマギに刻まれていく！」

フィー「そして梨璃ちゃんとソベルバを縛っていた鎖が外れていく！」

ソベルバ「私と梨璃のマギがだんだん一緒になっていくのがわかる」

梨璃「行くよ、ソベルバ!!」

ソベルバ「うん!!」

梨璃・ソベルバ

「はああああ!!!」

グワアアアアン!!!

美鈴「これは、」

クリム「梨璃のマギが覚醒する！」

ウィル「もう一個！やつ（ソベルバ）のマギ！」

ヒツツエン「ここまでの重圧！」

ウィル「なんだよこれ！これが！」

四人

「二柳梨璃の本当の力！」

しゅゆゆん

夢結「梨璃？」

梨璃

「二柳梨璃とソベルバが合わさって！」

リベルバ「リベルバだああああ!!!」

ドウワアアアアン!!!

全員「いや！だれえええええ!!!??」

その姿は白い肌に金色の長髪でして青い目

リベルバ「私はどのリリイをも凌駕する最強の

リレイ!、そうだなー、フツ!

金色の断罪者!リベルバだ!!

鶴紗「いやいや!だからお前は誰なんだって!」

桜「梨璃とソベルバのマジが合わさった姿って言えば良いのかな?」

リベルバ「ねえ!桜ちゃん!」

全員「ちゃん?!」

桜「な、なんだ?」

リベルバ「私を数秒でいいからEDEN本拠地に送れる?」

夢結「な、何を言っているの!梨璃!!」

リベルバ「ちつがーう!!今は梨璃じゃなくて!リ!ベ!ル!バ!
!」

夢結「え、ええー」

楓「そんなことよりEDEN本拠地に行くってことですか?!」

リベルバ「うん!そだよーかえでん!」

楓「かえでん!?!、悪くないですね」

鶴紗「アホ!言ってる場合か!」

一葉「梨璃さん…じゃなくて!リベルバさん!確かにあなたのマジは凄まじいです!でも流石に一人で乗り込むのは危険過ぎる!」

リベルバ「一葉ちゃん、別に倒しに行く訳じゃないんだよ、ちよつとした宣戦布告だよ」

桜「やれるか!フィー!」

フィー「1分だけならね」

リベルバ「じゃあ早速送ってよ!」

対

フィー「よしっ!」

シュンっ!!

神琳「え!飛ばしたんですか?!」

雨嘉「何やってるの!フィーさん!」

フィー「大丈夫だって!今のあの子、いえ」

あの子たちなら!

E D E N

シュンっ！

E D E N 共「?!」

リベルバ

「はーい!!みんなが大好き最強ヒーロー!」

リベルバちゃんだよー」

ウイル「てめえ!のこのこ殺されにきやがったか!」

ヒツツエン「今度こそとつ捕まえて私達の力の糧になれ!」

リベルバにリ・グアスト全員が攻撃を仕掛ける

リベルバ「リベルバちゃんは美鈴ちゃんに用があるの、あんまり怒らせないで欲しいな」

ゾワツ!!!

ウイル「うあ、」

リベルバ「いい子達だね自分より強い相手にはビビって近寄れないなんて、ヒュージにも可愛らしいところがあるんだね」

ウイル「て、てめえ!」

リ・グアスト全員がリベルバの眼力によって押さえつけられる

リベルバ「これいい技だね名付けるなら、そう

ジャツジメントグラビティ」

ヒツツエン「ふざけるな!!さっさとこれを解け!ぐうううっ!!!」

リベルバ「噛ませ犬ちゃん達は黙ってて、リベルバちゃんが話に来たのはそこに偉そうに座ってる銀髪ちゃんだよ」

美鈴「ついに君たちが融合したか」

リベルバ「そうだよ美鈴ちゃん」

美鈴「何故ここにきた?」

リベルバ「宣戦布告」

美鈴「何?」

シュンっ!

リベルバから梨璃に戻る

梨璃「私達三代合同レギオンヴァルキューレは、

川添美鈴、そしてリ・グアストを全力で叩き潰す
震えてまっててください、勝つのは」

梨璃・ソベルバ「私達だ！」

美鈴

「いいだろう、全面戦争だ」

ソベルバ「そしてウイル、ヒッツエンベルグその姿ざまあないわね
笑」

ビキイ!!

ウイル「てめえええええ!!!」

ウイル・ヒッツエン「殺す！」

二人が梨璃に攻撃を仕掛ける

プシュン!!

梨璃が消える

ウイル「クソがアアアアアア」

グンツ!!

バゴオオオオン!!!!

ウイルが拳を地面に突き刺す

シュンっ!

梨璃「よっと」

桜「どうだ二人とも、新しい力の感覚は」

梨璃・ソベルバ「最高！」

桜「ははっ! いいな!!」

E D E N

ウイル「美鈴! なっ!？」

美鈴「リリイ風情が生意気な」ビキイ!!

クリム「落ちきなよ美鈴ブチギレてるじゃない」

ヒッツエン「初めて見た、美鈴が怒っているところ」

美鈴「すまない取り乱した」

クリム「ふふっ」

クリムが美鈴の後ろから手を回す

美鈴「ん？」

クリム「大丈夫よ私達がリイに負けるはずがないわ」

美鈴「そうだね」

百合ヶ丘地下

二水「ぐあっ!!」

ドサツ!

鉄心「どうした!もう終わりか!」

二水「まだまだ!」

鉄心「千王には程遠いな二水!」

二水「自負していますよ!」

鉄心「常に限界を超え続けろ!」

二水「はあ、はあ、はい!」

鉄心「来い!」

二水「やああああ!!!!」

t o b e c o n t i n u e d

次回

最終章

川添美鈴 決戦編 開始

最終章 川添美鈴 決戦編

episode 35 開戦

アサルトリリイ35 The beginning of the
end

episode 35 開戦

朝

桜「お前ら準備はできてるな」

全員「はい！」

エンペラー「みんな！これが最後の戦いになる」

グレーダ「気い引き締めていけよ」

フィー「私達の教えたことを全部出し切りなさい」

桜「夢結！」

夢結「はい！」

桜「第一目標は？」

夢結「お姉様の顔面に一発入れる！」

グレーダ「いいじゃん！」

フィー「肝座ってるじゃない！」

桜「じゃあリーダー掛け声よろしく！」

全員「……」

梨璃「え？なんでみんな私の事見てるんですか！」

叶星「そりやそうでしょ！」

一葉「梨璃さん！あなたがリーダーですよ！」

鶴紗「だな！」

楓「梨璃さん以外有り得ませんわ！」

ソベルバ「右に同じね」

神琳「もちろんです」

雨嘉「頼んだよ梨璃！」

姫歌「まあ今回はセンターを譲って野郎じゃないの」

ゲエテ「ここで死ね！」

ブンっ！

ゲエテが梨璃に切りかかる

パシっ！

鶴紗「うちのリーダーの邪魔すんな」

ゲエテ「何!!」

鶴紗がゲエテの斬撃を防ぐ

鶴紗「梨璃！後で追いつく！お前は先にあいつの事ぶん殴って来い
！」

梨璃「うん！」

ゲエテ「ちようどいい！」

鶴紗「！」

ゲエテ「一人減らしておくか！」

鶴紗「やれるもんならやってみろ！」

鶴紗「使うよ師匠！charm解放！」

鶴紗のcharmにルーンが刻まれる

鶴紗「咲け！キルシュ・ブリユエ」

ドウワアアアン!!!

ゲエテ「なんだこの力は！」

鶴紗「私達は前川添美鈴の圧倒的な力の前に逃げ帰った、多分あの
時じゃお前らにすら届かなかったと思う、でもな！今はお前らに勝て
る気しかしねえ！」

ゲエテ「何を！」

鶴紗「行くぞ」

シユンっ！

ゲエテ「(消え?!)」

鶴紗「遅せえよ」

ブシユユ!!!

ゲエテ「ふっ！これで！」

ゲエテが刀にマギを込める

ギユンンン!!!

ガルアアアアア!!!!!!

炎の獅子がゲートルを燃やし千切る

ゲートル「ぐぎゅあああああ!!!」

燃え盛る獄炎がゲートルを焼き尽くす

鶴紗「一生燃えてないカレ野郎」

ゲートル「何故!」

鶴紗

「うわっ戻った!」

ゲートル「何故そんなちからが!」

鶴紗「え?ああ、飯食った」

ゲートル「は?」

鶴紗「じゃあな情緒不安定クソ野郎」

しゅゆううう、、

ゲートルが灰になる

鶴紗「ふう、よかった強くなってる」

t o b e c o n t i n u e d

episode 36 決意の涙

アサルトリリイ36 The beginning of the
end

episode 36 涙

弱い

「あなたほんとに弱いよね」

「あーあ弱いのと組まされて最悪」

ゲエテ「やめろ」

「なんでそんなに弱いのか？」

ゲエテ「やめろー！」

「あんたみたいな弱いやつと友達なんかにならなければよかった!!」

ゲエテ「私は友達がいなかった、理由は弱いから」

リリイ1「あの子よお金でこの学校に入学したって言うリリイ」

ゲエテ「(違う!)」

リリイ2「才能ないよね」

ゲエテ「(知ってる!自分が一番わかってる!)」

ゲエテ「(私だって頑張ってる努力すればいつかは強くなれるって

信じてた」

でもダメだった

ゲエテ「何回も何回も努力しても強くなれないレギオンにも入れて

貰えない」

美鈴「虚ろな目をしているね」

ゲエテ「(私がちょうど命を絶とうとしてた時だった美鈴にであつ

たのは)」

ゲエテ「ねえ銀髪のお姉さんあなたが誰だかは知らないけど私は努力したのに強くなれないんだ、そのせいでみんなにも仲間はずれにされる、私今から死ぬんだ、だから最後に聞かせてよ、私どうすれば良かったのかな？」

美鈴「親は？」

ゲエテ「いない、私が産まれる前にどっちも死んだ」

美鈴「努力が必ず報われるというのは嘘だ」

美鈴「才能のない人間は努力する権利すら奪われる、それが現実だ」

ゲエテ「なにそれ、出来レースじゃん」

美鈴「才能のない人間は努力する気力も何もかも自分自身の才能の無さに絶望し無くしていく」

ゲエテ「あーなんか納得だわ」

美鈴「ところで君は死ぬのかい？」

ゲエテ「うん生きる気力ないしもう死んだ方がマシかなって」

美鈴「逃げるのかい？」

ゲエテ「え？」

美鈴「ここで君が死ぬということは今まで君の事をコケにしていた連中からしつぽを巻いて逃げるといふことだ」

ゲエテ「だからなによ！逃げたつていいじゃん！あなたになんの関係があるの！私の何を知ってるんのよ！」

美鈴「君にはまだやるべきことがある」

ゲエテ「え？」

美鈴「君の復習の手伝いをしよう君をバカにした連中を殺す力をあげよう」

ゲエテ「何言ってるの？殺すって何?!わけわかんない！あなたおかしいよ！」

ゲエテが走り出す

ギョッ

ゲエテ「はっ！」

美鈴がゲエテを抱きしめる

ゲエテ「な、何やってんの?!」

美鈴「君には可能性を感じるんだリリイとしての才能ではない、謝った正義を殺す闇の才能を」

美鈴がゲエテの耳もとでそう囁く

ゲエテ「ああいつぶりだろう、こんなに優しく抱きしめられたの死んだお母さんに似てる、これが嘘でもいい私はもうこれに縋るしかないんだ」

そう続けるしか無かったそうしないと

自分が壊れそうだったから

美鈴「力が欲しいかい？」

ゲーテ「はい」

美鈴「手を出して」

ゲーテ「こう？」

ブワアアアン!!

ゲーテ「すごい！こんな力があるなんて！」

ガチャ！

屋上の扉が開く

友達「ごめんねゲーテさつきは言い過ぎた！あなたは弱くなんかない！私の方が！」

ゲーテ「もういい、うんざりだよ」

ブシユユっ!!

友達「え？」

ゲーテが友の首を切る

友達「あ、あ、」バタンっ！

美鈴「まずは一人」

ゲーテ「ふふふっ！フハハハハッ!!!」

美鈴「良いじゃないか君にはこっちの方が似合ってる」

ゲーテ「ありがとう、名前を」

美鈴「美鈴、川添 美鈴だ」

ゲーテ「フツ！よろしく美鈴」

美鈴「ああ」

ゲーテ「こうして私はリリイとしての人生を終えた」

ゲーテ「もう私を弱いなんて言わせない」

鶴紗「確実に殺したはずなのに！」

ゲーテ「さつきの戦いでわかった事がある」

鶴紗「何？」

ゲートル「お前は私より格上だこれだけで良い」
シユンッ

鶴紗「消えた?! やつは！」

ゲートル「ここだよ」

鶴紗「目の、前？」

ドウグウ!!

鶴紗「がはっ!!」

ビユンッ!

鶴紗が殴り飛ばされる

鶴紗「(なんだ? さっきよりパワーが)」

ゲートル「どこを見ている？」

鶴紗「なっ! くっ!」

バギイ!

鶴紗「うっ!」

ゲートルの蹴りが鶴紗の体に直撃する

ゲートル「貴様は私の格上だ、なら話は早い」

鶴紗「はあ、はあ、何を！」

ゲートル「私のレアスキル」

スペリオルキ

ラー

ゲートル「発動条件は死、能力は私は格上の相手より強くなる！」

鶴紗「厄介な！」

ゲートル「ふっ!」

鶴紗「？」

ゲートル「そして! 私を殺せば殺すほどこの能力は重複していく」

鶴紗「何?!」

ゲートル「ああ、それと」

鶴紗「貴様にはまだ見せていなかったな」

ズオオオオオ!!!

鶴紗「なんだこの押しつぶされるようなマジ！」

鶴紗「やばい！地面につ！」

ゲエテ「死ねえ!!」

鶴紗「どきやがれええええ!!!」

ゲエテ「何?!」

鶴紗がゲエテの体にかざす

バアアン!!!

ゲエテ「くそっ！」

バサツ！

鶴紗が体制を立て直す

ゲエテ「その羽ちぎってやろうか！」

鶴紗「あいにく特別性でねちぎれないようになってんだよ！」

ガキンっ!!

二人の刃がぶつかり合う

鶴紗「(どうすればこいつを倒せる！殺せば強くなるし今のこいつ

はさつきまでとは段違いの強さ

最悪あれを！)」

ガキンっ!!

ゲエテ「どうしたリリイ！もう終わりか！」

鶴紗「(こいつのマジさえどうにか出来れば！)」

ゲエテ「でええやああ!!!」

鶴紗「ぐああああ!!!」

ゲエテ「ふははははは!!!」

鶴紗「何笑ってんだ?!なんか楽しいことでもあったか？」

ゲエテ

「いやリリイの奥の手でもある完全解放が通用しない気持ちを察してな」

鶴紗「同情する暇があるんならさっさと殺しに来たらどうだ？」

ゲエテ「そう死に急ぐな、言われなくてもすぐに殺してやる、お前は私に絶対に勝てない」

鶴紗「どうかな？」

ゲエテ「さあ畳み掛けるとしよう！」

鶴紗「なあ」

ゲートル「ん？」

鶴紗「私達リリーの奥の手は完全解放、お前が知ってるのはそこま
でか？」

ゲートル「そうだが？」

鶴紗「良かったよお前たちにまだこれが知られてなくて」

ゲートル「何が言いたい！」

鶴紗「ガタガタ言うのは性にあわない」

グルングルン！

ガシャンっ！

鶴紗が地面にc h a r mを突き刺す

鶴紗「極限解放」

二人の間に空間が広がる

ゲートル「くっ！なんだ!!」

ニエンテ・スパーツイオ（無の空間）

鶴紗「極限解放、私たちリリーが極限の状態になった時だけに使え
る完全解放の先の力だ」

ゲートル「それがどうした！私の力を封じることができんぞ！」

鶴紗「私達リリーもお前達ヒュージも力の源は全てマジだろ？なら

その力を断ち切れれば良い」

ゲートル「断ち切る、まさか！」

鶴紗「そう、この空間の中はマジが使えない！」

ゲートル「貴様!!」

鶴紗「そうすればお前も二度と復活なんてできないよな？」

ゲートル「くううっ!!」

鶴紗「確かにお前の能力は厄介だよ、でもなお前が私を痛めつけた
ことで私は極限状態に慣れたんだ！お前は自分の首をしめてたんだ
よ！」

鶴紗「この空間はマジが反映されないから別のものを代償に作り出
してる」

ゲートル「な、一体何を！」

鶴紗「寿命だよ」

ゲエテ「なっ!?!」

鶴紗「だから私は人生の内の2分寿命を犠牲にする代わりにこの空
間を2分間維持することができる」

ゲエテ「命を、犠牲に」

鶴紗「みんなからはあんまし使うなって言われたけど仕方ねえよ
な」

ゲエテ「クソ!」

鶴紗「一瞬で決めてやる」

ゲエテ「来るな!やめろ!やめろおおお!!」

鶴紗「奥義、瞬切」

シユフィンっ!

ゲエテの首が切り落とされる

ゲエテ

「私は負けるのか、また!弱いままだ!貴様は努力してその力を掴み
取ったんだろう!だが自惚れるなよそれは貴様に才能があつたから
だ!運良く強くなれたんだよ!」

鶴紗「、、」

ゲエテ「この世には努力しても何も手に入れない人間など腐る
ほどいる!才能のない人間は努力する権利すら奪われる!私はその
せいでみんなに嫌われた!何もさせて貰えなかった!わかって貰え
なかった!それがどれだけ辛いことか貴様にわかるのか!」

鶴紗「お前は認められたかつたんだな」

ゲエテ「え、、」

鶴紗「いっぱい努力してそれでも自分を見て貰えなかった、だから
美鈴様について行ったんだ、唯一努力したお前を認めてくれる存在
だったから」

鶴紗「多分私がお前なら同じことをしていたと思う」

ゲエテ「、、」

回想美鈴「また訓練かい?君はすごいねゲエテ

君は誰よりも努力している私が力を与えたというのにね」

回想ゲーテ「癖みたいなものよ、こんなに努力しても意味無いことくらいわかってるのにね、やっぱりここに来て結果は出ないままだし、才能ないんだ」

美鈴「確かに努力量に対しての結果は出てないかもしれない」

ゲーテ「ほらね、」

美鈴「だが、それを継続するというのはとてもすごいことだ」

ゲーテ「美鈴、」

美鈴「私は君をいつでも見ているよ」

現在に戻る

ゲーテ「私嬉しかったんだ」

鶴紗「え？」

ゲーテ「あんたと戦ってる時やっと私も美鈴の力になれるんだって、互角に戦えてた時ようやく努力が実ったんだってそう思えたの」

鶴紗「お前、」

ゲーテ「名前おしえて欲しいな」

鶴紗「鶴紗、安藤 鶴紗だ！」

ゲーテ「いい名前だね」

鶴紗「結構よかったよ！お前の攻撃！私死にかけたけど！強かった！お前強いよ！だから！だからさ、胸張れよ！ゲーテ！」

ゲーテ「はっ！（ああここにもいたんだ私を認めてくれる人）」

ゲーテの瞳から涙が流れる

鶴紗

「次はいい仲間巡り会えよ」

ゲーテ「ありがとう、安藤、鶴紗」

ラシステ・ゲーテ死亡

E D E N 本部

クリム「美鈴、ゲーテが」

美鈴「ああ、わかってるさ」

クリム「大丈夫？」

美鈴「クリム、私は間違えたのかな？」

クリム「え？」

美鈴「あの子に力を与えてしまったからあの子はこっちにきた、私は彼女にとって最善の選択させたつもりだったあそこにいるよりマシだと思ったから、」

クリム「美鈴、」

美鈴「その選択が彼女を殺した！私が彼女の人生を終わらせたんだ！あの子は私を恨んでいるよ」

クリム「これ」

クリムが一通の手紙を差し出す

美鈴「これは？」

クリム「ほんとにあなたがそう思ってるなら、この言葉を送るわ、バカ」

美鈴「あ、え？」

美鈴「手紙、」

美鈴が手紙を開ける

美鈴へ

この手紙を読んでるってことは私は無様に死んだんだと思います。あなたが与えてくれたこの力で勝つことが出来なかったなんて笑っちゃうよね

正直EDENに来てからは嫌なことばかりでした

みんなにはボコボコにされるしグアストはみんな仲悪いし、正直前の環境より悪いかもありません

でも美鈴は違った、美鈴は私に愛想をつかさずに面倒を見てくれた、努力していた私を見ていてくれたそれがとっても嬉しかった。」

ありがとう、美鈴

美鈴「クリム」

クリム「ん？」

美鈴「立ち止まる訳には行かない私たちの理想を叶えるために」

クリム「ええ、もちろんよ」

一人の少女は涙を流しながらそう決意する

episode37 フォース・オブ・ネーム（力の名）

アサルトリリイ37 The beginning of the end

episode37 フォース・オブ・ネーム（力の名）

梨璃「やっと着きましたね」

夢結「ええ、ここがEDEN」

楓「シンプルな見た目かつ少しオシャレなのが余計に腹立たしいですわ」

ミリアム「全くじゃ」

灯莉「真つ城だね」

姫歌「（ちよつと上手い、；）」

夢結「中に入るわよ」

バアン！

夢結が勢いよく扉を開ける

夢結「え？」

梨璃「どうしたんですか？」

梨璃が扉の向こうを覗く

一葉「これは」

叶星「分かれ道！」

梅「しかも11本もあるぞ！」

桜「こりや別れて行くしかないな」

梨璃「私とお姉様は真ん中の道に行きます」

夢結「ええあつちに、お姉様がいる！」

桜「わかった、行ってこい！」

梨璃・夢結「はい！」

叶星「私と高嶺ちゃんはあつちに」

叶星が2本目の道を指す

姫歌「じゃあ！」がしっ！

灯莉「うわっ！」

紅巴「わっ！」

姫歌が二人の肩を掴む

姫歌「4本目に行くわ！」

紅巴「私達もですか?！」

姫歌「私たち三人じゃないとダメなのよ!でも

私達三人なら勝てる」

紅巴「わ、わかりました」

灯莉「わかったよ！」

一葉「私と恋歌様は5本目に！」

恋歌「おっけー」

瑤「私と千香瑠と藍は6本目！」

藍「うん！」

千香瑠「ええ！」

楓「私は7本目！」

梅「一人で行くのか！」

楓「一人じゃありませんわ！」

梅「え？」

楓「きつと来てくれますよ!あの人(二水)が」

梅「そつか、でも無理はするなよ危ないと思ったら逃げろ！」

楓「わかってますわ！」

梅「じゃあ梅とミリアムは8 本目に行くぞ！」

ミリアム「おっしや！」

神琳「雨嘉と私は9本目！」

フィー「なら私とグレーダちゃんは10本目に行くわ」

グレーダ「よし!あっちから前のやつと同じマジを感じる!ぶっ倒

すぞ！」

桜「じゃあ私は残りだな、11本目！」

梨璃

「それじゃあ皆さん必ず生きて帰りましょう！」

ヴァルキューレ「了解！」

ばっ!

全員がそれぞれの道へ走り出す

4 本目

姫歌「さあ!ちやつちやとぶつ飛ばしてラスボス倒しに行くわよ!」

紅巴「はい!」

灯莉「おっけー!」

???「うるせえなあ」

三人「?!」

???「人の部屋に無断で入って来てんじやねえよ」

姫歌「あんた誰よ!」

???「ん?なあんだ!誰かと思えばリリイじやねえか!」

姫歌「質問に答えなさい!」

???「あーはいはい悪うござんした」

ウイル「サード・グアスト、ウイル・フロンテ」

ウイルが舌を出す

そこには3の刺青が彫つてある

紅巴「三番目!」

灯莉「ねえ定盛、ヤバいんじゃないの?」

姫歌「どういうことよ!」

紅巴「え?」

姫歌「なんで私達三人よりマギが濃いのだよ!」

ウイル「おいお前ら、私は今寝起きで機嫌がすこぶる悪い、難しいことは言わねえ、殺させろ」

姫歌「やるしかない!」

三人「c h a r m解放!」

しゅんっ!

灯莉「がはっ!!!」

ウイル「なんだア?こんなもんか?」

紅巴「なんでこんなところに！」

姫歌「灯莉!!」

ウイル「うるせえなあ!」

姫歌「(後ろ?!) あがつ!!!」

灯莉「あつ! ああ!! げほっ! げほっ!」

ウイル「寝てもいいか? お前らとやってもつまんねえわ」

紅巴「(早い!) がはっ!」

紅巴の鳩尾に蹴りが入る

ウイル「まあ寝起きの運動としてならちようどいいか、おい! 一柳梨璃を出せ私はいつとやりてえんだ!」

姫歌「何言って! アッ アッ!!!」

ウイルが姫歌の顔をふむ

ウイル「誰が喋れつつたよ」

灯莉「定盛!!」

姫歌「(多分私達が弱いんじゃないんだ)」

灯莉「(これは!)」

紅巴「(レベルとかそんなものじゃない)」

三人「(次元が違う!)」

姫歌「でも言ったわよね私達は個人なら太刀打ち出来ないかもしれない」
ない」

灯莉「でも!」

紅巴「三人なら!」

三人「奴らと同じ次元に立てる!」

姫歌「灯莉!! 紅巴!! 行くわよ!」

灯莉・紅巴「了解!!」

ウイル「なんだ?」

三人「完全解放!!!」

姫歌「狂声音殺!!」

灯莉「撃画描殺!!」

紅巴「アブソリュート・エヴィタション! (絶対回避)」

ウイル「三人同時に完全解放?!」

ギョーンっ！

ウイル「やつとぶっ殺しがいるぜ!!」

ウイルが尋常ではないスピードで三人に襲いかかる

姫歌「自身の声で苦しみなさい」

キイイーン!!!

ウイル「うぐっ!」

ウイルの動きが止まる

ウイル「何しやがった!」

姫歌「狂声音殺、対象に聞こえる全ての音が脳を狂わせる!」

ウイル「クソみたいなことしやがる!」

姫歌「立てるもんならたってみなさいよ!」

ウイル「グツ!ぐああああ!!!」

姫歌「立てるの!」

ウイル「舐めんじゃねえ!!」

姫歌「灯莉!」

灯莉「攻色!赫!!」

灯莉が赤い絵の具をウイルの体に塗る

ウイル「なんだ?」

バゴオオン!!

ウイル「ぐあっ!!!」

ウイルの体の一部が大破する

ウイル「がはっ!なんだこれ!」

灯莉「撃画描殺、僕のマギを六色の絵の具にして

攻撃や防御を操る完全解放だよ!」

ウイル「ああ?意味わかんねえんだよ!」

灯莉「分かせてあげるよ!」

攻色奥義

猩猩緋・塗（しろうじょうひ・みち）

ベッターーンっ!!!

ウイル「ちっ!とれねえ!」

灯莉「芸術は〜」

ガキイイイン!!!

姫歌がcharmを地面に叩きつけ金属音を発生させる

ウイル「アッアッアッアッウルツせえ!!!」

ぱんっ!!!

ぶちゅっ!

ウイル「ああ初めからこうすればよかったよ!

鼓膜ぶっ潰せば良かったんだなあ〜!」

姫歌「やばっ!」

ウイル

「あーあなんも聞こえねえな、まあいつか」

姫歌「ほんとにやるやついるんだ、」

ウイル「しゃーねえこつからはガチだ」

灯莉「なんか来る!」

ウイル「お前らリイに完全解放があるように

私たちにも同等のものがある、それが」

デルニエ・アペルト(真力解放)

ブワアアアン!!!

ウイル「フォース・オブ・ネーム(力の名は)」

ザ・アトロシテイ(暴虐)

to be continued

EDEN大辞典く

美鈴「どうも川添美鈴です」

今日はリ・グアストについて説明していくよ

リ・グアストはEDEN最高戦力として集められた10人のヒュー

ジ達のことだ、その中には私より強い子もいるんだよ

基本的な技は

体内のマジを高出力で放つ

ゼノン・ディザスター(魔砲)

マジを使って一瞬で移動する

瞬脚(フラッシュ)

基本的な体の構造はリリイと変わらないから
やっつて同じなんだけどね

ヒツツエン「それはわかったんだけどさ、なんでリリイと私達の体
がほぼ同じって知ってるの？」

美鈴

「えっ？それは、ふふっ聞きたいかい？」

ぞわ

ヒツツエン

「や、やめとく、」

ちなみに猩々緋とは赤色の最上位の色です

episode 38 再起

アサルトリリイ38 The beginning of the
end

episode 38 再起

姫歌、紅巴、灯莉の前に現れたのはセカンドグアスト、ウィル・フロンテだった圧倒的な力の前に絶句する三人であったが完全解放により形勢は逆転したように思われたがウィルの力の解放により戦況はまた変わろうとしていた

ウィル「フォース・オブ・ネーム(力の名は)」

ザ・アトロシテイ(暴虐)

姫歌「何が変わったの?」

ウィル「ひひっ!」

ギョんっ!

ウィルが姫歌に攻撃を仕掛ける

姫歌「(え? さつきより遅い?) これなら!」

姫歌「グラン・マギナ!!!」

ドオオオオン!!!!

ウィルに姫歌のグラン・マギナが直撃する

紅巴「よし!」

灯莉「なんか大したことないね!」

姫歌「ええ! マギも感じないし!」

ウィル「たくよおーマギが使えねえってのは不便だなあ」

姫歌「生きてる!」

紅巴「あれを食らって!」

ウィル「まあこつちにマギが効かねえのは便利だけどなあ」

姫歌「え?!」

紅巴「それって!」

灯莉「まさか!」

姫歌「千王!!!」

ウィル「その名前を口にすんじゃないやねえよ」

姫歌「何よ能力は同じじゃない！」

ウイル「私達はそいつに何人も同胞を殺されたんだぞ！」

姫歌「あんた達だって私たちの仲間を殺したじゃない！」

ウイル

「てめえらも私達の仲間を殺しやがったろ！」

姫歌「あんた達の方が多く殺してるでしょ！」

ウイル「多いも少ないも関係ねえだろうが！命を断つてのはそういうことだ！てめえら人間は私達を殺す大義名分が欲しいだけだろ！」

姫歌「違う！」

ウイル「違わねえよ！」

姫歌「うっ！」

ウイル「じゃあなんでお前たちは私達に一言も謝罪がねえんだよ！罪を認めたくないだけだろ！この戦いは私達が始めたんじゃない！お前達が始めたんだよ！」

姫歌「それは、」

ウイル「お前たちも同じじゃねえか仲間が殺されたから私達を殺す！やってる事は同じなんだよ！」

紅巴「なら！」

ウイル「姫歌「?!」」

姫歌「紅巴？」

紅巴「私達が同じなら話し合いますよ！こんなことしなくても、無駄な血を流さなくても私達は分かり合えるんじゃないですか？少なくとも私は、あなた達と同じ目線で話せたら良いと思っています」

ウイル

「てめえ！ふざけたこと抜かしてんじゃ!!」

紅巴「調子がいいのはわかってます！」

ウイル「なっ！」

紅巴「でもお願いします！もう無駄な血は流したくないんです！」

ウイル「人間にも、」

姫歌「え？」

ばっ！

少女がフードをとる

「あとは任せてください」

姫歌「遅いわよ！」

クリーム「ちっ」

二水

「ヴァルキューレ特攻隊長！千王！二川 二水！」

たった今戦線に復帰しました！

t o b e c o n t i n u e d

episode 39 ウルトラスーパー全開モード

アサルトリリイ39 The beginning of the
end

episode 39 ウルトラスーパー全開モード

前回までのアサルトリリイ

ウイル・フロンテと和解しかけていた紅巴

だが、クリムによりウイルが暴走させられてしまう、暴走したウイルによって窮地に陥る紅巴だったが、その前に千王となった二水が現れる

クリム「千王、まさかこんなに早く」

紅巴「二水さん！ウイルさんを！助けてあげてください！」

ウイル「うっ！がああ!!!」

二水「もちろんです」

姫歌「怪我とかはもういいの？」

二水「大丈夫です、今の私は」

二水「ウルトラスーパー全開モードです！」

クリム「ウイル行きなさい」

ウイル「うっ！ぐうう!!アッアッアッ!!!」

ウイルが涙を流しながら二水に突撃する

二水「、、」

ウイル「グルアアアア!!!」

二水「止まりなさい」

ウイル「ぐがっ！」ピタッ！

姫歌「止まった！」

紅巴「あれが！」

灯莉「千王の覇気！」

二水がゆっくりとウイルに近づくと

スっ

二水がウイルの胸に手を当てる

二水「さようなら」

ウイルの殺気がどんどん薄れていく

紅巴「ウイルさん！」バツ！

紅巴が走り出す

ウイル「ああ、すまねえ迷惑かけたな」

紅巴がウイルをだき抱える

紅巴「ほんとですよ！だから私たちと一緒にヒュージと人間が共存できる世界を作りましょう！」

ウイル「もう手足が動かねえんだ」

紅巴「そんな！」

ウイル「そろそろ私の命も尽きる」

姫歌「そんなの許さないわよ！あんたが持ちかけた話でしょ！勝手に死ぬなんて許さない！」

ウイル「おいおいリリイってのはみんなこんなにかよ、わかったよこうなったら意地でも生きてやる願いを叶えるまでな」

灯莉「私の力なら完全とは行かないけど回復できるかも！」

ウイル「悪いな」

灯莉「その代わりにちゃんと協力してよ！」

ウイル「わかったよ」

灯莉「治色緑！」

灯莉が緑色の絵の具をウイルの体に塗り始める

ウイル「ちよつと変な感じだな」

灯莉「文句言わない！」

ウイル「ありがとな」

クリム「はあ、ウイル残念だわ、裏切り者には死を」

バァン!!

ぐちやあ!!

銃声が鳴り響く

四人「?!」

一発の銃弾がウイルの頭部を貫く

紅巴「ウイルさん!!!」

クリム「即死ね、自分で打つといてなんだけど恐ろしいわね」

姫歌「なんで!!ヒュージが銃弾一発で死ぬわけがない!」

クリム「オブリテラ・バレット」

二水「何!!」

クリム「リリイのマジそしてヒュージのマジすらも消し去る銃弾」
灯莉「そんなものがどうして!」

クリム「作ったのよあんた達リリイの死体から」

二水「なっ!」

クリム「四天王の力を封じた時リリイの死体を使ったのこれはその
残りカスから作った素晴らしいものなのよ」

クリム「便利で助かるなあ、あなた達って生きてるより死んだ方が
便利よね」

びきいっ!!!

二水「お前は、お前はどこまで私たちを、

コケにするつもりだああああ!!!」

グワアアアアン!!!

怒りが頂点に達した二水から尋常ならざる覇気が溢れ出す

姫歌「二水、」

二水「殺す!!」

ギユユユユンっ!!

二水が地面を蹴ってクリムを殺しにかかる
シュンっ!

ガンっ!バリーイイン!!

二水の拳を謎の防御壁が相殺する

ロゼッタ「流石は千王、私のシールドを破るか」

クリム「ロゼッタ?!」

ロゼッタ「お下がりくださいクリム様ここは私が」

ロゼッタがマジで形成したシールドを展開する

クリム「待って!千王を舐めないで!」

ロゼッタ「そんなもの!この私が!」

バギイ!!!バリーイイいん!!!

二水「邪魔ですよ、どいてください」

ロゼツタ「馬鹿な！私のシールドを一撃で?!」

二水「こんなものですか？リ・グアスト!!!」

クリム「(強いー)」

美鈴「クリム!!ロゼツタ!!一旦引くんだ！」

クリム「美鈴!!」

美鈴「今の二川 二水は完全に千王の力を適合させている！」

クリム「あんた！殺したんじゃないの?!」

美鈴「私を与えた傷をあの子の生命力が上回ったというのか！」

クリム「この短期間で良くもまあ適合できたものね」

クリム「こうなったら、脳に直接弾を撃ち込む！」

クリム「オブリテラ・バレット!!」

バアン!!!

パシッ!

二水が放たれた銃弾を素手で止める

二水「確かに今の私はマギが使えないので、自分の体をマギで守ることもできません、でも！銃弾一つで殺せるほど、私は弱くないと知っておきなさい！」

クリム「くっ！」

二水「そして、これは私達の同胞を使って作った銃弾だと言うなら、同胞が感じた痛みを苦しみを少しでも味わうといい！」

二水が弾を指にセットする

二水「喰らいなさい!!!これが仲間の分だ！」

ビュンっ!!!バチバチバチイイイイ!!

二水がクリムの心臓目掛けて弾を弾き飛ばす

クリム「まずい！あれを喰らったら！マギを使えなくなるどころか、死んでしまう！」

クリムが弾丸をなんとか回避する

バアン!!

弾丸がクリムの左腕にヒットした

クリム「ぐっ!!!ぐああああ!!!」

クリム「千王!!!」

!!!!

ブチ！ブチブチブチつつつ！！！！
クリームが左腕をちぎり取る
二水「これで五分五分くらいにはなりましたよ」

桜師匠

ぶわっ！！

クリームの背後に一つの影が現れる
クリーム「なっ！」

桜「でえええりやあああああ！！！！」

バギイ！！ドオオオオン！！！！

クリーム「がはっ！ぶあっ！！」

勢いよくぶっ飛んだクリームが地面に叩きつけられる
クリーム「げほっ！！はあ、はあ、桜！！！」

桜

「ちったあ必死な面になったなあ！クソ親友！」

二水「マギが使えなくても」

桜「てめえらをぶん殴ることは」

二水・桜「できる！！」

クリーム「きっ様らアアアアアアア！！！！」

t o b e c o n t i n u e d

どれだけお前が道を踏み外しても、

私が全部正してやるよ！

episode 40 千王復活

アサルトリリイ40 The beginning of the
end

episode 40 千王復活

クリム「貴様らああ!!!ぐっ!!」

二水「あの弾丸相当効いたみたいですね」

桜「だな」

姫歌「すごい、あれが千王の力!」

紅巴「今一番強いのは間違えなく二水さんですね」

グレーダ「そうかもな」

桜「流星は千王だな、リリイが出せる力の限界を完全に超えてる」

美鈴「まさかここまでとは、最悪のイレギュラーだ」

クリム「仕方ない、一旦引くしか」

二水「逃がしませんよ」

クリム「なっ!」

一瞬でクリムに近づいた二水が動きを抑える

二水「その腐ったマギ、私の拳で消し去ってあげましょう」

クリム「まずい!」

二水「せいぜい地獄で!もがき苦しめ!!!」

魔滅ノ壺、天極
!!!!!!

(てんきよく)

どぐううううん

クリム「ぐっ!ぐあ!!!」

バタンっ!

二水「どうですか?マギを完全に滅する、

鉄心先生から受け継いだ、私の力は!」

クリム「リリイ風情が生意気な!」

クリムが歯を食いしばる

二水「そのリリイにコケにされる気分はどうですか?私は最高の気

分ですよ」

クリム「だすな、、」

二水「は？」

クリム「私をみくだすなああああ!!!」

二水「今まで私達を見下して来た報いです」

クリム「っ！」

二水「あなた達が偉そうにふんぞり返るのはもう終わりです！今度は私達があなた達の上に立つ」

クリム「偉そうに!!!」

二水が拳を天にかざす

二水「この拳は！私達の反撃の狼煙です!!!」

桜「(あの大きい背中、師匠にそっくりだ、

師匠あなたの力はちゃんと受け継がれてますよ)」

二水「そして！」

ビュンツ！

二水がクリムに向かって走り出す

クリム「?!」

二水「これが！私の！私達リリイの力です！」

クリム「くっ!!」

二水「はあああああ!!!」

クリム「美鈴!!!」

二水「?!上か!!」

美鈴「少し落ち着こうか、千王!!」

クリム「時間を稼いで！完治までには10秒はかかる！」

美鈴「ああ！わかつているさ、charm解放」

姫歌「まずい!!」

美鈴「呪え！クロユリ!!」

charmを解放した美鈴が二水へ突進する

紅巴「二水さん！避けて!!」

二水「言っただけですよ、今度は私達があなた達上に立つと」
シュンっ!!

後ろから二つの影が美鈴に向かって飛翔する
がぎいいいん!!!

美鈴の刃と二つの刃がぶつかり合う

??? 「私達もやられてばかりでは、死んで行った彼女達に示しがつき
ませんわ! そうですよねお姉様」

??? 「ええその通りよ」

美鈴 「君たちは!!」

二水 「さあ暴れ散らかしてください!!」

船田姉妹 「言われなくても!!」

美鈴 「船田姉妹か!!」

姫歌 「嘘!!」

灯莉 「まじで?!」

美鈴 「お前たちは私の部下に致命傷を負わせたはず! 動けるはずが
!!」

二水 「百合ヶ丘の医療技術を舐めてもらっては困りますね!」

純 「二水さんの邪魔は!」

初 「させない!!」

純 「お姉様!!」

初 「ええ!!」

純 「とくと味わいなさい川添美鈴!」

グサツ!グサツ!

美鈴 「ぐうっ!」

二人が *charm* を美鈴の体に付きさし動きを止める

初 「死んで行った仲間たちの」

純・初 「命の重みを!!!」

ギユウツ!

純と初がお互いの手を強く握り合う

純・初

「ヘヴン・カタストロフィ!!!」

ブワアアアアン!!!

二人の全身から大量のマジが放出される

美鈴「何?!」

クリム「美鈴!!」

二水「よそ見してる場合ですか!!」

クリム「なっ! (懐に入られた!)」

二水「天極」

バチバチイっ!!!!!!

どぐううううん!!!!!!

二水がクリムに渾身の一撃を叩き込む

クリム「やっとなりに来たわね!」

二水「?!」

クリム「ゼノン・デイズスター!!!!」

ヴンンンンンンン!!!!!!

姫歌「ゼロ距離で!」!!!!

紅巴「二水さん!!」

二水にクリムのマジがゼロ距離で直撃する

クリム「いくら千王でもこの距離なら」

二水「この距離なら、なんですか?」

シユウウウウツ

クリム「え?」

二水「ぬるいんですよ」

二水には全くと言っていいほど攻撃が効いていなかった

クリム「そんな、バカ、な!」

がしっ!

二水がクリムの頭を掴む

クリム「はっ!?!」

二水「この距離なら、あなたを確実に殺せますね」

クリム「美鈴!!」

美鈴「待ってくれ!今すぐに!」

純・初「行かせない!」

美鈴「ちい!」

シユンっ!ぐわあああ!!!!!!

二水の拳に力が込められる

二水「魔滅ノ肆、次元砕き!!!」

どぐううううん!!!」

二水の拳が次元を砕く

クリム「ぐウ!ガアアア!!!!!!」うああああああ!!!!!!」

二水「おちろおおおお!!!!!!」

クリム「あ、あ、ゲッ!!」

ザッ!

二水が地面を踏み締める

二水

「よく覚えておきなさい私の名前は二川 二水」

クリム「くっ、っ、」

二水「あなた達を倒すリレイの名です」

t o b e c o n t i n u e d

episode 41 完全覚醒

アサルトリリイ41 The beginning of the
end

episode 41 完全覚醒

クリム「ぐっ！やっぱり私達は千王には為す術なくやられる運命なのかしら、」

クリムが腹を抱えて倒れ込む

二水「さあもう諦めなさい、あなたは私には勝てない！」

クリム「くっ!!」

桜「クリム！今ならまだやり直せる！だから私達と一緒に来い！」

クリム「、さい、、」

クリム「うるさい！うるさい！うるさい！」

桜！あんたはいつもそう！どんな時も上から物を言う！ウザインだよ！何様のつもりだよ！お前は私の親か何かなの？昔っから鬱陶しいのよ！」

桜「クリム、、」

クリム「もういいや、ごめん美鈴、アレやるよ」

美鈴「そうか」

クリム

「もう何もかも、ぐちゃぐちゃにしてやる」

バアアアアン!!!!

二水「なんでずか?！」

クリム「完全!!!解放!!!!」

桜「何?！」

桜「完全解放だと?！」

クリム「そうだよ桜！あんたには初めて見せるわね」

美鈴「ここには少々危険だな」

ふうん！

美鈴が一瞬にして姿を消す

純「しまった！」

初「逃げられた?!」

純「私達が感知できなかった?!」

美鈴「こつちだよ」

初・純「?!」

ババンっ!!

初・純「ぐはっ!」

美鈴が二人を蹴り飛ばす

美鈴「あとは好きにするといい」

クリム「完全解放、、」

スピリット・オブ・デス

クリム「来てよ師匠私に力を貸して」

桜「何を言ってる!」

クリム「千王の力とヒュージの力そしてリリーの力これさえあれば

あのがキ(二水)と桜を殺せる」

二水「なんで、なんで!!あなたから鉄心先生の気配がするんですか

!!」

二水「先生は私がこの手で、、」

桜「二水?」

クリム「スピリット・オブ・デス、死んだ物のマジ、能力、レアス

キルをその人間の魂ごと憑依させる」

桜「千王、だと!」

クリム「さあ師匠一緒にリリーを殺しましょう」

桜「(冷静になれ、あいつは師匠の力を利用して私達を殺しに来てる、状況を整理しろ、感情のまま動いちゃダメだ、二水達もいるんだ)」

二水「師匠!」

桜「二水?」

二水「何を迷っているんですか?」

桜「え?」

ばっ!

二水が桜の胸ぐらを掴む!

二水「感情のまま動くことの何がダメなんですか?私達を巻き込む

のが心配ですか？あなたはなんのためにここに来たんですか？」

二水「私達を守るためですか？違いますよね」

桜「（ああ、そうだよ、そうだった私がここに来た理由は）」

二水「親友ぶん殴るためでしょうか！！！」

桜の頭に今までの思い出が駆け巡る

二水「だから！怒りも苦しさも悲しさも！全部拳に乗せて！！暴れてきてくださいよ！！」

桜「うん、ありがとう二水、おかげでいい感じに頭に血がのぼってきた」

桜がゆっくり二水の手をはらう

二水「師匠？」

桜「やってやるよ！思う存分あばれてやろうじゃねえか！！」

クリム「お話は終わった？」

桜「ああ、」

ゾワツ！

クリム「（殺気?!尋常じゃない！一体何がどうなっ!）」

ぶんっ！

クリム

「?!（早い！懐に入られ!）ぐつぶお!!」

ドツグうううん!!!!

バチバチバチバチ!!!!

桜がクリムの鳩尾をぶんつつ殴る

クリム「青い、稲妻っ!」

クリム「(リリーの才能が突出しているものには

極限状態を迎えると常人では到達できない領域に一瞬だけ達することがある、そこから放たれる一撃には)」

青い稲妻が

走る

桜「激蒼（げきそう）」

クリム「ぐはあっ!!!!

バチバチバチバチっ!!

桜が深呼吸する

桜「ありがとうクリーム、おかげで私もリリイとして完全に覚醒でき
たみたいだ」

クリーム「ふぎけるな!!」

ビュンツ!

クリーム「千王の力で!ねじ伏せる!!!」

桜「!!!」

バチバチ!!!どぐううん!!!!!!

桜が激蒼をクリームの顔面に打ち込む

クリーム「ぐっ!!!」ドサツ!

クリームが倒れ込む

クリーム「(につ、2回目?!)」

桜「激蒼!」

クリーム「(このままだとやばい!なんとか!)」

桜「もう一回、」

クリーム「な?!」

桜「激蒼!!!」

どぐううん!!!!!!

クリーム「がはっ!!!」

桜「もう容赦しねえぞ!」

ぐしゃっ!!!

クリーム「うぐっ!!!」

桜がクリームの体内に片腕を突っ込む

桜「お前はもう私の親友じゃねえ!」

私達の敵だ!!!

クリーム「うっ!クソ!くっそおおお!!!」
シュンっ!

桜「逃げたか、、うっ!」ドサツ

二水「師匠!!」

二水「大丈夫ですか?」

さっ

桜が拳を突き出す

二水「え？」

桜「へへっ！ぶん殴ってやったぜ！」

二水「はい！」

コンッ！

二人が拳を合わせる

雨嘉・神琳サイド

??? 「下等なりリイよ死ぬがいい」

t o b e c o n t i n u e d

episode 42 あなたと一緒に居れたから

アサルトリリイ42 The beginning of the
end

episode 42 あなたと一緒に居れたから

神琳・雨嘉サイド

神琳 「この道なんだか空気が重い気がします」

雨嘉 「神琳もそう思う？実は私もなんだ」

??? 「ゾナ・デ・マタンザ（絶死領域）」

ブワァン

二人の周りに黒い領域が展開される

??? 「下等なリリイよ死ぬがいい」

神琳・雨嘉 「?!」

神琳 「閉じ込められた?!」

雨嘉 「不意打ち?!」

??? 「プナラーダ・ソンプラ（影刺）」

ブシュツ!! ブシュツ!!

雨嘉・神琳 「がはっ!」

二人が何者かによって突き刺される

バタっ! バタっ!

雨嘉 「ぐっ! 一体!」

神琳 「誰が?!」

??? 「なんだ? 百合ヶ丘のリリイとはその程度か」

物陰から眼帯をした少女が現れる

雨嘉 「あなたは?」

ラズカ

「私はセスタ・グアスト、ラズカ・カナリ」

眼帯を取り目の奥に6の数字が掘られている

神琳 「6番!!」

雨嘉 「神、琳!」

神琳「雨嘉?」

神琳が雨嘉の手を握る

神琳「(マギが弱くなっている?)」

雨嘉「ただ刺されただけなのに、なんで?」

ラズカ「ゾナ・デ・マタンザ」

ラズカ「この領域に閉じ込めた私以外の生命に

私の攻撃は絶対に当たる、そして私の攻撃が当たった生命は絶対に死ぬ」

神琳「なんですって!!」

雨嘉「そんな!じゃあ私たちは!ぐっ!!!」

ラズカ「毒が回って来たか」

神琳「毒ですって?」

ラズカ「プナラーダ・ソンプラ、対象の影から刺殺する技だ」

神琳「なるほど、気づかないはずです」

ラズカ「そしてこの領域は絶対に壊れない、」

神琳「へえ興味深いですね、もつと詳しく教えて貰ってもよろしいですか?」

ラズカ「お前たちを殺してから、ゆっくりと、」

コンコンッ

ラズカ「ん?」

フィー「あのーこれ退けてくれない?進めないんだけどー」

神琳「この声!」

雨嘉「フィーさん?!」

フィー「ちよつと聞いているー?」

ラズカ「(フィー?四天王か?!)」

ラズカ「ちようどよかったこいつも殺して!」

フィー「もういいや」

バリー「いいいいん!!!!」

ラズカ「は?」

神琳・雨嘉「え?」

ラズカ「嘘でしょ?」

フィー「あれ？二人とも何してんの？」

雨嘉「ちよつと」

神琳「不意打ちを食らってしまつて」

フィー「うんうん、それで？」

雨嘉「若干死にかけです」

フィー「仕方ないなー、ほらっ！」

ファンっ!!

フィーが二人に向かってマギを打ち込む

雨嘉「回復した!!」

神琳「すごい！」

フィー「気をつけるんだよ！そんなんじや美鈴ちゃん倒せないよ！」

神琳「は、はい」

雨嘉「あ、ありがとうございます」

ラズカ「ちよつと！」フィー「どうしたの？ていうか誰？」

ラズカ

「私はセスタ・グアスト！ラズカ・カナリ！」

フィー「へえー、それで？」

キョーミナイ

ラズカ「あんたが聞いて来たんだらうが!!」

ラズカ「(でも流星は四天王、私が負わせた怪我を一瞬で治すなん

て)ん？まっつて」

フィー「どしたの？」

ラズカ「なんか怪我一瞬で直したことで忘れてたけど！あんたなん
で私の領域壊せたのよ！」

フィー「なんでつて？私だから壊せるでしょ？」

ラズカ「どうなつてんよ四天王は」

フィー「あと私の弟子に何してくれてんの？」

ラズカ「弱いから仕方ないじゃない」

フィー「その理屈を言うなら、あんたは死んでも文句ないよね？」

ラズカ「私があんたより弱いって言いたいの？」

ぽんっ

ファイが二人の頭に手を置く

ファイ「違う違う、この子達の方があんたより強いって言うてんの」

神琳・雨嘉「ファイさん、」

ラズカ「へえ！さつき死にかけてたのに？」

ファイ「不意打ちだったからね、仕方ないよ」

ファイ「逆に真つ向で勝負してうちの弟子に勝てると思ってる？」

ラズカ「当たり前よ」

ファイ「そう、慢心もいいところね」

ラズカ「なんですすって？」

ファイ

「さあ行つてきなさい！二人とも！あなた達なら勝てる！私が断言する！」

神琳・雨嘉「はい！」

ラズカ「来い！リリイ」

二人がc h a r mを構える

ファイ

「私は先に行つてる後でまた会おう！それと、」

信じてる

神琳・雨嘉「はい！」

神琳「あれで行くわよ！」

雨嘉「わかった！」

ラズカ「？」

二人がマジを集中させる

神琳・雨嘉「はあああ！！！！」

ラズカ「(あの構え！マジアか！)」

神琳

神の洗礼

千切(ちぎり)の空！

天の福音が極黒に響く！

汝を裁くは聖なる極光！
天使の断裁に恐れをなし！
己の罪過を悔やむがいい！

ラズカ「完全詠唱?!」

神琳「マギア! NO. 87 (エイティーセブン)」

シエロ・ランザ (天槍)

神琳の掌に巨大な光の槍が形成される

ラズカ「フツ! 馬鹿ね! この道は一本道こんなところでそれを放てばあなた達も一溜りもないはずよ!」

神琳「そうですね、だから雨嘉がいるんですよ」

ラズカ「なに?!」

雨嘉

絶園の壁

鎖される空

閉鎖する鉄の円

動の門

心の門

光の城門が扉を開く時

それは闇を施錠する城となるだろう

雨嘉「リバース (裏) マギア! NO. 2」

王門

ドンツ! ドンツ! ドンツ! ドンツ!

ラズカ「なんだ?」

ラズカの周りに四つの門が出現する

雨嘉「神琳!!」

神琳「シエロ・ランザ!!!」

ぎゅううううん!!!

門の僅かな間から光の槍を差し込む

覇

神琳「今よ!!」

雨嘉「完全施錠!!!」

ガチャンツ!!!

ラズカ「なに?!」

雨嘉・神琳「ユニオンマギア! NO. 872」

雨嘉・神琳「天槍霸王門!!!!」

ラズカ「(なんだ?意識が遠のいて行く、)」

雨嘉・神琳

「はあああああああああああ!!!」

ラズカ「ぐあああああああ!!!」

雨嘉「開門!!」

ぐごごごっ!!!!

ラズカ「ぐはっ!」

ブシュツ!!ブシュツ!!

ラズカの体から血が吹き出す

神琳「とどめです!」

神琳「雨嘉!!!」

雨嘉「行くよ!神琳!!」

雨嘉「これが私達の!」

神琳「本当の力!!」

雨嘉・神琳「真!!完全解放!!」

ラズカ「何?」

雨嘉「アルミュール」

神琳「ジ・グランデ」

雨嘉・神琳「ザ・コントラクション」

雨嘉の両手足にマジで形成された鎧が武装される

そして神琳の元にマジで形成された小型が武装される

ラズカ「聞いてたのと違う?」

神琳「ここ狭いですね」

ブンっ!

神琳が小刀を軽く振る

ラズカが高質力のマジを放つ

神琳「雨嘉」

雨嘉「うん」

雨嘉が神琳の前に立つ

ラズカ「何を！」

雨嘉「、、、」

ばああああん!!!!

雨嘉にゼノン・デイザスターが直撃する

ラズカ「なんだ片方は大したことないじゃない」

シューウウ、、、

雨嘉「こんなもの？」

ラズカ「今！直撃したはず！」

雨嘉「直撃はしたよ、でも私には効かなかったみたいだね」

シュンツッ！

ラズカの前に雨嘉が移動する

ラズカ「早いつ！ぐあつ！」

がしっ！

雨嘉がラズカの頭を掴む

雨嘉「このまま頭蓋を砕く」

ぐぐぐつ!!!

ラズカ「ああああ!!!痛い！痛いよお!!!」

雨嘉「一つだけ聞きたいんだけど？」

雨嘉が手を離す

ラズカ「はあ、はあ!!なに？」

雨嘉「川添美鈴の能力を教えてください」

ラズカ「それは、、、」

雨嘉「教えてくれたら命は助けてあげる」

ラズカ「、、、ない、言えない!!!!」

ばっ!!

神琳「あつ！待ちなさい！このままじゃ！」

雨嘉「大丈夫だよ神琳！」

神琳「え？」

雨嘉が完全解放を解除する

カチャっ

雨嘉がcharmを変形させる

神琳「まさか狙い撃つつもりなの?!」

雨嘉「それしかなさそうだよ」

神琳

「いくら天の測り目とは言えあの距離は、」

雨嘉「大丈夫だよ、私が撃ち抜くから」

神琳「一体何を？」

雨嘉「まあ見てて」

神琳「？」

雨嘉「アルティメットスキル」

雨嘉が銃を構える

雨嘉の目にマギルーンが浮かび上がる

エターナルレン

ジ

(無制限追尾射程領域)

雨嘉「逃がさない」

ばああん!!!

シユンっ!!

ラズカ「ここまで来れば追っては来れないはず」

雨嘉「この能力は」

ラズカ「ん？」

雨嘉「マーキングした相手の急所に命中するまで」

ラズカ「銃弾? 一体どこから? ふんっ! こんなもの!」

ブンっ!

銃弾を振り払う

ブチブチブチブチっ!!

ラズカ「なっ?!」

振り払おうとした手を銃弾が貫通する

雨嘉「そして相手を殺すまで」
ブチブチっ！ボンッ！ブシュッ！！
ラズカの脳天を銃弾が貫く
ラズカ「……」バタンっ！
雨嘉「追いかけて止まることは無い」

r e n d i r i n n

・ e t t a e

(これで終わ

り)

雨嘉

「この世は私の射程圏内だよ」

神琳「強くなつたわね雨嘉」

雨嘉「神琳もね！」

神琳「ふふっ」

雨嘉「神琳？」

神琳「雨嘉……！！」抱きっ！！

雨嘉「え?! 神琳?! いきなり!？」

ドサッ!

神琳「私! あなたに惚れちゃった!」

雨嘉「えええ!?! でも同じ年でもシュツツエンゲルの契を交わすのは

禁忌じゃ!？」

神琳

「そんなの関係無い!! 私に王 雨嘉のことが!」

神琳「大大大大だ……いすき!!!」

雨嘉「ふふっ! あはははははっ!!! 私もだよ!」

雨嘉・神琳

「あなたと出会えてほんとなによかった」

t o b e c o n t i n u e d

E D E N 大辞典

どうも川添美鈴です

今日はクリームについてのお話だよ

容姿は少しタレ目で紫のショートボブ
身長は175cmだ。

クリムはリ・グアストの中でも最高位のナンバー
ファーストだ、グアストのナンバーは強さ順だから一番強いとい
ことになるね。

クリムは元々桜師匠の親友で歴代最強部隊、

桜隊のNO.2だったリリイだ。

完全解放は「スピリット・オブ・デス」

死んだ生命体の霊を自分に降霊させその人が持っていた能力を全
て使うことのできる完全解放だ。

だから轟 鉄心の千王の力を使うことができたんだね。

ちなみにスリーサイズは

B89 W58 H70だよ

クリム「何抜かしとんじゃごらあ!!!」

美鈴「おっと！」

episode 43 NO. 3

アサルトリリィ43 The beginning of the
end

episode 43 NO. 3

タツタツタツ!

三人の少女が道を走る

千香瑠「藍ちゃん疲れてない?」

藍「うん大丈夫!」

千香瑠「よかった」

千香瑠「瑠ちゃんは?」

瑠「千香瑠! 藍!」

二人を呼び止めた瑠は急に立ち止まる

千香瑠「どうしたの?、あ!」

瑠「気づいた?」

藍「この先にすごいマギを感じるよ」

??? 「ふんふんふんふんふーんふふん」

道の向こうから軽快な鼻歌が聞こえる

千香瑠「第9 歓喜の歌?」

??? 「よくご存知で」

千香瑠、瑠、藍「?!」

??? 「そんなにびっくりしないでよ」

千香瑠「誰?!」

ヒツツエン「私はサード・グアスト」

ライエン・ヒツツエンベルグ

瑠「サード、、、」

千香瑠「私達はとんでもないハズレを引いたみたいね」

藍「千香瑠、瑠! 気をつけてすごいマジだよ」

ヒツツエン「美鈴の計画のためにさっさと死んでもらうわよ」

千香瑠「(マジが強力すぎる!)」

ヒツツエン

「それじゃあ初めっからフルスロットルで行こうかああああ
!!!!!!」

!!!!
ヒツツエン「この高揚感!! やっぱりギア全開はあがるなああああ
!!!!」

ピシユンツ!

千香瑠「(早い!)」

ヒツツエン「ぶっ飛べ！」

どおおおおおん!!!!

ヒツツエンが千香瑠に蹴りを入れる

シユユウウウ、、、

ヒツツエン「何?! 止めた！」

千香瑠

「代償・鎖ノ解（ツグナイ・とぎしのかい）」

ヒツツエン「完全解放かあ」

千香瑠「（腕一本でギリギリ!）」

千香瑠の片腕が機能を停止する

ヒツツエン「なかなかやるじゃないの」

千香瑠「あなたと美鈴様はどちらが強いの？」

ヒツツエン「え？」

瑠

「（この質問は千香瑠の代償の数の目安になる）」

ヒツツエン

「そうね、美鈴は色々持つてるから全部使えば美鈴だけど、素なら私かな？」

ヒツツエン「でも、、、」

千香瑠「？」

ヒツツエン「私の能力を使えば勝てるかもねえ」

千香瑠「なに？」

ヒツツエン「レアスキル」

バニシンググイス

タ

(消滅する

景色)

千香瑠「何が変わったの？」

ヒツツエン「これ」

ヒツツエンが人差し指を立てる

千香瑠「え?、、、、これは?!」

ヒツツエン「そう、、私のバニシンググイスタは相手の視界に移るものは必ず一つに限定される、例えばこの石を投げると」

ヒツツエンが千香瑠目掛けて石を軽く投げる

千香瑠「なっ! (石を見ると周りが真っ暗に)」

千香瑠「がはっ!!!」

ヒツツエン「ダメじゃなくい!よそ見しちゃ♡」

千香瑠「ゲホッ!!ゲホッ!!」

千香瑠「(視界が!)」

どぐうううっ
!!!!!!

千香瑠「あがつ!!!」

ヒツツエン「私はあなた達の言う完全解放？みたいなのは出来ないの、でもねこの能力と私のフィジカルさえあればあなた達みたいな雑魚はすぐに殺せちゃうの」

瑠「させない！」

ヒツツエンの後ろから瑠が攻撃をしかける

ヒツツエン「バニシンググヴィスタ」

瑠「まずいつ！」

瑠の視界が狭くなる

ヒツツエン「死んじやえ♡」

ぶぐうううう
!!!!

瑠「うあああああ
!!!!!!」
ドサツ!!

瑠「はあ、はあ、」

瑠がなんとか立ち上がる

ヒツツエン「あら？私のパンチを受けても立っていられるのね！」

瑠「(こ)いつやばい！能力に隠れてるけど本当にやばいのはフィジ

カル！マギでコーティングした体を余裕で貫通してくる！」

千香瑠

「（私の代償が腕一本じゃ防ぎ切れない！）」

瑠「（攻撃力に関してはグレイダ師匠と同等、いやそれ以上！）」

瑠・千香瑠「（本物の化け物！）」

ヒツツエン「これでおしまい？もうちよつと楽しませてよ」

瑠「…、千香瑠」

千香瑠「？」

瑠「無理をさせちやうかもしれない」

千香瑠「良いよ」

瑠「鎖しの解で視力と片腕を代償に戦って欲しい！」

千香瑠「わかったわ」

ヒツツエン「ん？」

千香瑠が目を閉じる

千香瑠「鎖しの解!!!限解!!!」

ヒツツエン「（マギが濃くなってる…、少しは面白そうね）」

瑠「(そう、あのレアスキルは確かに厄介だ、でも自分の体の一部を代償に戦う千香瑠なら使い物にならない視力と片腕を代償にフィジカルと聴覚にフルで力を回せる)」

ヒツツエン「目を閉じたのね(そんなことしても意味ないのに)」

ギョントツ!!

ヒツツエンが千香瑠目掛けて攻撃をしかける

千香瑠「1、2、3!!)」

ぶぐうううう
!!!!

ヒツツエン「ぶはっ!!!」

千香瑠がヒツツエンの顔面を肘で殴打する

千香瑠「ふう、、」

ヒツツエン「(パワーと反射神経が上がってる、そして視界を閉ざして聴覚とマジ感知のみの戦闘に移行したってところかしら? だからといってレアスキルを解く必要はないし、これに対応出来ない私じゃない)」

千香瑠「少しは驚いてくれましたか?」

ヒツツエン「少し、、ね」

千香瑠「さあどこからでもかかって来なさい!」

ヒツツエンが千香瑠のマジを透視する

ヒツツエン「(マジが少し荒くなってる?何かを焦っているか、ただ単にマジの総量が多くなり荒くなっているか、でも焦っているとしたら何か理由があるということになる)」

(時間制限、いやさつきも今も自分からは攻めて来なかったからこの線は薄い)

(それか、私に物理的な攻撃をさせなければならぬ状況にあるかもしれないという事、確かにさつきの一撃はまぐれじゃなくて完全に当たってきた、

でも少しタイミングを測って私にカウンターしてきたようにも見えた、聴覚とマジ感知を使っているから、その比率はおそらく6:4か7:3あたり)

→

多い方が聴覚

ヒツツエン「すごいことなら」

すんっ!

千香瑠「え? (音が聞こえない?)」

ヒツツエン「どっちも潰すまで」

千香瑠「

ふわんっ!ふしゅゆゆうん
ギユツ!バチバチバチっ
!!!!!!

ヒツツエンの拳に蒼い稲妻が奔る

ヒツツエン「(迸れ!!!)」「ニヤッ!

レランパゴ・アズール!!!

(激蒼)

バヂイ!!!バギバギバギイイイイ!!!!!!

ヒツツエン「こうすればいいのね♡」

千香瑠

「うん^ん!!!!!! (蒼い、稲妻、、!)」

瑠「千香瑠?!なんで?千香瑠の聴覚とマギ探知は視覚を無くしたことよって研ぎ澄まされてるはず!!、、まさか?!」

ヒツツエン「そう、移動の際はマギと音を消して近づく、そしてインパクトの時だけありったけを叩き込んだ!」

瑠「(蒼い稲妻、グレーダ師匠が一度だけ見せてくれた、リリイが極限の状態に達した時だけ、たどり着く極地!!)」

千香瑠「(でも今のでコツは掴んだ、マギが探知出来ない訳じゃない、インパクトの時だけは音もなるしマギも出る!)」

瑠「(千香瑠は多分大丈夫なのでコツを掴んだからでも、それと同時に相手も全てに対応してくる!」

これじゃあ千香瑠が持たな、)」

千香瑠「耐えて見せる!!!」

瑠「?!」

千香瑠

「瑠ちゃん！コイツは私が倒す！絶対に!!」

T o B e C o n t i n u e d

episode 4

覚悟と度胸

アサルトリリイ44 The beginning of the
end

episode 4 覚悟と度胸

千香瑠

「瑠ちゃん！コイツは私が倒す！絶対に!!」

ヒツツエン「私が倒す、ね」

瑠「まさかあの蒼い稲妻を出すなんて！私達が訓練でどうしてもたどり着けなかった領域までこうもあっさり」と

ヒツツエン「あなた達」

瑠・千香瑠「?!」

ヒツツエン「本気で勝つつもり?」

瑠「も、もちろんだけど?」

ヒツツエン「そう、なら」

千香瑠・瑠「?!」

瑠「マジが!」

千香瑠「濃すぎる!!」

瑠「何もしてない！何もしてないのに!」

千香瑠・瑠「この威圧感は何?!」

ヒツツエン「抉り潰せええ!!!」

ぶああああ!!!

尋常じゃないマジが溢れ出る

ヒツツエン「アプラグビア!!」

千香瑠「なんて大きなcharm」

ヒツツエン「そう!私のcharmは自分より大きいの」

千香瑠「かなり重そうね」

ヒツツエン

「そんなことはないわよたった10t程よ♡」

千香瑠「軽く言ってくれるわね」

ヒツツエン「ここで伸す!」

千香瑠「ここで止める!」

千香瑠「ゲイボルグ!!!」

千香瑠・ヒツツエン「はあああああ!!!」
しゅんっ!

二人が一瞬で移動する

ギイイイイイン!!!!

二人の c h a r m がぶつかり合う

千香瑠・ヒツツエン「(重い!!!)」

ヒツツエン「(私と片手でぶつかって互角!?)」

千香瑠「でも殺れる!!!」

がっ!!!

ヒツツエン「ぐっ!!」

千香瑠「師匠の技使わせてもらいます!」

ヒツツエン「なに?!」

千香瑠「百鬼夜行 塵殺!!!」

龍怒の一閃(りゅうどのいっせん)

ぐしやぐしやつ!!!ぶしゅっ!!!

千香瑠のマジが赤く光る

ヒツツエン「がはっ!!! (早い!!)」

ヒツツエンの体を千香瑠のゲイボルグが貫く

回想

グレーダ「いいか千香瑠、この技はこのレギオンでお前しか使えない、なぜだかわかるか?」

千香瑠「完全解放でパワーを底上げができるから」

グレーダ「確かにそうだ、でもお前にはその危険すぎるとも言える
完全解放を使う覚悟がある、度胸もある」

グレーダ「これがねえとこの技は使えねえ」

回想終了

千香瑠「瑠ちゃん!!!」

ヒツツエン「何?!」

瑠

「マギが溜まった本気で行くよ、い、い、」

瑠の体からマギが溢れ出す

瑠「千香瑠！チャンスは1分!!これ以上はあげられない！」

千香瑠「十分!!!」

瑠「見せてやる」

千香瑠「私達の」

千香瑠・瑠「覚悟と度胸!!!」

瑠「完全解放!!!」

ブウウウン!!!

ヒツツエンと千香瑠の周りに直径10メートルの
宇宙空間が発生する

瑠「コズミックルーム!!!」

レンジセレクト!10メートル

ヒツツエン「(なにこれ!!息が、出来ない!)」

初鹿野 瑠の完全解放コズミックルームは、マジで形成された擬似宇宙空間に相手を閉じ込める、その領域は全くと言っていいほどに宇宙そのままを真似ており、生物が宇宙空間に居る時の全ての事象が相手に襲いかかる、そして使用者によって領域解除が完了しない限りこれを打ち破ることは不可能に近い。

瑠「(この完全解放はマジを極限まで練り続けてようやくできる技、だから発動するには戦闘開始時からかなりの時間と労力が必要、でもこれさえ発動しちゃえば!)」

千香瑠・瑠「(勝てない敵はいない!!)」

ヒツツエン

「(これは!あの赤髪の完全解放!!)」

ひゅん!

ギイイイイイン!!!!

ヒツツエン「!!!」

千香瑠「(龍怒の一閃!!!!)」

ヒツツエン「(こいつ！なんでこの空間で動けるの?!こいつも息が出来ないはず！いやそれどころか身の自由さえ効かないはずなのに!!)」

千香瑠「、、、」

ガキイイイン!!!

千香瑠が間髪入れずにヒツツエンに攻撃を仕掛ける

ヒツツエン「(こいつ！息をしていない!!無呼吸運動か！いやそれだけじゃない！それだけじゃこの打撃は打てない!!)」

千香瑠「(グラン!!!)」

ヒツツエン「(くっ!!)」

ヒツツエンが防御体制に入る

千香瑠「(マギナ!!!)」

ぐわああああん
!!!!!!

ヒツツエン「(があああ
!!!!!!)」

ヒツツエン「(そうか！こいつ！呼吸に必要な身体の機能を停止させてる!!!)」

瑠「(コズミックルームでは千香瑠もあいつも例外なくあの領域の効果が適応される、でも千香瑠だけは！あの完全解放が使える千香瑠

だけは！私の領域内で唯一相手に優位を取れる！！」

千香瑠「（無呼吸運動＋完全解放の効果！これでインターバル無し
の連続強攻撃が可能になる！！）」

瑠「決めて！千香瑠！！ぶっ飛ばせ！！」

千香瑠「これで終わりです！！」

霸王流奥義 絶牙の豪魔 終（つい）

千香瑠の渾身の一撃がヒツツエンベルグの身体を貫く

千香瑠「貫けええええええ
！！！！」

瑠「行け千香瑠！！！！」

ぶしやああああ
！！！！！！ぐじゅ！！

千香瑠「私の最大最強の究極奥義！これで決着です！！」

ヒツツエン「がはっ！！！！」バタンっ！！

千香瑠「はあ、はあ、勝った！」

瑠「やった、やったよ！千香瑠！！」

ぐおおおおお
！！！！！！！！

千香瑠・瑠「?!」

ヒツツエン「全くうー！！痛いわねえ！ちよつと乱暴がすぎるん
じやないかしら？」

瑠「嘘?!」

千香瑠「そんな、!」

瑠「あれを食らって、生きてる!!!」

瑠「(もうマギは使い果たした)」

千香瑠「げほっ!!がはっ!」べちやつ!

千香瑠が口から血を吐き出す

瑠「千香瑠!!! (千香瑠は限界だ、)」

ヒツツエン「あんた達は強いわ認めてあげるただ相手が悪すぎた」

ブオン!!

ヒツツエンの手に黒いマギが集まる

ヒツツエン「はあ、はあ、」

瑠「最後に聞かせて」

ヒツツエン「ん?」

瑠「川添 美鈴の能力を教えて」

ヒツツエン「はあ、まあいいわ冥土の土産に教えてあげる、他のリイのマギは感じられないし」

瑶「ん」ニヤツ

ヒツツエン「美鈴の能力は、デゼスペロの全てのレアスキルを使用することができる、まあこれは知ってるか、そっちにはソベルバがいるし」

瑶「ええ」

ヒツツエン「そしてそれ以外にも全てのリリイのレアスキルを使用できる」

瑶「勝てる気がしないね」

ヒツツエン「完全解放は2つ」

瑶「え?! 2つ!」

ヒツツエン「そうよすごいでしょ?」

瑶「ズルだね」

ヒツツエン「まあその能力は知らないんだけどね」

瑶「そう、もう十分だよ」

ヒツツエン「あつそ、じゃあね♡」

瑶「もう十分時間と情報は稼いだ!!!」

ヒツツエン「なんですって?」

瑤「藍
!!!!!!」

タツタツタツ!!!ビュンツ!

ヒツツエンの背後に藍が姿を現す

ヒツツエン「まさか!初めからこれを!!」

ヒツツエンが藍に攻撃を仕掛ける

ヒツツエン「くっ!ダメージが!!思うように身体が動かない!」

藍「完全解放」

ドリーム・ステップ

t o b e c o n t i n u e d

episode 45 壊れゆく夢

アサルトリリイ45 The beginning of the
end

episode 45 壊れゆく夢

藍「完全解放」

ヒツツエン「(しまった! 狙いは最初から!)」

ドリームステップ

ヒツツエン「くそっ!」

黒い領域がヒツツエンベルグを閉じ込める

ヒツツエン「領域系の最上級完全解放か!」

藍「おやすみ、強い人」

ヒツツエン「(なんで今まで気づかなかった?! 最初から居た? いや
! そんなはずない! 初めは確実に二人しかいなかった!)」

出発前

桜「藍の完全解放は相手が少し弱った状態じゃないと使えないの
かあ」

グレーダ「強力な完全解放だがその分使用した直後に動けなくなる
しデメリットがでかいな」

灯莉「あのさあ」

グレーダ「どした？灯莉？」

灯莉「僕の絵の具で隠せないかな？」

梨璃「そんなことできるの？」

灯莉「うん僕の完全解放、撃画描殺には色んな種類の絵の具があるんだけど、一つ無色の絵の具があるんだよ」

楓「無色の絵の具？」

灯莉「そうそう、えーつと例えばこのボールにまずマジを込めてつと、この無色の絵の具を塗ると」
ベタっ

灯莉「梨璃！このボールに触ってみて」

梨璃「はい」

さっ

灯莉「じゃあ行くよ、無色透明！」

梨璃「え？何が変わったの？」

楓「ボールの姿が無くなりましたわ！マジも感じません」

灯莉「そう！これが無色透明の能力認識障害だよ」

桜「なるほど触れたら奴には姿が見えるしマジも感じるってことか」

灯莉「そういう事、だから」

ベタ〜

灯莉が藍に無色の絵の具を塗りたくる

藍「んーベトベトするー」

灯莉「我慢してー」

藍「もういい？」

灯莉「うん大丈夫！」

グレーダ「これなら初見の敵には気づかれないな」

灯莉「そういう事！」

現在へ

瑠「やっぱり灯莉の絵の具が効いたんだ！」

ヒツツエン「美鈴の情報なんて喋るんじゃないやなかった!!領域系は使用者の領域解除が完了しない限り絶対に破れない、、、やばい、、眠く、、なつて、、、、」バタンっ

ヒツツエン「ここは?、、学校？」

???「ねえ!ねえ!ヒツちゃん!!」

ヒツツエン「え?」

ヒツツエンが振り向いた先には一人の少女が立っていた

ヒツツエン「千香、」

千香「何？どしたの？笑 急に鳩が豆鉄砲食らったみたいな顔して」

ヒツツエン「あ、いや何もないわよ」

生きてる筈がない

千香「全くヒツちゃん私は私が居ないと何も出来ないんだから」
だってあの時

千香「おーい聞いてるかーい？」

ヒツツエン「え？」

千香「今日どしたの？まあいつか授業始まるよ！」

ヒツツエン「あ！うん！」

ヒツツエン

「(夢？だって夢にしてはリアルすぎるし)」

千香「あ！そういえば今日さ新しいアイスクリーム屋さん近くに
きたっぽいから放課後行こうよ！」

ヒツツエン「(ていうか私何してたんだっけ?)」

千香「うわ！次数学じゃん！」

ヒツツエン 「千香数学嫌いだもんね」

千香 「そうなんだよなあ〜あれマジでやばいわ」

ヒツツエン 「アイスクリーム屋さん」

千香 「ん？」

ヒツツエン 「楽しみね」

千香 「だね！」

私は友達が少なかった、母国から突然父の転勤が決まって、16歳の時日本に越してきた、初めての日本の学校は私にとって居心地が悪く周りとも全く馴染めなかった、それと同じタイミングでもう一人学校に転校生がきた。

先生 「じゃあ入って」

ガラガラっ！

ヒツツエン 「ん？」

千香 「今日からこの学校に転校してきました！」

花柳 千香（はなやぎ せんか）です！」

入ってきた子は私と違って明るくて自信家でなんだか希望に満ち溢れてるって感じだった、私とは大違い、きつと住む世界が全く違うんだろうと思った。

先生 「じゃあ花柳さんはヒツツエンベルグさんの隣に座って」、

千香 「はい！」

千香「よろしくね！」

ヒツツエン「!!」

ヒツツエン「よろしく、」

千香「ヒツツエンベルグさん？じゃあヒツちゃん！って呼ぶね！」

ヒツツエン「は?!（何この子距離近すぎない?）」

千香「これからよろしくね！ヒツちゃん！」

ヒツツエン「(はああ?!)」

昼

千香「ヒツちゃん！ごはん一緒に食べよ！」

ヒツツエン「うわっ！」

体育

先生「じゃあペアを組んでください！」

千香「ヒツちゃん！組も！」

ヒツツエン「うわまた！」

放課後

千香「ヒツちゃん！一緒に帰ろ！」

ヒツツエン「げっ!!」

ヒツツエン「なんで！私なの！」

千香「え?」

ヒツツエン「だから！なんで私に付きまとうの！」

千香「だって友達じゃん！」

ヒツツエン

「いやいや！友達になった覚えはない！」

千香「まあまあ細かいことは気にしない！」

ヒツツエン「細かいくないでしょ」

千香「じゃあ、」

ヒツツエン「何?」

千香「一週間だけ時間をちようだい！」

ヒツツエン「は?」

千香「一週間でヒツちゃんを友達にしてみせる！」

ヒツツエン「何言ってるのよ」

千香「お願い!!」

押し負けた

ヒツツエン「勝手にすれば!」

千香「ありがとう! ヒツちゃん!」

そこから一週間私はこの子に付きまとわれた

千香「さあヒツちゃん! 今日クレープ食べに行くよ!」

ヒツツエン「えええ!!!」

初めはほんとに大変だった

千香「今日は遊園地だあ!!!」

ヒツツエン「ひええ!!」

でも

千香「今日はカラオケ!!」

ヒツツエン「あああ、、、」

それが案外

千香「今日は昆虫博物館だあ!!」

ヒツツエン「チョイス!!」

楽しかった

千香「今日はどこ行こっか？」

ヒツツエン「千香」

千香「どしたの？」

ヒツツエン「友達になろう」

千香「ヒツちゃん！」

千香と一緒に過ごすうちに私の心は開いて行った
私の唯一の友達だった

でも人生で一番の幸せだった
このままだといいなあ、

ぐしゅっ
!!!!

千香「ヒツちゃん、」

ヒツツエン「千香、」

ヒツツエン「(ああ、そうだった思い出した、幸せの絶頂からどん
底に落とされる気分)」

千香はヒュージに殺された私はヒュージを心底恨んだでももつと
恨んだのは

ヒツツエン「誰か!!この子を助けてください!!お願い!!」

リリイ「ここは私に任せてあなた達は避難誘導を！」

ヒツツエン「(リリイ!!)すみません!この子を助けてください!!」

リリイ「重症ね」

ヒツツエン「早くしないと間に合わない！」

リリイ「もう間に合わないわね」

ヒツツエン「え？」

リリイ「その子はもう助からない、捨てて行きなさい」

ヒツツエン「冗談やめてよ!あなたリリイでしょ!助けてよ！」

リリイ「一人の命と大勢の命優先すべきは大勢の命よ」

ヒツツエン「なんで!!この子は私の人生で唯一の親友なの!!」

リリイ「知るか!!」

ヒツツエン「?!」

リリイ「私にとっては一人の一般人よ、さああなただけでも逃がしてあげるから」

リリイが手を差し伸べる

ぱんっ!

リリイ「?!」

ヒツツエン「ならいいわよ!ここで死んでやる!」

リリイ「付き合ってもらえないわ、勝手に死んでなさい」

ひゅん!!

リリイが立ち去る

ヒツツエン「くっ!!うう!!何が正義だ!!!

何がリリイだ!!正義を語るなら!一人の命くらい助けて見せろおお!!」

千香「ヒツちゃん」

ヒツツエン「千香!!大丈夫今助けてあげるから!」

千香「ううん」

ヒツツエン「え?」

千香「もう大丈夫だよ」

ヒツツエン「ちよつとあんたまで何言ってるのよ冗談きついつて!」

千香「もう私身体が動かないの」

ヒツツエン「だから大丈夫だって!すぐ直してあげるから!」

千香「ヒツちゃん、友達になつてくれてありがとう、」

ヒツツエン「何言つてんのよ！私達はこれからもっど!!」

千香「、、、」

ヒツツエン「千香？」

千香「、、、」

ヒツツエン「静かにならないでよ」

千香「、、」

ヒツツエン

「うう、ああ!!あゝあゝあゝあゝ
!!!!!!」

ヒツツエン「リリイ!!リリイ!!!なんで!!なんで!!!ううあゝあゝあゝ
あゝ」

ヒツツエンの精神が崩壊する

藍「心までは強くなれなかったね」

ヒツツエン「千、、、香、、千香、、千香」

力をちょうだい

千香「いいよヒツちゃん私はいつでも、あなたが悪いことをしても、
どんなにあなたの敵が大きくても、私は」

ずっとあなたの味方

瑠「藍!!!」

藍「あ、あ、あ、」

瑠「完全解放!!!!」

ヒツツエン「無駄よ!!!」
シュンっ!!

瑠「(は、早すぎる!!)」

どぐうううう
!!!!!!

瑠「がはっ!!!」

ドオオオオオン
!!!!!!

瑠「、、、」

千香瑠「そんな、、、」

ヒツツエン「これで最後ね」

藍「うんそうだね」

ヒツツエン「は?!」

藍「壊夢」

バリiiiiiiiん!!!

黒い領域が崩れていく

藍「いい夢見れたね」

ヒツツエン「、、」

サアアア、、、、

ヒツツエンベルグが灰になる

藍「私達の勝ちだよ」

サードグアスト、ライエン・ヒツツエンベルグ
死亡

t o b e c o n t i n u e d

episode 46 10人目

アサルトリリイ46 The beginning of the
end

episode 46 10人目

数分前

梨璃「分かれ道ですね」

夢結「そうね」

梨璃「ここは二手に別れて行動しましょう」

夢結「その方が良さそうね」

梨璃「生きてまた会いましょう!」

夢結「もちろんよ」

梨璃サイド

梨璃「道が開けてる!」

??? 「おまえが一柳 梨璃か?」

梨璃「私の後ろに立たないで貰ってもいいですか?」

??? 「ほう、貴様マジの感知が相当鋭いと見た」

梨璃「あなたのマジの制御が下手なんですよ」

??? 「それは違うなお前が気づきやすいようにわざわざマジを溢れさ

せているにすぎん」

「梨璃「あなたの名前は？」」

「???「俺はエブラハム・イエルト、フォー스グアスト」

梨璃「下から数えて四番目ですか？」

イエルト「はははっ！最近のリリイは面白い冗談を言うな、気に入った！貴様俺に勝つことが出来たら美鈴を殺すのを手伝ってやろう」

梨璃「本当ですか？」

イエルト「もちろんだ嘘はつかん」

梨璃「理由は？」

イエルト「面白そうだからだ」

梨璃「そういうタイプですか」

イエルト「ああ、そういうタイプだ」

ソベルバ「(梨璃！こいつ！)」

梨璃「(わかってるよ、かなり強い！)」

イエルト「まあ、せいぜい楽しませろ、人間」

ぎんっ
!!!!

梨璃が刃を振るう

イエルト「おっと」

それをイエルトが軽くあしらう

梨璃「くっ！」

イエルト「そんなに慌てるな、慌てなくとも俺は逃げんぞ」

梨璃「すぐに終わらせる!!」

イエルト「落ち着けと言っておるだろ」

ブシユツ!!!

イエルト「断ノ剣（タチキリのツルギ）」

梨璃「は？」

ドサツ

梨璃の右腕が切り落とされる

梨璃「うっ!!ぐあああああ
!!!!!!!」

イエルト「騒ぐな耳障りだ」

梨璃「あ、あ、ぐっ!!」

ソベルバ「梨璃!!!」

イエルト「美鈴はこれを何故欲しているかわからんな」

ソベルバ「梨璃交代よ」

梨璃「ソベルバ？」

ソベルバ「私に少しだけ体を貸して」

梨璃「マギリンク？」

ソベルバ「違うあんたの身体を使って私が戦うの」

梨璃「マギリンクのマギが溜まるまでの時間稼ぎってこと？」

ソベルバ「理解が早くて助かる」

梨璃「わかった」

梨璃が目を瞑る

ソベルバ「ありがとう」

パツ!

イエルト「(なんだ？マギが変わった?)」

ソベルバ「やっぱりなれないな、まあいいや梨璃には少し休憩でも取ってもらおうか」

イエルト「貴様、誰だ？一柳では無いな」

ソベルバ「エフタ・デゼスペロ、ファースト

と言いたいところだけど今はこっちを名乗らせてもらおうかしら」

一柳隊10人目ソベルバ・リタム！

イエルト「デゼスペロ？あの出来損ない集団か？」

ソベルバ「そうよあんた達には手も足も出なかったそのデゼスペロよ」

イエルト「貴様に何が出来る、せいぜいその娘の体を酷使うことぐらいしか出来んだろ」

ブシュツ!!!

イエルト「?!」

ポトっ！

イエルトの右腕が切り落とされる

イエルト「ほう、」

ブンブンっ!!がシュツ！

落ちていた梨璃の腕が勢いよく回転しながら戻り張り付くように蘇生する

ソベルバ「ごめん半分くらい話聞いてなかった、で？なんか私に

言った？」

イエルト「面白い」

ソベルバ「来なよ!!あんと私どつちが強いか
強さ比べと行こうじゃないの」

イエルト「頭が高いぞ三下」

ソベルバ「ジャツジメントグラビティ」

ドオンツ
!!!!!!

バアンっ
!!!

イエルト「なに?!」

イエルトが重力に押し潰される

ソベルバ「こつちのセリフだ三下」

ソベルバ「頭が高いぞ」

t o b e c o n t i n u e d

episode 47 元悪者の戦い

アサルトリリイ47 The beginning of the
end

episode 47 元悪者の戦い

ソベルバ 「頭が高いぞ三下」

イエルト

「これは、あの時お前たちが放った技か」

ソベルバ 「そう、その時はリベルバだったけどね」

ソベルバ 「ジャツジメントグラビティ、これをされた対象は今までやってきた罪の数、重さによってあんたにかかる重力は何倍にも膨れ上がる」

イエルト 「貴様も元ヒュージだろ重ねてきた罪は計り知れんはずだ」

ソベルバ 「黙れ、それは後だ」

ぐっ！

ソベルバがイエルトの顔を踏みつける

イエルト 「俺の顔を踏むか」

ソベルバ 「ええ、丁度いい足置きがあったから」

イエルト 「図に乗るなよ、三下!!!」

ソベルバ「ゼノン・ディザスター」

ブオオオン……

ソベルバの足の裏にマギが収縮する

イエルト「断ノ剣」

プシュフィン!!

ソベルバのマギが切り裂かれる

ソベルバ「(手を使わなくても発動は可能か)」

イエルト「その程度のマギ俺の力の前では無力に等しい」

ソベルバ「どういう能力よ」

イエルト「そろそろこの状態も飽きた」

イエルト「斬!」

ギイイン!!!
ブシュツ!!!

むくっ!

ソベルバ「?! (ジャツジメントグラビティを斬った!)」

イエルト「俺の顔を地に着けた罪は重いぞ」

ソベルバ「どういうこと?!」

パチンっ!

イエルトが指を弾く

ブシュツ!!!

ソベルバ「なっ!!」

ソベルバの腕が飛ぶ

イエルト「こういうことだ」

ソベルバ「意味わかんない」

ぐちやつ!!

ソベルバが腕を接着する

ソベルバ「もしそれがマジを使った能力と言うなら私にはこれがあ
る」

イエルト「ん?」

ソベルバ「c h a r m解放!!」

ソベルバの周りに突風が吹き荒れる

ソベルバ「断絶せよ! デイー・カイエル」

ソベルバ「からの! ヒュージ化」

ソベルバの顔に仮面が装着される

ソベルバ「行くわヨ」

ぶっんっ!!

ガギイイイ
!!!!!!

イエルト「んっ!!!」

ソベルバ「ブアッ アッ アッ アッ アッ
!!!!!!」

ギギギギギギっ
!!!!!!

ソベルバが連続でイエルトを切り付ける

それをイエルトが軽く受け流す

イエルト「(おかしい、マギが乱される)」

ソベルバ「どうしタア!!」

イエルト「一度触れてみるか」

パシっ!!

じゅっ!!パッ!

イエルト「そう言う事か」

イエルトの掌の皮膚がボロボロになる

ソベルバ「(今このcharmの特性を確かめた？だとしたらさっさと決着をつけないと)」

イエルト「(いや、これは乱れた訳では無いな一直線に繋がっているマジをブチブチと切断されている感覚、これを壊すのは流石に骨が折れる)」

ソベルバ「あんた何考えてんのよ、考え事ばかりしてたら死ぬわよ！」

イエルト「なかなか厄介なcharmだと思ってな

出来損ないでもcharm一つでここまで変わるものかと感心していたところだ」

ソベルバ「(やっぱバレたか！)」

イエルト「一直線に繋がっているマジが力を出すための助走だとすればそれを細くちぎって助走を短くされている、助走が短くなった分普段出せていた力が出せなくなるこんな感じか？」

ソベルバ「(触れただけでそんなにわかるかよ！)」

イエルト「出来損ないにしてはなかなかの芸だ褒めてやる」

ソベルバ「偉そうに」

イエルト「短い助走で如何に力を出せるか、それが俺に課された課題か、やるべき事は決まったな」

ソベルバ「ハ？」

イエルト「フツ」ぐわあああああ
!!!!

イエルトの周りから尋常ならざるマギが溢れ出る

ソベルバ「?!」びくっ!!!

イエルト「俺を少しでも楽しませた礼だこの姿を冥土の土産に見て
いくが良い」

ソベルバ「何ヲ！」

イエルト「完全解放、、、」

イエルト「ザ・メフィスト」

ぐぐぐっ!!

イエルトの背中から悪魔の羽根が頭から角が生える

ソベルバ「ホンキって事ネ」

イエルト「勘違いするな、お前如きに出してやるのはせいぜい4割
程度だ」

ソベルバ「(何この押し潰されそうなマギは！)」

イエルト「怖気付いたか？」

ソベルバ「バレた？内心ガクブルよ！」

イエルト

「フツはははっ正直者は嫌いじゃないぞ！」

ソベルバ「ジャツジメント!!」

ドオオオオオオン
!!!!

ソベルバ「がはっ!!」

攻撃を仕掛けようとしたソベルバをイエルトが勢いよく踏みつける

イエルト「誰が動いて良いと言った？」

ソベルバ「(コイツっ!!)」

イエルト「はあ、まあ良い攻撃を許可してやる」
バツ!

ソベルバ「許可制かよ!!」

ソベルバ「(最大火力のゼノン・デイズター!)」

起き上がったソベルバが攻撃態勢に入る

ソベルバ「ゼノン・デイズター!!!!!!」

ぎゅんっ!どおわああああん
!!!!!!!

イエルト「それは俺には届かんぞ」

パァンっ！

イエルトが軽く攻撃をかき消す

ソベルバ「わかってる！狙いはコッチ!!」

ソベルバがイエルトの後ろに回り込みcharmで攻撃を仕掛ける

ソベルバ「とった!!」

ガギイイイン!!!!

ソベルバ「硬った!!!!」

がしっ!!

ソベルバ「ぐっ!!」

イエルトがソベルバの顔面を鷲掴みにする

ソベルバ「離せ!!」

イエルト「逝けっ!!」

ドオオオオオン!!!!

ソベルバの顔面を地面に叩きつける

バリイイイン!!

それと同時にソベルバのヒュージ化が解ける

ソベルバ「ぶはっ!!!」

イエルト「これで終わりだ」

ソベルバ「ランツェー!!!」

ソベルバが渾身のマギを槍状にして放つ

ひよいつ

イエルト「つまらん」

だがそれをイエルトが軽々と回避する

イエルトがソベルバを持ち上げ宙に浮かす

ドグウウウン
!!!!

ソベルバ「ぐあああああ
!!!!」

イエルトがソベルバを思いつき蹴り飛ばす

ソベルバ「くそっ!! (立てない!)」

イエルト「デモンズ・ピラー」

ソベルバの周りに紫の魔法陣が現れる

ソベルバ「何、これ?」

ヒュッ!

イエルトが指を上上げる

魔法陣が発光する

ブワアアアアン
!!!!

それと同時に大量のマジがソベルバを襲う

ソベルバ「ウアッアッアッアッアッ
!!!!!!」

イエルト「ほらほらもつと楽しませろ」

ソベルバ「げほっ!あがつ!!」

イエルト「さっきの勢いはどうした?出来損ない」

ソベルバ「頭が高いわよ」

イエルト「ん?この場においてまだ無駄口を叩けるのか!面白いやつだ!」

イエルト「だが少々飽きてきた、もう終わりにしよう、ん?お前charmはどうした?」

ソベルバ「さあ?それとあんた私が飛ばしたランツエーどこか知らない?」

イエルト「ランツエー?あの槍か?知らんな」

イエルト「ぐっう
!!!!!!」

イエルトが勢いよく吹っ飛ぶ

イエルト「出来損ないのマジでは無いな、だがお前もそこそこやるよぶぐはっ
!!!!!!」

梨璃「激、、蒼
!!!!!!」

バチバチバチイイイイ
!!!!!!

梨璃がイエルトの顔面を思いっきり殴ってぶっ飛ばす

ドンツ!!ドサツ!!バゴオンっ!!

イエルト「蒼い稲妻!!」

梨璃「ありがとうソベルバ少し休んでて」

イエルト「来いリリイ!!!」

梨璃「あなたを倒す!!!」

t o b e c o n t i n u e d

episode 48 死

アサルトリリイ48 The beginning of the
end

episode 48 死

梨璃「あなたを倒す!!」

イエルト「来いリリイ!!」

梨璃「行きます!!」

ギョーンツ!!

梨璃が勢いよく飛び出す

イエルト「デモンズ・ピラー」

梨璃の周りに魔法陣が出現する

梨璃「これは！」

イエルト「死ね」

ヒュツ!

梨璃「こんなもの!」
ドツガアアアアン
!!!!!!

梨璃が地面ごと魔法陣を殴り砕く

イエルト「ほう、!!」

梨璃「ガアアアアア
!!!!!!」

どうわぁん!!

土煙の中からヒュージ化した梨璃が現れる

イエルト「どいつもこいつもヒュージ化か!」

梨璃「激蒼!!」

イエルト「デモンズ・フイスト!!」

ドウウウウウウン!!!

梨璃とイエルトの拳がぶつかり合う

イエルト「やるな!!リリイ!!」

梨璃「ブラック・ファンク!!! (黒牙の刃)」

ジャギユっ!!

イエルト「何?!」

梨璃「結構効いてるみたいですね」

イエルト「(まさかさっきの破片がここまで効いて来るとは思わなかった、さっき奴と殺りあっていた時はマギが少し途切れているだけだった。今は訳が違う)」

梨璃「戦闘中に!!!」

イエルト「!!」

梨璃「考え事か!!」

イエルト「ぐうっ!!!」

ザツツ!

イエルトが梨璃の猛攻に耐えかね後ずさりする

梨璃「ブラック・マギナ!!」

イエルト「(力が入らん!!)」

梨璃「でえええやあああ!!!」

イエルト「ぐあっ!!」

梨璃がイエルトの身体に蹴りを入れる

イエルト「(認めたくは無いがあの出来損ないの決死の攻撃は俺に効いている!!)」

梨璃「今!!」

しゅんっ、

梨璃がヒュージ化を解除する

梨璃「オーバーストライクシステム100パーセント!!グラン・マ

ギナアアア!!!」

ブワアアアアアアン!!!!

イエルト「ぬう!!」

ドウウウウウウン!!!

イエルトがグラン・マギナを受け止める

イエルト「(強い!!)」

シユンっ!!

梨璃がイエルトの背後に移動する

イエルト「何?!」

梨璃「激!!!!蒼!!!!」

バチバチバチイイ!!ドオン!!!!

イエルト「ぶあっ!!!!」

梨璃「ぐん!!!!」

ひゅんツ!!ドオオオオオオオン!!!!

イエルトが梨璃の渾身の一撃によって壁へと叩きつけられる

梨璃「はあああああ!!!!」

イエルト「断ノ剣」

ギイイイイインっ
!!!!!!

梨璃「ぐっ!!うううう
!!!!!!」

梨璃がイエルトの一太刀をcharmで受ける

イエルト「受けるか!!」

梨璃「(これがマジを切り裂く斬撃!!)」

イエルト

「(対マジ専用charmと言ったところか余程優秀な技師がいると見た)」

梨璃「ここで使う!!」

梨璃が自分の顔を覆うように手をかざす

イエルト「なんだ?」

梨璃

「(今の状態なら5分が限界だけど、やるしか無い!)」

梨璃「はアッアッアッアッ
!!!!!!」

イエルト「またヒュージ化か芸が無いな」

シュンっ!!

梨璃「私芸人じゃないんですよ」

イエルト「(後ろか!!)」

梨璃「いや、上だ」

イエルト「?!」

梨璃「ブラック・マギナ」

ブウウウウウン
!!!!!!

梨璃が黒いマギを全力で放出する

イエルト「デモンズ・シールド」

イエルトが黒い壁を形成する

梨璃「ココで殺ス！」

イエルト「なにっ」

ミシツ!

梨璃「潰レろオオオオオオ
!!!!!!」

イエルト「ぐっ!!」

バリイイイイん!!!

イエルト「あれを割るほどの威力か」

梨璃「はああ、、、」

イエルト「ただのヒュージ化では無いということか」

梨璃「(私の中のノアアズールを極限にまで練りそれを全て攻撃にあてるヒュージ化)」

イエルト「ザ・メフィストではもう届かんか」

梨璃「もう諦めた方がいいんじゃない？」

イエルト「俺相手にここまでやれた人間は初めてだ、貴様は強い！
いや、貴様らは強い」

梨璃「なら早く」

イエルト「だが!!」

梨璃「?!」

イエルト「俺もここでこの戦いを終わるのはつまらんなのでな、本気を出させてもらおう!!」

イエルト「完全解放・極黒第二卍(だいにばん)」

イエルト

「ザ・サタン・アウエイケニング」

梨璃「なに?!」

イエルト「サタン・オブ・ピラー」

梨璃「またこの攻撃!!もう一度!」

梨璃が魔法陣を壊しにかかる

イエルト「動くな」

ぴたっ!

梨璃の動きが止まる

梨璃「体が動かない!!!」

ひゅっ!

イエルトが指を上にする

梨璃「うああああああ
!!!!!!!」

黒いマギが梨璃を襲う

梨璃「なんで!!」

イエルト「これではつきりしたなお前は今の俺よりよわい」

梨璃「そんなはずは!」

イエルト「俺の解放奥義サタン・フォーースは格下の相手の動きを強制する事ができる」

梨璃「馬鹿な!!」

イエルト「喋るな」

梨璃「、、!!」

イエルト「手を地面につけて跪け」

梨璃「っ!!!」

ばっ!

梨璃が地面に引っ張られるように跪く

梨璃「(なにこれ!抵抗出来ない!)」

イエルト「そのまま動くな」

梨璃「(動け!私の足!動け!!!)」

イエルト「アイアンレッグ(鉄の足)」

ガチっ!!!

イエルトの足が鉄のように硬くなる

梨璃「(蹴り!)」

イエルト「ソールマガナム(蹴巨銃)」

ドウグギユウっ

!!!!!!!

梨璃「うぼおえっ!」

イエルトの後ろ蹴りが梨璃の鳩尾に炸裂する

梨璃「げえほっ！げぼっ！があえ!!!」

梨璃の口から吐瀉物と血が混ざったものが吐き出される

イエルト「無様だな」

梨璃「ぐううううう
!!!!!!」

梨璃が唇を噛み締めイエルトを精一杯睨みつける

イエルト「もつと俺を楽しませろ」

梨璃「痛い、痛いよ、助けてお姉様」

イエルト「戦意喪失と言ったところか、もういい終わらせる」

ソベルバ

「やばい！梨璃!!起きて!!早く!!!」

イエルト「断ノ剣」

ソベルバ「梨璃!!!!」

バシユっ!!

梨璃「う、、、あ、、、」

梨璃の上半身と下半身が切断される

イエルト「こんなものか、リリイ」

ソベルバ「うそ、、、でしょ、、、ちよつと」

イエルト「興が冷めた」

ソベルバ「梨璃ーーーーー」
「!!!!!!」

t o b e c o n t i n u e d